

## 社会調査士 I (SA)

12020

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 I」「社会調査士 II」「社会調査士 III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士 II」「社会調査士 III」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士 II」「社会調査士 III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査士課程全体の概要と導入	
2	社会調査の背景、社会調査とは	
3	社会調査のモラル、調査倫理	
4	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	調査票の作成(1)	
6	調査票の作成(2)	
7	調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	社会調査の実施方法	
9	調査票の回収とコーディング	
10	データ入力とデータクリーニング	
11	質的調査の方法	
12	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	データの整理と分析(1)	
14	データの整理と分析(2)	
15	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

授業内レポート: 授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かしつつ、論理的説得力をもって記述されているかをみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 社会調査士 I (SB)

13318

担当者名 / Instructor 丸山 里美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 I」「社会調査士 II」「社会調査士 III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士 II」「社会調査士 III」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士 II」「社会調査士 III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査士課程全体の概要と導入	
2	社会調査の背景、社会調査とは	
3	社会調査のモラル、調査倫理	
4	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	調査票の作成(1)	
6	調査票の作成(2)	
7	調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	社会調査の実施方法	
9	調査票の回収とコーディング	
10	データ入力とデータクリーニング	
11	質的調査の方法	
12	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	データの整理と分析(1)	
14	データの整理と分析(2)	
15	調査レポートの作成、まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。授業内レポート: 授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かして、論

理的説得力をもって記述されているかをみる。

---

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /  
4623041042 /

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 社会調査士 I (SC)

13319

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 I」「社会調査士 II」「社会調査士 III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士 II」「社会調査士 III」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士 II」「社会調査士 III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査士課程全体の概要と導入	
2	社会調査の背景、社会調査とは	
3	社会調査のモラル、調査倫理	
4	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	調査票の作成(1)	
6	調査票の作成(2)	
7	調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	社会調査の実施方法	
9	調査票の回収とコーディング	
10	データ入力とデータクリーニング	
11	質的調査の方法	
12	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	データの整理と分析(1)	
14	データの整理と分析(2)	
15	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。授業内レポート: 授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かして、論

理的説得力をもって記述されているかをみる。

---

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /  
4623041042 /

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 社会調査士 I (SD)

12021

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 I」「社会調査士 II」「社会調査士 III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士 II」「社会調査士 III」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の基本的な考え方を理解し、調査の具体的な方法を習得することによって、社会学的発想から、調査課題を設定し、資料やデータを収集、分析し、結論まで導くことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士 II」「社会調査士 III」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会調査士課程全体の概要と導入	
2	社会調査の背景、社会調査とは	
3	社会調査のモラル、調査倫理	
4	調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	調査票の作成(1)	
6	調査票の作成(2)	
7	調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	社会調査の実施方法	
9	調査票の回収とコーディング	
10	データ入力とデータクリーニング	
11	質的調査の方法	
12	質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	データの整理と分析(1)	
14	データの整理と分析(2)	
15	調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進める。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成する。討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。授業内レポート: 授業で扱ったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。他者の発表や授業内の討論を活かして、論

理的説得力をもって記述されているかをみる。

---

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士課程を履修した先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /  
4623041042 /

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目



## 社会調査士 II (SA)

10628

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 II」および「社会調査士 III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士 II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士 III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士 I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査主題と調査フィールドの検討(1)	
2	調査主題と調査フィールドの検討(2)	
3	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
4	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
5	班別に作業仮説の検討(1)	
6	班別に作業仮説の検討(2)	
7	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(1)	
8	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(2)	
9	仮説の構築(1)	
10	仮説の構築(2)	
11	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(1)	
12	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(2)	
13	調査票(案)作成等(1)	
14	調査票(案)作成等(2)	
15	調査票(案)作成等(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成

される、さまざまな調査に関するノートや書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 社会調査士 II (SB)

12633

担当者名 / Instructor 樋口 耕一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士 II」および「社会調査士 III」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士 II」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士 III」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士 I」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査主題と調査フィールドの検討(1)	
2	調査主題と調査フィールドの検討(2)	
3	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
4	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
5	班別に作業仮説の検討(1)	
6	班別に作業仮説の検討(2)	
7	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(1)	
8	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(2)	
9	仮説の構築(1)	
10	仮説の構築(2)	
11	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(1)	
12	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(2)	
13	調査票(案)作成等(1)	
14	調査票(案)作成等(2)	
15	調査票(案)作成等(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成

される、さまざまな調査に関するノートや書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /  
4623041042 /

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 社会調査士Ⅱ (SD)

10629

担当者名 / Instructor 湊 邦生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。社会学的発想から、調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集し、さらに分析し、結論まで導くことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査主題と調査フィールドの検討(1)	
2	調査主題と調査フィールドの検討(2)	
3	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(1)	
4	問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集(2)	
5	班別に作業仮説の検討(1)	
6	班別に作業仮説の検討(2)	
7	予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(1)	
8	予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等(2)	
9	仮説の構築(1)	
10	仮説の構築(2)	
11	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(1)	
12	調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等(2)	
13	調査票(案)作成等(1)	
14	調査票(案)作成等(2)	
15	調査票(案)作成等(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	仮説の構成、質問紙作成、対象者の条件設定、調査依頼文書など、授業の進行に応じて作成

される、さまざまな調査に関するノートや書類を中心として評価を行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを作成するが、討論の深さとともに、レポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加割合によって評価する。

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /  
4623041042 /

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 社会調査士Ⅲ (SA)

10658

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査結果の整理と確認(1)	
2	調査結果の整理と確認(2)	
3	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
4	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
5	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
6	データクリーニング、分析案の検討(1)	
7	データクリーニング、分析案の検討(2)	
8	面接による補足調査(1)	
9	面接による補足調査(2)	
10	データ解析作業(1)	
11	中間報告会	
12	データ解析作業(2)	
13	データ解析作業(3)	
14	調査報告書の作成、編集(1)	
15	調査報告書の作成、編集(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レ

ポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /  
4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目



## 社会調査士Ⅲ (SB)

12637

担当者名 / Instructor 樋口 耕一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査結果の整理と確認(1)	
2	調査結果の整理と確認(2)	
3	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
4	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
5	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
6	データクリーニング、分析案の検討(1)	
7	データクリーニング、分析案の検討(2)	
8	面接による補足調査(1)	
9	面接による補足調査(2)	
10	データ解析作業(1)	
11	中間報告会	
12	データ解析作業(2)	
13	データ解析作業(3)	
14	調査報告書の作成、編集(1)	
15	調査報告書の作成、編集(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レ

ポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 社会調査士Ⅲ (SD)

10659

担当者名 / Instructor 湊 邦生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士Ⅱ」および「社会調査士Ⅲ」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、夏休みをはさんで連続して開講する。「社会調査士Ⅱ」は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールドの設定、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。「社会調査士Ⅲ」は2回生後期に、それまでに得られたデータをより適切な方法によって処理し、データ解析から報告書を作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査の具体的な方法、統計処理の知識を習得することによって、現実的な社会的な課題についての実践的な社会調査を設計することができる。調査から得られたデータを適切な方法によって集計、分析し、掲げられた目的・課題についての考察を深め、結論を導くことができる。社会的発想から調査課題を設定し、フィールドワークによってデータを収集・分析し、報告書をまとめることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士Ⅰ」「社会調査士Ⅱ」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひとつおとり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	調査結果の整理と確認(1)	
2	調査結果の整理と確認(2)	
3	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(1)	
4	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(2)	
5	データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等(3)	
6	データクリーニング、分析案の検討(1)	
7	データクリーニング、分析案の検討(2)	
8	面接による補足調査(1)	
9	面接による補足調査(2)	
10	データ解析作業(1)	
11	中間報告会	
12	データ解析作業(2)	
13	データ解析作業(3)	
14	調査報告書の作成、編集(1)	
15	調査報告書の作成、編集(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査実践から獲得されたデータにもとづいて作成された報告書についての評価を中心として行う。また随時、グループ毎に討論の内容をまとめたレポートを課すが、討論の深さとともに、レ

ポートの客観性や論理性についても評価する。また、発表の内容と討論への参加度合によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

社会調査へのアプローチ 第2版

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 /  
4623041042 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 音楽 I (SA)

12805

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

## 到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的スキルと実践的諸能力を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—初等音楽で学ぶもの	音楽とは何か
2	西洋音楽の決まりごと①—五線譜を読む	五線譜の基礎
3	鍵盤楽器の基礎・基本①—鍵盤楽器のきまりごと	読譜と記譜
4	鍵盤楽器の基礎・基本②—五線譜を表現してみよう	鍵盤楽器の基礎
5	和音伴奏の作り方①—音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	和音とは何か
6	和音伴奏の作り方②—和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	伴奏の形
7	和音伴奏の作り方③—いろいろな調の和音伴奏をつくろう	調とは何か
8	リコーダーの基礎・基本①—リコーダーに挑戦しよう	リコーダーの基礎 ダンギング
9	リコーダー②—リコーダーで表現しよう	リコーダー・アンサンブル
10	アンサンブル—いろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	トーンチャイム
11	いろいろな音①—サウンド・スケープ	サウンドスケープとは何か 音
12	いろいろな音楽②—日本の音を体験しよう	日本音楽 和太鼓実習
13	いろいろな音楽③—世界の音楽を体験しよう	諸民族の音楽
14	音楽づくり—自由な発想で音楽をつくって表現しよう	CMM
15	発表会—演奏会をしよう	まとめと総括

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特に音楽実技が不得意だと思ふ人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。また日常からさまざまなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするよう心がけましょう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表会での個人発表と楽典試験を行います。

出席、授業時の課題、授業内のテスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しずつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

必ず持参してください。

このほか、必要に応じて、レジュメ等を配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 / / /
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著 / 音楽之友社 / 4276100488 /
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木涉著 / 子どもの未来社 / 4-901330-07-1 /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集 / 明治図書 / 4-18-717802-3 /

その他、授業時に適宜紹介します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介します。

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

ソプラノリコーダーを使用します。各自で準備してください。(パロック式、ジャーマン式いずれも可)

#### 拡張項目

## 音楽 I (SB)

12866

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。表現・鑑賞領域の学習内容について、教材研究や授業づくりの基本的な方法論の検討を通して、音楽活動のあり方や教材選択と教材解釈の方法についての理解をうながし、実践的力量的形成をめざす。また音楽科授業において必要とされる簡単な和音伴奏による伴奏や弾き歌いのスキル、代表的な歌唱教材や器楽教材の表現スキルを身につける。本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。(シラバスに記載するテーマによる学習と、主に鍵盤楽器を中心とした個人の実技的な学習を並行して授業を構成する。)

## 到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽の基礎的スキルと実践的諸能力を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—初等音楽で学ぶもの	音楽とは何か
2	西洋音楽の決まりごと①—五線譜を読む	五線譜の基礎
3	鍵盤楽器の基礎・基本①—鍵盤楽器のきまりごと	読譜と記譜
4	鍵盤楽器の基礎・基本②—五線譜を表現してみよう	鍵盤楽器の基礎
5	和音伴奏の作り方①—音楽の理論を学習して、和音伴奏をつくろう	和音とは何か
6	和音伴奏の作り方②—和音伴奏をつくって弾き歌いに挑戦しよう	伴奏の形
7	和音伴奏の作り方③—いろいろな調の和音伴奏をつくろう	調とは何か
8	リコーダーの基礎・基本①—リコーダーに挑戦しよう	リコーダーの基礎 ダンギング
9	リコーダー②—リコーダーで表現しよう	リコーダー・アンサンブル
10	アンサンブル—いろいろな楽器をつかってアンサンブルに挑戦しよう	トーンチャイム
11	いろいろな音①—サウンド・スケープ	サウンドスケープとは何か 音
12	いろいろな音楽②—日本の音を体験しよう	日本音楽 和太鼓実習
13	いろいろな音楽③—世界の音楽を体験しよう	諸民族の音楽
14	音楽づくり—自由な発想で音楽をつくって表現しよう	CMM
15	発表会—演奏会をしよう	まとめと総括

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特に音楽実技が不得意だと思ふ人は、授業に向けて少しでも個人練習するよう心がけてください。また日常からさまざまなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするよう心がけましょう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表会での個人発表と授業内の楽典試験を行います。

出席、授業時の課題、授業内の小テスト、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しずつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『最新初等科音楽科教育法』	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

必ず持参してください。

このほか、必要に応じて、レジュメ等を配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 / / /
音楽の基礎	鞍掛昭二、小桜秀爾、廣中宏雄、山田輝子、若林延昌 著 / 音楽之友社 / 4276100488 /
ピアノ伴奏法入門 ひとりでマスター	鈴木涉著 / 子どもの未来社 / 4-901330-07-1 /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
音楽科重要用語300の基礎知識	吉富功修編集 / 明治図書 / 4-18-717802-3 /

その他、授業時に適宜紹介します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介します。

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

ソプラノリコーダーを使用します。各自で準備してください。(パロック式、ジャーマン式いずれも可)

#### 拡張項目



## 音楽Ⅱ (S)

12203

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校音楽科の教育内容について理解を深める。音楽実技能力の向上に特化し、学校行事なども念頭において、学生自らが主体的に音楽を核にした活動の企画ができる能力を培う。表現スキルを身につけるとともに、多様な音楽にふれることをとおしてさまざまな音楽のあり方を理解する。

本講義は、クラス全体授業と個人指導を連動させて行う。

\* オープニング・エンディング・パフォーマンスとして、クラス合唱、クラス合奏を行います。また、最終授業日に、成果発表会を学生自身で企画し、実施します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

小学校音楽科の学習内容について理解し、音楽的技能と実践的諸能力を身につける。

いろいろな音楽のあり方について理解し、音楽観を拡大する。

自分たちで音楽を核にしたプログラムを企画、運営、実施できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

音楽Ⅰを履修済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽Ⅱで学ぶもの	オリエンテーション
2	音楽会をつくろう 小学校音楽科の教育内容とさまざまな音楽	学習指導要領 サウンドスケープ ワールドミュージック
3	鍵盤楽器の学習①	課題曲・練習曲を決める
4	鍵盤楽器の学習②	課題曲、練習曲の習得方法を考える
5	鍵盤ハーモニカを弾いてみよう	鍵盤ハーモニカ タンギング
6	アンサンブルを楽しもう①	トーンチャイム
7	アンサンブルを楽しもう②	リズムアンサンブル 打楽器
8	アンサンブルを楽しもう③	ボディパーカッション
9	アンサンブルを楽しもう④	器楽アンサンブル
10	日本音楽を体験してみよう	和楽器
11	諸民族の音楽を体験してみよう	民族音楽
12	声で音楽をつくってみよう	ボイスコンポジション
13	音楽をつくってみよう①	音楽づくり
14	音楽をつくってみよう②	音楽づくり
15	発表会	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業時に適宜指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表会での個人発表を評価の対象とします。

出席、授業時の課題、グループでの発表、参加意欲・態度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

音楽実技は、日々の練習の積み重ねが大切です。今楽譜が読めなくても、ピアノがまったく弾けなくても、少しずつ積み重ねれば、必ず楽譜が読めて、演奏することができるようになります。根気よく投げ出さずに学習を継続することが大切です。

一方で、世界の音楽の中には五線譜をつかわない音楽もたくさんあります。音楽とは何か、音楽教育とは何かという問いを常にもって、いろいろな音楽に接してみてください。

最終的にクラスでひとつの音楽会を構成します。自分の役割を自覚して主体的に運営に参加してください。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
最新初等科音楽教育法	初等科音楽教育研究会編 / 音楽之友社 / 978-4-276-82008-1 /

授業時に適宜指示します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説・音楽編	文部科学省編 / / /
この一冊でわかる ピアノ実技と楽典	深見友紀子、小林田鶴子、坂本暁美 著 / 音楽之友社 / 427610050X /
楽しいボディ・パーカッション(1)(2)(3)	山田俊之 / 音楽之友社 / 4276315727・4276315735・4276315743 /
日本音楽がわかる本	千葉優子 著 / 音楽之友社 / 4276133149 /
音さがしの本	R.マリー・シェイファー / 春秋社 / 4-393-93438-5 /

その他、授業時に適宜紹介します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に適宜紹介します。

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 音楽科教育法 (SA) § (教)音楽科教育法 (SA)

12071

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

初等音楽科教育の理念、歴史的展開、目標、内容構成、指導計画、評価のあり方、現状と課題等について概観し、初等音楽科教育の概念と全体像の理解を深めるとともに、実践的諸問題について検討する。理論と実践を連動させながら、学習指導要領や教科書、実践事例の具体的検討を通して、初等音楽科教育の基本的原理を概観するとともに、模擬授業やディスカッションを通して、授業デザインの方法や学習指導案の作成、指導法、環境構成等、教育実習を視野に含みこんだ実践の力量の形成を目指す。音楽科教育についての課題意識を明確にし、自己の音楽教育観を確立する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

初等音楽科教育の全体像を理解するとともに、基本的原理と諸課題を理解する。  
授業デザインの方法や学習指導案の作成等、実践的諸能力を身につける。  
初等音楽科教育における課題意識を明確にし、自己の音楽科教育観を確立する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

音楽 I を履修済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽科教育とは何か	イントロダクション 音楽自分史
2	小学校音楽科の現状と課題	学校現場 教師 子ども 学習指導要領
3	音楽科の成立—音楽科教育の歴史的展開	唱歌 童謡運動 芸能科音楽 学習指導要領
4	小学校音楽科の実際—目標と指導内容	表現 鑑賞 歌唱共通教材
5	音楽づくりの実際	即興的表現 創造的音楽づくり
6	小学校音楽科の学習指導計画と音楽学習の評価	カリキュラム 年間指導計画 学習指導案 題材 評価基準
7	学習指導案の作成	学習指導案 主題による題材 楽曲による題材 教材
8	学習指導案の検討と模擬授業準備	模擬授業 教材研究
9	模擬授業とディスカッション①	表現 歌唱指導
10	模擬授業とディスカッション②	表現 器楽指導
11	模擬授業とディスカッション③	表現 音楽づくり指導
12	模擬授業とディスカッション④	鑑賞指導 視聴覚機器
13	諸民族の音楽の実際	諸民族の音楽
14	音楽科の授業研究	授業評価 授業改善
15	初等音楽科教育実践の課題と展望	総括

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

音楽科教育は近年新しいアプローチや指導内容がとりいれられて、授業時数は削減されているにもかかわらず、内容は多義的に拡大しています。日常からいろいろなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするように心がけ、音楽(教育)関連の書籍などを手にとってみるようしてください。また他の教職科目や他教科の教育法とも関連づけながら、相対的に音楽科教育について考えてみてください。

\* 授業ははじめとおわりに、オープニング・パフォーマンス、エンディング・パフォーマンスとして、歌唱共通教材の指揮と伴奏、簡単な指導をしていただきます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	学習指導案の作成と最終レポートを課す。

平常点評価

50 % 出席状況、授業の中での課題への取り組み、授業時の学習指導案等の提出物、毎時授業後に提出する個人レポートカード等をあわせて、総合的に評価する。

-----  
三分の二以上の出席を要します。**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

音楽教育とは何かという問いを常にもって、自分の生活の中の音楽やこれまでうけてきた音楽教育などについて考えてみてください。小学校の音楽の授業が苦手だったという人や嫌いだったという人は、どういう授業をすればそれを克服できるかを考えましょう

**教科書 / Textbooks**書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『最新初等科音楽科教育法』

初等科音楽教育研究会編／音楽之友社／978-4-276-8200-1／09年の改訂版を使用のこと。

-----  
小学校学習指導要領解説・音楽編文部科学省／／／  
-----**参考書 / Reference Books**

適宜授業時に紹介します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

**その他 / Others****拡張項目**

## 音楽科教育法 (SB)

12138

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

初等音楽科教育の理念、歴史的展開、目標、内容構成、指導計画、評価のあり方、現状と課題等について概観し、初等音楽科教育の概念と全体像の理解を深めるとともに、実践的諸問題について検討する。理論と実践を連動させながら、学習指導要領や教科書、実践事例の具体的検討を通して、初等音楽科教育の基本的原理を概観するとともに、模擬授業やディスカッションを通して、授業デザインの方法や学習指導案の作成、指導法、環境構成等、教育実習を視野に含みこんだ実践の力量の形成を目指す。音楽科教育についての課題意識を明確にし、自己の音楽教育観を確立する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

初等音楽科教育の全体像を理解するとともに、基本的原理と諸課題を理解する。  
授業デザインの方法や学習指導案の作成等、実践的諸能力を身につける。  
初等音楽科教育における課題意識を明確にし、自己の音楽科教育観を確立する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

音楽 I を履修済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに—音楽科教育とは何か	イントロダクション 音楽自分史
2	小学校音楽科の現状と課題	学校現場 教師 子ども 学習指導要領
3	音楽科の成立—音楽科教育の歴史的展開	唱歌 童謡運動 芸能科音楽 学習指導要領
4	小学校音楽科の実際—目標と指導内容	表現 鑑賞 歌唱共通教材
5	音楽づくりの実際	即興的表現 創造的音楽づくり
6	小学校音楽科の学習指導計画と音楽学習の評価	カリキュラム 年間指導計画 学習指導案 題材 評価基準
7	学習指導案の作成	学習指導案 主題による題材 楽曲による題材 教材
8	学習指導案の検討と模擬授業準備	模擬授業 教材研究
9	模擬授業とディスカッション①	表現 歌唱指導
10	模擬授業とディスカッション②	表現 器楽指導
11	模擬授業とディスカッション③	表現 音楽づくり指導
12	模擬授業とディスカッション④	鑑賞指導 視聴覚機器
13	諸民族の音楽の実際	諸民族の音楽
14	音楽科の授業研究	授業評価 授業改善
15	初等音楽科教育実践の課題と展望	総括

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

音楽科教育は近年新しいアプローチや指導内容がとりいれられて、授業時数は削減されているにもかかわらず、内容は多義的に拡大しています。日常からいろいろなジャンルの音楽を聴いたり触れたりするように心がけ、音楽(教育)関連の書籍などを手にとってみるようにしてください。また他の教職科目や他教科の教育法とも関連づけながら、相対的に音楽科教育について考えてみてください。

\* 授業ははじめとおわりに、オープニング・パフォーマンス、エンディング・パフォーマンスとして、歌唱共通教材の指揮と伴奏、簡単な指導をさせていただきます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	学習指導案の作成と最終レポートを課す。

平常点評価

50 % 出席状況、授業の中での課題への取り組み、授業時の学習指導案等の提出物、毎時授業後に提出する個人レポートカード等をあわせて、総合的に評価する。

-----  
三分の二以上の出席を要します。**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

音楽教育とは何かという問いを常にもって、自分の生活の中の音楽やこれまでうけてきた音楽教育などについて考えてみてください。小学校の音楽の授業が苦手だったという人や嫌いだったという人は、どういう授業をすればそれを克服できるかを考えましょう

**教科書 / Textbooks**書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『最新初等科音楽科教育法』

初等科音楽教育研究会編／音楽之友社／978-4-276-8200-1／09年の改訂版を使用のこと。

-----  
小学校学習指導要領解説・音楽編文部科学省／／／  
-----**参考書 / Reference Books**

適宜授業時に紹介します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

**その他 / Others****拡張項目**

## 家庭 (SA)

12584

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や調理といった家庭科の内容について理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの製作活動や調理実習なども組み入れ、具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解する。
- ・指導案の作成、模擬授業の体験を通して学習指導や評価の方法がわかる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回目 オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
	第2回目 家庭科の教育の本質と変遷、家庭科教育の目標と内容、 学習指導要領の見方	歴史、目標、学習指導要領
	第3回目 A 家庭生活と家族	家庭生活、家族
	第4回目 C 快適な衣服と住まい1	衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、洗濯、 汚れの落ちる仕組み・燃焼実験
	第5回目 C 快適な衣服と住まい2	基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、 小物の製作
	第6回目 C 快適な衣服と住まい3 学習指導の方法1(授業の見方)	現場教員の授業の視聴(DVD)
	第7回目 B 日常の食事と調理の基礎1	栄養素、食品の特性
	第8回目 B 日常の食事と調理の基礎2	炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方(ビデオ)、 実習の説明 炊飯、切り方、実習室の使い方、実習計画 立案、器具の確認、実習計画
	第9回目 B 日常の食事と調理の基礎3(調理実習1)	ご飯、味噌汁、野菜炒め、ゆで卵
	第10回目 B 日常の食事と調理の基礎4(調理実習2)	ご飯、味噌汁、野菜サラダ、自由献立1品
	第11回目 C 快適な衣服と住まい4 D 身近な消費生活と環境	暖かい住まい方、涼しい住まい方(ビデオ) 金銭の使い方、生活時間、環境
	第12回目 学習指導の方法2(学習指導案の作成方法、機器の使い方)	学習指導案、評価、OHC、OHP、黒板、カード、グループワーク
	第13回目 学習指導の方法3(模擬授業、研究発表)	マイクロティーチング、研究発表
	第14回目 学習指導の方法4(模擬授業、研究発表)	マイクロティーチング、研究発表
	第15回目 学習指導の方法5(模擬授業、研究発表)、試験説明	マイクロティーチング、研究発表、試験説明

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

衣・食・住・消費生活・環境に関する専門書を読み、基本的な知識を身につけておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習指導要領と家庭科に関する専門の内容を理解できたかどうかを確認する検証テスト

平常点評価 40 % 授業への参加、取り組みの状況など20%。  
 実験・演習のレポートの提出10%  
 指導案の提出10%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活に関心を持って望んでほしい

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02374-8／
小学校家庭科教育法ワークブック	鈴木洋子／家政教育社／978-4-7606-0377-0／2010年10月15日改訂第1刷
小学校家庭科概論—生活の学びを深めるために—	加地芳子・大塚真理子／ミネルヴァ書房／978-4-623-05994-2／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家庭科教育法	佐藤文子ら／高陵社／4-7711-0028-4／
家庭科の歴史、指導方法、授業方法、設備など広く理解できる参考書である	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper  
 インタラクティブシート / Interactive Sheet  
 manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
 その他 / Other

メールアドレスを最初の授業時に連絡します。

その他 / Others

調理実習は、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。食器ふき、台ふきん、鍋つかみを準備してくること。  
 簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し、当日持参すること。

拡張項目



## 家庭 (SB)

12612

担当者名 / Instructor 加藤 佐千子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における家庭科の学習内容について、より高度な理解を促すと共に、教材研究や授業作りの基本的な方法論の検討を通して、実践的力量的形成を目指す。衣食住についての体験活動のあり方や適切な教材選択方法、家庭生活への関心や理解、裁縫や調理といった家庭科の内容について理解を促していく。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論、裁縫などの製作活動や調理実習なども組み入れ、具体的な授業実践につながる教材研究の手法等の獲得を目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校家庭科の指導内容がわかる。
- ・裁縫や調理の基本的知識、技術を理解する。
- ・指導案の作成、模擬授業の体験を通して学習指導や評価の方法がわかる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目 オリエンテーション		授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
第2回目 家庭科の教育の本質と変遷、家庭科教育の目標と内容、 学習指導要領の見方		歴史、目標、学習指導要領
第3回目 A 家庭生活と家族		家庭生活、家族
第4回目 C 快適な衣服と住まい1		衣生活の現状、被服材料、着方、手入れの仕方、洗濯、 汚れの落ちる仕組み・燃焼実験
第5回目 C 快適な衣服と住まい2		基本縫い、ボタン付け、ミシン縫い、用具の安全な取り扱い方、 小物の製作
第6回目 C 快適な衣服と住まい3 学習指導の方法1(授業の見方)		現場教員の授業の視聴(DVD)
第7回目 B 日常の食事と調理の基礎1		栄養素、食品の特性
第8回目 B 日常の食事と調理の基礎2		炊飯の原理、材料の切り方、包丁の持ち方(ビデオ)、 実習の説明 炊飯、切り方、実習室の使い方、実習計画 立案、器具の確認、実習計画
第9回目 B 日常の食事と調理の基礎3(調理実習1)		ご飯、味噌汁、野菜炒め、ゆで卵
第10回目 B 日常の食事と調理の基礎4(調理実習2)		ご飯、味噌汁、野菜サラダ、自由献立1品
第11回目 C 快適な衣服と住まい D 身近な消費生活と環境		暖かい住まい方、涼しい住まい方(ビデオ) 金銭の使い方、生活時間、環境
第12回目 学習指導の方法2(学習指導案の作成方法、機器の使い方)		学習指導案、評価、OHC、OHP、黒板、カード
第13回目 学習指導の方法3		指導案作成、グループワーク、マイクロティーチング、 研究発表
第14回目 学習指導の方法4(模擬授業、研究発表)		マイクロティーチング、研究発表
第15回目 学習指導の方法5(模擬授業、研究発表、試験説明)		マイクロティーチング、研究発表、試験説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習指導要領と家庭科に関する専門的内容を理解できたかどうかを確認する検証テスト

平常点評価

40 % 授業への参加、取り組みの状況など20%。  
 実験のレポートの提出10%  
 指導案の提出10%

---

 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説家庭科編	文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02374-8／
小学校家庭科教育法ワークブック	鈴木洋子／家政教育社／978-4-7606-0377-0／2010年10月15日改訂第1刷
小学校家庭科概論—生活の学びを深めるために—	加地芳子、大塚真理子／ミネルヴァ書房／978-4-626-05994-2／

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家庭科教育法	佐藤文子ら／高陵社／4-7711-0028-4／

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

第1回目の授業でメールアドレスを連絡します。

## その他 / Others

調理実習は、事前に必要な材料を計算し、当日持参すること。食器ふき、台ふきん、鍋つかみを準備してくること。簡単な小物の製作では、材料を事前に準備し、当日持参すること。

## 拡張項目

## 家庭科教育法 (SA)

12644

担当者名 / Instructor 表 真美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代の子どもたちは、社会状況、生活環境等の変化により、生活体験が著しく減少している。また、男女共同参画社会の進展、あるいは少子高齢社会への対応のためにも、家庭生活・家族への理解、および生活自立の基礎を培う家庭科の役割は、極めて重要である。そこで本講座では、前述のような社会背景を見据えたうえで、小学校における家庭科指導法について、具体的、かつ実践的に学習する

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・家庭科教育の意義を理解する。
- ・質の高い家庭科の授業を構築・実践できる能力を身につける

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家庭SA/SB

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家庭科教育の特質	少子高齢化/男女共同参画社会/新学習指導要領/家庭生活/技術・家庭/家庭総合/家庭基礎/生活技術
2	家庭科教育の歴史	家事科/高等女学校/男女共修/高等学校教科書検定不合格
3	諸外国の家庭科教育	Home Economics Education /アメリカ/アジア/アフリカ/ヨーロッパ /IFHE
4	家庭科教育の学習目標・内容	カリキュラム開発/問題解決能力/生活問題
5	家庭科の学習指導・評価・授業設計	学習指導過程/学習戦略/児童指導要録/自己評価/学習指導計画/学習指導案
6	「家庭生活と家族」の授業設計	家族/家庭生活/家事労働/生活時間/近隣の人々/団らん
7	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計1	食事の役割/栄養素の種類と働き/食品の栄養的特徴/献立/食育/食文化
8	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計2	調理/米飯とみそ汁
9	「快適な衣服と住まい」の授業設計	衣服の着用/衣服の手入れ/整理・整頓/布を用いた製作
10	「身近な消費生活と環境」の授業設計	物や金銭の使い方/買い物/環境問題
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	総括	家庭科教育総論/家庭科学習内容論/模擬授業評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	家庭科学習指導のための基礎知識に関する試験を行う。
平常点評価	50 %	(25%)模擬授業終了後に家庭科学習指導案、および実践した模擬授業の反省をまとめたレポートを授業内に提出する。 (25%)1から10回までの日常的な授業への取り組み、および11から14回の授業時に行う模擬授業への取り組みを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

小学校家庭科の指導

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

中間美砂子 多々納道子編著 / 建帛社 / 978-4-7679-2098-6 /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

青少年期の家族と教育:家庭科教育からの展望

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

牧野カツコ編著 / 家政教育社 / 4-7606-0359-x /

少子社会の家族と福祉:女性と高齢者の視点から

袖井孝子編著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04016-x /

現代家族のアジェンダ:親子関係を考える

井上真理子編著 / 世界思想社 / 4-7907-1085-8 /

食卓と家族:家族団らんの歴史の変遷

表真美 / 政界思想社 / 13: 978-4790714637 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メール

## その他 / Others

## 拡張項目

## 家庭科教育法 (SB)

12724

担当者名 / Instructor 表 真美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代の子どもたちは、社会状況、生活環境等の変化により、生活体験が著しく減少している。また、男女共同参画社会の進展、あるいは少子高齢社会への対応のためにも、家庭生活・家族への理解、および生活自立の基礎を培う家庭科の役割は、極めて重要である。そこで本講座では、前述のような社会背景を見据えたうえで、小学校における家庭科指導法について、具体的、かつ実践的に学習する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・家庭科教育の意義を理解する。
- ・質の高い家庭科の授業を構築・実践できる能力を身につける

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家庭SA/SB

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家庭科教育の特質	少子高齢化/男女共同参画社会/新学習指導要領/家庭生活/技術・家庭/家庭総合/家庭基礎/生活技術
2	家庭科教育の歴史	家事科/高等女学校/男女共修/高等学校教科書検定不合格
3	諸外国の家庭科教育	Home Economics Education /アメリカ/アジア/アフリカ/ヨーロッパ /IFHE
4	家庭科教育の学習目標・内容	カリキュラム開発/問題解決能力/生活問題
5	家庭科の学習指導・評価・授業設計	学習指導過程/学習戦略/児童指導要録/自己評価/学習指導計画/学習指導案
6	「家庭生活と家族」の授業設計	家族/家庭生活/家事労働/生活時間/近隣の人々/団らん
7	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計1	食事の役割/栄養素の種類と働き/食品の栄養的特徴/献立/食育/食文化
8	「日常の食事と調理の基礎」の授業設計a	調理/米飯とみそ汁
9	「快適な衣服と住まい」の授業設計	衣服の着用/衣服の手入れ/整理・整頓/布を用いた製作
10	「身近な消費生活と環境」の授業設計	物や金銭の使い方/買い物/環境問題
11	模擬授業1	
12	模擬授業2	
13	模擬授業3	
14	模擬授業4	
15	総括	家庭科教育総論/家庭科学習内容論/模擬授業評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	家庭科学習指導のための基礎知識に関する試験を行う。
平常点評価	50 %	(25%)模擬授業終了後に家庭科学習指導案、および実践した模擬授業の反省をまとめたレポートを授業内に提出する。 (25%)1から10回までの日常的な授業への取り組み、および11から14回の授業時に行う模擬授業への取り組みを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

小学校家庭科の指導

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

中間美砂子 多々納道子編著 / 建帛社 / 978-4-7679-2098-6 /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

青少年期の家族と教育:家庭科教育からの展望

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

牧野カツコ編著 / 家政教育社 / 4-7606-0359-x /

少子社会の家族と福祉:女性と高齢者の視点から

袖井孝子編著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04016-x /

現代家族のアジェンダ:親子関係を考える

井上真理子編著 / 世界思想社 / 4-7907-1085-8 /

食卓と家族:家族団欒の歴史の変遷

表真美 / 世界思想社 / 13: 978-4790714637 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メール

## その他 / Others

## 拡張項目

## 算数 (SA)

12725

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数指導を支える数学的知識の構造的な理解を図るものとして位置付く。数体系や計量、論証と初等幾何、基礎解析、記述・推測統計など教科内容知識について、算数教育上の実践的な課題と関連づけながら探究する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数の各内容に対応する数学的背景について理解すること。
- 2 算数指導を支える数学的な知識を深め、小学校教員として相応しい力量を形成すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

算数科教育法を履修しておくことが望ましい。その他、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修すること。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第01回 算数教材研究の目的と方法	教科内容知識, 翻訳(translation), 教授学的変換
	第02回 数と計算 (1)数概念と表記, 数感覚	集合・構造, 数体系, ペアノの公理, 記数法・命数法, モジュラー算術と合同式
	第03回 数と計算 (2)四則計算の意味, 概数・概算	単項演算, 二項演算, 合併・添加, 求差・求残, スカラー倍, 等分除・包含除
	第04回 数と計算 (3)小数・分数の概念と形式	数直線と稠密性・連続性, 同値類, 無限小数展開
	第05回 数と計算 (4)計算の意味とその拡張	同数累加, 倍概念, 再定義, 同型と包摂
	第06回 量と測定 (1)量の種類と測定	単位, 内包量・外延量, 加法性, 測定と誤差
	第07回 量と測定 (2)面積と体積の求積	次元, Bi-Linear Tri-Linear, 錐体, 等積変形, Cavalieriの原理
	第08回 図形 (1)図形の構成と性質	点・直線・平面, 作図, 定義・公理・定理, 特殊と一般
	第09回 図形 (2)図形の移動と変換	拡大・縮小, 対称性, 射影と位相
	第10回 数量関係 (1)式表示と関数	実数, 線形性, 座標と関数, 直交形式と極形式
	第11回 数量関係 (2)統計と確率	記述統計・推測統計, 自由度と有意差 簡潔・明確・統合, 発展性, 人間活動と数学史
	第12回 算数的活動 (1)算数・数学的な着想	暗示的接触, 支持的接触, 理想化・単純化・特殊化
	第13回 算数的活動 (2)算数・数学的な問題解決	簡潔・明確・統合, 発展性, 人間活動と数学史
	第14回 問題設定 (1)算数・数学的な発展	多様性・開放性, 拡張・一般化, well-defined
	第15回 問題設定 (2)算数・数学的な活用	日常性と転移, 数学的観点, 総合性

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

算数の指導内容が中学校, 高等学校, 大学の教養レベルまでいかに系統的に発展していくかを構造的に捉えていく。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準/規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め, 授業内容の要旨記述から, 講義の理解度をみる。また平常点(学習態度、質問内容、討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り, 開講回数 $2/3$ 以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近い将来皆さんが行う算数授業の質は教材理解の深さに依存します。教えることが一見楽に見える算数教材も, 深く広範な数学的背景をもつ

です。初等とは容易という意味ではありません。教材の背後にある学校数学の全体像への気づきを促すことで、それらの教材を開発、改善してきた先人の努力や成果に対する敬意をもち、自らが携わる初等教育の内容の深さをしっかりと理解して欲しい。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省／東洋館出版／4-491-02373-1／算数科の改善の趣旨や内容を解説。
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也／明治図書出版／4-18-526616-2／算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と教師用指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ①小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm)
- ②平成20年公示 学習指導要領資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

#### その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。また授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。高等学校までの数学の教科書を用いて適宜指導内容を復習すること。

#### 拡張項目



## 算数 (SB)

12645

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数指導を支える数学的知識の構造的な理解を図るものとして位置付く。数体系や計量、論証と初等幾何、基礎解析、記述・推測統計など教科内容知識について、算数教育上の実践的な課題と関連づけながら探究する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数の各内容に対応する数学的背景について理解すること。
- 2 算数指導を支える数学的な知識を深め、小学校教員として相応しい力量を形成すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

算数科教育法を履修しておくことが望ましい。その他、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修すること。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第01回 算数教材研究の目的と方法	教科内容知識, 翻訳(translation), 教授学的変換
	第02回 数と計算 (1)数概念と表記, 数感覚	集合・構造, 数体系, ペアノの公理, 記数法・命数法, モジュラー算術と合同式
	第03回 数と計算 (2)四則計算の意味, 概数・概算	単項演算, 二項演算, 合併・添加, 求差・求残, スカラー倍, 等分除・包含除
	第04回 数と計算 (3)小数・分数の概念と形式	数直線と稠密性・連続性, 同値類, 無限小数展開
	第05回 数と計算 (4)計算の意味とその拡張	同数累加, 倍概念, 再定義, 同型と包摂
	第06回 量と測定 (1)量の種類と測定	単位, 内包量・外延量, 加法性, 測定と誤差
	第07回 量と測定 (2)面積と体積の求積	次元, Bi-Linear Tri-Linear, 錐体, 等積変形, Cavalieriの原理
	第08回 図形 (1)図形の構成と性質	点・直線・平面, 作図, 特殊と一般
	第09回 図形 (2)図形の移動と変換	拡大・縮小, 対称性, 射影と位相
	第10回 数量関係 (1)式表示と関数	実数, 線形性, 座標と関数, 直交形式と極形式
	第11回 数量関係 (2)統計と確率	記述統計・推測統計, 自由度と有意差
	第12回 算数的活動 (1)算数・数学的な着想	暗示的接触, 支持的接触, 理想化・単純化・特殊化
	第13回 算数的活動 (2)算数・数学的な問題解決	簡潔・明確・統合, 発展性, 人間活動と数学史
	第14回 問題設定 (1)算数・数学的な発展	多様性・開放性, 拡張・一般化, well-defined
	第15回 問題設定 (2)算数・数学的な活用	日常性と転移, 数学的観点, 総合性

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

算数の指導内容が中学校, 高等学校, 大学の教養レベルまでいかに系統的に発展していくかを構造的に捉えていく。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準／規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め、授業内容の要旨記述から、講義の理解度をみる。また平常点(学習態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数 $2/3$ 以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近い将来皆さんが行う算数授業の質は教材理解の深さに依存します。教えることが一見案に見える算数教材も、深く広範な数学的背景をもつ

です。初等とは容易という意味ではありません。教材の背後にある学校数学の全体像への気づきを促すことで、それらの教材を開発、改善してきた先人の努力や成果に対する敬意をもち、自らが携わる初等教育の内容の深さをしっかりと理解して欲しい。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省／東洋館出版／4-491-02373-1／算数科の改善の趣旨や内容を解説。
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也／明治図書出版／4-18-526616-2／算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と教師用指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ①小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05071101.htm)
- ②平成20年公示 学習指導要領資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

#### その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。また授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。高等学校までの数学の教科書を用いて適宜指導内容を復習すること

#### 拡張項目

## 算数科教育法 (SA)

12611

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数科の概論として位置付き、算数の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領の変遷にも言及しながら、算数教育の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数科の基本原理を理解し、実践上の諸課題を探究する力量を形成すること。
- 2 算数科の歴史的展開を踏まえ、その内容構成に即した指導方法について実践できること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特定しない。ただし、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	「算数」とは何か？	Arithmetic と Elementary Mathematics, 算数と数学の相違, 算数教育の意義と基本的性格
第02回	算数教育の目標と現状	国際調査(TIMSS, PISA), 全国学力調査, 目標論, 形式陶冶と実質陶冶
第03回	算数教育の史的展開①西洋化と近代化	和算から洋算へ, 黒表紙・緑表紙・青表紙教科書, 数理思想, 数学教育近代化
第04回	算数教育の史的展開②現代化と情報化	学習指導要領の変遷, 生活単元学習, 数学教育現代化, よさの感得と活用, 活動性
第05回	算数科指導内容論①数と計算	直観主義と数え主義, 数体系と拡張, 四則演算の意味と手続き
第06回	算数科指導内容論②量と測定	保存, 量指導の四段階, 加法性, 内包量・外延量
第07回	算数科指導内容論③図形と空間	構成的定義, 作図・敷き詰め, 概念定義と概念イメージ
第08回	算数科指導内容論④数量関係	比と比例, 同種／異種の二量の割合, 関数, 記述統計・推測統計
第09回	算数科指導方法論①基本原理	多様性・練り上げ, 協同・構成, 問題解決・問題設定, 公理的・構成的方法
第10回	算数科指導方法論②指導計画	単元, 総合化, 学習指導案, 数学的系統と指導系統
第11回	算数科指導方法論③実践展開	算数的活動, 意味と手続き, 誤答分析, オープンエンドアプローチ, よさの感得
第12回	算数科指導方法論④テクノロジー活用と限界	マルチメディア, タブレットPC, デジタルコンテンツ
第13回	算数科教材論	教授学的変換, 教科書比較, 数学的構造(順序的, 代数的, 位相的), 視覚化, 操作性
第14回	算数科授業論	授業設計, 授業研究(Lesson Study), 優れた算数授業, 発問分析
第15回	算数科評価論	評価類型, 観点別評価, 自己評価とメタ認知, 指導と評価の一体化, ポートフォリオ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

近隣地域や各附属学校の授業研究会などに自主的に参加することが望ましい。算数の学習指導において現職の先生方がどのような問題を抱え、よりよい教育の実現に向けて継続的に努力しているのかについて敬意を払いながら、算数実践の難しさを感じて欲しい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準／規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め、授業内容の要旨記述から、講義の理解度をみる。また平常点(学習態度、質問内容、討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数 $2/3$ 以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

算数科教育法は、単に教え方(Know-how)を学ぶものではありません。人間が算数・数学を学ぶとはどういう営みであるのかを深く考えることで、

小学校教員の在るべき姿や責任、心構えをしっかりと見出して欲しい。算数授業を成立させる条件を教材・教具の面から具体的に考えることは、小学校教諭としての実践的な素養を総合的に高めてくれます。将来の教育者として主体的な学習を期待しています。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省／東洋館出版／4-491-02373-1／算数科の改善の趣旨や内容を解説。
日本の算数・数学教育に学べ—米国が目にする jugyoukenkyuu	James W. Stigler, James Hiebert／教育出版／4-316-38910-6／算数授業再構築のための授業論。
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也／明治図書出版／4-18-526616-2／算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ①小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05071101.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05071101.htm)
- ②平成20年公示 学習指導要領資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

#### その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。またPCを利用した授業を行う場合があります。PC利用に嫌悪をもたない程度のリテラシを事前に身につけておいて欲しい。

#### 拡張項目

## 算数科教育法 (SB)

12583

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業は、算数科の概論として位置付き、算数の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領の変遷にも言及しながら、算数教育の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 算数科の基本原理を理解し、実践上の諸課題を探究する力量を形成すること。
- 2 算数科の歴史的展開を踏まえ、その内容構成に即した指導方法について実践できること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特定しない。ただし、数学的な素養を深める科目を自ら積極的に履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	「算数」とは何か？	Arithmetic と Elementary Mathematics, 算数と数学の相違, 算数教育の意義と基本的性格
第02回	算数教育の目標と現状	国際調査(TIMSS, PISA), 全国学力調査, 目標論, 形式陶冶と実質陶冶
第03回	算数教育の史的展開①西洋化と近代化	和算から洋算へ, 黒表紙・緑表紙・青表紙教科書, 数理思想, 数学教育近代化
第04回	算数教育の史的展開②現代化と情報化	学習指導要領の変遷, 生活単元学習, 数学教育現代化, よさの感得と活用, 活動性
第05回	算数科指導内容論①数と計算	直観主義と数え主義, 数体系と拡張, 四則演算の意味と手続き
第06回	算数科指導内容論②量と測定	保存, 量指導の四段階, 加法性, 内包量・外延量
第07回	算数科指導内容論③図形と空間	構成的定義, 作図・敷き詰め, 概念定義と概念イメージ
第08回	算数科指導内容論④数量関係	比と比例, 同種／異種の二量の割合, 関数, 記述統計・推測統計
第09回	算数科指導方法論①基本原理	多様性・練り上げ, 協同・構成, 問題解決・問題設定, 公理的・構成的方法
第10回	算数科指導方法論②指導計画	単元, 総合化, 学習指導案, 数学的系統と指導系統
第11回	算数科指導方法論③実践展開	算数的活動, 意味と手続き, 誤答分析, オープンエンドアプローチ, よさの感得
第12回	算数科指導方法論④テクノロジー活用と限界	マルチメディア, タブレットPC, デジタルコンテンツ
第13回	算数科教材論	教授学的変換, 教科書比較, 数学的構造(順序的, 代数的, 位相的), 視覚化, 操作性
第14回	算数科授業論	授業設計, 授業研究(Lesson Study), 優れた算数授業, 発問分析
第15回	算数科評価論	評価類型, 観点別評価, 自己評価とメタ認知, 指導と評価の一体化, ポートフォリオ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

近隣地域や各附属学校の授業研究会などに自主的に参加することが望ましい。算数の学習指導において現職の先生方がどのような問題を抱え、よりよい教育の実現に向けて継続的に努力しているのかについて敬意を払いながら、算数実践の難しさを感じて欲しい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	出題傾向と評価基準／規準は講義中に提示する。
平常点評価	50 %	コミュニケーション用紙の適宜提出を求め、授業内容の要旨記述から、講義の理解度をみる。また平常点(学習態度、質問内容、討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数 $2/3$ 以上を出席することを単位認定の基本条件とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

算数科教育法は、単に教え方(Know-how)を学ぶものではありません。人間が算数・数学を学ぶとはどういう営みであるのかを深く考えることで、

小学校教員の在るべき姿や責任、心構えをしっかりと見出して欲しい。算数授業を成立させる条件を教材・教具の面から具体的に考えることは、小学校教諭としての実践的な素養を総合的に高めてくれます。将来の教育者として主体的な学習を期待しています。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 算数編(平成20年8月)	文部科学省／東洋館出版／4-491-02373-1／算数科の改善の趣旨や内容を解説。
日本の算数・数学教育に学べ—米国が目にする jugyoukenkyuu	James W. Stigler, James Hiebert／教育出版／4-316-38910-6／算数授業再構築のための授業論。
図でみる日本の算数・数学授業研究	清水静海, 磯田正美, 大久保和義, 馬場卓也／明治図書出版／4-18-526616-2／算数指導の改善を進める際の基本情報。

基本的に、各社の算数教科書と指導書、学習指導要領を参考とします。その他、参考となる上記の図書は随時紹介し、必要に応じて要約・抜粋を配布します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ①小学校算数・中学校数学・高等学校数学 指導資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05071101.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05071101.htm)
- ②平成20年公示 学習指導要領資料  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

#### その他 / Others

十分な予習をもって授業に臨んで欲しい。授業において不明な点は決してそのままにしておかないように。またPCを利用した授業を行う場合があります。PC利用に嫌悪をもたない程度のリテラシを事前に身につけておいて欲しい。

#### 拡張項目

## 初等国語(書写を含む)(SA)

12802

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の教科目標・内容に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科にとって重要な、話す・聞く・書く・読むといった基本的な言語活動についての理解を促すとともに、学習指導要領にも言及しながら、教材研究、教材選択、授業づくりについての理論的実践的力量の形成をめざす。講義は、具体的な資料・教材を活用しながら、書写を含めて展開する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の構造および各領域の指導目標・内容についての理解を深める。
- ・児童の言語能力の発達過程と特質についての理解を深める。
- ・日本語の特質を理解するとともに、書写指導の基礎的知識・技能を習得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等国語科教育法

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	言葉と人間	人間発達における言葉の役割、国語科の構造と固有の役割
2	「書くこと」領域の基礎理論①	各学年の目標と内容、入門期の文字指導、仮名と漢字、文法の基礎
3	「書くこと」領域の基礎理論②	文章表現能力の発達過程と特質、題材・取材・構成・記述・評価
4	「書くこと」領域の基礎理論③	創作指導、読み合い、他教科との関連
5	「書写」指導の目標と内容	学習指導要領と教科書の構成、書写能力の発達特質
6	「書写」の基礎技術①	姿勢・運筆・字形・筆順・筆圧・用具等に関する基本的事項の理解、硬筆の基礎
7	「書写」の基礎技術②	毛筆の基礎
8	書写指導の基礎技術③	仮名・漢字・楷書の基礎
9	「話すこと・聞くこと」領域の基礎理論	会話・スピーチ・討議の指導、ストーリーテリング、語りの技術
10	「読むこと」領域の基礎理論①	文芸教育学の基礎(文字・文体・音律・構造・話者・読者)
11	「読むこと」領域の基礎理論②	文芸教育学の基礎(人物・視点・形象・典型・象徴・思想)
12	「読むこと」領域の基礎理論③	代表的な文学教材・詩教材の検討
13	「読むこと」領域の基礎理論④	説明文教材の特質、代表的な説明文教材の検討
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」指導の目標と内容	伝統的な言語文化とは何か 日本語の文字・語彙・文法の特徴
15	国語科教育と学校教育	他教科・「総合的学習の時間」・道徳及び特別活動などとの関連

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

演習の要素を取り入れた受講生参加型の講義となるため、事前の準備を適宜指示することがある。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	国語教育の内容と目標に関する重要事項についての知識・理解を問う。
平常点評価	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や数回程度提起される小課題の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記のテキストの各章末には、小学校の国語科教育をめぐって検討されるべき諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習として、積極的に取り組んでほしい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新しい小学国語の創造』 伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 4-88164-080-1 /

『小学校学習指導要領解説 国語編』 文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02371-7 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新編書写指導』 全国大学書写書道教育学会 / 萱原書房 / 860120094 /

『国語教師が知っておきたい日本語文法』 山田敏弘 / くろしお出版 / 9784874243107 /

『分ければ見つかる知ってる漢字』 宮下久夫 / 太郎次郎社 / 4-8118-0659-X /

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

オフィスパワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

## その他 / Others

## 拡張項目



## 初等国語(書写を含む)(SB)

12863

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の教科目標・内容に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科にとって重要な、話す・聞く・書く・読むといった基本的な言語活動についての理解を促すとともに、学習指導要領にも言及しながら、教材研究、教材選択、授業づくりについての理論的実践的力の形成をめざす。講義は、具体的な資料・教材を活用しながら、書写を含めて展開する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の構造および各領域の指導目標・内容についての理解を深める。
- ・児童の言語能力の発達過程と特質についての理解を深める。
- ・日本語の特質を理解するとともに、書写指導の基礎的知識・技能を習得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等国語科教育法

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	言葉と人間	人間発達における言葉の役割、国語科の構造と固有の役割
2	「書くこと」領域の基礎理論①	各学年の目標と内容、入門期の文字指導、仮名と漢字、文法の基礎
3	「書くこと」領域の基礎理論②	文章表現能力の発達過程と特質、題材・取材・構成・記述・評価
4	「書くこと」領域の基礎理論③	創作指導、読み合い、他教科との関連
5	「書写」指導の目標と内容	学習指導要領と教科書の構成、書写能力の発達特質
6	「書写」の基礎技術①	姿勢・運筆・字形・筆順・筆圧・用具等に関する基本的事項の理解、硬筆の基礎
7	「書写」の基礎技術②	毛筆の基礎
8	書写指導の基礎技術③	仮名・漢字・楷書の基礎
9	「話すこと・聞くこと」領域の基礎理論	会話・スピーチ・討議の指導、ストーリーテリング、語りの技術
10	「読むこと」領域の基礎理論①	文芸教育学の基礎(文字・文体・音律・構造・話者・読者)
11	「読むこと」領域の基礎理論②	文芸教育学の基礎(人物・視点・形象・典型・象徴・思想)
12	「読むこと」領域の基礎理論③	代表的な文学教材・詩教材の検討
13	「読むこと」領域の基礎理論④	説明文教材の特質、代表的な説明文教材の検討
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」指導の目標と内容	伝統的な言語文化とは何か 日本語の文字・語彙・文法の特徴
15	国語科教育と学校教育	他教科・「総合的学習の時間」・道徳及び特別活動などとの関連

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

演習の要素を取り入れた受講生参加型の講義となるため、事前の準備を適宜指示することがある。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	国語教育の内容と目標に関する重要事項についての知識・理解を問う。
平常点評価	50 %	2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や数回程度提起される小課題の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記のテキストの各章末には、小学校の国語科教育をめぐって検討されるべき諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習として、積極的に取り組んでほしい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新しい小学国語の創造』	伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 4-88164-080-1 /
『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02371-7 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新編書写指導』	全国大学書写書道教育学会 / 萱原書房 / 860120094 /
『国語教師が知っておきたい日本語文法』	山田敏弘 / くろしお出版 / 9784874243107 /
『分ければ見つかる知ってる漢字』	宮下久夫 / 太郎次郎社 / 4-8118-06590-X /

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeai.ac.jp/~t-ito/index.htm>

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

- インタラクティブシート / Interactive Sheet
- manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
- 学生との直接対話 / Talk with Students
- その他 / Other

オフィスアワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

## その他 / Others

## 拡張項目

## 初等国語科教育法 (SA)

12072

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特徴をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
第2回	「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特徴 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
第3回	「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材 と指導
第4回	「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課 題
第5回	「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」 ことの指導
第6回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技 術
第7回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
第8回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
第9回	「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
第10回	「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
第11回	「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
第12回	「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
第13回	「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
第14回	読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写 の指導法
第15回	国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することがある。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	国語教育の内容と方法に関する諸問題の中から、受講生の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。テーマ設定の妥当性、論究過程における論理性・具体性・実証性などを評価する。

平常点評価 50 % 2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や数回程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

#### 教科書 / Textbooks

##### 書名 / Title

##### 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新しい小学国語の創造』

伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 978-4-88164-080-7 / 問題提起的な研究書である。

『小学校学習指導要領解説国語編

文部科学省 / 東洋館出版 / 97484491023717 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

#### 参考書 / Reference Books

とりわけ学習指導要領に関しては、十分に理解しておく必要がある。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumei.ac.jp/~t-ito/index.htm>

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

オフィスパワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 初等国語科教育法 (SB)

12139

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校国語科の指導法に関する理解を深めることを目的とした授業である。国語科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、評価、現代の課題などについて、児童の言語発達の特徴をふまえながら、原理的実践的に探求する。必要に応じて、適宜、学習指導案の作成、模擬授業や討論を組み入れることにより、教材研究、教材開発、授業改善のための実践的力量的形成を目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・小学校国語科の内容と教師の役割に関する基礎的知識を理解する。
- ・国語学力に関連する子どもの発達特性と指導方法の基礎的知識・技術を理解する。
- ・小学校国語科の教材研究、教材開発、授業改善、教育評価等に関する基礎的知識・技術を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国語科教育の歴史的展開と現代的課題	学習指導要領と教科書の特徴 教科の構造
第2回	「書くこと」領域の教材研究と授業①	文章表現技術の特徴 「作文」「綴方」「書くこと」の違い 生活と表現
第3回	「書くこと」領域の教材研究と授業②	幼・小連携の課題 低学年の発達特徴 入門期の教材 と指導
第4回	「書くこと」領域の教材研究と授業③	中学年の発達特徴 教材と指導の実際 創作指導の課 題
第5回	「書くこと」領域の教材研究と授業④	高学年の発達特徴 教材と指導の実際 「調べて書く」 ことの指導
第6回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業①	美しい声 小学生の声と体の実態 音読・朗読の基礎技 術
第7回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業②	群読のためのシナリオづくり
第8回	「話すこと・聞くこと」領域の教材研究と授業③	群読の実演
第9回	「読むこと」領域の教材研究と授業①	文芸学の基礎知識 構造 視点
第10回	「読むこと」領域の教材研究と授業②	民話教材の教材研究と授業
第11回	「読むこと」領域の教材研究と授業③	平和教材の教材研究と授業
第12回	「読むこと」領域の教材研究と授業④	詩の教材研究と授業
第13回	「読むこと」領域の教材研究と授業⑤	説明文教材と授業
第14回	読書・「言語事項」に関する指導法	読書指導の課題と方法 文字・語彙・文法・漢字・書写 の指導法
第15回	国語科教育における教師の役割	教師のまなざし 教育実践に学ぶ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小集団を基礎とした教材研究、指導案の作成、模擬授業など、演習的要素を取り入れた受講生参加型の講義となる。事前の準備を適宜指示することがある。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	国語教育の内容と方法に関する諸問題の中から、受講生の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。テーマ設定の妥当性、論究過程における論理性・具体性・実証性などを評価する。

平常点評価 50 % 2/3以上の授業に出席した者のみを評価の対象とする。日常の授業における諸課題や数回程度提起される小レポート(指導案等)の履修状況に基づいて、授業内容の理解度を平常点として評価する。

個人または集団による討議・考察・実技等への積極的な参加を期待したい。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

言葉と国語教育に関してはもとより、学校と教育をめぐる幅広い関心を育ててほしい。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新しい小学国語の創造』	伊藤隆司・中村哲也・宮川健郎 / 双文社出版 / 978-4-88164-080-7 / 問題提起的な研究書である。
『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02371-7 /

講義の際に使用することがある。テキストの各章末には、小学校の国語科教育に関する諸課題が提示してある。教材研究や授業づくりの基礎的能力を向上させるための学習・研究課題として積極的に検討してほしい。

#### 参考書 / Reference Books

十分に理解しておく必要がある。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義担当者自身のHP。教育方法の具体的なイメージを得る上での参考にしてほしい。 <http://www.ritsumeit.ac.jp/~t-ito/index.htm>

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet  
 manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
 学生との直接対話 / Talk with Students  
 その他 / Other

オフィスパワーを設ける。時間・場所については授業時に告知する。

#### その他 / Others

#### 拡張項目

初等社会 (SA)

12865

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業では小学校社会科における学習内容について、学習しどう指導要領に示された各学年の内容領域に応じて、どのような内容を取り上げ、どのように授業化していけばよいのか、についての考察を深める。本授業は講義形式で行われるが、適宜、受講生による演習も組み込むことによって、小学校社会科の授業づくりや学習指導についての実戦的力量、質の高い教材研究を行う力量の形成をめざす。

## 到達目標 / Attainment Objectives

小学校社会科における学習内容についての理解を深め、小学校の教員として求められる資質の内、社会科授業構成能力、とりわけ教材研究のための力量を培うことをねらいとする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 小学校における社会科教育とは何かー社会科の歩みから考えるー	
	2 社会科授業構成の理論と方法ー社会科授業を生み出す様々な考え方ー	
	3 小学校社会科授業における教材研究の視点ー個人／社会からのわかり方ー	
	4 小学校社会科地域学習における学習内容①ー「地域調査活動」をどう授業化するかー	
	5 小学校社会科地域学習における学習内容②ー「地域の商店」をどう授業化するかー	
	6 小学校社会科地域学習における学習内容③ー「地域の工場・農家」をどう授業化するかー	
	7 小学校社会科地域学習における学習内容④ー「地域の公共サービス」をどう授業化するかー	
	8 小学校社会科地域学習における学習内容⑤ー「地域の過去と現在」をどう授業化するかー	
	9 小学校社会科地域学習における学習内容⑥ー「特色ある地域」をどう授業化するかー	
	10 小学校社会科国土・産業学習における学習内容①ー「我が国の産業」をどう授業化するかー	
	11 小学校社会科国土・産業学習における学習内容②ー「我が国の国土」と「環境保全」をどう授業化するかー	
	12 小学校社会科歴史学習における学習内容ー「我が国の歴史における人物と文化遺産」をどう授業化するかー	
	13 小学校社会科政治学習における学習内容ー「政治のしくみ」と「日本国憲法」をどう授業化するかー	
	14 小学校社会科国際理解学習における学習内容ー「身近な国」と「国際貢献活動」をどう授業化するかー	
	15 小学校社会科授業開発演習	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

問題意識を持って臨むこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・出席及び授業への取り組みによる(コメントペーパー等)。 ・学習指導案の作成を求める。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まずは出席すること。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
わたしたちの京都 3・4年 上	京都市小学校社会科教育研究会編/教材研究所//
わたしたちの京都 3・4年 下	京都市小学校社会科教育研究会編/教材研究所//

授業内容に応じたレジュメをも配布する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校の“優れた社会科授業”の条件	全国社会科教育学会編著/明治図書//
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省//

授業内容に応じて適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

E-mail:kakuda@ss.ritsumeiji.ac.jp

## その他 / Others

## 拡張項目



初等社会 (SB)

12804

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業では小学校社会科における学習内容について、学習しどう指導要領に示された各学年の内容領域に応じて、どのような内容を取り上げ、どのように授業化していけばよいのか、についての考察を深める。本授業は講義形式で行われるが、適宜、受講生による演習も組み込むことによって、小学校社会科の授業づくりや学習指導についての実践的力、質の高い教材研究を行う力の形成をめざす。

## 到達目標 / Attainment Objectives

小学校社会科における学習内容についての理解を深め、小学校の教員として求められる資質の内、社会科授業構成能力、とりわけ教材研究のための力を培うことをねらいとする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小学校における社会科教育とは何かー社会科の歩みから考えるー	
2	社会科授業構成の理論と方法ー社会科授業を生み出す様々な考え方ー	
3	小学校社会科授業における教材研究の視点ー個人／社会からのわかり方ー	
4	小学校社会科地域学習における学習内容①ー「地域調査活動」をどう授業化するかー	
5	小学校社会科地域学習における学習内容②ー「地域の商店」をどう授業化するかー	
6	小学校社会科地域学習における学習内容③ー「地域の工場・農家」をどう授業化するかー	
7	小学校社会科地域学習における学習内容④ー「地域の公共サービス」をどう授業化するかー	
8	小学校社会科地域学習における学習内容⑤ー「地域の過去と現在」をどう授業化するかー	
9	小学校社会科地域学習における学習内容⑥ー「特色ある地域」をどう授業化するかー	
10	小学校社会科国土・産業学習における学習内容①ー「我が国の産業」をどう授業化するかー	
11	小学校社会科国土・産業学習における学習内容②ー「我が国の国土」と「環境保全」をどう授業化するかー	
12	小学校社会科歴史学習における学習内容ー「我が国の歴史における人物と文化遺産」をどう授業化するかー	
13	小学校社会科政治学習における学習内容ー「政治のしくみ」と「日本国憲法」をどう授業化するかー	
14	小学校社会科国際理解学習における学習内容ー「身近な国」と「国際貢献活動」をどう授業化するかー	
15	小学校社会科授業開発演習	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

問題意識を持って臨むこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・出席及び授業への取り組みによる(コメントペーパー等)。 ・学習指導案の作成を求める。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まずは出席すること。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
わたしたちの京都 3・4年 上	京都市小学校社会科教育研究会編/教材研究所//
わたしたちの京都 3・4年 下	京都市小学校社会科教育研究会編/教材研究所//

授業内容に応じたレジュメも配布する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校の“優れた社会科授業”の条件	全国社会科教育学会編著/明治図書//
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省//

授業内容に応じて適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

E-mail:kakuda@ss.ritsumeiji.ac.jp

## その他 / Others

## 拡張項目

## 初等社会科教育法 (SA)

12140

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

授業スケジュールの前半は、社会科の目標、歴史、生活科との違い、現行学習指導要領に定められた小学校社会科の目標及び内容、学習指導要領に沿った年間指導計画の作成など小学校社会科指導の基礎的知識・技能について学ぶ。後半は、「教材」「基礎・基本」「個に応じた指導」「問題解決能力」「評価」などに焦点を当て、実際に社会科の指導を行う際のポイントについて、実践例を通して考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ①小学校社会科の目標及び内容を理解できる。
- ②小学校社会科の指導計画作成・授業実践・評価のポイントが理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小学校社会科授業を振り返る	社会科授業体験
2	社会科のあゆみ	社会科教育史
3	社会科の目標	公民的資質
4	社会科でつきたい力	社会認識
5	学習指導要領1	改訂の要点
6	学習指導要領2	各学年の目標・内容
7	授業実践に学ぶ1	教材開発
8	授業実践に学ぶ2	地域教材
9	授業実践に学ぶ3	子どもとのやりとり
10	授業実践に学ぶ4	ロールプレイ
11	授業実践に学ぶ5	調べ学習
12	社会科授業づくり1	教材研究
13	社会科授業づくり2	授業構想
14	社会科授業づくり3	学習指導案
15	社会科授業づくり4	模擬授業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	1. 実際に使える社会科教材を自力で開発できるか。 2. 各自が開発した教材を使った授業を、実践的に構想できるか。
平常点評価	60 %	・きちんと授業に出席した上で、講義中に適宜行う話し合いやプレゼンテーションなどの学習活動に積極的に参加する。 ・講義内容に関するミニレポート作成などにおいて、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることが出来る。

出席重視。2/3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。  
出席は授業開始後すぐにとる。20分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻2回で欠席1回とカウントする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職につくための知識・技能を習得する授業であると同時に、教職に対するキャリア開発の授業と考えているので、教職にふさわしくない受講態度は謹んで欲しい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会 6上	／東京書籍／／小学校検定教科書
小学校学習指導要領社会編	／文部科学省／／

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

## 初等社会科教育法 (SB)

12073

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

授業スケジュールの前半は、社会科の目標、歴史、生活科との違い、現行学習指導要領に定められた小学校社会科の目標及び内容、学習指導要領に沿った年間指導計画の作成など小学校社会科指導の基礎的知識・技能について学ぶ。後半は、「教材」「基礎・基本」「個に応じた指導」「問題解決能力」「評価」などに焦点を当て、実際に社会科の指導を行う際のポイントについて、実践例を通して考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ①小学校社会科の目標及び内容を理解できる。
- ②小学校社会科の指導計画作成・授業実践・評価のポイントが理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	小学校社会科授業を振り返る	社会科授業体験
2	社会科のあゆみ	社会科教育史
3	社会科の目標	公民的資質
4	社会科でつきたい力	社会認識
5	学習指導要領1	改訂の要点
6	学習指導要領2	各学年の目標・内容
7	授業実践に学ぶ1	教材開発
8	授業実践に学ぶ2	地域教材
9	授業実践に学ぶ3	子どもとのやりとり
10	授業実践に学ぶ4	ロールプレイ
11	授業実践に学ぶ5	調べ学習
12	社会科授業づくり1	教材研究
13	社会科授業づくり2	授業構想
14	社会科授業づくり3	学習指導案
15	社会科授業づくり4	模擬授業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	1. 実際に使える社会科教材を自力で開発できるか。 2. 各自が開発した教材を使った授業を、実践的に構想できるか。
平常点評価	60 %	・きちんと授業に出席した上で、講義中に適宜行う話し合いやプレゼンテーションなどの学習活動に積極的に参加する。 ・講義内容に関するミニレポート作成において、講義内容を理解した上で、自らの意見や考えをまとめることができる。

出席重視。2/3以上の出席が無い者は、上記の課題の成績如何に関わらず単位を認めない。

出席は授業開始後すぐにとる。20分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻2回で欠席1回とカウントする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職につくための知識・技能を習得する授業であると同時に、教職に対するキャリア開発の授業と考えているので、教職にふさわしくない受講態度は謹んで欲しい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会 6上	／東京書籍／小学校検定教科書／
小学校学習指導要領解説社会編	／文部科学省／

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

初等体育 (SA)

12278

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校体育の幾つかの領域から、典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。スポーツは体育授業では発達刺激と考えられることが多いが、人間が歴史的、社会的に生み出してきた文化としてとらえ、文化としてのスポーツを教えるという立場で授業を進めていく。体育授業は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかを中心に挙げる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方を身につけることができるようにする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	学習指導要領の目的・内容と体育授業の役割
2	実技のオリエンテーション(第一体育館)	実技試験の課題の提示 50m走の測定
3	リレーの教材作り(第一体育館)	バトンパスで記録を縮める
4	「投げる」の授業作りをやる	投げる動作習得の重要性と様々な投げ
5	フラッグフットボール I (第一体育館)	on the ballとoff the ballの動き
6	フラッグフットボール II (第一体育館)	2対2からの展開
7	バスケットボール I (第一体育館)	シュート調査の方法とスコアリング、試しのゲーム。
8	バスケットボール II (第一体育館)	ゲーム分析と様相発達段階。子どものつまづき
9	バスケットボール III (第一体育館)	役割分担を明確にした野球型ゲーム
10	バスケットボール IV (第一体育館)	作戦づくりを活かしたゲーム
11	ソフトバレー1(第一体育館)	ワンバウンドありのバレーとなしのバレー
12	ソフトバレー2(第一体育館)	「2回目のボールをセッターが触るには?」「上手い子と下手な子の関係」
13	サッカーを教材化する(第一体育館)	空間の変化とアフォーダンス
14	縄跳びの授業 (第一体育館)	縄跳びを表現運動に位置づける。ダブルダッチ
15	ボールの授業とまとめ(教室)	体育理論—スポーツを文化としてとらえる

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化としてのスポーツを教える意味と教材作りの視点について問う。
平常点評価	50 %	出席と実技試験で評価します。
出席については厳しく取り扱います。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

適宜授業で紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目



初等体育 (SB)

I2205

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校体育の幾つかの領域から、典型教材やその指導の系統性を実践的に学ぶ。スポーツは体育授業では発達刺激と考えられることが多いが、人間が歴史的、社会的に生み出してきた文化としてとらえ、文化としてのスポーツを教えるという立場で授業を進めていく。体育授業は上手い下手がはっきりするため、その中でどのような授業作りを展開するのかが中心に行う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

授業で取り上げる種目の中身の理解を求めることは当然であるが、それら教材に備わっている典型性を生かして、新たに教材を構成する力量を養う。また、体育授業における競争や評価の考え方を身につけることができるようにする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(教室)	学習指導要領の目的・内容と体育授業の役割
2	実技のオリエンテーション(第一体育館)	50m走の測定 バスケットのシュート調査
3	リレーの教材作り(第一体育館)	バトンパスで記録を縮める
4	「投げる」の授業作りをやる	投げる動作習得の重要性とさまざまな投げ
5	フラッグフットボール I (第一体育館)	on the ballとoff the ballの動き
6	フラッグフットボール II (第一体育館)	2対2からの展開
7	バスケットボール I (第一体育館)	シュート調査の方法とスコアリング、試しのゲーム。
8	バスケットボール II (第一体育館)	ゲーム分析と様相発達段階。子どものつまづき
9	バスケットボール III (第一体育館)	役割分担を明確にした野球型ゲーム
10	バスケットボール IV (第一体育館)	作戦づくりを活かしたゲーム
11	ソフトバレー1 (第一体育館)	ワンバウンドありのバレーとなしのバレー
12	ソフトバレー2 (第一体育館)	「2回目のボールをセッターが触るには?」「上手い子と下手な子の関係」
13	サッカーを教材化する (第一体育館)	空間の変化とアフオーダンス
14	縄跳び (第一体育館)	縄跳びを表現運動に位置づける。単なわ、ダブルダッチ
15	ボールの授業とまとめ (教室)	体育理論—スポーツを文化としてとらえる

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化としてのスポーツを教える意味と教材作りの視点について問う。
平常点評価	50 %	出席と提出物など。
出席については厳しく取り扱います。出席が満たない場合には単位認定は行いません。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

適宜授業で紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 初等体育科教育法 (SA)

12137

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校体育の概論的かつ実践的な位置づけにある。前半では小学校の体育授業を営むために教材作りを学習する。後半では、自ら指導案を作って授業を実践しそれに対する評価活動を通じて、教師自身の成長のための授業研究の方法を理解する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ① 体育授業とスポーツ少年団などで行われているスポーツ活動との違いがわかること。
- ② グループ学習の仕組みがわかること。
- ③ 授業を設計し、マネジメントを行う基礎がわかること。
- ④ 授業を評価するポイントがわかること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等体育

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	戦後体育科教育の目標の変遷と今時改訂学習指導要領
2	マット運動1(第二体育館)	グループ学習と前転V字バランス
3	マット運動2(第二体育館)	側転の系統指導と「側転の習熟」
4	マット運動3(第二体育館)	音楽マット「タンポポ開いた」発表会
5	体育授業を創る(教室)	種目の選択と指導案の収集
6	体育授業を評価する1(教室)	作成された体育の指導案の検討
7	教場の確認と指導案の最終確認(体育館)	指導の流れの確認
8	指導案の完成と教具の準備(教室)	指導案の完成, 教具の準備など
9	模擬授業1(体育館)	
10	模擬授業2(体育館)	
11	模擬授業3(体育館)	
12	音楽マットと模擬授業の結果とその検討(教室)	
13	体育授業を評価する2(教室)	子どもの感想文をどう読むか
14	体育授業を作るということ(教室)	全体のまとめ
15	実技試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

模擬授業に関わっては、指定された以外の文献や雑誌を当てるのが望ましい。また、日頃から新聞やネット上で教育界の動向について敏感に反応しておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	体育授業を構成するために必要な知識や能力を問う。
平常点評価	60 %	マット運動関連20%, 模擬授業とその省察20%, 平常点20%

出席や遅刻については厳しく取り扱います。実技テストはP・Fで評価します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『体育授業を観察評価する』 高橋健夫他 / 明和出版 / 9784901933032 /

-----  
参考文献については、授業において指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

実技に関わって試験をします。

拡張項目

## 初等体育科教育法 (SB)

12070

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業では、小学校体育の概論的かつ実践的な位置づけにある。前半では小学校の体育授業を営むために教材作りを学習する。後半では、自ら指導案を作って授業を実践しそれに対する評価活動を通じて、教師自身の成長のための授業研究の方法を理解する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ① 体育授業とスポーツ少年団などで行われているスポーツ活動との違いがわかること。
- ② グループ学習の仕組みがわかること。
- ③ 授業を設計し、マネジメントを行う基礎がわかること。
- ④ 授業を評価するポイントがわかること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初等体育

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションとグルーピング(教室)	戦後体育科教育の目標の変遷と今時改訂学習指導要領
2	マット運動1(第二体育館)	グループ学習と前転V字バランス
3	マット運動2(第二体育館)	側転の系統指導と「側転の習熟」
4	マット運動3(第二体育館)	音楽マットの発表会
5	体育授業を創る(教室)	種目の選択と指導案の収集
6	体育授業を評価する1(教室)	作成された体育の指導案の検討
7	教場の確認と指導案の最終確認(第一体育館)	指導の流れの確認
8	指導案の完成と教具の準備(教室)	指導案の完成, 教具の準備など
9	模擬授業2(体育館)	
10	模擬授業3(体育館)	
11	模擬授業3(体育館)	
12	音楽マットと模擬授業の結果とその検討(教室)	
13	体育授業を評価する2(教室)	子どもの感想文をどう読むか
14	体育授業を作るということ(教室)	全体のまとめ
15	実技試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

模擬授業に関わっては、指定された以外の文献や雑誌を当てるのが望ましい。また、日頃から新聞やネット上で教育界の動向について敏感に反応しておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	体育授業を構成するために必要な知識や能力を問う。
平常点評価	60 %	マット運動関連20%, 模擬授業とその省察20%, 平常点20%

出席や遅刻については厳しく取り扱います。実技テストはP・Fで評価します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『体育授業を観察評価する』

高橋健夫他 / 明和出版 / 9784901933032 /

-----  
参考文献については、授業において指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

実技に関わって試験をします。

拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では小学校理科での学習内容について、学習指導要領に準拠しながらも

- 縦断的(理科における学習内容の歴史の変遷課程)
- 横断的(生活科、また他分野、さらには他教科との関連性)

に捉えるとともに、「子どもの学びの視点」や「知的文化遺産(親学問)の継承という視点」に配慮しながら、より高度な理解を獲得し、実践的力量的形成、ならびに「教科指導に長けた理科の先生」の育成を目指す。指導案に授業設計の全てが漏れなく反映できる力量的形成を図る。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 小学校理科の2領域(A区分、B区分)とも、その内容・項目について理解し、説明できる。
2. 幼稚園(自然領域)、生活科との関連性、継続性について理解し配慮できる。
3. 児童の発達段階に応じた教材内容の提示ができる。
4. 小中高という教材自身の発展過程において小学校理科で扱うべき内容を位置づけることができ、適切な指導ができる。
5. 実験に関しては、安全性に配慮した適切な指導ができる。
6. (発展目標)模擬授業を通して、「教材」がいかに作用したかの診断、教材自身の持つ課題が発見でき、適切に解決の手だてを見出し、そのための実践ができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門 I, 初等理科教育法

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科とは何を教える教科か(横断的視点の養成)	科学リテラシー、基礎知識の確認
第2回	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー学力観と学びの内容ー	教科内容の不易と流行
第3回	小学校理科の指導内容の変遷(1)ー適時性と学びの内容ー	自然科学の体系と教材としての理科
第4回	教材としての理科の内容(1)ーA区分:物質とエネルギーー	電気と磁石の世界(物理分野)
第5回	教材としての理科の内容(2)ーA区分:物質とエネルギーー	電気の利用、電流の利用(物理分野)
第6回	教材としての理科の内容(3)ーA区分:物質とエネルギーー	電気と磁気(クリップモーターの製作)、電磁誘導(物理分野)
第7回	教材としての理科の内容(4)ーA区分:物質とエネルギーー	てこを有効な教材としたつりあい、振り子の運動(物理分野)
第8回	教材としての理科の内容(5)ーA区分:物質とエネルギーー	安全な化学実験、物質の溶解(化学分野)
第9回	教材としての理科の内容(6)ーA区分:物質とエネルギーー	気体の発生とその性質(化学分野)
第10回	教材としての理科の内容(7)ーB区分:生命と地球ー	月の満ち欠け(その1)(地学分野)
第11回	教材としての理科の内容(8)ーB区分:生命と地球ー	月の満ち欠け(その2)(地学分野)
第12回	小中高という流れで捉えた理科の内容(学習内容の位置づけ)	小学校理科では何を、どう指導すべきか
第13回	教材としての理科の内容(発展その1)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
第14回	教材としての理科の内容(発展その2)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成

第15回  
教材としての理科の内容(発展その3)(総合的な扱い)

## 模擬授業の実施

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

適宜、理科の基礎的内容(実験の手法を問う問題を含む)を問う問題を出します。それに答えることが事前学習(予習)になります。予習なくして、実験はできないと考えてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	(60%) 授業内レポート、小テスト 学習の度合いをみるために小テストを数回実施する。また、開発教材を用いた指導案を作成し、模擬授業を実施する。 (40%) 小学校理科各分野の知識、技能の定着をみる。

3分の2以上の出席者に対して評価します。開発教材を作成し、それを用いた授業案を作成してもらいます。模擬授業における学生評価、自己評価を参考に評価します(60%)。最後の講義時に学習到達度を図る試験を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実験については全回出席が条件です。それまで行ったことのある実験でも、教えるという立場から、より深く学び取ってください。臨場感を味わうために、受講生の理解に応じて平安女学院中学校等で参観授業を実施します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省／東洋館出版社／
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他／オーム社／978-4-274-20920-8／

小学校、中学校の理科の教科書を用意しておいてください。なお、実験に関しては、その都度資料を配布します。現在、使用教科書を作成しています。講義中に連絡します。

参考書 / Reference Books

参考書は、その都度紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その都度紹介します。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メールアドレスを講義中に連絡します。

その他 / Others

理科専科教員を目指す学生には、発展課題を与えます。また、授業外でも指導します。

拡張項目



## 初等理科 (SB)

12803

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では小学校理科での学習内容について、学習指導要領に準拠しながらも

- 縦断的(理科における学習内容の歴史の変遷課程)
- 横断的(生活科、また他分野、さらには他教科との関連性)

に捉えるとともに、「子どもの学びの視点」や「知的文化遺産(親学問)の継承という視点」に配慮しながら、より高度な理解を獲得し、実践的力量的形成、ならびに「教科指導に長けた理科の先生」の育成を目指す。指導案に授業設計の全てが漏れなく反映できる力量的形成を図る。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 小学校理科の2領域(A区分、B区分)とも、その内容・項目について理解し、説明できる。
2. 幼稚園(自然領域)、生活科との関連性、継続性について理解し配慮できる。
3. 児童の発達段階に応じた教材内容の提示ができる。
4. 小中高という教材自身の発展過程において小学校理科で扱うべき内容を位置づけることができ、適切な指導ができる。
5. 実験に関しては、安全性に配慮した適切な指導ができる。
6. (発展目標)模擬授業を通して、「教材」がいかに作用したかの診断、教材自身の持つ課題が発見でき、適切に解決の手だてを見出し、そのための実践ができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門, 初等理科教育法

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科とは何を教える教科か(横断的視点の養成)	科学リテラシー、基礎知識の確認
第2回	小学校理科の指導内容の変遷(1)－学力観と学びの内容－	教科内容の不易と流行
第3回	小学校理科の指導内容の変遷(1)－適時性と学びの内容－	自然科学の体系と教材としての理科
第4回	教材としての理科の内容(1)－A区分:物質とエネルギー－	電気と磁石の世界(物理分野)
第5回	教材としての理科の内容(2)－A区分:物質とエネルギー－	電気の利用, 電流の利用(物理分野)
第6回	教材としての理科の内容(3)－A区分:物質とエネルギー－	電気と磁気(クリップモーターの製作)、電磁誘導(物理分野)
第7回	教材としての理科の内容(4)－A区分:物質とエネルギー－	てこを有効な教材としたつりあい、振り子の運動(物理分野)
第8回	教材としての理科の内容(5)－A区分:物質とエネルギー－	安全な化学実験、物質の溶解(化学分野)
第9回	教材としての理科の内容(6)－A区分:物質とエネルギー－	気体の発生とその性質(化学分野)
第10回	教材としての理科の内容(7)－B区分:生命と地球－	月の満ち欠け(その1)(地学分野)
第11回	教材としての理科の内容(8)－B区分:生命と地球－	月の満ち欠け(その2)(地学分野)
第12回	小中高という流れで捉えた理科の内容(学習内容の位置づけ)	小学校理科では何を、どう指導すべきか
第13回	教材としての理科の内容(発展その1)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成
第14回	教材としての理科の内容(発展その2)(総合的な扱い)	開発教材の製作と学習指導案の作成

第15回  
教材としての理科の内容(発展その3)(総合的な扱い)

## 模擬授業の実施

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

適宜、理科の基礎的内容(実験の手法を問う問題を含む)を問う問題を出します。それに答えることが事前学習(予習)になります。予習なくして、実験はできないと考えてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	(60%) 授業内レポート、小テスト 学習の度合いをみるために小テストを数回実施する。また、開発教材を用いた指導案を作成し、模擬授業を実施する。 (40%) 小学校理科各分野の知識、技能の定着をみる。

3分の2以上の出席者に対して評価します。開発教材を作成し、それを用いた授業案を作成してもらいます。模擬授業における学生評価、自己評価を参考に評価します(60%)。最後の講義時に学習到達度を図る試験を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実験については全回出席が条件です。それまで行ったことのある実験でも、教えるという立場から、より深く学び取ってください。臨場感を味わうために、受講生の理解に応じて平安女学院中学校等で参観授業を実施します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省 / 東洋館出版社 /
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他 / オーム社 / 978-4-274-20920-8 /

小学校、中学校の理科の教科書を用意しておいてください。なお、実験に関しては、その都度資料を配布します。現在、使用教科書を作成しています。講義中に連絡します。

参考書 / Reference Books

参考書は、その都度紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、紹介します。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メールアドレスを講義中に連絡します。

その他 / Others

理科専科教員を目指す学生には、発展課題を与えます。また、授業外でも指導します。

拡張項目

## 初等理科教育法 (SA)

12204

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか(目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか(内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか(評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろうか(実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。学習指導案が作成出来ることを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業が出来る。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科への気づき -オリエンテーションを兼ねて-	授業の目標, 進め方(グループ構成など), また到達目標等の説明
第2回	理科とは何か(1)	理科の誕生(明治, 対象, 昭和から平成へ)
第3回	理科とは何か(2) -学習指導要領の変遷から-	生活理科から探究理科へ
第4回	理科とは何か(3) -学習指導要領の変遷から-	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
第5回	小学校理科の目標と内容(内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施(30分)……
第6回	教材としての理科の内容(1) -A区分(物質とエネルギー)-	電気と磁石の授業構成に関して
第7回	教材としての理科の内容(2) -A区分(物質とエネルギー)-	素朴概念との関係(てこによるつり合いを事例として)
第8回	教材としての理科の内容(3) -B区分(生命と地球)-	素朴概念との関係(地動説と天動説を事例として)
第9回	小学校における実験教材の取り扱い(安全面にも触れる)	基礎的実験技能について(振り子の動きを事例として)
第10回	小中高という流れで捉えた理科の内容(内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいか
第11回	理科の授業と指導案(1) -基礎的な考え方-	理科の指導案とは何か, 授業展開を示す指導案のスタイル
第12回	理科の授業と指導案(2) -実践例に触れる-	指導案の実例と模範授業(メンター教師による授業)
第13回	理科の授業と指導案(3) -単元の構成と本時の授業について-	授業実践を左右する指導案の書き方
第14回	理科における実践(1) -基本的な考え方-	模擬授業の実施
第15回	理科における実践(2) -基礎的な考え方-	模擬授業の実施

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

授業は実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	(60%) 授業内レポート 授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。 (40%) ①授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを実施する。 ②実験・実習等の取り組み(参加度)、またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。 ③初等理科教育法の基礎的な知識、また模擬授業構成の基礎的な理解を問う。 ④指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。

レポート試験は、各自が構想した指導案の作成を行ってもらいます。検証テストについては、その詳細を講義時に発表します。なお、検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

授業では、各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には、グループ学習、また個別指導を行います。また、理科の内容については、実験による授業を行います。受講生の動向によっては、実験による授業の後、模擬授業を構想してもらいます。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他 / オーム社 / 978-4-274-20920-8 /

授業では必要に応じてプリントを配布します。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省 / / /
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / 4-627-16121-2 /

各種参考書は、授業時に紹介します。なお、後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

授業時に連絡する。

**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メールアドレスを講義時に知らせる

**その他 / Others**

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には、その詳細については授業時に連絡します。

**拡張項目**

## 初等理科教育法 (SB)

12277

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校での理科教育の目標・内容・方法、および評価について包括的に解説するとともに、授業理論と指導方法について様々な事例を通して考察する。具体的には、

- 理科教育は何のために、なぜ行うのか(目的)
- 理科教育では、何を、どのように指導するのか(内容・方法)
- 理科の評価はどのように行えばよいのか(評価)

そして、

- 実験や、観察はどのように指導すればよいのだろうか(実験・観察指導)

これらについて学習を深める。理科の授業の作り方と、それをいかに効果的に実施するかについての基礎的な力量を育成したい。学習指導案が作成出来る事を目標とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ① 小学校理科の変遷について、概要が説明出来る。
- ② 小学校理科の目標と内容が、学習指導要領との関わりで説明出来る。
- ③ 学習指導案が作成出来、それに基づいて観察・実験教材を用いた模擬授業が出来る。
- ④ 実験教材のもつ有効性と限界を適切に把握し、理解出来る。
- ⑤ 観点別評価基準にしたがって、授業評価ができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理科への気づき -オリエンテーションを兼ねて-	授業の目標、進め方(グループ構成など)、また到達目標等の説明
第2回	理科とは何か(1)	理科の誕生(明治、対象、昭和から平成へ)
第3回	理科とは何か(2) -学習指導要領の変遷から-	生活理科から探究理科へ
第4回	理科とは何か(3) -学習指導要領の変遷から-	「ゆとりの時代の理科」から「確かな学びの理科」へ
第5回	小学校理科の目標と内容(内容と目標の関係)	これからの理科教育とその展望……検証テストの実施(30分)……
第6回	教材としての理科の内容(1) -A区分(物質とエネルギー)-	電気と磁石の授業構成について
第7回	教材としての理科の内容(2) -A区分(物質とエネルギー)-	素朴概念との関係(てこによるつり合いを事例として)
第8回	教材としての理科の内容(3) -B区分(生命と地球)-	素朴概念との関係(地動説と天動説を事例として)
第9回	小学校における実験教材の取り扱い(安全面にも触れる)	基礎的実験技能について(振り子の動きを事例として)
第10回	小中高という流れで捉えた理科の内容(内容と学びの関係)	小学校理科では何を、どう指導すればよいか
第11回	理科の授業と指導案(1) -基礎的な考え方-	理科の指導案とは何か、授業展開を示す指導案のスタイル
第12回	理科の授業と指導案(2) -実践例に触れる-	指導案の実例と模範授業(メンター教師による授業)
第13回	理科の授業と指導案(3) -単元の構成と本時の授業について-	授業実践を左右する指導案の書き方
第14回	理科における実践(1) -基本的な考え方の定着-	模擬授業の実施
第15回	理科における実践(2) -基礎的な考え方の定着-	模擬授業の実施

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実験室で行います。「理科の内容」に関しては実験、実習を伴った授業を計画しています。具体的な指示については、第一回の授業時に伝えます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	(60%)授業内レポート 授業中に実施した「検証テスト」のテーマから、受講者の関心に基づいて1つのテーマを選び、より深く追求する。あわせて、指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。 (40%) ①授業期間中に学修到達度を確認する検証テストを実施する。 ②実験・実習等の取り組み(参加度)、またその結果をまとめたレポート等により授業への積極的な関わり方を評価する。 ③初等理科教育法の基礎的な知識、また模擬授業構成の基礎的な理解を問う。 ④指導案を作成をおこなう。授業で得た知識の確認とその運用能力を見る。

レポート試験は、各自が構想した指導案の作成を行ってもらいます。検証テストについては、その詳細を講義時に発表します。なお、検証テストは受験の翌週の授業で解説返却します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、各項目の概要に限定されます。より深く追求したい受講生には、グループ学習、また個別指導を行います。また、理科の内容については、実験による授業を行います。受講生の動向によっては、実験による授業の後、模擬授業を構想してもらいます。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実験で実践する魅力ある理科教育	川村康文他 / オーム社 / 978-4-274-20920-8 /

授業では必要に応じてプリントを配布します。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説(理科編)	文部科学省 / / /
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / /

各種参考書は、授業時に紹介します。なお、後者の参考書は「教材の小中高の発展性」について詳細に扱っていますので購入しておいてください。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に連絡する。

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メールアドレスを講義時に知らせる

## その他 / Others

発展的な取り組みを歓迎します。希望者には、その詳細については授業時に連絡します。

## 拡張項目

## 図画工作 (SA)

12038

担当者名 / Instructor 波多野 達二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「小学校図画工作科教育を行うための理論と実際」小学校図画工作科の目標や内容について、具体的な題材を通して理解し、授業実践に向けての基礎的な能力を身につける。

## 到達目標 / Attainment Objectives

\* 小学校図画工作の指導に必要なさまざまな技法を身につける。\* 題材の教材観や指導観について考え、授業を組み立てる能力を身につける。\* 学習指導要領の目標に示されている「つくりだす喜びを味わう」授業についての考えを深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	図画工作科の目標 学習指導要領 つくりだす喜びを味わう
2	表現2 絵画(1)	ローウェンフェルドの描画分類 クロッキー コンテ
3	表現2 絵画(2)	水彩絵の具 彩色の方法
4	表現2 絵画(3)	色コンテ 描画における概念くだけ
5	表現1 造形あそび(1)	造形あそびの可能性 木片インスタレーション
6	表現1 造形あそび(2)	造形あそびの目標 低・中・高における活動内容
7	表現2 粘土(1)	粘土の特性 テラコッタ粘土 焼成
8	表現2 木工(1)	電動糸鋸 立体造形
9	表現2 木工(2)	電動糸鋸 立体造形
10	表現2 木工(3)	電動糸鋸 立体造形
11	表現2 版画(1)	版表現のいろいろ 版作り
12	表現2 版画(2)	版作り 刷り
13	表現2 版画(3)	画面構成 モダンテクニック
14	表現2 粘土(2)	テラコッタ粘土 彩色
15	鑑賞	対話型鑑賞 アートゲーム型鑑賞

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小学校学習指導要領(図画工作編)をいつも手元に置き、説明したり実習したりした授業の内容と照らし合わせる。いろいろな題材について実習しますが、題材についての教材観、指導観について、いつも考え「自分ならどのように授業を組み立てるか」問題意識を持つことが大切です。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	題材の教材観、指導観や「つくりだす喜びを味わう」授業のあり方についてレポートする。具体性と論理的説得力を持って記述されているかをみる。
平常点評価	60 %	授業内課題(作品) 30%授業態度、授業への参加度 10%授業出席 20% <授業回数の3分の1以上の欠席は、単位を認めない。>

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受け手として授業に参加するのではなく、教える側の問題意識を持って受講すること。作品など提出物は、必ず提出しなければなりません。事前に説明しますが、実技を行う時は、各自、材料の準備をしなければならないことがあります。

**教科書 / Textbooks****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

文部科学省／日本文教出版株式会社／4-536-4033-8 C3037／

**参考書 / Reference Books****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『新版 造形の基礎技法』

宮協理／健帛社／4-7679-2059-0／

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

**その他 / Others****拡張項目**



## 図画工作 (SB)

13295

担当者名 / Instructor 細谷 僚一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

## 「図画工作科教育の理論と実践」

表現及び鑑賞の活動を通して、小学校図画工作科教育の目標や内容について理解し、指導者としての実践力をつける。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 学習指導要領の目標や内容を理解する。
- ・ 指導のねらいを明確にしながら、授業を設計することができる。
- ・ 表現や鑑賞の活動を通して、指導者としての実践的な力を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	学習指導要領と図画工作科の目標
2	絵に表す①	見ることと描くこと 色彩の体系と理論
3	絵に表す②	形や色からの発想 多様な描画材料と描画方法
4	立体に表す①	想像の昆虫 材料の特徴 並べる・つなぐ・積む・組み合わせる
5	立体に表す②	想像の昆虫 材料の特性 並べる・つなぐ・積む・組み合わせる
6	造形遊びの理論と実践	材料と場所 遊び 全身性 総合性
7	工作に表す「陶芸・カップ」①	材料や用具の特徴 表現方法の工夫 機能や用途 生活と造形
8	工作に表す「陶芸・カップ」②	材料や用具の特徴 表現方法の工夫 機能や用途 生活と造形
9	工作に表す「光の造形」①	表現方法の工夫 光の効果 空間の演出
10	工作に表す「光の造形」②	表現方法の工夫 光の効果 空間の演出
11	共同してつくりだす活動	参加と交流 連作 漫画 物語 絵と言葉
12	絵や立体に表す①	不思議な世界 視覚の冒険 材料の効果的な組合せ
13	絵や立体に表す②	不思議な世界 視覚の冒険 材料の効果的な組合せ
14	鑑賞指導①	グループ発表 鑑賞と批評
15	鑑賞指導②	グループ発表 鑑賞指導の在り方 まとめ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・ 自然観察とともに美術作品やデザイン・工芸作品を日常的に鑑賞し、そのよさを見つける習慣をつける。
- ・ あらかじめ示した題材について、構想を練ったり材料を集めたりしておく。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎時の課題の確かめや振り返り。</li> <li>・ 小テスト。</li> <li>・ 自己評価カード。</li> <li>・ 作品鑑賞レポート。</li> </ul>

- ・ 作品づくりの過程及び完成作品。
- ・ 追究性や協同的な姿勢。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・ 常に指導者としての意識をもって授業を受けること。
- ・ 他教科や領域の学習活動と関連づけて図画工作科教育をとらえること。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア時代の美術教育	柴田和豊編 / 国土社 / /
シリーズ学びと文化①学びへの誘い	佐伯胖・藤田英典・佐藤学編 / 東京大学出版会 / /
子どもたちの想像力を育む	佐藤学・今井康雄編 / 東京大学出版会 / /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 図画工作科教育法 (SA)

11263

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

実習としては「おもてなしの造形・抹茶茶碗づくり」と絵の具づくり、思想的にはヨーロッパ及び日本の図工・美術教育を概観し、図工及び美術教育の基礎・基本を身に付ける。同時に、模擬授業を通して、初等教育の特徴と指導の極意を身に付ける。結果として、すぐに現場で実践できる教育方法を身に付ける。

## 到達目標 / Attainment Objectives

①造形芸術・造形活動の魅力を味わえること。②図工・美術教育及び初等教育の基本的な考え方がわかること。③図工科指導の基本の方法を身に付けること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。講義毎に一つ一つしっかり理解を深めて行こうとする態度を用意すること。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションで講義の方法を理解しよう。(履修上の件、自己紹介、グループ編成など)	<幸せ色>ってな〜んだ!「幸せ色による名札づくり」 心情と色の関係と<重色>
2	「自製の絵の具をつくらう」講師:(株)べんてる 描画材研究所	描画材料の特徴を知り、自作の絵の具をつくり表現の可能性を想像しよう。
3	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」1・・・「お茶碗の魅力と表現の極意をはなかに?」	茶碗の魅力に気付くための方法を身に付け、茶碗の簡単な成り立ちを理解する。
4	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」2・・・茶碗の壁を薄くしよう!	「おもてなしの造形」は全部で5つ。<なり>はメッセージ。茶碗の内側は宇宙。
5	実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」3・・・仕上げとサイン。乾燥。	口縁づくり、茶巾、茶筌ずり、茶だまり、高台づくり。高台はなぜ丸くないの?
6	子どもの発達と造形・・・ケログの「子どもの描画の発達過程」から探る。	ケログの発達過程のガイダンスと基本的な描画を発達順に並べ変え、遊ぶ。
7	ユング「8つのタイプ論」と「個性化の過程(自己実現)」・・・個性をどうとらえるの?	「個性をどうとらえるか」と「個性化の過程」のガイダンス。自分のタイプを図に表そう!「自己実現」の道筋がわかるよ! 発展材は伊・レツジョエミリヤ市の幼児教育を概観しよう!
8	「ヨーロッパの美術教育(チゼック)」と西ドイツの「視覚伝達としての美術教育」	チゼックとビジュアルコミュニケーションとしての美術(図工)教育の違いってなあんた?
9	日本の美術教育・・・大正期の自由画運動と戦後の美術教育、立命館小の図工教育について	山形県、北川民次、創造美育協会、指導要領の変遷、立命館小のカリキュラムはどうなっているの?
10	模擬授業にチャレンジ1・・・学習指導案の作成の準備	グループ編成、学年割り当て、題材の検討・決定、係り分担、指導案の書き方にチャレンジするよ!
11	模擬授業にチャレンジ2・・・学習指導案の作成1	図工科のねらいは全部で4つ。題材は3つの観点から考えよう! 始めに試作してみよう!
12	模擬授業にチャレンジ3・・・学習指導案の仕上げとチェック。	学年毎にチェックを受け、手直し手指導案を完成するよ! 目標と評価基準の関係もしっかり理解しておこう。小学校は<気付き>のための発問が大切ですよ! あとは発表練習だ!
13	模擬授業にチャレンジ(1)	模擬授業1・2・3年、話し合い
14	模擬授業にチャレンジ(2)	模擬授業4・5・6年、話し合い
15	図工の授業のまとめと教員採用試験の問題にチャレンジ!	中学の過去問題を一緒に考えよう。

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実習も含めて具体的な内容になっています。全授業で一つ一つ丁寧に学び、授業時間で完全習得させます。そのために、振り返りシートで確認していきます。目標は、教育現場ですぐに役立つためのスキルを身に付けるようにします。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 作品評価と振り返りシート評価から2 活動の取り組みの姿勢も一部評価評価A:指導事項以上のことが理解できた。評価B:指導事項が一通り理解できた。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

汚れても良い服装(エプロン)の用意。ハンドタオル、筆記用具、ノートの用意。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /
「日本」とは何か	網野善彦 / 講談社文庫 / /
ユング心理学入門	河合隼雄 / 岩波現代文庫 / /
児童画の発達過程	R・ケロッグ、深田訳 / 黎明書房 / /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

## その他 / Others

## 拡張項目

## 図画工作科教育法 (SB)

11262

担当者名 / Instructor 横澤 茂夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

実習としては「おもてなしの造形・抹茶茶碗づくり」と絵の具づくり、思想的にはヨーロッパ及び日本の図工・美術教育を概観し、図工及び美術教育の基礎・基本を身に付ける。同時に、模擬授業を通して、初等教育の特徴と指導の極意を身に付ける。結果として、すぐに現場で実践できる教育方法を身に付ける。

## 到達目標 / Attainment Objectives

①造形芸術・造形活動の魅力を味わえること。②図工・美術教育及び初等教育の基本的な考え方がわかること。③図工科指導の基本の方法を身に付けること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。講義毎に一つ一つしっかり理解を深めて行こうとする態度を用意すること。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 オリエンテーションで講義の方法を理解しよう。(履修上の件、自己紹介、グループ編成など)	<幸せ色>ってな〜んだ！「幸せ色による名札づくり」 心情と色の関係と<重色>
	2 「自製の絵の具をつくらう」講師：(株)べんてる 描画材研究所	描画材料の特徴を知り、自作の絵の具をつくり表現の可能性を想像しよう。
	3 実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」1・・・「お茶碗の魅力と表現の極意をはなかに？」	茶碗の魅力に気付くための方法を身に付け、茶碗の簡単な成り立ちを理解する。
	4 実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」2・・・茶碗の壁を薄くしよう！	「おもてなしの造形」は全部で5つ。<なり>はメッセージ。茶碗の内側は宇宙。
	5 実技「マイ・お抹茶茶碗をつくらう」3・・・仕上げとサイン。乾燥。	口縁づくり、茶巾、茶筴ずり、茶だまり、高台づくり。高台はなぜ丸くないの？
	6 子どもの発達と造形・・・ケログの「子どもの描画の発達過程」から探る。	ケログの発達過程のガイダンスと基本的な描画を発達順に並べ変え、遊ぶ。
	7 ユング「8つのタイプ論」と「個性化の過程(自己実現)」・・・個性をどうとらえるの？	「個性をどうとらえるか」と「個性化の過程」のガイダンス。自分のタイプを図に表そう！「自己実現」の道筋がわかるよ！発展材は伊・レヅジョエミリヤ市の幼児教育を概観しよう！
	8 「ヨーロッパの美術教育(チゼック)」と西ドイツの「視覚伝達としての美術教育」	チゼックとビジュアルコミュニケーションとしての美術(図工)教育の違いってなあんた？
	9 日本の美術教育・・・大正期の自由画運動と戦後の美術教育、立命館小の図工教育について	山形県、北川民次、創造美育協会、指導要領の変遷、立命館小のカリキュラムはどうなっているの？
	10 模擬授業にチャレンジ1・・・学習指導案の作成の準備	グループ編成、学年割り当て、題材の検討・決定、係り分担、指導案の書き方にチャレンジするよ！
	11 模擬授業にチャレンジ2・・・学習指導案の作成1	図工科のねらいは全部で4つ。題材は3つの観点から考えよう！始めに試作してみよう！
	12 模擬授業にチャレンジ3・・・学習指導案の仕上げとチェック。	学年毎にチェックを受け、手直し手指導案を完成するよ！目標と評価基準の関係もしっかり理解しておこう。小学校は<気付き>のための発問が大切ですよ！あとは発表練習だ！
	13 模擬授業にチャレンジ(1)	模擬授業1・2・3年、話し合い
	14 模擬授業にチャレンジ(2)	模擬授業4・5・6年、話し合い
	15 図工の授業のまとめと教員採用試験の問題にチャレンジ！	中学の過去問題を一緒に考えよう。

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は実習も含めて具体的な内容になっています。全授業で一つ一つ丁寧に学び、授業時間で完全習得させます。そのために、振り返りシートで確認していきます。目標は、教育現場ですぐに役立つためのスキルを身に付けるようにします。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 作品評価と振り返りシート評価から2 活動の取り組みの姿勢も一部評価評価A:指導事項以上のことが理解できた。評価B:指導事項が一通り理解できた。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

汚れても良い服装(エプロン)の用意。ハンドタオル、筆記用具、ノートの用意。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
春の数え方	日高敏隆 / 新潮文庫 / /
裸の王様	開高健 / 新潮文庫 / /
「日本」とは何か	網野善彦 / 講談社文庫 / /
ユング心理学入門	河合隼雄 / 岩波現代文庫 / /
児童画の発達過程	R・ケロッグ、深田訳 / 黎明書房 / /
チゼックの美術教育	W・ビョラ、深田訳 / 黎明書房 / /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

学生との直接対話 / Talk with Students

## その他 / Others

## 拡張項目

生活 (S)

13247

担当者名 / Instructor 寺田 博幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校における生活科の学習指導と評価について、実践事例をもとに考察していく。新学習指導要領に基づく生活科の改善点をふまえ、指導計画作成や単元構想、学習指導案上のポイントなどについてグループ討論などを行いながら、実践に生きる指導力を身に付けるようにする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・生活科教育の基礎的・基本的な理論について理解し、説明することができる。
- ・子どもの思いや願いを実現し、主体性を育てる生活科学習の在り方について理解し、説明することができる。
- ・生活科における指導と評価の一体化や子どもの学習意欲を高める学習指導法について理解し、説明することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

生活科は、小学校低学年において教科の総合性を有している。その特質から他教科の教科教育法を履修しておくことは有益である。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生活科の学習指導を進めるにあたって	教科目標, 学年目標, 学習内容をとらえる
第2回	生活科の学習指導と評価―1	評価の観点, 学習内容における評価規準
第3回	生活科の学習指導と評価―2	気付きの質を高める指導法の工夫
第4回	生活科の学習指導と評価―3	表現力を高める指導法の工夫
第5回	生活科の学習指導と評価―4	安全教育や生命を大切にしている指導法の工夫
第6回	生活科の学習指導と評価―5	かかわりを深める活動の工夫
第7回	生活科の学習指導と評価―6	他教科等との合科的・関連的な指導の工夫
第8回	総合的な学習への接続とその意義	知的好奇心・知的探究心をわきたたせる体験や活動の充実
第9回	かかわりを重視する生活科・総合的な学習の展望	かかわりを通して学びをつくること
第10回	指導と評価の一体化を図るために	評価の妥当性, 客観性, 信頼性を高める工夫
第11回	学級経営と生活科学習―1	子どもの意見や考えが高まる学級集団づくり
第12回	学級経営と生活科学習―2	目的意識, 相手意識を高める学級集団に向けて
第13回	生活科における学習指導の特質―1	活動が深めるための時間的なゆとり, 空間的なゆとり, 心理的なゆとりを大切に
第14回	生活科における学習指導の特質―2	自分のよさや可能性について気付きを深める指導の工夫
第15回	本講義を振り返って	意見交流を通して, 生活科を展望する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ワークショップ形式を取り入れ意見交流を進めていくが、具体的な内容等については講義で明示する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義をもとに、レポート題について考えをまとめる。
平常点評価	50 %	講義への参加意欲と意見交流への参加による評価を重視する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生きる力を育む教育の新たな展開を探る上で、毎月刊行される「初等教育資料」(東洋館出版)が参考になろう。教員を目指す受講生には、生活科のみならず小学校教育全体の営みを理解することを心から願う。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 生活科編	文部科学省 / 日本文教出版 / 978-4-536-59002-0 /
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4-491-02378-6 /
小学校学習指導要領	文部科学省 / 文部科学省 / /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校新学習指導要領の展開 生活科編	木村吉彦 / 明治図書 / 978-4-18-838617-0 /
小学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編	嶋野道弘 / 明治図書 / 978-4-18-839318-5 /
「スタートカリキュラム」のすべて 仙台市発・幼小連携の新しい視点	木村吉彦監修, 仙台市教育委員会編 / ぎょうせい / 978-4-324-09151-7 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

## その他 / Others

## 拡張項目



## 生活科教育法 (SA)

13296

担当者名 / Instructor 寺田 博幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校生活科が設置された背景を小学校教育の営みをもつ意味から検証し、生活科の目標や内容構成、生活科の指導計画作成と学習指導等について解説する。また、実践事例をもとに、具体的な学習指導と評価について考察し、生活科教育について理解を図る。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・生活科が設置された背景をふまえ、生活科教育にかかわる基礎的・基本的な理論について理解することができる。
- ・生活科の改善点をふまえ、子どもの主体性を育てる指導計画の作成、単元構想の在り方について理解することができる。
- ・生活科学習の指導と評価の一体化、子どもの学習意欲を高める学習指導法について理解することができる。
- ・生活科における子ども自身の自己評価や子ども相互の評価の在り方について理解することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

生活科は、小学校低学年において教科の総合性を有している。その特質から他教科等の教科教育法を履修しておくことは有益である。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	生活科とはー生活科誕生の背景と生活科教育の意義	知的好奇心・知的探究心がわきたつ具体的な体験や活動
2	生活科の目標と学年目標	身近な人々、社会及び自然を一体としてとらえること
3	生活科の内容ー1	気付きの質を高める指導
4	生活科の内容ー2	関わりを深め、表現活動を高める指導
5	生活科の内容ー3	他教科等との合科的・関連的な指導の充実
6	生活科の年間指導計画と単元構想	子どもの思いや願いの実現へ
7	単元構想に基づく学習指導と評価ー1	気付きの質を高める指導の工夫
8	単元構想に基づく学習指導と評価ー2	表現力を高める指導の工夫
9	単元構想に基づく学習指導と評価ー3	安全教育や生命を大切にす指導の工夫
10	単元構想に基づく学習指導と評価ー4	関わりを深める活動の重視
11	生活科の学習指導の構想ー1	ワークショップによる小集団の協議を通して
12	生活科の学習指導の構想ー2	ワークショップによる小集団の協議を通して
13	総合的な学習への接続とその意義	探究心がわきたつ教育の創造
14	関わりを深める活動を重視する生活科・総合的な学習の展望	生きる力の具体化
15	本講義のまとめ	生活科の原点に立ち返って

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ワークショップ形式を取り入れ意見交流を進めていくが、具体的な内容等については講義で明示する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義をもとに、レポート題について考えをまとめる。
平常点評価	50 %	講義への参加意欲と協議への参加による評価を重視する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生きる力を育む教育の新たな展開を探る上で、毎月刊行される「初等教育資料」(東洋館出版)が参考になろう。教員を目指す受講生には、生活

科のみならず小学校教育全体の営みを理解することを心から願う。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『小学校学習指導要領解説生活編』	文部科学省 / 日本文教出版 / 978-4-536-59002-0 /
『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間』	文部科学省 / 東洋館出版 / 978-4-491-02378-6 /
『小学校学習指導要領』	文部科学省 / 文部科学省 / /

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『小学校学習指導要領の展開生活科編』	木村吉彦 / 明治図書 / 978-4-18-838617-0c3037 /
『小学校学習指導要領の展開総合的な学種の時間編』	嶋野道弘 / 明治図書 / 978-4-18-839318-5c3037 /
『スタートカリキュラムのすべて』仙台市発信・幼小連携の新しい視点	木村吉彦 監修 / ぎょうせい / 978-4-324-09151-7c3037 /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 生活科教育法 (SB)

11264

担当者名 / Instructor 寺田 博幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、小学校生活科が設置された背景を小学校教育の営みをもつ意味から検証し、生活科の目標や内容構成、生活科の指導計画作成と学習指導等について解説する。また、実践事例をもとに、具体的な学習指導と評価について考察し、生活科教育について理解を図る。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・生活科が設置された背景をふまえ、生活科教育にかかわる基礎的・基本的な理論について理解することができる。
- ・生活科の改善点をふまえ、子どもの主体性を育てる指導計画の作成、単元構想の在り方について理解することができる。
- ・生活科学習の指導と評価の一体化、子どもの学習意欲を高める学習指導法について理解することができる。
- ・生活科における子ども自身の自己評価や子ども相互の評価の在り方について理解することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

生活科は、小学校低学年において教科の総合性を有している。その特質から他教科等の教科教育法を履修しておくことは有益である。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生活科とは一生活科誕生の背景と生活科教育の意義	知的好奇心・知的探究心がわきたつ具体的な体験や活動
第2回	生活科の目標と学年目標	身近な人々、社会及び自然を一体としてとらえること
第3回	生活科の学習内容一	気付きの質を高めること
第4回	生活科の学習内容二	かかわりを深め、表現活動を高めること
第5回	生活科の学習内容三	他教科等との合科的・関連的な指導の充実
第6回	生活科の年間指導計画と単元構想	子どもの思いや願いの実現へ
第7回	単元構想に基づく学習指導と評価一	気付きの質を高める工夫
第8回	単元構想に基づく学習指導と評価二	表現力を高める工夫
第9回	単元構想に基づく学習指導と評価三	安全教育や生命を大切にす指導の工夫
第10回	単元構想に基づく学習指導と評価四	かかわりを深める活動の重視
第11回	生活科学習指導の構想一	ワークショップによる小集団の協議を通して
第12回	生活科学習指導の構想二	ワークショップによる小集団の協議を通して
第13回	総合的な学習への接続とその意義	探究心がわきたつ教育の創造
第14回	かかわりを深める活動を重視する生活科・総合的な学習の展望	生きる力の具体化
第15回	本講義のまとめ	生活科の原点に立ち返って

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ワークショップ形式による小集団の協議を行うが、詳しくは講義において指示をする。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義をもとに、レポート題について考えをまとめる。
平常点評価	50 %	講義への参加意欲と協議への参加による評価を重視する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生きる力を育む教育の新たな展開を探る上で、毎月刊行される「初等教育資料」(東洋館出版)が参考になろう。教員を目指す受講生には、生活

科のみならず小学校教育全体の営みを理解することを心から願う。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 生活科編	文部科学省 / 日本文教出版 / 978-4-536-59002-0 /
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4-491-02378-6 /
小学校学習指導要領	文部科学省 / 文部科学省 / /

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領の展開 生活科編	木村吉彦 / 明治図書 / 978-4-18-838617-0 /
小学校学習指導要領の展開 総合的な学習編	嶋野道弘 / 明治図書 / 978-4-18-839318-5 /
【スタートカリキュラム】のすべて 仙台市発・幼小連携の新しい視点	木村吉彦監修, 仙台市教育委員会編 / ぎょうせい / 978-4-324-09151-7 /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## Academic English I (S1)

10649

担当者名 / Instructor KUZEL JOHN MICHAEL

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook.

産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

Academic English I (S2)

10650

担当者名 / Instructor SUMMERVILLE CHRIS

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 %

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意) All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course. Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited. 受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 書名 / Title

## 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing) K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

Academic English I (S3)

10651

担当者名 / Instructor 平山 真奈美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course will focus on reading and writing for academic purposes. Course material will draw on a range of sociological topics, including the family, gender issues and the media, developing students' knowledge of core vocabulary for the social sciences. Students will learn strategies that will make them more efficient as critical readers, and techniques for organizing their ideas effectively in writing.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to write an academic research paper with properly-formatted references and citations.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English I: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価 100 %

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意) All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course. Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited. 受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 書名 / Title

## 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing) K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Academic English II (S1)

11175

担当者名 / Instructor McCLUNG ROBERT JOHN

単位数 / Credit 1

## 授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information.各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 %

## Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 書名 / Title

## 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters: Life in Society  
(Listening, Note Taking, Discussion)

K. Sanabria/Cambridge University Press/0521754836/

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook.  
産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目



## Academic English II (S2)

11176

担当者名 / Instructor SANDERS MATTHEW R.

単位数 / Credit 1

## 授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information.各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価 100 %

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 書名 / Title

## 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Academic Encounters: Life in Society  
(Listening, Note Taking, Discussion)

K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Academic English II (S3)

11177

担当者名 / Instructor COSGROVE DAVID MARK

単位数 / Credit 1

## 授業の概要 / Course Outline

This course will focus on listening for academic purposes, and in particular on developing students' ability to follow English lectures and take effective notes. Students will also get regular speaking practice as they discuss lecture material. As with Academic English I, material will draw on topics from the social sciences, including the family, gender issues and the media.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students should be able to identify the main ideas and supporting ideas of lectures on social science topics. They should know a variety of effective note-taking techniques to help them comprehend and recall lecture material.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)      テーマ / Theme      キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English II: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information.各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind      割合 / Percentage      評価基準等 / Grading Criteria etc.  
平常点評価      100 %

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意) All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course. Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited. 受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title      出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment  
Academic Encounters: Life in Society      K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /  
(Listening, Note Taking, Discussion)

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Academic English III (S1)

11216

担当者名 / Instructor WILKINS MICHAEL R.

単位数 / Credit 1

## 授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats: in written reports, posters or oral presentations, for instance.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

## Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook.  
産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目



## Academic English III (S2)

11217

担当者名 / Instructor COSGROVE DAVID MARK

単位数 / Credit 1

## 授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats: in written reports, posters or oral presentations, for instance.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意) All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course. Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited. 受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Academic English III (S3)

11218

担当者名 / Instructor HIKASA ROWENA MANTES

単位数 / Credit 1

## 授業の概要 / Course Outline

Through a combination of individual and group project work this course aims to develop students' academic research and presentation skills. Projects will require students to make use of library resources, online databases and the Internet, and may involve some primary research, using questionnaire surveys, for example. Students will have practice in presenting research in a variety of formats: in written reports, posters or oral presentations, for instance.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will have completed at least two academic research projects and improved their ability to gather, interpret, organize and present information in English.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Students will be streamed into three separate classes for Academic English III: S1, S2 & S3. For all three classes the textbook and course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意) All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course. Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited. 受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Academic Encounters: Life in Society (Reading, Study Skills, Writing)	K. Brown & S. Hood / Cambridge University Press / 0521666163 /
Academic Listening Encounters: Life in Society (Listening, Note Taking, Discussion)	K. Sanabria / Cambridge University Press / 0521754836 /

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

Academic EnglishIV (S1)

10660

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
----------	-------------	------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

平常点評価	100 %	
-------	-------	--

## Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook.  
産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

Academic EnglishIV (S2)

10656

担当者名 / Instructor WILKINS MICHAEL R.

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
----------	-------------	------------------

Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

平常点評価	100 %	
-------	-------	--

## Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook.  
産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目



Academic EnglishIV (S3)

10657

担当者名 / Instructor SUMMERVILLE CHRIS

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course aims to help students further develop their academic research and writing skills. Depending on the class teacher's syllabus, students will complete either one or two major academic writing assignments (either one longer essay of 1500~2000 words, or two shorter essays of 750~1000 words each). These essays should be put through multiple drafts and finished to a high standard, complete with a properly-formatted cover sheet and APA-style citations and references.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students will have improved their ability to write academic essays and research papers, in particular their ability to integrate information from secondary sources, by summarizing, paraphrasing and using quotations effectively.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English IV: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 %

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意) All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course. Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited. 受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

## 参考書 / Reference Books

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

Academic English V (S1)

11935

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 %

## Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook.

産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Academic English V (S2)

11933

担当者名 / Instructor KUZEL JOHN MICHAEL

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 %

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意)

All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation.

Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course.

Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited.

受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook.

産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Academic English V (S3)

11934

担当者名 / Instructor GAROFALO RUSSELL

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

Using the format of formal debate, this course aims to help students further develop their research and critical thinking skills as well as their ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of this course students will be able to present an opinion clearly and persuasively to an audience, using a variety of techniques to support an argument. They will be able to listen to other speakers' ideas critically and will know a variety of techniques for refuting those ideas.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

## 授業日(第N回)

## テーマ / Theme

## キーワード / Key Word

Students will be streamed into three separate classes for Academic English V: S1, S2 & S3. For all three classes the course objectives are the same. Exact class schedules will differ, however, and during the 1st week of the semester, instructors will provide students with full details of the syllabus for their own class.

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Class instructors will provide students with more information. 各担当者より指示します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 種別 / Kind

## 割合 / Percentage

## 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 %

Warning against Plagiarism(盗用/ 剽窃について注意) All students must know that they may not copy another person's work, in whole or in part, without use of academic citation. Unacknowledged copying is plagiarism, which is a serious academic offense. If students copy another person's work and submit it under their own name, they risk failing the course. Submitting the same writing assignment or doing the same presentation more than once (i.e. in two or more different courses) is also a form of academic misconduct and is strictly prohibited. 受講生は他者の作品を引用する場合は、学術的引証の方法を用いなければならない。引用の出典を明示することなく、他者の作品を丸ごとあるいは一部でもコピーしてはならない。出典を明らかにすることなくコピーした場合は、盗用/剽窃であり、重大な不正行為である。他者の作品をコピーして自分の作品として提出した場合は、当該科目の単位が授与されないなど、厳重な処罰の対象となる。また自分の作品でも、同じ作品を2度以上流用して、提出あるいはプレゼンテーションに使用してはならない。そのような行為も不正行為であり、厳重な処罰の対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

Class instructors will provide textbook details during the 1st week of the semester.

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

See relevant sections in 2012 Gaikokugo Gakushuu Handbook. 産業社会学部『外国語学習ハンドブック』2012年度版を参照。

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Comparative Society (SA)

12931

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

We live in a media-saturated world: advertising, communication, information, and entertainment. This vast infiltration into our everyday lives means that the media not only provide communication and entertainment, but the media now also shape the way we conceptualize ourselves and the world around us. For societal observers, the media can therefore serve as valuable sources for examining other cultures and societies. In this class students will take on the role of cultural observers and learn about North American culture and society by examining various forms of media from the United States and Canada.

## 到達目標 / Attainment Objectives

- Students will develop the analytical skills necessary for critically interpreting various types of media (advertisements, newspapers, film, etc.).
- Students will enhance their English reading, writing, speaking, and listening skills.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course Introduction	media, media-saturated society
2	What is Media Literacy?	media literacy
3	Key Concepts of Media Literacy	representation
4	Media and Audience	audience, encoding and decoding
5	Advertisement (1) TV Commercials	codes, roles of TV commercials
6	Advertisement (2) Branding and Consumer Culture	brand royalty
7	Advertisement (3) Marketing to Children	target audience
8	Media Representation and Identity (1) Gender	stereotype, gender
9	Media Representation and Identity (2) Race and Ethnicity	Self and Other, race, ethnicity
10	Violence in Media (1)	Violence in children's media
11	Violence in Media (2)	Violence in action films and video games
12	Media Education (1)	Media education in Canada
13	Media Education (2)	Media education in Japan
14	Student Presentation (1)	
15	Student Presentation (2)	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Each class will start with a student presentation on selected readings, followed by discussion, a lecture by the instructor, and media analysis activities. Students are expected to come to class with careful preparation: finish reading assignments and familiarize yourself with topics in advance in order to actively participate in discussion.

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Participation and Weekly Assignments (50%) Presentations (25%) Final paper (25%)

For the participation grade, class attendance is not sufficient. Students are expected to actively participate in discussion and media

analysis activities in class.

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

The reading list will be distributed in class.

**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Representation: Cultural Representations and Signifying Practices	Stuart Hall (Ed) / SAGE / 0761954325 /
Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture	David Buckingham / Polity Press / 0475628303 /
Mass Media and Popular Culture (Version 2)	Barry Duncan / Harcourt Brace / 0774701706 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

**その他 / Others****拡張項目**

Comparative Society (SB)

13064

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

We live in a media-saturated world: advertising, communication, information, and entertainment. This vast infiltration into our everyday lives means that the media not only provide communication and entertainment, but the media now also shape the way we conceptualize ourselves and the world around us. For societal observers, the media can therefore serve as valuable sources for examining other cultures and societies. In this class students will take on the role of cultural observers and learn about North American culture and society by examining various forms of media from the United States and Canada.

## 到達目標 / Attainment Objectives

- Students will develop the analytical skills necessary for critically interpreting various types of media (advertisements, newspapers, film, etc.).
- Students will enhance their English reading, writing, speaking, and listening skills.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course Introduction	media, media-saturated society
2	What is Media Literacy?	media literacy
3	Key Concepts of Media Literacy	representation
4	Media and Audience	audience, encoding and decoding
5	Advertisement (1) TV Commercials	codes, roles of TV commercials
6	Advertisement (2) Branding and Consumer Culture	brand royalty
7	Advertisement (3) Marketing to Children	target audience
8	Media Representation and Identity (1) Gender	stereotype, gender
9	Media Representation and Identity (2) Race and Ethnicity	Self and Other, race, ethnicity
10	Violence in Media (1)	Violence in children's media
11	Violence in Media (2)	Violence in action films and video games
12	Media Education (1)	Media education in Canada
13	Media Education (2)	Media education in Japan
14	Student Presentation (1)	
15	Student Presentation (2)	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Each class will start with a student presentation on selected readings, followed by discussion, a lecture by the instructor, and media analysis activities. Students are expected to come to class with careful preparation: finish reading assignments and familiarize yourself with topics in advance in order to actively participate in discussion.

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Participation and Weekly Assignments (50%) Presentation (25%) Final paper (30%)

For the participation grade, class attendance is not sufficient. Students are expected to actively participate in discussion and media

analysis activities in class.

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

The reading list will be distributed in class.

**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
Representation: Cultural Representations and Signifying Practices	Stuart Hall (Ed) / SAGE / 0761954325 /
Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture	David Buckingham / Polity Press / 0475628303 /
Mass Media and Popular Culture (Version 2)	Barry Duncan / Harcourt Brace / 0774701706 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

**その他 / Others****拡張項目**



## Critical Reading (SA)

11642

担当者名 / Instructor 佐藤 詩恵

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course is designed to improve proficiency in reading comprehension, vocabulary, and critical reading skills. Special emphasis will be placed on the development of critical reading strategies such as examining main ideas, drawing sound conclusions from reliable evidence, and evaluating authors' arguments and writing strategies. Based on college-level reading material, the course mainly covers topics in environmental studies. Other topics that may be of interest to students in the College of Social Sciences (e.g., education, culture, gender, media, welfare) are also presented throughout the course.

## 到達目標 / Attainment Objectives

At the end of the course, students should be able to:

- Utilize skimming and scanning techniques
- Determine the meanings of words based on contextual clues
- Read for specific information in a limited amount of time
- Make appropriate inferences based on information given
- Demonstrate the ability to write clear, logical summaries
- Analyze and evaluate reading material

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Course Overview, Student Information Sheet, and Self-introduction	Explanation of course objectives, assignments, grading guidelines, and course schedules
	2~ Detailed information about the course schedule will be provided on the first day of class.	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This course is offered as one of the Sansha Fukusenko Courses. All sessions will be conducted in English. Students are expected to have completed the assigned readings before class and come to class prepared to participate in class discussions.

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Attendance/class participation: 20% Homework assignments: 30% Quizzes: 20% Group presentations: 30%

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Students are encouraged to participate actively in all group and class discussions.

## 教科書 / Textbooks

No specific textbook is required.

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

## Critical Reading (SB)

10095

担当者名 / Instructor 佐藤 詩恵

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This course is designed to improve proficiency in reading comprehension, vocabulary, and critical reading skills. Special emphasis will be placed on the development of critical reading strategies such as examining main ideas, drawing sound conclusions from reliable evidence, and evaluating authors' arguments and writing strategies. Based on college-level reading material, the course mainly covers topics in environmental studies. Other topics that may be of interest to students in the College of Social Sciences (e.g., education, culture, gender, media, welfare) are also presented throughout the course.

## 到達目標 / Attainment Objectives

At the end of the course, students should be able to:

- Utilize skimming and scanning techniques
- Determine the meanings of words based on contextual clues
- Read for specific information in a limited amount of time
- Make appropriate inferences based on information given
- Demonstrate the ability to write clear, logical summaries
- Analyze and evaluate reading material

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Course Overview, Student Information Sheet, and Self-introduction	Explanation of course objectives, assignments, grading guidelines, and course schedules
2~	Detailed information about the course schedule will be provided on the first day of class.	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This course is offered as one of the Sansha Fukusenko Courses. All sessions will be conducted in English. Students are expected to have completed the assigned readings before class and come to class prepared to participate in class discussions.

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Attendance/class participation: 20% Homework assignments: 30% Quizzes: 20% Group presentations: 30%

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Students are encouraged to participate actively in all group and class discussions.

## 教科書 / Textbooks

No specific textbook is required.

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

Cultural studies (CS) has become a very popular area of study and research in the past few decades. CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as Marxism, feminism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture, identity and representation' which are central to sociological debates and discussions. The course also looks at how culture works in the present day, how culture is represented, produced (and reproduced) and consumed. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context.

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to cultural studies.

## 到達目標 / Attainment Objectives

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge and academic skills in sociology through doing cultural studies.

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- \*become familiar with research methodology to support written and oral activities in cultural studies.
- \*produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of cultural studies.
- \*employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
Week 1	Introduction to the course and overview	
Week 2	Key issues in the study of culture and identity	
Week 3	The West and the rest: discourse, knowledge and power	
Week 4	Discourse and power: representing 'the other' and Orientalism	<About group research>
Week 5	Stereotyping	
Week 6	Museums and exhibiting other cultures	Group research proposal due
Week 7	Representations of gender and sexuality: femininities and masculinities	
Week 8	<Group presentations>	
Week 9	Representations of class and ethnicity	<About individual research>
Week 10	Representations of otherness in advertisements	
Week 11	The body and difference	
Week 12	Varieties of identities and their uses	
Week 13	<Presentations>	
Week 14	<Presentations>	

Week 15  
Final exam

<Research paper due>

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1.Attendance & Participation:20% 2.Oral Assignment (Presentation):20% 3.Writing Assignment (Research papers):20% 4.Informal Evaluations(homework):20% 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Advice will be given in class.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

Information will be given in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Information will be given in class.

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

email

その他 / Others

拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

Cultural studies (CS) has become a very popular area of study and research in the past few decades. CS is the study of culture/cultures using 'interdisciplinary' methods which means to use diverse methods and ideas borrowed from such disciplines as sociology, anthropology, psychology, history, literary criticism, media studies, linguistics, philosophy, etc. It is also related to intellectual movements, such as Marxism, feminism and the studies of colonialism, postcolonialism, modernity, postmodernity, and so on.

This course explores the issues of 'culture, identity and representation' which are central to sociological debates and discussions. The course also looks at how culture works in the present day, how culture is represented, produced (and reproduced) and consumed. Students will learn the role of culture in social life/practices and how identity develops in a social context.

Emphasis will also be placed on skill development in English, use of the Internet for research, project development, and production of short oral and written tasks linked to cultural studies.

## 到達目標 / Attainment Objectives

Students are required to understand contemporary debates on culture and identity by using contemporary theories that are based on discussions of the role of culture and identity in society. Students should also acquire knowledge and academic skills in sociology through doing cultural studies.

Standards for Achieving Goal:

Students will:

- \*become familiar with research methodology to support written and oral activities in cultural studies.
- \*produce medium-length written reports and oral presentations that reflect a high standard of academic competence within the subject matter of cultural studies.
- \*employ graphic, statistical and textual information in a variety of formats.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	Week 1 Introduction to the course and overview	
	Week 2 Key issues in the study of culture, identity and representation	
	Week 3 The West and the rest: discourse, knowledge and power	
	Week 4 Discourse and power: representing 'the other' and Orientalism	<About group research>
	Week 5 Stereotyping	
	Week 6 Museums and exhibiting other cultures	<Group research proposal due>
	Week 7 Representations of gender and sexuality: femininities and masculinities	
	Week 8 <Group presentations>	
	Week 9 Representations of class and ethnicity	<About individual research>
	Week 10 Representations of otherness in advertisements	
	Week 11 The body and difference	
	Week 12 Varieties of identities and their uses	
	Week 13 <Presentations>	
	Week 14 <Presentations>	

Week 15  
Final exam

<Research paper due>

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1.Attendance & Participation:20% 2.Oral Assignment (Presentations):20% 3.Writing Assignment (Research papers):20% 4.Informal Evaluations(homework):20% 5.Formal Evaluation (Final exam):20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

Advice will be given in class.

教科書 / Textbooks

No set textbook is used for this course but handouts and other materials will be given in class.

参考書 / Reference Books

Information will be given in class.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Information will be given in class

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

email

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (Professor, Faculty of Social Sciences)

A close look at statistical data will give us some understanding of the state of the world we live in today. Many of the world's problems are caused by the imbalance of resources between the rich, industrialized world and the poorer, developing nations. We will analyze issues that are related to four major themes: War, Conflicts, Women and Men, and Children. For sure, the facts and data introduced in this course will not only change your views of this world but also enable you to demonstrate the current condition of social problems we need to face around the world.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students are expected to present their own views and provide new data based on their research on the topic discussed in class from a critical point of view.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This class is \*not\* open for international students and graduate students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student. The class is suitable for 3rd year students or above.

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Introduction to the Course: "If the world were a village of 100 people"	Grading system, goal of course, and pre-reading activities
	2 PART I: WAR AND CONFLICTS (1)	"A quarter of the world's conflicts of recent years have involved a struggle for natural resources"
	3 WAR AND CONFLICTS (2)	"Landmines kill or maim at least one person every hour"
	4 WAR AND CONFLICTS (3)	"Every day, one in five of the world's population -- some 800 million people -- go hungry"
	5 REVIEW and Short TEST (15%)	
	6 A: Individual Presentations on landmines (or other weapons), conflicts for natural resources, or hunger in Africa	
	7 MEN AND WOMEN (1)	"7 million American Woman and 1 million American men suffer from an eating disorder"
	8 MAN AND WOMEN (2)	"In more than 70 countries, same-sex relationships are illegal"
	9 MAN AND WOMEN (3)	"Some 30 million people in Africa are HIV-positive"
	10 Review and Short Test No. 2 (15%)	
	11 B: Individual Presentations on eating disorder, same-sex relationships, or AIDS (any other diseases) in Africa"	*Deadline*: Paper First Draft
	12 PART III CHILDREN (1)	"There are 44 million Child laborers in India"
	13 CHILDREN (2)	"There are 300,000 child soldiers fighting in conflicts around the world" *Deadline*: Paper Second Draft
	14 C: Individual Presentations on child soldiers or child laborers	Q. and A. Discussion

15  
REVIEW and SHORT TEST No. 3 (10%)

\*Deadline\*: Short paper final draft (20%)

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

This course is conducted entirely in English. This course is open to \*fukusenko\* undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class \*well prepared\* with your reading assignment completed beforehand.

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	In-Class short test No. 1: 15% No. 2: 15% No. 3: 10% Weekly Participation, reading assignment(30%) Presentation (10%) 2 short papers (20%)

The course grade will be evaluated based on a continuous assessment. Therefore, if you miss taking the in-class test(s), there will be \*no make-up\* tests.

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

Please complete the reading assignments before you come to class. Your \*active\* participation in the discussion is a must to make this class a success.

Please buy the textbook from your favorite bookstore or the internet. You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class. The textbook we are using is the \*2007 edition.\*

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
50 facts that should change the world	Jessica Williams / Icon Books / 978-1840468-46-5 / 2007 edition

Please buy the textbook from your favorite bookstore or the internet. You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class. The textbook we are using is the \*2007 edition.\*

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

Office hours and email address written on the handout syllabus distributed in class. You can also download it from the web. Pls. send your emails (in English) from your RU account only. All other mails from hotmail/yahoo/gmail/mobile phone mails will not be acknowledged.

Contact: jhigashi[at mark]ss.ritsumeai.ac.jp

**その他 / Others****拡張項目**



## 授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (College of Social Sciences)

A close look at statistical data will give us some understanding of the state of the world we live in today. Many of the world's problems are caused by the imbalance of resources between the rich, industrialized world and the poorer, developing nations. We will analyze issues that are related to four major themes: War, Conflicts, Men and Women, and Children. For sure, the facts and data introduced in this course will not only change your views of this world but also enable you to demonstrate the current condition of social problems we need to face around the world.

## 到達目標 / Attainment Objectives

By the end of the course, students are expected to present their own views and provide new data based on their research on the topic discussed in class from a critical point of view.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This class is \*not\* open for international students and graduate students from 2007 spring. You have to be registered as a "fukusenko" student. The class is suitable for 3rd year students or above.

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Introduction to the course: "If the world were a village of 100 people"	Grading system, goal of course, and pre-reading activities
	2 PART I: WAR AND CONFLICTS (1)	"A quarter of the world's conflicts of recent years have involved a struggle for natural resources"
	3 WAR AND CONFLICTS (2)	"Landmines kill or maim at least one person every hour"
	4 WAR AND CONFLICTS (3)	"Every day, one in five of the world's population -- some 800 million people -- go hungry"
	5 REVIEW and Short TEST (15%)	
	6 A: Individual Presentations on landmines (or other weapons), conflicts for natural resources, or hunger in Africa	Q. and A. and discussion
	7 PART II MEN AND WOMEN (1)	"7 million American Woman and 1 million American men suffer from an eating disorder"
	8 MAN AND WOMEN (2)	"In more than 70 countries, same-sex relationships are illegal"
	9 MAN AND WOMEN (3)	"Some 30 million people in Africa are HIV-positive"
	10 Review and Short Test No. 2 (15%)	
	11 B: Individual Presentations on eating disorder, same-sex relationships, or AIDS (any other diseases)in Africa"	*Deadline*: Paper First Draft
	12 PART III CHILDREN (1)	"There are 44 million Child laborers in India"
	13 CHILDREN (2)	"There are 300,000 child soldiers fighting in conflicts around the world" *Deadline*: Paper Second Draft
	14 C: Individual Presentations on child soldiers or child laborers	Q. and A. and discussion

## REVIEW and SHORT TEST No. 3 (10%)

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

This course is conducted entirely in English. This course is open to \*fukusenko\* undergraduate and graduate students only and no longer open to international students. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment completed beforehand.

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Short test No. 1: 15%; No. 2: 15%; No. 3: 10%
		Weekly Participation, reading assignment(30%) Presentation (10%)w/ power point or resume short paper (20%)

The course grade will be evaluated based on a continuous assessment. Therefore, even if you miss taking the in-class test(s), there will be no make-up tests. The topic (chapters) might change.

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

Please complete the reading assignments before you come to class. Your \*active\* participation in the discussion is a must to make this class a success.

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
50 facts that should change the world (2007 edition)	Jessica Williams/Icon Books/978-1840468-46-5/required reading

Please buy the textbook from your favorite bookstore or at th Coop (SEIKYO). You need to have the textbook in hand by the 2nd week of class at the latest. The textbook we are using is the \*2007 edition.\*

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
学生との直接対話 / Talk with Students  
その他 / Other

Office hours and email address written on the handout syllabus distributed in class. You can also download it from the web. Pls. send your emails (in English) from your RU account \*only\*. All other mails from hotmail/yahoo/gmail/mobile phone mails will not be acknowledged by your instructor.

**その他 / Others****拡張項目**

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

## 到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Defining democracy: key concepts and questions Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	
	2 Athenian democracy Reading: Paul Cartledge, The Democratic Experiment	
	3 How democratic was Athenian democracy? Reading: excerpt from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
	4 The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	5 Virtual Democracy: The democratizing potential of the Internet #1 Reading: 'Virtual Democracy?' typescript Writing assignment: Are you an optimist or pessimist regarding the potential of "digital democracy"?	
	6 Virtual democracy: The democratizing potential of the Internet #2 Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	7 Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Writing assignment: Should voting be compulsory?	
	8 Comparing electoral systems: First-Past-The-Post; Alternative Vote; Party List	
	9 Should voting be compulsory? Readings: Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting'	
	10 Measuring democracy: Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	

11  
Measuring democracy: The Freedom House index  
Reading: excerpt from 'Freedom In The World'  
Research task: The Third Wave, and The End of History

12  
The Third Wave of Democracy and the End of History  
thesis

13  
Deliberative Polls – a new initiative for democracy  
Reading: excerpt from James Fishkin, 'The Voice of the  
People'

14  
Evaluating Deliberative Polls

15  
Final Examination and Course Summary

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『On Democracy』	Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House <http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1>  
International IDEA <http://www.idea.int/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

## 到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Defining democracy: key concepts and questions Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	
	2 Athenian democracy Reading: Paul Cartledge, The Democratic Experiment	
	3 How democratic was Athenian democracy? Reading: excerpt from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
	4 The Second Transformation: Democracy as Representative Government Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	5 Virtual Democracy: The democratizing potential of the Internet #1 Reading: 'Virtual Democracy?' typescript Writing assignment: Are you an optimist or pessimist regarding the potential of "digital democracy"?	
	6 Virtual democracy: The democratizing potential of the Internet #2 Reading: excerpt from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
	7 Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'? Writing assignment: Should voting be compulsory?	
	8 Comparing electoral systems: First-Past-The-Post; Alternative Vote; Party List	
	9 Should voting be compulsory? Readings: Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting'	
	10 Measuring democracy: Reading: excerpt from Robert Dahl, 'On Democracy'	

11  
Measuring democracy: The Freedom House index  
Reading: excerpt from 'Freedom In The World'  
Research task: The Third Wave, and The End of History

12  
The Third Wave of Democracy and the End of History  
thesis

13  
Deliberative Polls – a new initiative for democracy  
Reading: excerpt from James Fishkin, 'The Voice of the  
People'

14  
Evaluating Deliberative Polls

15  
Final Examination and Course Summary

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind                      割合 / Percentage                      評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価                                      100 %

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『On Democracy』	Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House <http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1>  
International IDEA <http://www.idea.int/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of sociolinguistics.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of the central themes of sociolinguistics.
- 2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:
  - Lectures and explanations by the instructor;
  - Teacher directed and independent reading;
  - Research-based writing projects;
  - Student directed a pair or group presentation;
  - Class and group discussions.

## 到達目標 / Attainment Objectives

Students will be expected to:

- Develop an understanding of language and concepts related to the topic of sociolinguistics;
- Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
- Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
- Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
- Complete a short research/writing project as part of their preparation for the presentation;
- Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 Introduction to the course: Overview of course objectives and requirements	Introduction to Sociolinguistics
	第2回 Language & Society (Reading critically)	
	第3回 Language & Society (Skimming / Scanning)	
	第4回 Language & Geography (Essay structure)	
	第5回 Language & Geography (Research method)	
	第6回 Language & Social Class (Citation & references)	
	第7回 Language & Social Class (Due: Essay Draft)	
	第8回 Feedback on Essay Draft	Preparation for presentations
	第9回 Language & Education	
	第10回 Language & Education (Due: Essay)	
	第11回 Language & Media	
	第12回 Language & Culture	
	第13回 Review	Final Class test
	第14回 Group presentations, and Evaluation	
	第15回 Group presentations, and Evaluation	Summary of the course

Students are required to read given materials in advance and to do writing assignments stated in the materials or instructed by the teacher.

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Attendance and class participation (15%), Assignments including homework (15%), Research/writing project (20%), Presentation (25%), and Final Class Test (25%)

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

##### Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

##### Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence. If absent on a day when an assignment is due, students must submit that assignment on their first day back in class.

##### Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

#### 教科書 / Textbooks

The instructor will provide lesson materials through the webCT.

#### 参考書 / Reference Books

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

Additional materials will be introduced in class.

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

#### その他 / Others

#### 拡張項目



担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

This is a fukusenko B-gun course with 2 credits mainly for the third year students. This course is designed to develop students' English language and academic skills through the study of sociolinguistics.

- 1) Students will be introduced to key vocabulary and some of the central themes of sociolinguistics.
- 2) Students will work to develop 4 English skills, especially reading and speaking skills, by a variety of study activities, including:
  - Lectures and explanations by the instructor;
  - Teacher directed and independent reading;
  - Research-based writing projects;
  - Student directed a pair or group presentation;
  - Class and group discussions.

## 到達目標 / Attainment Objectives

Students will be expected to:

- Develop an understanding of language and concepts related to the topic of sociolinguistics;
- Learn and use a variety of reading skills and content-analysis skills;
- Become familiar with research methodology to support written and oral arguments;
- Work with a partner or group to give a formal presentation of a high standard;
- Complete a short research/writing project as part of their preparation for the presentation;
- Communicate verbally in English with the instructor and classmates on a range of activities.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 Introduction to the course: Overview of course objectives and requirements	Introduction to Sociolinguistics
	第2回 Language & Society (Reading critically)	
	第3回 Language & Society (Skimming / Scanning)	
	第4回 Language & Geography (Essay structure)	
	第5回 Language & Geography (Research method)	
	第6回 Language & Social Class (Citation & references)	
	第7回 Language & Social Class (Due: Essay Draft)	
	第8回 Feedback on Essay Draft	Preparation for presentations
	第9回 Language & Education	
	第10回 Language & Education (Due: Essay)	
	第11回 Language & Media	
	第12回 Language & Culture	
	第13回 Review	Final Class test
	第14回 Group presentations, and Evaluation	
	第15回 Group presentations, and Evaluation	Summary of the course

Students are required to read given materials in advance and to do writing assignments stated in the materials or instructed by the teacher.

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Attendance and class participation (15%), Assignments including homework (15%), Research/writing project (20%), Presentation (25%), and Final Class Test (25%)

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

##### Participation:

A high level of preparation outside of class as well as active participation in class will be required.

##### Responsibility of Absent Students:

Students who are absent from class must contact classmates to find out about work done or assigned during their absence. If absent on a day when an assignment is due, students must submit that assignment on their first day back in class.

##### Plagiarism:

Students must not copy the work of others, in whole or in part, without use of academic citation. A student who plagiarizes will receive a mark of zero for the assignment and may fail the course.

#### 教科書 / Textbooks

The instructor will provide lesson materials through the webCT.

#### 参考書 / Reference Books

All students will be expected to bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary to class each week.

Additional materials will be introduced in class.

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## Study Abroad Program (S)

20476

担当者名 / Instructor 平山 真奈美

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

Study Abroad Programは、これまでみなさんが培ってきた総合的な英語運用能力を基礎としつつ、専門領域における英語運用能力向上のための短期集中プログラムです。本プログラムでは、講義はもちろん、フィールドトリップや小旅行、ホームステイなどを通して、オーストラリアの社会・歴史・文化などについての理解を深め、英語運用能力の更なる向上をめざしています。出発前に、派遣先のUniversity of Southern Queensland (USQ) (オーストラリア クイーンズランド州)の講師によるテレビ会議システムを使った遠隔講義と、本学英語教員(オーストラリア出身)の指導のもとで4回の事前学習を行います。その後、USQで20時間の英語スキルトレーニング、60時間の講義、フィールドトリップ、小旅行などからなる5週間の夏期研修プログラムを実施します。さらに帰国後も成果を公表するためにポスター展示と文集作成があります。

## 到達目標 / Attainment Objectives

必修英語の履修を通じて学んできた総合的な英語運用能力を基礎に、産業社会学部でさまざまな専門を学ぶ学生の関心と必要に応じた短期集中特別プログラムを通じて、英語のコミュニケーション能力と専門領域でも役立つ英語運用能力をさらに向上させるとともに、フィールドトリップや講義を通して派遣先の国の社会、歴史、文化についての理解を深めます。自分が選んだテーマに沿って、リサーチスキルとプレゼンテーションスキルを伸ばします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

英語副専攻の学生は、A群科目を履修していること。産業社会学部英語副専攻の履修者以外から参加者を募る場合は、別途案内します。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	①事前学習(4回):オーストラリアの歴史・文化・社会などの諸問題の学習を進めます。② テレビ会議システムを使ってUSQとの遠隔授業を実施します。③ 留学・渡航手続に関するガイダンスを実施します。④ 帰国後の成果物作成について説明を行います。現地ではUniversity of Southern Queensland 所属の担当教員から詳しい予定表、成績のつけ方について資料が配布されますので、それを参照すること。留学の成果物として、ポスターと報告集を作成します。ポスターは完成後、掲示・公開します。	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ホームステイの滞在なので、ホストファミリーとの交流を深めるためにも、通常の英語クラスでは、特に積極的に英語で話すように努力をすること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	事前学習への出席と積極的参加、現地研修への積極的参加とオーラルプレゼンテーション、エッセイライティング、事後授業への出席、成果物(報告書とポスター)の完成度を含む。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

## 国際社会入門 (S)

17729

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「単一民族社会」と言われてきた日本社会においても、最近、多文化社会に向けたさまざまな胎動が見られる。この授業では、身近な社会における多文化社会に向けた市民レベルのさまざまな活動とチャレンジに注目していく。在日問題、中国帰国者問題、外国人労働者問題、平和構築、コミュニティ・メ ディアなど多様な市民活動やNPO活動について、できるだけ、それぞれの問題に実際に関わるアクターをゲストとしてクラスにお迎えして、21世紀日本における多文化社会の可能性について、皆さんとともに考えていきたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 日本社会における多文化共生問題の諸相について理解する。
- 2) 多文化社会における問題の本質について考える。
- 3) 自ら、多文化社会の可能性について具体的な提案を企画立案する。
- 4) 企画提案力についても基本的なスキルを身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

入門科目であり、別段、無し。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 多文化社会入門ワークショップ		文化とは 多文化とは アイデンティティ問題
第2回 多文化社会カナダについて考える		ケベック問題 ケベックの先住民問題 多言語政策
第3回 「多文化主義」とは何か		カナダにおける多文化主義の歴史的経緯
第4回 日本社会の直面する諸問題「オールドカマー問題と日本社会」: その1		起源の古いエスニック問題 先住民問題/オールドカマー 中国帰国者問題
第5回 「中国帰国者に対する支援活動」ゲストスピーチ		中国帰国者問題 日本語教室
第6回 「外国人高齢者・障害者支援の試み」ゲストスピーチ		在日コリアン問題 モアネット エルファ
第7回 日本社会の直面する諸問題「ニューカマー問題と日本社会」: その2		新たなエスニック問題 ニューカマー
第8回 「外国人児童学習支援のこころみ」ゲストスピーチ		日系ブラジル人、初級日本語教室、学習支援ボランティア、DAISY
第9回 日本社会の直面する諸問題「NPOセクターと多文化社会」: その3		ボランティア多文化社会への胎動
第10回 「多言語放送のチャレンジ」ゲストスピーチ		FMわいわい エスニックメディア
第11回 日本社会の直面する諸問題「大学と地域連携」: その4		NPOセクターの可能性
第12回 「平和創造へのチャレンジ」ゲストスピーチ		テラルネッサンスのこころみ 少年兵問題 対地雷撤去へ向けた運動
第13回 「遊びから社会創造へ」ゲストスピーチ		フロンティア協会のチャレンジ 都市と農村、そして大学
第14回 「国際支援の方法と態度: 企画書作成のポイント」ゲストスピーチ		国際支援、企画書作成
第15回 「多文化社会に向けた企画書作成」課題レポート発表と交流		優秀レポート作成者による発表会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	

平常点評価

60 % 感想レポートを期中に8回課し、それぞれを5%として、合計40%。期中課題レポート1回20%として、レポート全体で60%とする。

-----  
期中に小レポートを8回、そして、課題レポートを1回課す。課題レポートの優秀者には最後の授業で発表してもらう。**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

本講義では、みなさんの身近で活躍するさまざまなアクターをクラスにお呼びし、直接、話を聞いていく機会を豊富に提供する。したがって、授業への参加姿勢を最大限重視する。外部講師に対して失礼の無いように授業参加については覚悟をもったのぞまれない(私語は厳禁、質問・質疑応答は大歓迎)。最後に、皆さんから、多文化社会に向けた具体的提案を企画立案してもらうが、授業を通じて、問題を理解し、さらに、みずから主体的に考えていく積極的な姿勢を重視する。

**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

**その他 / Others****拡張項目**

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 文化の多様性について理解する。
- 2) 自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
- 3) 多文化共生問題の本質を理解する。
- 4) 問題を乗り越えていく視点を獲得する。
- 5) 具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入: 映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析 レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念 エスニシティとは何か?
第3回	ネイションとは何か?	TST分析について 「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か? I	リヴァイアサンの登場 フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か? II	普遍主義のジレンマ 「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ 文化的ネットワークの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題 I	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題 II	東九条マダン 多文化共生に向けた文化装置 ゲスト招聘
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性 外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か?	レポートフィードバック ディスカッション ゲスト招聘
第15回	検証テスト	振り返りまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

期中に4回ほどレポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	定期試験期間中に、検証試験(60点)を実施する。

平常点評価

40 % 授業理解および授業参加度を評価する。  
期中に、4回ほどレポートを課す(10点×4=40点)。

検証試験(60点)を併せ、100点満点にて総合して評価する。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思ひの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

**教科書 / Textbooks**

教科書は使用しない。

**参考書 / Reference Books**

授業中に適時紹介していく。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

授業中に適時紹介していく。

**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

**その他 / Others**

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2, 3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

**拡張項目**

## 授業の概要 / Course Outline

## ドイツポップスとニュースで学ぶドイツ語

ドイツで人気のあるポップスの歌詞カードを読解し、ドイツ公共放送(ZDF)のニュースを読解して、異文化の人々の日常生活を知りましょう。また僕が長年録り貯めたドイツのニュース(日本語版)もたくさん見て、異文化に詳しくなってください。テキストは、日本人向けに作られた簡単な文章ではなく、ドイツ人がドイツ人のために作った歌詞とニュースですから、初心者にとっては少々語彙が難しい、というのがこの教材の難点でした。そこで、皆さんが慣れるまで、テキストの名詞の上にその性と意味を書いておきます。「これなら文法に集中できて、よく分かります」という声が多く、この難点は克服できたと思います。音楽とニュースを聞いて、ドイツ語のリズムを覚え、楽しくドイツ語入門に成功してください。ポップスについても、歌詞の日本語訳を配りますので、ご心配なく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

発音のレベルアップ。  
読解力のレベルアップ。  
聴取力のレベルアップ。  
ドイツ文化についてのある程度の知識を得る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 授業方法の説明を行い、教材をお渡します。	どんな歌を聞くのか、まずCDを聞きましょう。また「ニュースのメニュー」を見てもらって、もし特にやりたいニュースがあれば、希望を伺います。
	2 ポップスは、まずNicole(ニコル)という女性歌手の「AbraKadabra(アブラカダブラ)」というアルバムから始めましょう。 1曲目「Hald dich fest(あなたをしっかりと抱いてあげる)」。ピアノが美しいバラードです。	ニュースは「マイケル・ジャクソン、死す」その1。 (このニュースは文章が短いので、入門に向いていると思います。)
	3 2曲目「AbraKadabra(アブラカダブラ)」。この世の悲惨を魔法で無くしたいという歌。	ニュース「マイケル・ジャクソン、死す」その2
	4 3曲目「Wer schlaeft schon gern allein(誰がひとりぼっちで眠りたいのよ)」。去った彼が恋しいという歌。	ニュース「マイケル・ジャクソン、死す」その3
	5 4曲目「So wie's kommt wird es sein(起こることが起こるのよ)」。千里眼を歌ったオリエンタルな曲調の歌。	ニュース「マイケル・ジャクソン、死す」その4
	6 5曲目「Wenn Johnny Walker kommt(ジョニー・ウォーカーが来ると)」。キッチンドリッカーの歌。	ニュース「マイケル・ジャクソン、死す」その5。 (この回くらいで、このニュースは終われると思います。このあと読むテキストですが、一応僕が選んでおきますが、皆さんの希望を聞いて、どのテキストを読むかを決めたいと思います。)
	7 6曲目「Millionaer(百万長者)」。今回からDie Prinzenというグループの歌を聞きます。俺はポップスターになって大金持ちになるんだ、という歌。	ニュース「月食」その1 (理系のニュースも一つ入れようかな、ということで選んでみました)
	8 7曲目「Man in Mond(月の人)」。月に住む人が、地球の人妻にかなわぬ恋をする話。	ニュース「月食」その2
	9 8曲目「Gabi und klaus(ガービとクラウス)」。若い男女の失恋物語。	ニュース「月食」その3
	10 9曲目「Mein bester Freund(僕の親友)」。尊敬するヒーローを歌った歌。	ニュース「月食」その4 (この回くらいで、このニュースは終われるでしょう。)



11 10曲目「Mein Fahrrad(僕の自転車)」。彼女よりも妻よりも、僕は自転車が好き、という歌。	ニュース「9・11の5年目の追悼式」その1 (9・11は、現代を語るときに外せない出来事なので、選んでみました。)
12 11曲目「Blaues Blut(青い血)」。貴族然とした女性上司に憧れる社員の歌。	ニュース「9・11の5年目の追悼式」その2
13 12曲目「Kuessen verboten(キスは禁止)」。以下、Die Prinznen の2枚目のアルバムから選んでみます。	ニュース「9・11の5年目の追悼式」その3
14 13曲目「Vergammelte Speisen(カビの生えた食べ物)」。ただひたすらマズい料理を罵倒する、日本人の僕にはそのテイストがよく分からない、ヘンな歌。	ニュース「9・11の5年目の追悼式」その4
15 実力診断テストとその解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業は、歌詞カードにも、そしてニュースのテキストにも、皆さんがドイツ語に慣れるまで、すべての名詞に性と意味を書いておきますから、文法に集中できて、多分楽しくドイツ語が学べ、実力がつくと思います。頑張ってください。できれば皆さん自身も、辞書を何度も引いて、ドイツ語と親しむ癖をつけてください。もし皆さんの方でやってみたい歌詞やニュースがあれば、そのあたりは臨機応変に対応しますので、遠慮なく言ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	3回の小さな実力テストと、最終の実力診断テストで判定します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを配ります。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 異文化研究 I (SB)

13500

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

日常生活で使われることばが理解できるように、聞く・話す・読む・書くの4能力をバランスよく養成し、フランス語の基礎を身につけると共に、フランス語が話されている地域への理解、または映画などの文化の紹介を通じてフランス文化についての知識を深めます。具体的には、主にフランス映画の鑑賞を通じてフランスを深く理解することになります。フランスに行ってみたいという気分を味わってみたいと思います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

フランスの日常生活や文化や社会などについての現代的話題に関する意見を言うことができること、さらに、フランスと日本を比較して国際理解を深めることを目指します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

フランス語やフランス文化に関心があれば結構です。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクションと「ピエロの赤い鼻」(2003年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
2	「ピエロの赤い鼻」(2003年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
3	「過去のない男」(2002年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
4	「過去のない男」(2002年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
5	「ノスタルジア」(1983年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
6	「ノスタルジア」(1983年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
7	「サムライ」(1967年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
8	「サムライ」(1967年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
9	「列車に乗った男」(2002年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
10	「列車に乗った男」(2002年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
11	「永遠の語らい」(2003年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
12	「永遠の語らい」(2003年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
13	「神なる酔っぱらいの伝説」(1988年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
14	「神なる酔っぱらいの伝説」(1988年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
15	まとめとレポート解説	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

参考書をまず読んでください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	まず成績評価の前提として、原則的に出席要件として2/3以上が求められます。その上で、成果物+日常点という考え方に立ち、レポートに日常点評価(出席ポイント&授業運営への貢献度)を加味して成績評価を行います。

レポートは作品ごとに宿題として課されます。二週で一本の作品を鑑賞しますから、7本のレポートが課されます。したがって、成績評価の要件として、原則として、2/3以上の出席と、7本のレポートの提出が前提になります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキスト: 久津内一雄『フランス映画と現代思想』をよく読んでください。それから、前期木曜5限「映画芸術論」を受講することを勧めます。

#### 教科書 / Textbooks

テキスト: 久津内一雄『フランス映画と現代思想』を配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
寝ながら学べる構造主義	内田樹 / 文春新書 2002年 / /
現代思想の冒険	竹田青嗣 / ちくま学芸文庫 1992年 / /
時間論	中島義道 / ちくま学芸文庫 2002年 / /
これがニーチェだ	永井均 / 講談社現代新書 2004年 / /
ワイトゲンシュタイン「論理哲学論考」を読む	野矢茂樹 / ちくま学芸文庫 2002年 / /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 異文化研究 I (SC)

13496

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は中国語を少し習った2回生以上の学生を対象とし、中国映画を中心とした映像資料を教材とします。中国映画の原音を聞きながら、字幕を通じて物語の展開を理解していきます。映画を通じて中国の文化や社会を読み解いていきます。と同時に中国語の能力も高めていきます。これがこの授業のねらいであります。前期では7本程度の映画を見る予定をしています

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 中国映画を通して中国の社会や文化を理解することができる。
- 中国語のリスニング力を高めることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 映画「黄土地」を鑑賞しながら、討論する。	
	第2回 「黄土地」について討論、感想文を書く。	
	第3回 映画「熱恋」を鑑賞しながら、討論する。	
	第4回 「熱恋」について討論、感想文を書く。	
	第5回 映画「暖(故郷の香り)」を鑑賞しながら、討論する。	
	第6回 「暖(故郷の香り)」について討論、感想文を書く。	
	第7回 映画「那山、那人、那狗」を鑑賞しながら、討論する。	
	第8回 「那山、那人、那狗」について討論、感想文を書く。	
	第9回 映画「秦始皇帝暗殺」を鑑賞しながら、討論する。	
	第10回 「秦始皇帝暗殺」について討論、感想文を書く。	
	第11回 映画「非誠勿擾」を鑑賞しながら、討論する。	
	第12回 「非誠勿擾」について討論、感想文を書く。	
	第13回 映画「天雲伝奇」を鑑賞しながら、討論する。	
	第14回 「天雲伝奇」について討論、感想文を書く。	
	第15回 前期のまとめと前期のレポート作成。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な取り組みや出席は50%、感想文、レポートは50%。

上映予定の映画を差し替える場合がある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

電話: 直通075-466-3132 内線3850

メール: wen-chux@ss.ritsumei.ac.jp

拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

## ドイツにおけるManga

ドイツで出版されているマンガを利用し、ドイツ語表現力の向上を目指します。  
 日常的に我々が用いている日本語の表現をドイツ語に翻訳するとどうなるか、この部分はなぜこのように翻訳されているのか、などといった小さな疑問を解決していくことで、徐々にドイツの言語や文化が理解できるようになってきます。  
 随時オリジナル版と比較しながら、面白い表現、なるほどという表現を発見していきましょう。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日常的なドイツ語表現を知る。  
 ドイツの言語と文化に親しむ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 授業の概要説明	授業の進行方法などを説明します。また、受講者の興味や関心に応じ、シラバスで挙げているもの以外でさらに取り扱ってほしいマンガの希望があれば伺います。
	2 青山剛昌「名探偵コナン」(Detektiv Conan) その1	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	3 青山剛昌「名探偵コナン」(Detektiv Conan) その2	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	4 鳥山明「ドラゴンボール」(Dragon Ball) その1	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	5 鳥山明「ドラゴンボール」(Dragon Ball) その2	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	6 小畑健「ヒカルの碁」(Hikaru no Go) その1	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	7 小畑健「ヒカルの碁」(Hikaru no Go) その2	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	8 高橋留美子「めぞん一刻」(Maison Ikkoku) その1	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	9 高橋留美子「めぞん一刻」(Maison Ikkoku) その2	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	10 臼井儀人「クレヨンしんちゃん」(Crayon Shin Chan) その1	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	11 臼井儀人「クレヨンしんちゃん」(Crayon Shin Chan) その2	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	12 高橋陽一「キャプテン翼」(Captain Tsubasa) その1	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	13 高橋陽一「キャプテン翼」(Captain Tsubasa) その2	教員による読み方のポイント説明とグループワーク
	14 受講生による研究報告	受講生が自ら選択したマンガについて、個人ないしグループによる発表
	15 受講生による研究報告	受講生が自ら選択したマンガについて、個人ないしグループによる発表

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の発表、出席点などを総合して評価します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本文化とドイツ文化の違いを理解するように心がけてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コピー配布	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガの国ニッポン 日本の大衆文化／視覚文 化の可能性	ジャクリーヌ・ベルント(佐藤和夫、水野邦彦 訳)／家伝社／978-4-7634-0484-8／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 異文化研究Ⅱ (SB)

16186

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

日常生活で使われることばが理解できるように、聞く・話す・読む・書くの4能力をバランスよく養成し、フランス語の基礎を身につけると共に、フランス語が話されている地域への理解、または映画などの文化の紹介を通じてフランス文化についての知識を深めます。具体的には、主にフランス映画の鑑賞を通じてフランスを深く理解することになります。フランスに行ってみたいという気分を味わってみたいと思います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

フランスの日常生活や文化や社会などについての現代的話題に関する意見を言うことができること、さらに、フランスと日本を比較して国際理解を深めることを目指します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

フランス語とフランス文化に関心があれば結構です。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクションと「海の上のピアニスト」(1999年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
2	「海の上のピアニスト」(1999年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
3	「さらば友よ」(1968年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
4	「さらば友よ」(1968年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
5	「永遠と一日」(1998年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
6	「永遠と一日」(1998年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
7	「ハennes、列車の旅」(1998年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
8	「ハennes、列車の旅」(1998年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
9	「エル・スール」(1983年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
10	「エル・スール」(1983年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
11	「ソフィーの世界」(1999年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
12	「ソフィーの世界」(1999年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
13	「ベルリン・天使の詩」(1987年)	教員の解説と受講生の映画鑑賞
14	「ベルリン・天使の詩」(1987年)	映画鑑賞の続きと教員の問題提起
15	まとめとレポート解説	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

参考書をまず読んでください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	まず成績評価の前提として、原則的に出席要件として2/3以上が求められます。その上で、成果物+日常点という考え方に立ち、レポートに日常点評価(出席ポイント&授業運営への貢献度)を加味して成績評価を行います。
レポートは作品ごとに宿題として課されます。二週で一本の作品を鑑賞しますから、7本のレポートが課されます。したがって、成績評価の要件として、原則として、2/3以上の出席と、7本のレポートの提出が前提になります。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods



テキスト: 久津内一雄『フランス映画と現代思想』をよく読んでください。それから後期木曜5限「言語文化論」を受講することを勧めます。

#### 教科書 / Textbooks

テキスト: 久津内一雄『フランス映画と現代思想』を配布します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
寝ながら学べる構造主義	内田樹 / 文春新書 2002年 / /
時間論	中島義道 / ちくま学芸文庫 2002年 / /
現代思想の冒険	竹田青嗣 / ちくま学芸文庫 1992年 / /
これがニーチェだ	永井均 / 講談社現代新書 2004年 / /
ワイトゲンシュタイン「論理哲学論考」を読む	野矢茂樹 / ちくま学芸文庫 2002年 / /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 異文化研究Ⅱ (SC)

16336

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は中国語を少し習った2回生以上の学生を対象とし、中国映画を中心とした映像資料を教材とします。中国映画の原音を聞きながら、字幕を通じて物語の展開を理解していきます。映画を通じて中国の文化や社会を読み解いていきます。と同時に中国語の能力も高めていきます。これがこの授業のねらいであります。後期では7本程度の映画を見る予定をしています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 中国映画を通して中国の社会や文化を理解することができる。
- 中国語のリスニング力を高めることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 映画「芙蓉鎮」を鑑賞しながら、討論する。	
	第2回 「芙蓉鎮」について討論、感想文を書く。	
	第3回 映画「夜上海」を鑑賞しながら、討論する。	
	第4回 「夜上海」について討論、感想文を書く。	
	第5回 映画「花腰新娘」を鑑賞しながら、討論する。	
	第6回 「花腰新娘」について討論、感想文を書く	
	第7回 映画「全身尽披黄金甲」を鑑賞しながら、討論する。	
	第8回 「全身尽披黄金甲」について討論、感想文を書く。	
	第9回 映画「烈愛傷痕」を鑑賞しながら、討論する。	
	第10回 「烈愛傷痕」について討論、感想文を書く	
	第11回 映画「紅粉」を鑑賞しながら、討論する。	
	第12回 「紅粉」について討論、感想文を書く。	
	第13回 映画「沈睡的青春」を鑑賞しながら、討論する。	
	第14回 「沈睡的青春」について討論、感想文を書く。	
	第15回 後期のまとめと後期のレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な取り組みや出席は50%、感想文、レポートは50%。 上映予定の映画を差し替える場合がある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

電話: 直通075-466-3132 内線3850

メール: wen-chux@ss.ritsumei.ac.jp

拡張項目

## キャリア形成特殊講義 (SD)

16270

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業の目的は、さまざまな業種・職種の職業理解を通じて、自己の個性や職業適性について考え、将来を考えた大学での学びのモチベーションづくりや自律的な進路選択の一助とすることにある。同時に、フィールドワークを伴う実践型授業を通して、企画構想力、分析力、表現力、実践力、チームで協同して課題を遂行する能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを涵養することも目指す。

具体的には、外部講師による講演、本学卒業生によるパネルディスカッション、文献調査によるさまざまな業種・分野の職種と職種要件(資格・語学・アカデミックキャリアなど)の調査、OB・OGへのインタビュー調査・企業見学、パワーポイントによるプレゼンテーション・討論などを予定している。なお、1グループ4~5名程度のグループワークとし、訪問先企業は初回授業時に抽選により決定する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・卒業後の人生・仕事と学生生活との関連についてイメージできる。
- ・さまざまな業種・職種についてその職業適性ととも理解できる。
- ・インタビュー調査の基本的な手法・マナーを理解して実践できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1・2回生推奨。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要説明、業界・企業研究の方法	
2	業界・企業研究(Ⅰ)外部講師による講演・質疑応答	
3	業界・企業研究(Ⅱ)外部講師による講演・質疑応答	
4	業界・企業研究(Ⅲ)本学卒業生によるパネルディスカッション	
5	業界・企業研究(Ⅳ)	
6	業界・企業研究(Ⅴ)	
7	フィールドワーク事前ガイダンス	
8	フィールドワーク実習・プレゼンテーション準備(Ⅰ)	
9	フィールドワーク実習・プレゼンテーション準備(Ⅱ)	
10	フィールドワーク実習・プレゼンテーション準備(Ⅲ)	
11	プレゼンテーション・討論(Ⅰ)	
12	プレゼンテーション・討論(Ⅱ)	
13	プレゼンテーション・討論(Ⅲ)	
14	プレゼンテーション・討論(Ⅳ)	
15	礼状作成、授業のまとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

自らが取材する企業・業界についての研究をしっかり行い、理解を深め、十分な準備をしてから、インタビュー調査に臨むこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業への出席を重視する。業界・企業研究レポート、パワーポイントプレゼンテーション、コミュニケーションペーパーなどを評価。

P(合格)またはF(不合格)として評価する。欠席は4回以上でF評価とする。  
第1回目の授業で授業の進め方や成績評価などの重要な説明を行うので必ず出席すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は多くの先輩や企業の教育に対する理解と協力・連携により成り立っている。  
そのため、信頼関係を損なうような行為(無断欠席・遅刻・私語など)に対しては厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

メールリストなど。

その他 / Others

拡張項目

## キャリア形成特殊講義 (SG)

13688

担当者名 / Instructor 遠藤 保子、水野 篤夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

- この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)で開講し、立命館大学では開講しません。
- キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
- 履修の際は、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

青少年の自立と成長をどのように促進するのか。この問いは青少年教育において古くからある。しかし、ニートやフリーター・ひきこもりの増加に見られるように、若者を巡る課題や社会環境は複雑化し続けており、近年、改めてクローズアップされる問いとなっている。こうした現況にあつて、青少年の自立と成長を促進する専門職(いわゆる「ユースワーク」)に対して注目が集まっている。本講義では、若者の自立と成長をどのように促進するのかという問いに対し、実践的な答えを提示しつつ、受講生とともに新たな企画・政策の立案を試みたい。その際、実際に「わかものを元気にする仕事」に従事している方々をゲストにお招きする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

本講義を通じて、個々の青少年の課題と向かい合うと同時に、そうした課題を生起させている社会構造にも目を向けることを受講生には期待したい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 ユースサービスとは何か?	ユースサービス、青年、若者、思春期
	2 現代日本の青少年が抱える課題を考える(ワークショップ)	ポスト青年期
	3 ユースサービスの実践から学ぶ①-非行と青少年	非行、少年犯罪
	4 ユースサービスの実践から学ぶ②-セクシュアルヘルスと青少年	セクシュアルヘルス、デートDV
	5 ユースサービスの実践から学ぶ③-ニート フリーターと青少年	ニート、フリーター、就労支援
	6 ユースサービスの実践から学ぶ④-不登校、引きこもりと青少年	不登校、ひきこもり、貧困
	7 ユースサービスの実践から学ぶ⑤-メンタルヘルスと青少年	メンタルヘルス
	8 ユースサービスの実践から学ぶ⑥-多文化共生と青少年	多文化共生
	9 ユースサービスの実践から学ぶ⑦-政治参加/社会参加と青少年	政治参加、社会参加、投票行動
	10 海外のユースサービスの活動を知る	イギリス、韓国、ユースワーク
	11 ユースサービスの基本プロセスを学ぶ	政策の立案・実施・見直し、フィードバック
	12 現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
	13 現代日本の青少年のニーズを調べる(グループワーク)	
	14 新たなユースサービスの取り組みを企画する-グループ発表会①	
	15 新たなユースサービスの取り組みを企画する-グループ発表会②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	グループ発表およびレポートの提出
平常点評価	60 %	講義の最後にミニレポートを課す場合がある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、青少年支援のあり方について、多角的に学ぶと同時に、受講生自身が新しいユースサービスプログラムを考案する場でもある。したがって、したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『青少年・若者の自立支援』	柴山昌山編 / 世界思想社 / 9784790914347 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

(財)京都市ユースサービス協会のHP <http://www.ys-kyoto.org/>

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義には、本学の学長をはじめ、会社経営者、起業家、ヘッドハンター、編集者、水族館長、探検家、作家、行政マン、エンジニアなど幅広い職業人が講師として登壇します。仕事(職業人生)の広がり深く理解し、将来のキャリア形成に寄与する内容です。講義の終盤には、内定を獲得した在学生(JA)とともに、学生の目線で仕事観について考察します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学は全学横断的に「キャリア教育科目」を配置しており、本講義はその中に位置付けられます。各科目は、学生のキャリア発達に応じた段階的な到達目標を掲げていて、本講義は科学的に「仕事(職業人生)」をとらえるのが到達目標です。本講義には、川口清史学長をはじめビジネスの第一線で活躍する学外講師がオムニバス形式で多数登壇し、仕事(職業人生)について深く考察します。プロフェッショナルたちの知見から、仕事(職業人生)への科学的な認識能力を大いに高めてほしいものです。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「インターンシップ入門」(2年生以上、後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3年生以上、前期配当科目)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3年生以上後期配当科目)にもチャレンジしてください。また、「キャリア形成論Ⅰ」(1年生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3年生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、3年生以上でさらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回目 テーマ / (導入)大学の学びと職業人生1 (加藤+グループワーク)	概要 / キャリア発達段階における「自己理解」に続く「他者認識」のあり方について解説した上で、本講義の位置づけと学び方を教示する。
	第2回目 テーマ / 学長という仕事 (立命館大学学長、総長)	概要 / 立命館大学学長が、学園の教学精神を踏まえ立命館のあるべき姿と、その下で学ぶ意義、意味について深く考察する。その上で、学長としての仕事について言及する。
	第3回目 テーマ / 動物に関わる仕事 (鳥羽水族館館長)	概要 / 好きなものを仕事にするのは、誰しも理想的な姿であろう。ただし、趣味と仕事は根本的に異なる世界。動物の世界の仕事の専門性とそこから見える社会観について学ぶ。
	第4回目 テーマ / 作家という仕事 (作家)	概要 / 講師は本学の卒業生。女流作家として数多くの作品を世に出している。特に、現代的な社会事象に深く関わるテーマを追求し続けており、仕事観とともに独自の社会観、人生観についても解き明かす。
	第5回目 テーマ / 国の目線に立つ仕事 (現役官僚)	概要 / 講師は、工学博士号を持つ研究畑の行政マン。産学連携教育に高い知見を持ち、大学における学びの重要性を説く。前回講義(第4講)とはある意味、対比的な位置づけにある。
	第6回目 テーマ / 教育に携わる仕事 (元・官僚、中学校長)	概要 / 中学校長に転身した元・官僚が講師。大胆な人生選択の契機とは何か、伸びやかな選択肢を持つ働き方、仕事観について学ぶ。
	第7回目 テーマ / (中間総括)大学の学びと職業人生2 (加藤+グループワーク)	概要 / 前半の5人の講師、つまり職業人生について改めて総括し、グループワークを通じて内省化を図る。その成果をもとに、中間総括レポートを課す。
	第8回目 テーマ / 技術者として生きる (大手メーカー技術開発部門責任者)	概要 / 工学を学び、ものづくり(製造業の開発部門)の世界で働く技術者人生は、大学の学びと職業人生が直結する。本講義では、ものづくり日本の現状と課題を整理した上で、大学における学びの意義について深く考察する。
	第9回目 テーマ / ジャーナリストという仕事 (投資ジャーナリスト)	概要 / 情報社会にあって、ジャーナリズムの根幹が問われている。メディアの第一線で働く講師により、報道にかかわる仕事の全容を解き明かす。
	第10回目 テーマ / 探検家という仕事 (探検家)	概要 / 講師は、長年にわたりパキスタン北部のカフィリスタン地域を定点観測研究する異色の探検家。就職の世界とは真逆のユニークな仕事を教材に、仕事の世界の広がりを学ぶ。



第11回目 テーマ/人に関わる仕事 (ヘッドハンティング会社役員)	概要/講師は本学の卒業生で、ヘッドハンティング会社の副社長を務める女性。日々、人材の発掘と仲介を行う。21世紀型の知識基盤社会に相応しい人材とはどのようなものか。人材の視点から仕事(職業人生)を検証する。
第12回目 テーマ/会社を経営する (広告代理店会社社長)	概要/講師は本学の卒業生で、名古屋の中堅広告代理店のヒラ社員から社長まで上り詰めた経歴の持ち主。人間味豊かな雇用重視の経営方針を貫いており、社会の公器といわれる会社を、高い志を持って経営する仕事について深く考察する。
第13回目 テーマ/人を育てる仕事(大学教員)	概要/本講義の担当教員がメディアから大学教員という自らの体験をもとにキャリア形成のあり方を伝授す
第14回目 テーマ/JA(ジュニアアドバイザー、内定確定4回生)を招いて	概要/JAとの双方向形式の授業。厳しい就職戦線をどのように勝ち抜くか、目指す仕事(職業人生)を達成するための実学。
第15回目 テーマ/(総括)大学の学びと職業人生3 (加藤+グループワーク)	概要/後半の6人の講師、およびJAから得た知見を総括し、グループワークを通じて内省化を図る。その成果をもとに、総括レポートを課す。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	仕事(職業人生)の広がりを科学的にどのように認識し内省化できたかを中心に、筆記試験で検証します。なお、定期試験は評価の大前提ですから、必ず受験すること。
平常点評価	80 %	①出席状況、②受講態度、③中間総括レポート(第7講)、総括レポート(第15講)、の3要素をもとに「総合的」に評価します。ただし、評価の前提をなすのは「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきま。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ビジネスの第一線で活躍する学外講師が数多く登壇し、講義の開始時にコーディネーター教員が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説します。講義内容の多くは皆さんが将来キャリアを形成する際に大きな力となるものばかりですから、この機会にぜひ、専門的な知識ばかりでなくモノの見方、考え方を広げて欲しいものです。そのためにも、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
working 仕事!	スタッズ・ターケル/晶文社/4-7949-5661-4 c0036/115の職業、133人の職業人にインタビュー手法で迫る「仕事」の古典的名著。
インタビューという仕事!	スタッズ・ターケル/晶文社/4-7949-5674-6 c0036/『WORKING 仕事!』の筆者が仕事の内幕に迫る。
13歳のハローワーク	村上 龍/幻冬社/4-344-00429-9 c0095/社会現象にもなった作家村上龍の話題作。

「仕事」の広がり内実と迫る国内外の定番書を紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、学外講師はいずれもビジネスの第一線で活躍する顔ぶれです。ホームページで検索すれば多くの情報が得られますので、講義の前に必ずチェックしてみてください。講師陣の英知を間近に感じ取ることができるはずです。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumei.ac.jp)まで問い合わせてください。

## その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己観や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

## 拡張項目

コーオペ教育概論(L) § キャリア形成論Ⅲ(コーオペ教育概論)(GA) § キャリア形成特殊講義(SF) § 特殊講義(各部門共通) I (RK) § 政策科学特殊講義(コーオペ教育概論)(P) § 特殊講義(コーオペ教育概論)(W) § 特殊講義(自由選択) I (コーオペ教育概論)(T) § 特殊講義(基礎)1(コーオペ教育概論)(G1) § 特殊講義(コーオペ教育概論)(GV)

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

本講義は、約半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラム、コーオペ演習と教育的にリンクする科目として開講される夏期集中講義です。対象は全学部3年生以上で、学部の枠組みを超えた顔ぶれが受講します。演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育(Cooperative Education)に由来しています。9月第2週の夏期集中講義で、2012年度は衣笠での開講です。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

科目名称のコーオペ教育にふさわしく、講義全体を通じて、①高度な産業社会に通用する人材像への科学的な理解、②問題発見・課題解決能力の涵養、③自律的な学習意志・姿勢の確立、を目指します。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義に教育的にリンクする講義として、「コーオペ演習」(研究科及び3年生以上、後期配当科目)が開講されています。同演習受講生は、必須ではありませんが、受講しておくことが望まれます。また、同じ全学型キャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅱ」(2年生以上、前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2年生以上、後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3年生以上、前期配当科目)の受講も勧めます。

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1日目]		
1講(2限) テーマ/導入ーコーオペ教育とは(加藤)		概要/1906年に米国・シンシナティ大学で導入されて以来、一世紀に及ぶコーオペ教育の歴史や、近年日米とも大きな高まりを見せるキャリア教育の動向などを解説する。
2講(3限) テーマ/理論を実践する1(課題の提示と解説、学外講師)		概要/学外講師として渡海一博ドリームリンクス代表取締役を招き、現実の課題をもとに13、14講の発表に向け受講生がチームを結成してその解決立案に挑戦する。
3講(4限) テーマ/理論を実践する2(問題の発見と課題の整理、学外講師)		概要/前講義で示された現実の課題を受けて、学外講師の指導の下で受講生チームが問題の発見と課題の整理をグループワークを通じて実践する。
4講(5限) テーマ/理論を実践する3(問題の発見と課題の整理、加藤)		概要/前講義で示された現実の課題を受けて、受講生チームが問題の発見と課題の整理をグループワークを通じて実践する。
[第2日目]		
5講(3限) テーマ/職業人生を考える(学外講師)		概要/職業人生を考察する連続講義。学外講師を招き、5講終了時にグループワーク課題が講師から提示され、6、7講ではそれをもとに学習する。
6、7講(4、5限) テーマ/職業人生を考える(加藤)		概要/前講義をもとに、グループワークを通じて21世紀に向けての職業人生を考察する。
[第3日目]		
8講(3限) テーマ/理論を学ぶ1(学外講師)		概要/講師に、富田宏治関西学院大学法学部教授を招き、教養教育科目にキャリア教育を位置づける同大学の取組を教材に、産学連携教育について学習する。講義の終了時に、9講のグループワーク課題が提示される。
9講(4限) テーマ/理論を学ぶ2(同上)		概要/前回講義で提示された課題に、受講生がグループワークを通じて取り組む。
[第4日目]		
10、11、12講(3、4、5限) テーマ/理論を実践する4(企画立案への挑戦、加藤)		概要/2講、3講、4講を受けて、受講生チームが翌日の企画立案発表に向けて準備を行う。
[第5日目]		
13、14講(3、4限) テーマ/理論を実践する5(企画立案発表、学外講師)		概要/2講、3講、4講、10講、11講、12講を通じて積み上げてきた企画立案を受講生チームが発表する。これに対して、学外講師が評価を行う。

15講(5限)  
 テーマ/理論と実践を総括する(加藤)

概要/コーディネーター教員が講義全体を総括した上で、総括レポートを作成し講義時間内に提出する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、コーオペ演習受講生は、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①出席状況、②受講態度、③チーム別の企画立案発表(13、14講)、④総括レポート(15講)の4要素をもとに「総合的」に評価します。ただし、評価の前提となるのは「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。本講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきま。100%を占める日常点の最大要素は出席要件でから、受講を機に将来を見据えた時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は、グループワークなど双方向型の授業形式を数多く採り入れていますので、受講生自らが学び取ろうという能動的な姿勢が強く求められます。教室内でビジネス社会と触れ合う良い機会です。多くのものを学んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオペ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明/立命館大学//日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオペ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオペ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明/立命館大学//コーオペ教育をめぐる動向とともに、コーオペ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt、仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳/雇用問題研究会//キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。
インターンシップ産学連携教育白書	/産学連携教育日本フォーラム//国内外のコーオペ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊
アメリカの産学連携	宮田由紀夫/東洋経済新報社//産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。

コーオペ教育の基本書を5冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

学外講師の所属する企業、団体の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsume.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

拡張項目

国内インターンシップ(専門)(GA) § 国内インターンシップ(GA) § 海外インターンシップ(GA) §  
海外インターンシップ(専門)(GA)

54729

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位授与を行います。そのためには、応募前に事前学習セミナーを受講(協定型インターンシップBの場合のみ)の上、応募し、選考の結果、インターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②「事前、事後研修」をすべて受講し、③最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。(※受講するタイプによっては、参加必須要件となります)また、より充実したインターンシップを実現するために、事前学習セミナー(5月)も用意しています。「事前学習セミナー」とは、「会社等(株式会社や非営利組織、国際機関など)に関する基礎知識を習得し、派遣先研究や業界研究の手法を学ぶ」ことを目的としたセミナーです。具体的には、まず、「株式会社や非営利組織、国際機関などはどのような社会的役割を持っているのか、組織の仕組みや種類、仕事の流れや独自の制度、国内外の動向と相違点に加え、四季報を用いた財務分析の基本等」について、学びます。その知識やスキルをもとに、さらに「派遣先研究や業界研究」について発展的に学びます。このセミナーを通じて、皆さんが参加するインターンシップの「派遣先およびそれを取り巻く業界」に関する総合的な研究を促進させることを目的としています。ぜひ、受講してください。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、4月初旬から中旬にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

## 到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、全学型キャリア教育科目「キャリア形成論Ⅰ」(1年生以上、前期配当科目)、関連科目の「キャリア形成論Ⅱ」(2年生以上、前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2年生以上、後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3年生以上、前期配当科目)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(研究科及び3年生以上、後期配当科目)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3年生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【事前研修】	
第1回目	テーマ/導入講義	概要/インターンシップとは何か、学びの自己紹介を通じて確認した後、厳しい就職環境も見据えて会社・業界研究の基本について学ぶ
第2回目	テーマ/インターンシップのための法的知識	概要/研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
第3回目	テーマ/ビジネスマインド研修(講義)	概要/1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. マナーの果たす役割、5. コミュニケーションは第一印象から、6. 話し方と聞き方、7. ケーススタディ
第4回目	テーマ/ビジネスマナー研修(実技)	概要/1. ビジネス文書の基本、2. 文書の書き方、3. FAXとEメールの活用、4. 電話対応の基本、5. ケーススタディ<電話対応編>、6. 総まとめ
第5回目	テーマ/グループワーク	概要/初回講義で提示された課題(企業・業界分析)をもとに分析手法などの解説。同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて研修先について深く学ぶ。事前研修にて学んできた内容を、インターンシップ研修に向けて理解し、どのように生かすべきかの総括も実施
第6回目	テーマ/グループワーク+事前研修総括講義	概要/第5講でのグループワークによる成果発表+総括授業
	【インターンシップ研修】	
第7回目	テーマ/インターンシップ研修1	概要/原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の授業が無い時期に実施される。
第8回目	テーマ/インターンシップ研修2	概要/同上

第9回目 テーマ/インターンシップ研修3	概要/同上
第10回目 テーマ/インターンシップ研修4	概要/同上
第11回目 テーマ/インターンシップ研修5	概要/同上
なお、4単位には、141時間以上のインターンシップ研修が最低必要であり、かつ、大学が募集時に4単位として当該科目を公表したものに限り。	
<b>【事後研修】</b>	
第12回目 テーマ/導入講義	概要/インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
第13回目 テーマ/グループワーク	概要/個人別に振り返った内容を、さらに同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて、再度インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
第14回目 テーマ/グループワーク+成果発表	概要/第13講でのグループワークによる成果発表
第15回目 テーマ/事後研修総括と大学での学びやキャリア形成について	概要/インターンシップ研修先での体験を総括し、自己及び専門分野との関わり等につき、考察し、今後の学習目標を設定、キャリアプランを明確にする。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかりと目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点(事前学習セミナー、事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習の内容をもとに評価します): 70%、最終レポートなど: 20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります): 10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修に遅刻や欠席をしたり、各種提出物の締め切り後の提出は、大きな減点要素となります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル/晶文社/ISBN4-7949-5661-4/1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編/日本経済新聞社/ISBN4-532-35114-6/日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍/幻冬舎/ISBN4-344-00429-9/人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

4月初旬から中旬にかけて開催される学内の様々なインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、情報が紹介されます。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

全学インターンシップ・プログラムに関する質問は、コーディネーター教員である加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

#### その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

#### 拡張項目

国内インターンシップ(専門)(GA) § 国内インターンシップ(GA) § 海外インターンシップ(GA) §  
海外インターンシップ(専門)(GA)

54730

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生(2年生以上)を対象に単位授与を行います。そのためには、応募前に事前学習セミナーを受講(協定型インターンシップBの場合のみ)の上、応募し、選考の結果、インターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②「事前、事後研修」をすべて受講し、③最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。(※受講するタイプによっては、参加必須要件となります)また、より充実したインターンシップを実現するために、事前学習セミナー(5月)も用意しています。「事前学習セミナー」とは、「会社等(株式会社や非営利組織、国際機関など)に関する基礎知識を習得し、派遣先研究や業界研究の手法を学ぶ」ことを目的としたセミナーです。具体的には、まず、「株式会社や非営利組織、国際機関などはどのような社会的役割を持っているのか、組織の仕組みや種類、仕事の流れや独自の制度、国内外の動向と相違点に加え、四季報を用いた財務分析の基本等」について、学びます。その知識やスキルをもとに、さらに「派遣先研究や業界研究」について発展的に学びます。このセミナーを通じて、皆さんが参加するインターンシップの「派遣先およびそれを取り巻く業界」に関する総合的な研究を促進させることを目的としています。ぜひ、受講してください。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、4月初旬から中旬にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。

## 到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティテュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問(あるいは興味関心をもっている学問領域)の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、全学型キャリア教育科目「キャリア形成論Ⅰ」(1年生以上、前期配当科目)、関連科目の「キャリア形成論Ⅱ」(2年生以上、前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2年生以上、後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3年生以上、前期配当科目)の受講が望まれます。

また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(研究科及び3年生以上、後期配当科目)の受講にもぜひチャレンジしてください。

なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3年生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【事前研修】	
第1回目	テーマ/導入講義	概要/インターンシップとは何か、学びの自己紹介を通じて確認した後、厳しい就職環境も見据えて会社・業界研究の基本について学ぶ
第2回目	テーマ/インターンシップのための法的知識	概要/研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法学的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
第3回目	テーマ/ビジネスマインド研修(講義)	概要/1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. マナーの果たす役割、5. コミュニケーションは第一印象から、6. 話し方と聞き方、7. ケーススタディ
第4回目	テーマ/ビジネスマナー研修(実技)	概要/1. ビジネス文書の基本、2. 文書の書き方、3. FAXとEメールの活用、4. 電話対応の基本、5. ケーススタディ<電話対応編>、6. 総まとめ
第5回目	テーマ/グループワーク	概要/初回講義で提示された課題(企業・業界分析)をもとに分析手法などの解説。同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて研修先について深く学ぶ。事前研修にて学んできた内容を、インターンシップ研修に向けて理解し、どのように生かすべきかの総括も実施
第6回目	テーマ/グループワーク+事前研修総括講義	概要/第5講でのグループワークによる成果発表+総括授業
	【インターンシップ研修】	
第7回目	テーマ/インターンシップ研修1	概要/原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の授業が無い時期に実施される。
第8回目	テーマ/インターンシップ研修2	概要/同上



第9回目 テーマ/インターンシップ研修3	概要/同上
第10回目 テーマ/インターンシップ研修4	概要/同上
第11回目 テーマ/インターンシップ研修5	概要/同上
【事後研修】	
第12回目 テーマ/事前講義	概要/インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
第13回目 テーマ/グループワーク	概要/個人別に振り返った内容を、さらに同業種の研修先毎のグループに分かれ、発表や議論を通じて、再度インターンシップ研修を通じて得た問題意識や成果を客観的に振り返る
第14回目 テーマ/グループワーク+成果発表	概要/第13講でのグループワークによる成果発表
第15回目 テーマ/事前・事後研修を通じた最終総括講義	概要/インターンシップ研修先での体験を総括し、自己及び専門分野との関わり等につき、考察し、今後の学習目標を設定、キャリアプランを明確にする。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業(団体)に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点(事前学習セミナー、事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します):70%、最終レポートなど:20%、その他(研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります):10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物(最終レポートなど)を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修を遅刻や欠席したり、各種提出物の締め切り後提出は、大きな減点要素となります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事!	スタッズ・ターケル/晶文社/ISBN4-7949-5661-4/1972年に発行された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編/日本経済新聞社/ISBN4-532-35114-6/日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上 龍/幻冬舎/ISBN4-344-00429-9/人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立つような3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

4月初旬から中旬にかけて開催される様々な学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、情報が紹介されます。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

全学インターンシップ・プログラムに関する質問は、コーディネーター教員である加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

## 拡張項目

インターンシップ入門 (GA) § キャリア形成特殊講義 (SE) § 特殊講義(インターンシップ入門)  
(GA)

10789

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、単にインターンシップに向けた入門的・準備的な講義ではありません。インターンシップは優れた産学連携教育プログラムの一つです。その意味や意義を「基礎学習」で理解した上で、「実践学習」、「発展学習」、「総括学習」の各段階に進みます。特に実践学習では、専攻の異なる学部生が少人数のグループを編成し、現実の課題に立ち向かうユニークな授業が展開されます。その結果、3年生の夏期に集中するインターンシップに向けて必要とされる教養、知識、スキルなどを修得するばかりでなく、その後の就職活動や卒業後のキャリア形成にもつながる幅広い学びを実現します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「基礎学習」では、産学連携教育の意義と高度人材との関わりを考察します。「実践学習」では週末集中講義形式(2講義×2回)をとり、外部講師を招き現実課題に学部複合チームで取り組むことで企画立案能力とプレゼンテーション能力を習得します。「発展学習」では一転、科学的にインターンシップを理解することを目指します。その上で、高倍率時代を迎えているインターンシップのエントリーを確実に通過できるための戦略的スキルなどを、「総括学習」でマスターします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅱ」(2年生以上、前期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3年生以上、前期配当科目)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3年生以上後期配当科目)にもチャレンジしてください。また、「キャリア形成論Ⅰ」(1年生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3年生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、3年生以上でさらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
<b>【基礎学習】</b>		
第1回目	テーマ/キャリア教育考 (加藤/講義+グループワーク)	概要/一人称から二人称へ。インターンシップを通じて身につけるべき科学的な視座とは何かを学ぶとともに、所属する学部の学びを検証するインターンシップ本来の意味も理解する。
第2回目	テーマ/産学連携教育とキャリア教育 (加藤)	概要/インターンシップからキャリア教育まで、定義を中心に科学的に産学連携教育を理解し21世紀型高度人材とは何かを考察する。
<b>【実践学習】</b>		
第3回目	テーマ/問題発見と課題解決に向けて① (加藤/講義+グループワーク)	概要/論理的思考法、討論技法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
第4回目	テーマ/問題発見と課題解決に向けて② (加藤/講義+グループワーク)	概要/発想法をもとに、問題発見、課題解決、企画立案の基礎的スキルを学習する。
第5、6回目(10月20日、統一補講日)	テーマ/企画立案への挑戦① (講師:菅野聡之氏/犬走泰信氏/講義+グループワーク) ※5、6回と7、8回は3週空けて週末(土曜)に連続講義形式で行います。	概要/学外講師2名を招き、2教室に分かれ2回連続の週末集中講義を実施。現実課題の企画立案に学部複合チームで挑戦する。第5回目は、ビジネス社会における企画立案の重要性や、そこに求められる基礎知識や素養等をまず講師が指導。その上で、現実的な課題が講師から提示される。第6回目は、学部の異なる顔ぶれのチームに分かれ、問題発見や課題解決に向けたワーキングを展開する。
第7、8回目(11月24日、統一補講日)	テーマ/企画立案への挑戦② (同上/グループ別発表と評価、総括) ※5、6回と7、8回は3週空けて週末(土曜)に連続講義形式で行います。	概要/前回授業から3週間にわたりチームで取り組んできた企画立案の発表。2回連続の週末集中講義形式。終盤に、発表に対する評価コメントと総括が講師からなされる。
<b>【発展学習】</b>		
第9回目	テーマ/行政の目線ととらえる人材 (公務研究科教員)	概要/インターンシップの受入者のひとつに行政がある。インターンシップ業務の内容も企業と異なり、街づくり支援や環境への取組みなど、社会性・公共性が強い。行政独自の視点から、官学連携教育のあり方について学習する。

第10回目  
テーマ／コンテンツ人材とは（映像学部教員）

概要／従来のモノづくりの尺度で規定できる仕事から、多様な業務に対応可能な企画・制作ノウハウを多面的に併せ持つコンテンツ型人材へと、理想的な人材像が急速に変化している。本講義ではコンテンツ型人材とコンテンツ産業の解析を行った上で、21世紀型の人材像について考察する。

第11回目  
テーマ／ベンチャーマインド(精神)を考える（経営学部教員）

概要／就職を前提としない進路選択の一つに、起業がある。創造性と高い目標や志を求められるベンチャー起業を教材に、起業家精神とともに新たな人材像について学ぶ。

#### 【総括学習】

第12回目  
テーマ／戦略的エントリー法①（加藤）

概要／高倍率のインターンシップエントリーに対処するための連続講義。1回目は初級・中級編。小手先の文章作成スキルでは高倍率のエントリーを突破できない。講義では論理思考に基づく作文法をもとに「読み手の心に刺さる」文章の作成法を学習する。

第13回目  
テーマ／戦略的エントリー法②（加藤）

概要／連続講義の2回目は上級編。1回目の授業で培われた基礎的文章力をもとに、高倍率のエントリーに通用する確かな作文能力の習得を目指す。

第14回目  
テーマ／受入者から見たインターンシップ（インターンシップ受入れ会社役員）

概要／インターンシップの受入れ側は何を学生に求め、何を求めているのか。本学との間で様々なインターンシッププログラムを展開する企業から講師を招き、受入者の視座からインターンシップの客観的分析を試みる。

第15回目  
テーマ／大学での学びとインターンシップ（加藤＋グループワーク）

概要／最終講義では総括的授業を行った上で、グループワークを通じて内省化を図る。

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

インターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人々と交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	「基礎学習」、「実践学習」、「発展学習」、「総括学習」の4つの学習カテゴリーの理解度とともに、エントリーシート作成を中心に筆記試験形式で検証します。なお、定期試験は評価の大前提ですから、必ず受験すること。
平常点評価	80 %	①出席状況、②受講態度、③実践学習(第5～8講)のチーム成果、④模擬エントリーシート(第13講)、の4要素をもとに、「総合的」に評価します。ただし、評価の前提をなすのは「出席状況」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に、時間厳守の生活リズムを身につけてください。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大規模講義でありながら、グループワークが数多く導入される講義です。グループワークは様々な形で評価に影響します。よって、常に能動的な受講意志を持つことが肝要です。

#### 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／国内外のインターンシップに関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。

主に「基礎学習」の参考書を3冊挙げました。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

春期のインターンシップ・ガイダンスに参加すると、参加者全員に「立命館大学 Internship Guide Book」が配布されます。その中で、インターンシップに関連するサイトが紹介されます。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

本講義に関する質問は、インターンシップ入門に関わる履修上の質問は、コーディネーター教員である加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

本講義の受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な自己感や社会観を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいものです。

拡張項目

キャリア形成論Ⅲ (G) § キャリア形成論Ⅲ (L) § キャリア形成特殊講義 (SC) § 特殊講義(キャリア形成論Ⅲ) (W)

13378

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、総合大学としての立命館大学の英知を結集して組み立てられている点に最大の特長があります。学生数(大学院生含む)約3万6000人の日本有数の大規模総合大学、立命館大学には、国内外で高い評価を受けている優れた教員が数多く在籍しています。その一方で、3キャンパスに分かれていることもあり、他キャンパスの、さらには他学部での優れた英知に触れる機会に乏しいのが現状です。

このため、13学部中、10学部・1研究科(予定)から研究・教育実績に定評のある優れた教員を講師として招き、本講義を組み立てました。「立命館の英知」をぜひこの機会に学びとってください。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は二つです。

一つは、専攻学問の再検証です。入学以来の学習上のモチベーションはいかがですか？ 学生生活にも慣れ、学ぶ目的や目標を見失いやすい時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。今ここで、改めて所属する学部の教学を見直し、その社会的な意味や意義、何よりも学ぶ楽しさを再認識してほしいのです。教材は「立命館の英知」です。総合大学ならではの幅広い領域の科学的英知に触れることで、自ら専攻する学問体系の意味や意義を検証する。これが第一の到達目標です。

もう一つは、「会社」に対する負のイメージの科学的な払拭です。1990年前後に生まれた皆さんは、日本経済が成長期をバブル経済の崩壊とともに終え、長い低迷期が始まる時代に育った最初の世代に該当します。このため、皆さんの世代は、会社に代表される経済組織に負のイメージを強く持つことが統計等でも検証されています。本講義では、3つの科学的カテゴリー(経済・経営学、法学、総合科学)においてしっかり学習することで、経済組織に対する負のイメージを払拭し、会社(職業人生)が才能が発露される場であることを認識できるようにします。インターンシップや就職活動を控えたこの時期、卒業後の進路・就職の選択に前向きな気持ちで臨めるよう、イメージにとらわれることなく科学的な視座を獲得するのが第二の到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義と同じキャリア教育科目の「キャリア形成論Ⅱ」(2年生以上、前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2年生以上、後期配当科目)の受講や、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」(3年生以上後期配当科目)の受講にもチャレンジしてください。また、「キャリア形成論Ⅰ」(1年生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。さらに、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」(3年生以上配当科目、衣笠開講)も夏期集中講義として開講されますので、さらに発展的に学習したい方に受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ / (導入)会社とは何者か (加藤)	概要 / 「会社と科学」の会社とは、ビジネス社会の意。科学的なものの見方、考え方の基本を説く。
【経済学・経営学カテゴリー】		
第2回目	テーマ / 「経済学」がとらえる会社と企業社会 (経済学部教員)	概要 / 会社=企業は経済の担い手の1つであり、経済社会に大きな影響を与えている。企業社会といわれるものには、会社内部で形成されている一種の社会という意味と、社会自体が企業中心の社会になっているという2つの意味がある。会社は市場を媒介にして、他の社会領域と関係を結び、またそれに影響を与えているので、ここでは、消費者問題を中心にして広く企業の社会的立場や役割について考える手がかりを提供したいと考える。
第3回目	テーマ / 「国際経済」の中の日本企業 (国際関係学部教員)	概要 / 企業が海外進出し、多国籍化していく原理は、それほど単純なものではない。この問題を、今日もっとも一般的な理論パラダイムとして受け入れられているJ. H. Dunningの折衷理論を柱にしながら、わかりやすく解説していく。具体例として、日経新聞を用いながら日本企業のケースを取り上げる。
第4回目	テーマ / 「財務」から見た会社 (経営管理研究科教員)	概要 / ディスクロージャー(財務内容の開示)は、企業の社会的評価を左右する重要な課題である。その中で最も有力な開示手段である「有価証券報告書」を使って、これを縦横に分析し、真の企業価値を読み解くのに不可欠な基本的な知識と考え方を学ぶ。
第5回目	テーマ / 「経営学」と会社 (スポーツ健康科学部教員)	概要 / 組織(会社)とは何か。会社の根源に経営学の手法から迫る。加えて、新しい会社形態とその特長、そこで働く意味や意義など実践的な内容を加味した授業を展開する。
【法学カテゴリー】		
第6回目	テーマ / 「国際契約法」と株式会社 (法学部教員)	概要 / 国際契約法をめぐる各国国際私法や各種条約、商慣習などの体系的把握が専門領域の講師が、国際的視点から会社を法学的にとらえる。

第7回目  
テーマ/「税法」と株式会社（法学部教員）

概要/前回の講義では、会社組織を経営する側に近い視点(会社法)で法学的アプローチを試みた。本講義では一転して、働く側の視点で会社組織をとらえる。納税は日本国民の三大義務の一つであり、どのような働き方を選択しても深く関わるものである。授業では、税の観点から組織をとらえるユニークな視座の獲得を目指す。会社組織で働くための基礎的な法学的知識・素養としての税法を、法学部以外の学生にも理解できるよう簡易に教示するとともに、納税への意識を高めることで能動的な就労観を習得する。

## 【中間的総括】

第8回目  
テーマ/経済学、経営学、法学を概観して（加藤）

概要/3つの科学分野からの会社(ビジネス社会)へのアプローチを行った上で、専攻学問の異なる受講生で編成するグループによる学習検証のワーキングを行う。議論の成果を中間総括リポートとして課す。

## 【総合科学カテゴリー】

第9回目  
テーマ/「人文地理学」をとらえる会社（文学部教員）

概要/地理学は哲学から早い段階で分派した歴史ある科学領域の一つであり、社会や地域をとらえる、ものの見方や考え方に有効な学問でもある。授業では、歴史ある京都の街づくりを教材に、人文地理学固有の視座の獲得とともに、京都で学ぶ意義についても深く考察する。

第10回目  
テーマ/「社会福祉」から見た会社（産業社会学部員）

概要/貧困と格差はいまや日本社会の喫緊の課題となっている。本講義では、ジェンダーの観点から、あるべき社会の姿を追究するとともに、人間らしい就労とはどのようなものか、働き方、生き方について学ぶ。

第11回目  
テーマ/「コンテンツ」をとらえる会社（映像学部教員）

概要/百年に一度という世界的な経済危機にあつて、日本の産業は大きな転換期を迎えつつある。そんな時代にあつて、日本が誇るべき産業にコンテンツ産業があり、また次世代型人材像としてもコンテンツ方人材が挙げられる。日本の救世主となり得るか、本講義ではコンテンツに焦点を当てつつ、キャリア形成のあり方や働き方を考察する。

第12回目  
テーマ/「プロデュース型人材」をとらえる会社（政策科学部教員）

概要/高付加価値創造型の人材は、21世紀の知識基盤社会に必須である。人材が唯一の資源である日本社会では、とりわけ新しい時代に対応した人材の育成が急務といわれている。本講義では、求められる人材像をまず解き明かし、その上で高付加価値型人材に向けて何が必要かを学ぶ。

第13回目  
テーマ/「自然科学(環境システム工学)」をとらえる会社（理工学部教員）

概要/本講義は、環境システム工学の立場から会社へのアプローチを試みる。実学の工学は社会システムなど多方面でその成果が活用されている。授業では、工学的な社会観、地域観を習得するとともに、組織で生き抜くのに必要な心得が伝授される。

第14回目  
テーマ/「自然科学(防災システム工学)」から見た会社（情報理工学部教員）

概要/本講義では、防災システム工学の立場から緊急時の情報と人間(社会)との関わりを、企業や自治体における事業継続管理(BCM)をもとに解き明かす。社会はシステムであり、会社もまたそのシステムの中に組み込まれた組織体に過ぎない。会社を超えた社会観のダイナミズムをぜひ深く理解し、将来のキャリア形成につなげてほしい。

## 【総括】

第15回目  
テーマ/専攻学問(科学)と会社（加藤）

概要/インターンシップおよび就職活動直前期にあつて、会社(ビジネス社会)を自ら専攻する学問的視点から、さらには他の科学領域も含めた広い科学的視座からとらえるべく、3つのカテゴリーからのアプローチを総括。総括レポートを課す。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

いずれインターンシップや就職活動を通じて、数多くのビジネス社会で働く人たちと交流することになります。最低限、毎日、新聞をしっかりと読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	「経営学・経済学」、「法学」、「総合科学」の3つのカテゴリ全体にわたるアプローチの中で、経済組織に対する科学的な理解度を中心に評価します。なお、定期試験は評価の大前提ですので、必ず受験すること。
平常点評価	80 %	①出席状況、②受講態度、③中間総括レポート(8講)、④総括レポート(15講)で課されるレポート、の4要素をもとに「総合的」に評価します。ただし、評価の前提をなすのは「出席要件」です。

全学インターンシップ・プログラム関連科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。ビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

10学部・1研究科(予定)から学内教員が次々に登壇し、講義を展開します。それをコーディネーター教員が講義の開始時、終了時に関連づけるのが、本講義の基本スタイルです。講義の多くは衣笠では受講機会の乏しい理工学など皆さんの専門外分野ですから、講師が基本書を指定する場合は、事前に必ず読んでおいてください。基本書の指定は、原則として1週前の講義終了時にコーディネーター教員が行います。

#### 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
会社はこれからどうなるのか	岩井克人 / 平凡社 / ISBN4-582-82977-5 / 会社は何者か、誰のものか、どうなるのか。会社論の根源に迫る良書。小林秀雄賞受賞。
キャリア教育－歴史と未来	Kenneth B. Hoyt, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳 / 雇用問題研究会 / ISBN4-87563-230-4 / キャリア教育の先駆的立場にある米国の歴史的展開を整理。その上で、今後の方向性を示すキャリア教育の基本書。

初回の授業に向けての基本書を2冊挙げました。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、この機会に、授業外の学内の教員の研究業績も閲覧してみてください。「立命館の英知」を感じ取ることができるはずです。

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumeai.ac.jp)まで問い合わせてください。

#### その他 / Others

本講義が全学インターンシップ・プログラム関連科目であることから、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。受講で得られた科学的な視座を、インターンシップや就職活動に大いに生かしてほしいと考えます。

#### 拡張項目



コーオペ演習 (GA) § 特殊講義 (各部門共通) I (RL) § インターンシップ演習 (LA) § 政策科学  
 特殊講義 (コーオペ演習) (P1) § 特殊講義 (コーオペ演習) (WA)

52498

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。具体的には、後期セメスター期間を通じて企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム(5名程度)が取り組む実践的で自律的な学習プログラムです。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月初旬～5月中旬頃に募集と選考を行います。詳細は4月初旬～中旬頃にガイダンスを行いますので、インターンシップオフィスで日程を確認してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育 (Cooperative Education) に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(3回生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。

また、同じ全学型キャリア教育科目である「キャリア形成論Ⅱ」(2回生以上、前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生以上、後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生以上、前期配当科目)の受講も望まれます。さらに、「キャリア形成論Ⅰ」(1回生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	(開講前) 【学内公募】	①参加企業からの課題が2011年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2012年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考(レポート、面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
第一回	【学内研究会】	チーム全員の顔合わせと課題・会社研究の基本学習を6月24日(日)BKC、13:00-14:30に実施します。
	【インターンシップのための法的知識、ビジネスマナー研修】	インターンシップのための法的知識では、インターンシップ研修に伴う機密保持義務や賠償のあり方、セクハラやパワハラなどの法律上の知識を習得します。また、ビジネスマナー研修では、社会人の基礎素養であるマナーの基本について実践を交えて学びます。
	【企業研修】	8月上旬-9月下旬(予定)に会社研究を目的に、原則2日間で参加企業に出向き研修(インターンシップ)を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表に求められる基本的なスキルを習得します。
	【プレゼンテーション研修】	中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
第二回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第三回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第四回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第五回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第六回	【学内研究会、模擬発表】	中間発表に向けて、模擬発表を行います。

## 【中間発表】

10月～11月(予定)に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。

## 第七回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第八回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第九回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十一回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十二回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十三回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十四回

【学内研究会、模擬発表】

成果発表に向けて、模擬発表を行います。

## 【成果発表】

2012年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

## 第十五回

【総括】

全員が集い、半年間に及ぶ学習プログラムから何を得たかを評価シートに記載する中で振り返り内省化します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出(随時)、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに「総合的」に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員(加藤)が最終的な成績評価を行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取るという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

## 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。

インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオプ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsumeit.ac.jp)まで問い合わせてください。

#### その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

#### 拡張項目

コーオペ演習 (GB) § 特殊講義 (各部門共通) I (RM) § インターンシップ演習 (LB) § 政策科学  
特殊講義 (コーオペ演習) (P2) § 特殊講義 (コーオペ演習) (WB)

52499

担当者名 / Instructor 廣瀬 幸弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。具体的には、後期セメスター期間を通じて企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム(5名程度)が取り組む実践的で自律的な学習プログラムです。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月初旬～5月中旬頃に募集と選考を行います。詳細は4月初旬～中旬頃にガイダンスを行いますので、インターンシップオフィスで日程を確認してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオペ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオペ教育 (Cooperative Education) に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオペ教育を柱とした「コーオペ教育概論」(3回生以上配当科目、衣笠開講)が夏期集中講義として開講されます。

また、同じ全学型キャリア教育科目である「キャリア形成論Ⅱ」(2回生以上、前期配当科目)、「インターンシップ入門」(2回生以上、後期配当科目)、「キャリア形成論Ⅲ」(3回生以上、前期配当科目)の受講も望まれます。さらに、「キャリア形成論Ⅰ」(1回生以上、前期配当科目)の受講も相乗効果が期待されます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	(開講前) 【学内公募】	①参加企業からの課題が2011年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2012年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考(レポート、面接)が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
第一回	【学内研究会】	チーム全員の顔合わせと課題・会社研究の基本学習を6月24日(日)BKC、13:00-14:30に実施します。
	【インターンシップのための法的知識、ビジネスマナー研修】	インターンシップのための法的知識では、インターンシップ研修に伴う機密保持義務や賠償のあり方、セクハラやパワハラなどの法律上の知識を習得します。また、ビジネスマナー研修では、社会人の基礎素養であるマナーの基本について実践を交えて学びます。
	【企業研修】	8月上旬-9月下旬(予定)に会社研究を目的に、原則2日間で参加企業に出向き研修(インターンシップ)を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表に求められる基本的なスキルを習得します。
	【プレゼンテーション研修】	中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
第二回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第三回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第四回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第五回	【学内研究会】	中間発表に向けてのグループワーク
第六回	【学内研究会、模擬発表】	中間発表に向けて、模擬発表を行います。

## 【中間発表】

10月～11月(予定)に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。

## 第七回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第八回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第九回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十一回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十二回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十三回

【学内研究会】

成果発表に向けてのグループワーク

## 第十四回

【学内研究会、模擬発表】

成果発表に向けて、模擬発表を行います。

## 【成果発表】

2012年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

## 第十五回

【総括】

全員が集い、半年間に及ぶ学習プログラムから何を得たかを評価シートに記載する中で振り返り内省化します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出(随時)、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに「総合的」に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員が最終的な成績評価を行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取るという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

## 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。

インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコラボ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント(ミレニアム版)	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コラボ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員まで問い合わせてください。

#### その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

#### 拡張項目

学びとキャリア (GA) § キャリア形成論 I (L) § キャリア形成特殊講義 (SA) § 特殊講義(キャリア形成論 I) (GA)

13381

担当者名 / Instructor 加藤 敏明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、本年度新たに教養教育C群科目として開講されます。様々な科学分野の視座から「自己」や「社会」、そして「立命館大学」を見つめ直すことで、これから始まる大学の学びを体系化する点に、最大の特長があります。講義では、思想、哲学や多文化理解の概念、立命館大学の教学理念「平和と民主主義」やシチズンシップ(サービスマーケティング)について学んだ上で、立命館中学校生徒とグループワーク形式の交流授業を行い、受講生が自身の過去を振り返り未来(大学における様々な学び)を展望します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

系列中学校生徒と交流するユニークな授業展開が盛り込まれました。教養教育に位置づけたキャリア教育の視点から、自身の過去を振り返る作業はリフレイン学習として大変重要です。大学での学びがスタートする時点で、確かな学びの展望を持つことができるようになります。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は、全学型のキャリア教育科目に位置づけられています。立命館大学では、1回生前期から3回生前期まで、キャリア発達に応じたキャリア教育科目を配置していて、本講義はそのスタートに該当します。受講しますと、講義の中で全学型キャリア教育科目についての詳細を紹介します。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目 テーマ/大学での学びを考える (加藤)		概要/副題「科学からとらえる自己」の意味を考え、大学における学びの大切さや意義につき解説する。後半は、グループワーク。
第2回目 テーマ/多文化社会を生きる (産業社会学部教員)		概要/異文化間コミュニケーションギャップの観点から、多文化社会と自己を考察する。
第3回目 テーマ/多文化理解を通じて、自己と向き合う (加藤)		概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて多文化社会に生きる意味を考察する。
第4回目 テーマ/系列中学校との交流授業に向けて1 (加藤)		概要/交流授業(第6回目)は課題解決に挑戦するグループワーク形式で行います。それに向けて、チームを編成して教材を作成する。
第5回目 テーマ/系列中学校との交流授業に向けて2 (加藤)		概要/前回講義に引き続き、教材の完成を目指す。
第6回目(5月12日(土)) テーマ/系列中学校との交流授業 (加藤)		概要/2週にわたって準備してきた学習教材をもとに、受講生と系列中学校生徒がチームに分かれグループワークを行う。ワーキングでは、受講生のリードの下で教材に盛り込まれた課題の解決に、大学生と中学校生が協働で挑戦、成果を発表する。
第7回目 テーマ/哲学でとらえる自己 (文学部教員)		概要/歴史に残る心理学者の業績をもとに「心」とは何かを考察する。
第8回目 テーマ/哲学を通じて、自己と向き合う (加藤)		概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて心と向き合う意味を考察する。
第9回目 テーマ/教学理念を理解する (国際関係学部教員)		概要/教学理念「平和と民主主義」の歴史的背景と今日的な意味を学ぶ。
第10回目 テーマ/教学理念を通じて、自己と向き合う (加藤)		概要/前回講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて教学理念の持つ意味と立命館大学での学びについて考察する。
第11回目 テーマ/中間総括 (加藤)		概要/前半の講義を振り返り、コーディネーターがまず自己理解と大学での学びの内省化について中間的に総括。それをもとに受講生がグループワークを行い中間総括レポートを提出する。
第12回目 テーマ/「地域」から社会に貢献する (サービスマーケティングセンター教員)		概要/高度な市民社会に生きるためのシチズンシップについて学び、地域社会のとらえ方について学ぶ。
第13回目 テーマ/「産業社会」から社会に貢献する (加藤)		概要/労働経済学ライフスタイル論をもとに、職業人生を通じたキャリア形成と自律的な精神について学ぶ。
第14回目 テーマ/社会に貢献する精神について学び、自己と向き合う (加藤)		概要/第12、13回目の講義を受け、冒頭に課題を提示。グループワークを通じて高い倫理観に基づく職業人生のあり方について考察する。

第15回目  
テーマ／総括（加藤）

概要／全講義を振り返り、コーディネーターがまず自己理解と大学での学びの内省化につき総括。それをもとに受講生がグループワークを行い、総括レポートを提出する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。本講義でも、必ず役立ちます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	20 %	自己理解とその延長線上の社会認識の理解度を中心に評価します。なお、定期試験は評価の大前提ですから、必ず受験すること。
平常点評価	80 %	①出席状況、②受講態度、③6講での成果、④中間総括レポート(11講)、⑤総括レポート(15講)、の5要素をもとに「総合的」に評価します。ただし、評価の前提をなすのは「出席状況」で

教養教育C群科目に位置づけられている本講義の成績評価上の最大の前提条件は、出席要件です。この科目群は、キャリア教育としても位置づけられているからです。いずれ受講生の皆さんが巣立つ先のビジネス社会では、約束を守ることは絶対要件です。無断欠席は言うまでもなく、遅刻も致命的です。過去、多くの受講生が出席要件でF評価を受けました。講義は、始業チャイムが鳴り終わると同時にスタートし、直後から入室者はすべて遅刻扱いとなり、所定の席につきます。80%を占める日常点はほぼ、この出席要件で判断されますから、受講を機に時間厳守の生活リズムを身につけてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学部やキャンパスを超えて数多くの本学教員が登壇するほか、系列中学校の生徒との交流授業も盛り込まれています。各講義では、開始時にコーディネーター教員が各講義の位置づけ、前後の講義との関連性などについて解説するのが基本スタイルです。講義内容の多くは皆さんの専門外の分野であると同時に、受講機会の極めて少ない貴重な学びとなるはずですが。総合大学ならではの多様な学びとともに、ユニークな交流授業を通じて多くの知見を育み、ものの見方、考え方を広げて欲しいものです。そのためにも、受け身とならず能動的な受講姿勢を心がけてください。受講ノートはしっかりと作成するように。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代科学の誕生(講談社学術文庫、上・下巻)	H・バスターフィールド著、渡辺正雄訳／講談社／科学史の不朽の名著。人間社会の価値観の変遷とともに科学の歴史を紐解く。
はじめての哲学史講義	鷲田小彌太／PHP研究所／古代ギリシャ哲学から近代西洋哲学、現代の構造哲学、言語哲学を表題どおり分かりやすく解説する。

受講前の準備として、科学と哲学の基本書を2冊挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定するものではありませんが、立命館大学公式ホームページの「教員紹介」で担当講師の研究業績を閲覧することを勧めます。講義の理解度が深まると思います。また、系列中学校についても事前にホームページなどで調べておくことを併せて勧めます。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

本講義に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤(katoshi@fc.ritsume.ac.jp)まで問い合わせてください。

その他 / Others

本講義はキャリア教育センター教員が担当します。同センターは全学インターンシップ・プログラムを所管する組織でもありますので、受講を機に衣笠のインターンシップオフィスに立ち寄ることを勧めます。キャリアセンターとともに、同オフィスは情報の宝庫です。

拡張項目



(共)社会とボランティア (GA) § 特殊講義(自由選択) I (社会とVT) (TA) § 特殊講義(自由選択)  
1 (社会とボランティア) (GA) § 特殊講義(自由選択) (社会とボランティア) (GA)

56192

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア情報・調査演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動の実態と動向、社会的な意義と課題、そしてボランティアコーディネーターの役割と実践のあり方について学ぶ。また、国や自治体などの政策動向等の社会状況を踏まえたうえで、ボランティア活動の固有性について考えるとともに、求められるボランティアコーディネーター像を検討する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	開講式・社会とボランティアにまつわる「問い」
2	ボランティア社会の現在(1)	ボランティアとボランティアコーディネーターの役割
3	ボランティア社会の現在(2)	ボランティアコーディネーション概論
4	ボランティア社会の現在(3)	対人援助に求められる専門性
5	ボランティア・インターンシップの現場から(1)	実践家との対話
6	ボランティア・インターンシップの現場から(2)	実践家との対話
7	ボランティア・インターンシップの現場から(3)	実践家との対話
8	地域参加型学習の理論	コミュニケーションとロールモデル
9	ボランティア・インターンシップのマッチング(1)	実践家との対話
10	ボランティア・インターンシップのマッチング(2)	実践家との対話
11	ボランティア・インターンシップのマッチング(3)	実践家との対話
12	実践的学習のプランニング(1)	分野別課題の明確化
13	実践的学習のプランニング(2)	分野別課題の明確化
14	実践的学習のプランニング(3)	分野別課題の明確化
15	まとめ	改めて、社会とボランティアとは何か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.  
平常点評価 100 % 出席、授業への積極性、レポート課題の提出等を加味して判断

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

///

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

市民社会の創造とボランティアコーディネーション  
ンボランティアコーディネーション力検定公式テ  
キスト 早瀬昇,筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編纂/筒井書房/  
4887205945/ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会  
的背景を知る。

ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ 柴田謙治・原田正樹・名賀亨編/みらい/4860152069/ボランティアに関する人々の  
認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。

社会福祉施設ボランティアコーディネーションの  
実際(ボランティアコーディネーションの理論と実  
践シリーズ) 南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修/久美/4861890187/

よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミ  
ズム「わかる」シリーズ) 川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集/ミネルヴァ書房/4623040984/

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー/Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話/Talk with Students

その他 / Other

## その他 / Others

## 拡張項目

(共)社会とボランティア (GB) § 特殊講義(自由選択) I (社会とVT) (TB) § 特殊講義(自由選択) 1 (社会とボランティア) (GB) § 特殊講義(自由選択) (社会とボランティア) (GB)

56196

担当者名 / Instructor 川中 大輔

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア情報・調査演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動の実態と動向、社会的な意義と課題、そしてボランティアコーディネーターの役割と実践のあり方について学ぶ。また、国や自治体などの政策動向等の社会状況を踏まえたうえで、ボランティア活動の固有性について考えるとともに、求められるボランティアコーディネーター像を検討する。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	開講式・社会とボランティアにまつわる「問い」
2	ボランティア社会の現在(1)	ボランティアとボランティアコーディネーターの役割
3	ボランティア社会の現在(2)	ボランティアコーディネーション概論
4	ボランティア社会の現在(3)	対人援助に求められる専門性
5	ボランティア・インターンシップの現場から(1)	実践家との対話
6	ボランティア・インターンシップの現場から(2)	実践家との対話
7	ボランティア・インターンシップの現場から(3)	実践家との対話
8	地域参加型学習の理論	コミュニケーションとロールモデル
9	ボランティア・インターンシップのマッチング(1)	実践家との対話
10	ボランティア・インターンシップのマッチング(2)	実践家との対話
11	ボランティア・インターンシップのマッチング(3)	実践家との対話
12	実践的学習のプランニング(1)	分野別課題の明確化
13	実践的学習のプランニング(2)	分野別課題の明確化
14	実践的学習のプランニング(3)	分野別課題の明確化
15	まとめ	改めて、社会とボランティアとは何か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業への積極性、レポート課題の提出等を加味して判断

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
 「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
 詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇,筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編集/筒井書房/ 4887205945/ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論-「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編/みらい/4860152069/ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際(ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修/久美/4861890187/とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集/ミネルヴァ書房/4623040984/広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper  
 manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
 学生との直接対話 / Talk with Students  
 その他 / Other

## その他 / Others

## 拡張項目

(共)ボランティア情報・調査演習 (GA) § 特殊講義 (自由選択) I (VT情報・調査演習) (TA) § 特殊講義 (自由選択) 1 (ボランティア情報・調査演習) (GA) § 特殊講義 (自由選択) (ボランティア情報・調査演習) (GA)

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をおとしてコーディネーターの役割について理解を深める。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	社会とボランティアにまつわる「問い」(ワークショップ)
2	ボランティア社会へのまなざし(1)	ボランティアとボランティアコーディネーターの課題
3	ボランティア社会へのまなざし(2)	ボランティアコーディネーションの現場から
4	ボランティア社会へのまなざし(3)	対人援助のシミュレーション
5	ボランティア・インターンシップの現場へ(1)	実践家との対話
6	ボランティア・インターンシップの現場へ(2)	実践家との対話
7	ボランティア・インターンシップの現場へ(3)	実践家との対話
8	地域参加型学習の方法	アカデミックライティングの基礎
9	ボランティア・インターンシップのマッチング(1)	実践家との対話
10	ボランティア・インターンシップのマッチング(2)	実践家との対話
11	ボランティア・インターンシップのマッチング(3)	実践家との対話
12	実践的学習のプレゼンテーション(1)	分野別課題の明確化
13	実践的学習のプレゼンテーション(2)	分野別課題の明確化
14	実践的学習のプレゼンテーション(3)	分野別課題の明確化
15	まとめ	ボランティア情報・調査のためのスキル・ツール・マインド

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇・筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編纂／筒井書房／4887205945／ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編／みらい／4860152069／ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際(ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修／久美／4861890187／とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集／ミネルヴァ書房／4623040984／広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
学生との直接対話 / Talk with Students  
その他 / Other

#### その他 / Others

#### 拡張項目

(共)ボランティア情報・調査演習(GB) § 特殊講義(自由選択) I (VT情報・調査演習)(TB) § 特殊講義(自由選択) 1(ボランティア情報・調査演習)(GB) § 特殊講義(自由選択)(ボランティア情報・調査演習)(GB)

56206

担当者名 / Instructor 川中 大輔

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「社会とボランティア」「ボランティアインターンシップ」と連動しながら行われる。ボランティアコーディネーターの業務では、常に様々な情報を取り扱う。演習では、インターンシップの事前準備と絡めながら、ボランティア活動に関わる情報の収集・管理・提供の方法について学ぶ。また、様々な課題についての状況把握、計画、実行、情報発信に関わる演習活動をおとしてコーディネーターの役割について理解を深める。

## 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1)社会とボランティア(前期・講義)
- (2)ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3)ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4)ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5)ボランティア活動支援演習(後期・演習)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	社会とボランティアにまつわる「問い」(ワークショップ)
2	ボランティア社会へのまなざし(1)	ボランティアとボランティアコーディネーターの課題
3	ボランティア社会へのまなざし(2)	ボランティアコーディネーションの現場から
4	ボランティア社会へのまなざし(3)	対人援助のシミュレーション
5	ボランティア・インターンシップの現場へ(1)	実践家との対話
6	ボランティア・インターンシップの現場へ(2)	実践家との対話
7	ボランティア・インターンシップの現場へ(3)	実践家との対話
8	地域参加型学習の方法	アカデミックライティングの基礎
9	ボランティア・インターンシップのマッチング(1)	実践家との対話
10	ボランティア・インターンシップのマッチング(2)	実践家との対話
11	ボランティア・インターンシップのマッチング(3)	実践家との対話
12	実践的学習のプレゼンテーション(1)	分野別課題の明確化
13	実践的学習のプレゼンテーション(2)	分野別課題の明確化
14	実践的学習のプレゼンテーション(3)	分野別課題の明確化
15	まとめ	ボランティア情報・調査のためのスキル・ツール・マインド

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇,筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編集/筒井書房/ 4887205945/ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論—「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編/みらい/4860152069/ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際(ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修/久美/4861890187/とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集/ミネルヴァ書房/4623040984/広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー/Communication Paper  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
学生との直接対話/Talk with Students  
その他 / Other

#### その他 / Others

#### 拡張項目



(共) ボランティアマネジメント論 (GA) § 特殊講義(自由選択) I (VTマネジメント) (TA) § 特殊講義(自由選択) 1 (ボランティアマネジメント論) (GA) § 特殊講義(自由選択) (ボランティアマネジメント論) (GA)

56210

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア活動支援演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動を組織し、調整、推進していくうえでコーディネーターに求められる役割と業務および倫理について学ぶ。ボランティア振興に関わるイベントの企画運営と展開のあり方、ボランティアの登録や管理、ボランティア活動の相談から調整と評価までの需給調整、社会資源の活用と開発などについての基本的な考え方、知識や技術をとらえあげる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア(前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習(後期・演習)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	ボランティア・インターンシップの振り返り
2	ボランティアマネジメントと社会環境(1)	地域ニーズとボランティア
3	ボランティアマネジメントと社会環境(2)	社会的責任とコミュニケーション
4	ボランティアコーディネートの技法	インターンシップの成果を見つめる
5	ボランティア・インターンシップと社会環境(3)	新しい公共を実現する政策と施策
6	ボランティア・インターンシップと社会環境(4)	ボランティアにおける国際的な動向
7	中間振り返り	ボランティアマネジメントとは何か
8	ホット・トピックス(1)	問題解決とソーシャル・イノベーション
9	ホット・トピックス(2)	コミュニティマネジメントとマイクロクレジット
10	ホット・トピックス(3)	ソーシャルネットワークによる経営資源の充実
11	グループ・組織のマネジメントスキル(1)	企画とプロデュース
12	グループ・組織のマネジメントスキル(2)	広報
13	グループ・組織のマネジメントスキル(3)	人材育成
14	グループ・組織のマネジメントスキル(4)	協働
15	まとめ	ボランティアコーディネートの未来へ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業への積極性、課題提出及びその内容を踏まえて評価

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇,筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編集/筒井書房/ 4887205945/ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編/みらい/4860152069/ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際(ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修/久美/4861890187/とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集/ミネルヴァ書房/4623040984/広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー/Communication Paper  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
学生との直接対話/Talk with Students  
その他 / Other

#### その他 / Others

#### 拡張項目

(共) ボランティアマネジメント論 (GB) § 特殊講義 (自由選択) I (VT マネジメント) (TB) § 特殊講義 (自由選択) 1 (ボランティアマネジメント論) (GB) § 特殊講義 (自由選択) (ボランティアマネジメント論) (GB)

56214

担当者名 / Instructor 川中 大輔

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、「ボランティア活動支援演習」と連動しながら行われる。講義では、ボランティア活動を組織し、調整、推進していくうえでコーディネーターに求められる役割と業務および倫理について学ぶ。ボランティア振興に関わるイベントの企画運営と展開のあり方、ボランティアの登録や管理、ボランティア活動の相談から調整と評価までの需給調整、社会資源の活用と開発などについての基本的な考え方、知識や技術を取りあげる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア (前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ (夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	ボランティア・インターンシップの振り返り
2	ボランティアマネジメントと社会環境(1)	地域ニーズとボランティア
3	ボランティアマネジメントと社会環境(2)	社会的責任とコミュニケーション
4	ボランティアコーディネートの技法	インターンシップの成果を見つめる
5	ボランティア・インターンシップと社会環境(3)	新しい公共を実現する政策と施策
6	ボランティア・インターンシップと社会環境(4)	ボランティアにおける国際的な動向
7	中間振り返り	ボランティアマネジメントとは何か
8	ホット・トピックス(1)	問題解決とソーシャル・イノベーション
9	ホット・トピックス(2)	コミュニティマネジメントとマイクロクレジット
10	ホット・トピックス(3)	ソーシャルネットワークによる経営資源の充実
11	グループ・組織のマネジメントスキル(1)	企画とプロデュース
12	グループ・組織のマネジメントスキル(2)	広報
13	グループ・組織のマネジメントスキル(3)	人材育成
14	グループ・組織のマネジメントスキル(4)	協働
15	まとめ	ボランティアコーディネートの未来へ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、授業への積極性、課題提出及びその内容を踏まえて評価

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇,筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編集/筒井書房/ 4887205945/ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論—「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編/みらい/4860152069/ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際(ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修/久美/4861890187/とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集/ミネルヴァ書房/4623040984/広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー/Communication Paper  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
学生との直接対話/Talk with Students  
その他 / Other

#### その他 / Others

#### 拡張項目

(共) ボランティアインターンシップ (GA) § 特殊講義 (自由選択) I (VTインターンシップ) (TA) § 特殊講義 (自由選択) 1 (ボランティアインターンシップ) (GA) § 特殊講義 (自由選択) (ボランティアインターンシップ) (GA)

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、講義科目、演習科目と運動しながら行われる。主に夏期休暇中で90時間以上のインターンシップをおこなう。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

講義や演習での学習成果を元に、受講生自らが活動課題を設定し、それに沿った研修先でボランティアコーディネーターに関わる研修を行う。その中で当初設定した活動課題を自ら検証し、より具体的な課題に再設定することを目標とする。この実習で再設定された課題が、後期の講義・演習への基礎となる。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア (前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ (夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1~15 インターンシップ	合計90時間以上のインターンシップを行います。

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	活動時間、計画作成、提出物、報告内容等から判断する。
この科目はP/F評価です。		

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。

[http://www.ritsumei.jp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html)

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇, 筒井のり子 著 日本ボランティアコーディネーター協会編纂 / 筒井書房 / 4887205945 / ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論—「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編 / みらい / 4860152069 / ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際 (ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘 著・新崎国広 監修 / 久美 / 4861890187 / とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア (やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫 編集 / ミネルヴァ書房 / 4623040984 / 広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumei.jp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー／Communication Paper  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
学生との直接対話／Talk with Students  
その他 / Other

その他 / Others

拡張項目

(共) ボランティアインターンシップ (GB) § 特殊講義 (自由選択) I (VTインターンシップ) (TB) § 特殊講義 (自由選択) 1 (ボランティアインターンシップ) (GB) § 特殊講義 (自由選択) (ボランティアインターンシップ) (GB)

担当者名 / Instructor 川中 大輔

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの講義科目であり、講義科目、演習科目と運動しながら行われる。主に夏期休暇中で90時間以上のインターンシップをおこなう。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

講義や演習での学習成果を元に、受講生自らが活動課題を設定し、それに沿った研修先でボランティアコーディネーターに関わる研修を行う。その中で当初設定した活動課題を自ら検証し、より具体的な課題に再設定することを目標とする。この実習で再設定された課題が、後期の講義・演習への基礎となる。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア (前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ (夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1~15 インターンシップ	合計90時間以上のインターンシップを行います。

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	活動時間、計画作成、提出物、報告内容等から判断する。
この科目はP/F評価です。		

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。

[http://www.ritsumei.jp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html)

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇, 筒井のり子 著 日本ボランティアコーディネーター協会編集 / 筒井書房 / 4887205945 / ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論—「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編 / みらい / 4860152069 / ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際 (ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘 著・新崎国広監修 / 久美 / 4861890187 / とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア (やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集 / ミネルヴァ書房 / 4623040984 / 広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター (ボランティアセンター) ホームページ  
[http://www.ritsumei.jp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html)

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法 (教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー／Communication Paper  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
学生との直接対話／Talk with Students  
その他 / Other

その他 / Others

拡張項目



(共) ボランティア活動支援演習 (GA) § 特殊講義(自由選択) I (VT活動支援演習) (TA) § 特殊講義(自由選択) 1 (ボランティア活動支援演習) (GA) § 特殊講義(自由選択) (ボランティア活動支援演習) (GA)

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に付けることを目的とする。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア(前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習(前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ(夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論(後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習(後期・演習)

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	活動内容のシェアリング
2	プレゼンテーション入門	人に伝える技術を鍛える
3	活動プレゼンテーション(1)	リハーサルと実施と評価
4	活動プレゼンテーション(2)	リハーサルと実施と評価
5	実践のセンスメーカー	現場での活動の意味を探る(感想と経験の交流)
6	アカデミック・ライティングの実践(1)	構想をまとめる
7	アカデミック・ライティングの実践(2)	論理を構築する
8	アカデミック・ライティングの実践(3)	論理を展開する
9	アカデミック・ライティングの実践(4)	図解化する
10	アカデミック・ライティングの実践(5)	内容を推敲する
11	アカデミック・ライティングの実践(6)	仕上げる
12	課題探求への視点	現場への課題と提案
13	レポート発表(1)	リハーサルと評価
14	レポート発表(2)	リハーサルと評価
15	まとめ	レポート内容の精査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 % 出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
 「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
 詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇,筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編纂/筒井書房/ 4887205945/ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編/みらい/4860152069/ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際(ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修/久美/4861890187/とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集/ミネルヴァ書房/4623040984/広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー/Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話/Talk with Students

その他 / Other

## その他 / Others

## 拡張項目

(共) ボランティア活動支援演習 (GB) § 特殊講義 (自由選択) I (VT 活動支援演習) (TB) § 特殊講義 (自由選択) 1 (ボランティア活動支援演習) (GB) § 特殊講義 (自由選択) (ボランティア活動支援演習) (GB)

担当者名 / Instructor 川中 大輔

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

本演習は、ボランティアコーディネーター養成プログラムの演習科目であり、「ボランティアマネジメント論」と連動しながら行われる。ボランティア、ボランティアグループ、ボランティア推進機関などの状況や連絡調整および支援のあり方、地域や市民の生活実態やニーズについての理解を深める。インターンシップの振り返りや事例研究などを通じ、ボランティアコーディネーターとしての実践的な力量を身に付けることを目的とする。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

プログラム全体を通じて、ボランティア・地域活動コーディネーターとして、地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を企画、調整、支援できる人材となることを目指す。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

※下記の5科目全てをパッケージ履修することを前提とする。

- (1) 社会とボランティア (前期・講義)
- (2) ボランティア情報・調査演習 (前期・演習)
- (3) ボランティアインターンシップ (夏期集中・実習)
- (4) ボランティアマネジメント論 (後期・講義)
- (5) ボランティア活動支援演習 (後期・演習)

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	活動内容のシェアリング
2	プレゼンテーション入門	人に伝える技術を鍛える
3	活動プレゼンテーション(1)	リハーサルと実施と評価
4	活動プレゼンテーション(2)	リハーサルと実施と評価
5	実践のセンスメーカー	現場での活動の意味を探る (感想と経験の交流)
6	アカデミック・ライティングの実践(1)	構想をまとめる
7	アカデミック・ライティングの実践(2)	論理を構築する
8	アカデミック・ライティングの実践(3)	論理を展開する
9	アカデミック・ライティングの実践(4)	図解化する
10	アカデミック・ライティングの実践(5)	内容を推敲する
11	アカデミック・ライティングの実践(6)	仕上げる
12	課題探求への視点	現場への課題と提案
13	レポート発表(1)	リハーサルと評価
14	レポート発表(2)	リハーサルと評価
15	まとめ	レポート内容の精査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価

100 % 出席、授業態度、提出物の提出状況等により判断。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目は、「ボランティアコーディネーター養成プログラム」の中の1科目です。  
「ボランティアコーディネーター養成プログラム」を受講するには「予備登録」が必要です。  
詳細は、サービスラーニングセンターホームページの、「ボランティアコーディネーター養成プログラム 2012年度受講生募集について」を参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民社会の創造とボランティアコーディネーション-ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト	早瀬昇,筒井のり子著 日本ボランティアコーディネーター協会編纂/筒井書房/ 4887205945/ボランティアコーディネーターには何が求められているのか、その社会的背景を知る。
ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ	柴田謙治・原田正樹・名賀亨編/みらい/4860152069/ボランティアに関する人々の認識がどのように変容してきたのかの概要を理解する。
社会福祉施設ボランティアコーディネーションの実際(ボランティアコーディネーションの理論と実践シリーズ)	南多恵子・後藤光弘著・新崎国広監修/久美/4861890187/とりわけ施設内でのボランティアコーディネーションの特徴と課題等に関心を向ける。
よくわかるNPO・ボランティア(やわらかアカデミズム「わかる」シリーズ)	川口清史・新川達郎・田尾雅夫編集/ミネルヴァ書房/4623040984/広くボランティアならびにNPO活動に関するキーワードを整理する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)ホームページ  
[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー/Communication Paper

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話/Talk with Students

その他 / Other

## その他 / Others

## 拡張項目

担当者名 / Instructor 本山 敦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

導入期の民法科目として、入門的な内容(民法の意義、歴史、基本原理、諸制度の概説)に加え、民法の債権編のうち、債権の発生原因である契約、事務管理、不当利得、不法行為に関する部分を扱う。契約法の部分では、売買を中心に、契約の成立・効力(債務不履行を含む)・解除について概説する。

なお、このクラスは、基本的に、昨年度後期の「基本民法」の受講しながら、単位を取得できなかった者を対象としている。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 民法の「契約」「事務管理」「不当利得」「不法行為」を、大まかに理解する。
2. 民法の基本的な思考方法を身につける。
3. 各条文の要件・効果を正確に覚えたり、教科書や判例など、長文の法律文献を読むなどして、基本的な学修習慣を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 民法の概要	民法
	第2回 受講に関するガイダンス	ガイダンス
	第3回 判決文(判例)を読んでみる	判例
	第4回 教科書《ガイダンス》 ※教科書に関しては下欄「教科書/Textbooks」を参照。	読者の皆さんへの挨拶、本書についてのガイダンス PART1、民法(債権法)についてのガイダンス、本書についてのガイダンスPART2
	第5回 教科書《契約総論》第1回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
	第6回 教科書《契約総論》第2回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
	第7回 教科書《契約総論》第3回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
	第8回 教科書《契約総論》第4回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
	第9回 教科書《契約総論》第5回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
	第10回 教科書《契約総論》第6回	契約総論・序説、契約の成立、契約の効力、契約の解除、消費者保護とクーリング・オフ
	第11回 教科書《契約各論》第1回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第12回 教科書《契約各論》第2回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第13回 教科書《契約各論》第3回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第14回 教科書《契約各論》第4回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第15回 教科書《契約各論》第5回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第16回 教科書《契約各論》第6回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第17回 教科書《契約各論》第7回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第18回 教科書《契約各論》第8回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
	第19回 教科書《契約各論》第9回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約

第20回 教科書《契約各論》第10回	契約各論・序説、贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用、請負、委任、その他の典型契約
第21回 教科書《契約以外の債権発生原因》第1回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第22回 教科書《契約以外の債権発生原因》第2回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第23回 教科書《契約以外の債権発生原因》第3回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第24回 教科書《契約以外の債権発生原因》第4回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第25回 教科書《契約以外の債権発生原因》第5回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第26回 教科書《契約以外の債権発生原因》第6回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第27回 教科書《契約以外の債権発生原因》第7回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第28回 教科書《契約以外の債権発生原因》第8回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第29回 教科書《契約以外の債権発生原因》第9回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為
第30回 教科書《契約以外の債権発生原因》第9回	契約以外の債権発生原因、事務管理、不当利得、不法行為

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

1回あたりの授業の進度は教科書の5頁分から10頁分ぐらいに相当するであろう。教科書を徹底的に予習・復習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な制度・語句・判例等の理解を問うとともに、それらを用いて簡単な事例問題を解いてもらう。 少し難しく言うと、民法上の基本概念が正確に理解できているかどうか、また、条文や判例法理といった規範(ルール)を具体的な事例(紛争の場面)に適用して妥当な結論を導くことができるか、ということである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書1(池田真朗『スタートライン債権法(第5版)』)の前半部分および教科書2(同『スタートライン民法総論』の関係箇所)を徹底的に読み込むかたちの講義となるので、必ず教科書を購入すること。

六法必携。

ほぼ毎回、授業時間中に参考資料等を配布するので適切に整理すること。なお、授業時間以外の配布には一切応じない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スタートライン債権法(第5版)	池田真朗/日本評論社/978-4-535-51774-5/2010年
スタートライン民法総論	池田真朗/日本評論社/4-535-51403-8/2006年

上記教科書は、昨年度後期の「基本民法」で使用したものでよい。  
小型六法を必携すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法Visual Materials	池田真朗ほか/有斐閣/978-4-641-13522-2/2008年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目



## 行政学 I (J) § 行政学 I (G)

13449

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。

この講義では、行政学全体への導入部のあと、行政の内部過程、つまり中央省庁等の運営・管理のためのさまざまなしくみについて考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

行政学の標準的な知識と分析枠組みを身につけること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	<導入>	行政学とは、行政学(政治学)と行政法(法律学)の違い、教科書の説明
2-4	<第1部 行政と行政学の歴史> ●行政と行政学の歴史	国家と政府の役割、絶対王政、自由主義、福祉国家、新自由主義、市場の失敗と政府の失敗
5-6	●日本の行政の戦前と戦後、行政学における価値基準	
7-9	<第2部、行政の内的過程> ●組織理論の展開	科学的管理法、古典的組織論、人間関係論、サイモン理論
10-11	●行政組織における分業と統合調整	日本の行政組織、計画、リーダーシップ
12-13	●公務員人事	公務員制度の原理と改革、採用、昇進、天下り、服務
14-15	●財政	予算編成過程、財政健全化

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書または準教科書を、授業の前または後に読むことが望ましい。準教科書の場合には、その編成と授業の進み方は一致しないので、目次や索引を活用して関連ページを探すこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	知識と論述能力を評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の内容については、レジュメは用意しない。板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

資料レジュメは、教室でのみ配布する。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる行政学	村上弘・佐藤満編 / ミネルヴァ書房 / 2009年

<準教科書>

\* 上の教科書を持たない人は、下のどれか1冊を選んで買うことを薦めます。

真淵勝『行政学』有斐閣、2009

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』改訂版、北樹出版、2009

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

## 参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994～95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政と行政改革—改革の要点と運用の実際』(新版)、芦書房、2004

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政』毎年



飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007  
山口二郎『内閣制度』(行政学叢書)東京大学出版会、2007  
大森彌『官のシステム』(行政学叢書)東京大学出版会、2006  
草野厚『官僚組織の病理学』ちくま新書、2001  
岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006  
小此木潔『消費税をどうするか』岩波新書、2009  
村松岐夫編『最新公務員制度改革』学陽書房、2012年  
太田肇『公務員革命 — 彼らの“やる気”が地域社会を変える』ちくま新書、2011年

●公務員批判の風潮を知るために  
福岡政行『公務員ムダ論 — 不況時代の公務員のあり方』角川書店、2010年

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

質問等は、授業のあと教室で寄せてください。

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 行政学Ⅱ (J) § 行政学Ⅱ (G)

15924

担当者名 / Instructor 村上 弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

行政学は政治学の一分野で、国や地方自治体の行政を対象とするものである。現代の政府活動が拡大するなかで、行政機構は政策の執行だけでなく決定に関しても大きな役割を果たすとともに、さまざまな問題も抱えている。

この講義では、行政の外部過程、つまり政治過程のなかでの行政の活動、行政と議会や市民の関係などについて考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は、関連づけて、政治学諸科目、行政法、憲法、財政学を履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	* 1つのテーマを2~3回で扱う	
1-3	●行政責任	行政責任の諸類型、行政統制の諸方法
4-6	●官僚制理論	M. ウェーバーの官僚制論とその今日的意味、その後の理論展開
7-9	●議会と行政	立法、執行過程における官僚制の機能と権力
10	●利益団体と行政	各種社会集団の参加方法と影響力
11-12	●市民と行政	行政情報の流れ、市民参加の諸方法
13-15	●行政改革	行政改革の多面性、小さな政府、NPM、規制緩和・規制の充実、政策評価

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書または準教科書を授業の前または後に読むことが望ましい。

準教科書の場合には、その編成と授業の進み方は一致しないので、目次や索引を活用して関連ページを探すこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	知識と論述能力を評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

板書を多用するが、口頭で述べたことも重要な部分はノートすること。

資料レジュメは、教室でのみ配布する。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる行政学	村上弘・佐藤満編 / ミネルヴァ書房 / 2009年

< 準教科書 >

\* 上の教科書を持たない人は、下のどれか1冊を選んで買うことを薦めます。

真淵勝『行政学』有斐閣、2009

今村都南男ほか『ホーンブック基礎行政学』改訂版、北樹出版、2009

西尾勝『行政学』新版、有斐閣、2001

村松岐夫『行政学教科書』第2版、有斐閣、2001

## 参考書 / Reference Books

西尾勝・村松岐夫編『講座行政学』全6巻、有斐閣、1994~95

福田耕治・真淵勝・縣公一郎編『行政の新展開』法律文化社、2002

新藤宗幸『講義・現代日本の行政』東京大学出版会、2001

東田親司『現代行政と行政改革—改革の要点と運用の実際』(新版)、芦書房、2004

総務省『行政管理・総合調整白書』毎年

行政管理研究センター『データ・ブック日本の行政』毎年

飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007

山口二郎『内閣制度』(行政学叢書)東京大学出版会、2007

草野厚『官僚組織の病理学』ちくま新書、2001

岩田規久男『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書、2006

田中一昭『行政改革』新版、ぎょうせい、2006

福山嗣朗『NPM実務の考え方・進め方—効率的・効果的な政策形成・実施・評価改善』学陽書房、2006年

自治体問題研究所編『NPM行革の実像と公務・公共性』自治体研究社、2006

行政管理研究センター 編『政策評価ハンドブック 新基本方針対応版—評価新時代の到来』ぎょうせい、2007

小此木潔『消費税をどうするか』岩波新書、2009

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省ホームページ <http://www.soumu.go.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## 行政法 I (JA) § 行政法 I (GA)

17531

担当者名 / Instructor 正木 宏長

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

行政法は、国や自治体といった行政機関が、民間事業者の取り締まりのような行政活動をするとき、どのような法の拘束を行政がうけるのか、あるいは、行政の規制を受けた民間事業者が、国や自治体に対して裁判を起こすとき、いかなる訴訟を提起することができるか、というような問題を扱う。

つまり、行政に関する法が行政法である。

本講義では、行政法のうち、「行政法総論」を講義する

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・行政法の基本概念と判例について、包括的な理解を得る。
- ・行政手続法や情報公開法のような行政に関する基本的な制度について総合的な理解を得る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法や民法(特に総則、不法行為の分野)についての、基本的知識を習得した上で履修に臨むことが望ましいが、必須というわけではない。刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、環境法、経済法、社会保障法、労働法、行政学といった科目も、行政法を修得する上で有益な知識を与える。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1, 2 「導入講義」、「行政と法」	
	3, 4 「行政法の観念」、「公法と私法」	
	5, 6 「行政法の法源」、「行政法の基本原理」	
	7, 8 「行政組織法」	
	9, 10 「行政過程論と行政の法的仕組み」、「行政立法」	
	11, 12 「行政行為の種類」、「行政行為の効力」	
	13, 14 「行政行為の瑕疵」、「行政行為の効力の発生」、「行政行為の失効」、「行政行為の附款」	
	15, 16 「行政裁量」	
	17, 18 「行政契約」、「行政指導」	
	19, 20 「行政計画」、「行政と私人」	
	21, 22 「行政手続の基本理念」、「行政手続法」	
	23, 24 「行政上の義務履行確保」、「即時強制」	
	25, 26 「情報公開」	
	27, 28 「行政調査」、「行政情報管理」	
	29, 30 「規制、給付、調達、誘導の法的仕組み」	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

最新の六法を携帯して授業に出席すること。

予習・復習をすれば学習効果が上がることはいうまでもない。

予習をするときは授業の順序が、教科書と必ずしも一致しないので気をつけること

指定の教科書が難しいと感じたときは、より簡単な教科書(授業で指定する)を用いて予習・復習をすること

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	行政法の基本的理解即ち行政法の基本原則及び概念の理解度とその応用力が習得できてい

るかを評価基準とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法 第3版	櫻井敬子＝橋本博之／弘文堂／978-4-335-35505-9／
六法は必ず最新版を用意すること。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ	小早川光郎他／有斐閣／／
行政法	宇賀克也／有斐閣／978-4-641-13116-3／
現代行政法入門 第2版	曾和俊文ほか／有斐閣／978-4-641-13098-2／
判例百選以外の参考書は図書館への発注リスト	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

正木宏長のHP  
<http://www.ops.dti.ne.jp/~andm>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

研究室は修学館524。用事があるときは下のアドレスに連絡  
 andm@ops.dti.ne.jp  
 ただし、単位の請願は受け付けない。

その他 / Others

webCTは使っていないので注意

拡張項目

## 行政法 I (JB) § 行政法 I (GB)

17532

担当者名 / Instructor 須藤 陽子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

法学部で開講される「行政法」という科目は、非常に抽象度の高いものです。そのため、初学者が学ぶ際には「難し過ぎる」と感じます。なぜ、抽象度が高いのでしょうか？現在日本で用いられている法律は1800本あまりですが、その3分の1が「行政法」に属するものです。しかし、「行政法」という法律はありません。憲・民・刑のように、逐条で学ぶことができれば、少しは理解しやすいかもしれませんが、「行政法」とは法律の名称ではなく、「行政」に用いられている法的仕組みを、学問的、理論的に説明する学問体系のことを指しています。

講義では、抽象的な思考と具体的な問題解決の発想を得るために、抽象的な行政法理論を具体的な行政上の制度と関連づけて学びます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ① 民事法と行政法の根本的な違いを理解する
- ② 行政作用に関する基本的な法的仕組みを理解する
- ③ 行政手続法の意義と内容、判例を理解する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法 I

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業ガイダンス 行政法の意義 行政法の三分類	行政作用法、行政救済法、行政組織法
2	公法と私法	行政上の法律関係
3	法律による行政の原理	法律の留保
4	行政法の法源 その1	成文法
5	行政法の法源 その2	不文法
6	行政機関による規範の定立 その1	行政立法、法規命令
7	行政機関による規範の定立 その2	行政規則
8	行政手続法 その1	行政処分と行政指導
9	行政手続法 その2	利益処分と不利益処分
10	行政手続法 その3	行政指導の一般原則
11	行政手続法 その4	パブリックコメント
12	行政行為論 その1	行政行為の分類 準法律行為的行政行為
13	行政行為論 その2	行政行為の分類 法律行為的行政行為
14	行政行為論 その3	行政行為の特殊な効力 公定力
15	行政行為論 その4	附款
16	行政行為の瑕疵 その1	取消と無効
17	行政行為の瑕疵 その2	取消と撤回
18	行政行為の瑕疵 その3	瑕疵の治癒・違法行為の転換
19	行政裁量論 その1	要件裁量と効果裁量

20	行政裁量論 その2	裁量審査の手法
21	行政契約	
22	行政計画	
23	行政調査	
24	行政上の義務履行確保 その1	行政強制の仕組み、即時強制
25	行政上の義務履行確保 その2	行政上の強制徴収
26	行政上の義務履行確保 その3	代執行、直接強制、執行罰
27	行政上の義務履行確保 その4	実効性確保のための手法論
28	情報公開法	
29	個人情報保護	
30	まとめ 及び 現在の行政上の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な知識が習得されていること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞を読む習慣を身につけてください。社会の動きに関心のない学生は行政法を理解できません。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法[第3版]	櫻井敬子・橋本博之 / 弘文堂 / 978-4335-35505-9 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法概説 I	宇賀克也 / 有斐閣 / /
現代行政法入門	曾和俊文・山田洋・亙理格 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper  
manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 湊 二郎

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

行政法は、(ア)行政の対私人作用(行政作用)に関する行政作用法、(イ)行政作用により権利利益を害される私人の救済に関する行政救済法、(ウ)行政の組織に関する行政組織法に区別されることがある。この授業では、(ア)の行政作用法について、教科書(宇賀克也『行政法概説 I』)に従い、主要な法令・制度・学説・裁判例を学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 行政作用にどのようなものがあるかを説明できる。
- (2) 行政作用がどのような法的規制を受けているかを説明できる。
- (3) 行政作用に関する主要な学説および裁判例を説明できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 ガイダンス／行政法の特徴・法源・効力	授業の到達目標、進め方、成績評価方法等／行政主体・行政機関・行政庁、慣習法・判例法、属地主義・属人主義
	第2回 行政活動の種類、規制行政(1)	許可制、特許制、認可制
	第3回 規制行政(2)	附款、届出制、下命制・禁止制、即時強制
	第4回 給付行政	官民の役割分担、給付決定の方式、公物使用
	第5回 行政資源取得行政	租税の賦課徴収、土地収用、公務員の任用
	第6回 誘導行政	金銭的インセンティブ・ディスインセンティブ、情報によるインセンティブ・ディスインセンティブ、規制緩和によるインセンティブ
	第7回 法律による行政の原理	法律の優先、法律の留保、侵害留保説・全部留保説・重要事項留保説
	第8回 行政法の一般原則	信義則、比例原則、平等原則
	第9回 行政法と民事法	公法私法二元論、取締法規・強行法規
	第10回 行政行為の意義・分類	規律力、行政行為と行政処分、申請に対する処分と不利益処分
	第11回 行政裁量	要件裁量・効果裁量、裁量権の逸脱濫用、実体的判断過程統制審査
	第12回 瑕疵ある行政行為(1)	行政行為の瑕疵の分類、取消訴訟の排他的管轄
	第13回 瑕疵ある行政行為(2)	瑕疵の治癒、理由の追加・差替え
	第14回 行政行為の成立・発効・失効	到達主義、職権取消し、撤回
	第15回 申請に対する処分の手続	審査基準、標準処理期間、補正、拒否処分の理由提示
	第16回 不利益処分の手続	処分基準、聴聞と弁明の機会の付与、理由提示
	第17回 行政契約	公害防止協定、一般競争入札・指名競争入札・随意契約
	第18回 行政指導(1)	行政指導の長所と短所、学説・裁判例による行政指導の法理論
	第19回 行政指導(2)	行政手続法における行政指導の規定



第20回 法規命令	法規, 委任をした法律の合憲性, 委任命令の適法性
第21回 行政規則	解釈基準, 裁量基準, 指導要綱
第22回 パブリック・コメント	規制の設定又は改廃に係る意見提出手続, 意見公募手続, 命令等
第23回 行政計画	政策評価法, 都市計画法, 環境影響評価法
第24回 行政調査	任意調査・間接強制調査, 所持品検査, 自動車の一斉検問, 川崎民商事件
第25回 個人情報保護・公文書管理	保有個人情報, 開示・訂正・利用停止請求権, 公文書管理法
第26回 情報公開(1)	行政文書, 開示請求, 不開示情報, 個人に関する情報, 法人等情報
第27回 情報公開(2)	国・公共の安全等に関する情報, 審議検討情報, 事業情報, インカメラ審理
第28回 行政上の義務履行強制	代執行, 執行罰, 直接強制, 行政上の強制徴収
第29回 行政上の義務違反に対する制裁(1)	行政刑罰, 行政上の秩序罰
第30回 行政上の義務違反に対する制裁(2)	加算税, 課徴金, 公表, 指名停止

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

【予習】次回の授業で取扱うテーマについて, 教科書の該当部分を一通り読んでおく。教科書の内容が難しく感じられる場合は, 所定の参考書を用いても良い。

【復習】授業の内容と教科書の内容を比較し, 重要度の高い部分と低い部分を区別する。その上で, 重要度の高い部分をまとめたノートを作成する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	行政法の基本的理解即ち行政法の基本原則及び概念の理解度とその応用力が習得できているかを評価基準とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中においては, 他の学生の受講の妨げとなるような行為は絶対にしないこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法概説 I	宇賀克也 / 有斐閣 / 9784641130906 / この本に従って講義するので, 必携。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法読本	芝池義一 / 有斐閣 / 9784641130869 / 行政法の全体構造を知っておきたい人の, 授業外学習用。
行政法	宇賀克也 / 有斐閣 / 9784641131163 / 行政法の基礎を1冊で学べる最新のテキスト。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

小型六法に掲載されていない法令を参照したい場合に, 法令データ提供システム <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

法科大学院専任教員であるため, 連絡方法は電子メールとさせていただきます。メールアドレスは最初の授業時にお知らせする。

その他 / Others

拡張項目

## 行政法Ⅱ (J) § 行政法Ⅱ (G)

14806

担当者名 / Instructor 駒林 良則

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この講義は、主として行政救済法を扱うとともに、行政組織法も扱いたいと思う。行政救済法は、行政争訟法と国家補償法から成る。行政争訟法は、不服申立てと行政訴訟を扱う。国家補償法は、国家賠償と損失補償を扱う。これらのうち、本講義では、行政訴訟(行政事件訴訟法)と国家賠償(国家賠償法)が主要な領域となるので、両者については詳細にしかしできるだけわかりやすく講義したいと思う。なお講義の順序としてまず行政組織法から始めたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

行政法Ⅰを前提にして、行政救済法の概要を理解することが目標となる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

行政法Ⅰを履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 講義の進め方、行政法Ⅰとの関連性など	
	第2回 行政組織法(1)行政機関概念など	
	第3回 行政組織法(2)国家行政組織	
	第4回 行政組織法(3)公務員法制	
	第5回 行政組織法(4)公務員法制(続)	
	第6回 行政不服申し立て(1)	
	第7回 行政不服申し立て(2)	
	第8回 行政不服申し立て(3)	
	第9回 行政訴訟総論—訴訟類型など	
	第10回 取消訴訟の要件論(1)処分性	
	第11回 取消訴訟の要件論(2)処分性(続)	
	第12回 取消訴訟の要件論(3)原告適格	
	第13回 取消訴訟の要件論(4)原告適格(続)	
	第14回 取消訴訟の要件論(5)訴えの利益	
	第15回 取消訴訟の審理	
	第16回 取消訴訟の判決	
	第17回 取消訴訟以外の抗告訴訟(1)不作為の違法確認訴訟、無効等確認訴訟	
	第18回 取消訴訟以外の抗告訴訟(2)義務付け訴訟、差止訴訟	
	第19回 抗告訴訟以外の行政訴訟(1)当事者訴訟	
	第20回 抗告訴訟以外の行政訴訟(2)民衆訴訟、機関訴訟	

第21回  
国家賠償法1条の要件論(1) 法的性質、公務員

第22回  
国家賠償法1条の要件論(2) 過失、違法性

第23回  
国家賠償法1条の要件論(3) 過失、違法性(続)

第24回  
国家賠償法1条の要件論(4) 不作為責任

第25回  
国家賠償法2条の要件論(1) 営造物概念、営造物責任

第26回  
国家賠償法2条の要件論(2) 設置管理の瑕疵論

第27回  
国家賠償法2条の要件論(3) 設置管理の瑕疵に関する  
判例の検討

第28回  
国家賠償法3条以下の問題(賠償責任者ほか)

第29回  
損失補償(1) 損失補償概念ほか

第30回  
損失補償(2) 国家賠償と損失補償の「谷間」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は、できるだけわかりやすく進めていくつもりであるが、理解できないときは、行政法の入門書まで立ち返って理解するようにしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義で扱った行政救済法等の基礎的知識を問うことにする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

行政救済法を勉強するうえで、行政法 I で扱う行政作用法の諸概念の理解が不可欠であるので、常に行政作用法の関係箇所にあたっておくことを希望する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政法第3版	櫻井敬子・橋本博之 / 成文堂 / 基本的な教科書である。本書は行政法 I の講義範囲である行政作用法を前半で扱っているが、講義では主に本書の後半部分を使用することになる。

教科書を中心に講義するが、理解の助けのためにレジュメ等資料を随時配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
行政判例百選 I . II	/ 有斐閣 / /
行政法概説 II	宇賀克也 / 有斐閣 / /
行政法概説 III	同上 / 同上 / /

参考書等については講義の初回でも触れる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Others

拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

米国が主張するグローバル・スタンダードは、自由な市場取引と市場開放である。そこで、最初に、市場取引の成果を測る“ものさし”の一つである「余剰」の概念を紹介する。そして、「余剰」の視点から競争市場の成果と問題点を概観しながら、ミクロ経済学の基礎的な知識(需要曲線・供給曲線、消費者行動、生産者行動、市場の役割と失敗等)を説明していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・留保価格と市場価格の関連、および、需要曲線と供給曲線の経済的な意味を理解する。
- ・消費者余剰、生産者余剰および総余剰の概念と、その意味を理解する。
- ・競争的な市場取引についての評価とその限界を理解する。
- ・競争的な市場と非競争的な市場における生産者行動の違いを理解する。
- ・市場主義についてのメリットやデメリットについて論理的な考え方ができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回目 ミクロ経済学とマクロ経済学の分析対象について紹介する。	希少性、経世済民
	第2回目 市場取引の成果を測る方法について述べる。	消費者余剰、生産者余剰
	第3回目 競争取引と相対取引の違いを総余剰の視点から明らかにする。	総余剰、投機、バブル
	第4回目 市場不均衡に対する価格調整と総余剰への影響を示す。	オークション、バーゲンセール、模索過程、非模索過程
	第5回目 市場不均衡に対する非価格調整と総余剰への影響を示す。	数量調整、抽選、先着順、機会費用
	第6回目 数量割当や価格規制などの経済規制がもたらす総余剰への影響を説明する。	従量税、従価税、租税の帰着
	第7回目 生産者の合理的行動(利潤最大化行動)についての分析する。	可変費用、固定費用、限界収入、限界費用
	第8回目 競争企業の利潤最大化行動とその条件を導出する。	価格受容者、費用関数、費用方程式、双対性定理
	第9回目 限界費用と売りの留保価格の関連および生産者余剰について説明する。	限界費用増
	第10回目 独占企業の利潤最大化行動とその条件を導出する。	価格形成者、社会的損失
	第11回目 価格差別を設定することで独占利潤がさらに増加することを示す。	完全価格差別、差別価格、二部料金
	第12回目 規模の経済性を活かした公共料金の決め方について説明する。	規模の経済性、自然独占、限界費用原理、平均費用原理
	第13回目 消費者余剰を最大にする公共料金の決め方について説明する。	受益者負担、独立採算制
	第14回目 情報の非対称性がもたらす市場の失敗について説明する。	逆選択、モラル・ハザード、フリーライド
	第15回目 市場の失敗を防ぐ手立てについて説明する。	シグナリング、スクリーニング



## 授業の概要 / Course Outline

現在の日本経済を概観しながら、マクロ経済学の基礎的な知識(国民経済の枠組み、国民所得決定理論、マネーストックと貨幣市場、失業と需要管理政策、労働市場の特徴等)を紹介していく。そして、国内総生産(GDP)決定の均衡分析を説明しながら、最終的には、開放経済における金融政策や財政政策の効果について言及する。さらに、労働市場の特殊性についても説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・マクロ経済の基本的な概念についての用語を知る。
- ・マクロ経済の循環と生産物市場・労働市場・金融市場の関連について理解する。
- ・均衡GDPの決定とその要因について理解する。
- ・主要な一般新聞に掲載される経済記事のアウトラインを理解できるようにする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回目 ミクロ経済学とマクロ経済学の分析対象について紹介する。	経世済民、集計量
	第2回目 財貨やサービスの集計量である国内総生産(GDP)について説明する。	国内総所得(GDI)、国内総支出(GDE)、三面等価の原則
	第3回目 名目成長率と実質成長率、および、総合物価変化率との関係について説明する。	成長率、GDPデフレーター
	第4回目 マクロ経済学の枠組みと各部門間の経済循環図を示す。	内需寄与度、外需寄与度、民間部門、政府部門、海外部門
	第5回目 景気循環の決め方について説明する。	好況、不況、一致指数、GDPギャップ
	第6回目 マクロ経済学の均衡分析: Step1	ワルラスの法則、夜警国家、消費関数、限界消費性向、45°線分析
	第7回目 マクロ経済学の均衡分析: Step2	混合経済、財政政策、均衡予算の乗数効果
	第8回目 マクロ経済学の均衡分析: Step2の続き	クラウディング効果、リカードの中立性定理、ドーマーの法則
	第9回目 マクロ経済学の均衡分析: Step3	投資関数、設備投資、投資の金利非対称性、加速度原理
	第10回目 貨幣市場の均衡式について説明する。	貨幣需要関数、マネーストック、信用創造
	第11回目 マクロ経済学の均衡分析: Step3の続き	I-S曲線、L-M曲線、財政・金融政策
	第12回目 輸出入関数と為替相場の決定について説明する。	比較優位の原則、自由貿易、保護貿易
	第13回目 マクロ経済学の均衡分析: Step4	開放経済、為替政策
	第14回目 日本型会社経営の特徴について説明する。	メインバンク制、株式持ち合い制度
	第15回目 日本型雇用の特徴について説明する。	終身雇用、年功序列、企業別組合、非正規雇用

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特にありません。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

講義の理解度を深める一助として、不定期に宿題を課したり教室で練習問題を解いたりすることもある。その場合、成績評価の際に宿題や

練習問題の理解度を参考にすることもある。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

経済学は論理的な学問である。マクロ経済学の知識は全講義で完結する。したがって、毎回講義に出席することが大切になる。それから、講義のスタイルは、グラフや記号を多用した形式になるが、受講生はこのようなスタイルに抵抗を抱かないことを願う。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title

アウトルック 日本経済

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

西村理・加藤一誠 / 萌書房 / ISBN978-4-86065 /

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Other

講義の後の質問やメールによるやりとり。

**その他 / Others****拡張項目**

## 憲法 I (JA) § 憲法 I (GA)

17520

担当者名 / Instructor 中島 茂樹

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されていないすべての社会は、憲法をもつものではない」。これは1789年のフランス人権宣言第16条の規定である。ここには、「権利の保障」と「権力分立」が「憲法」の不可欠の構成要素とされているが、このような意味での憲法が世界史のなかで具体化されるのは、近代市民革命以降のことに属する。憲法 I では、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重といった日本国憲法をめぐる憲法上の諸原理や憲法解釈上の諸問題について、歴史的な観点と比較憲法的な視点をもふまえて検討することとした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本国憲法をめぐる憲法上の諸原理や憲法解釈上の諸問題について、歴史的な観点と比較憲法的な視点をもふまえた学習により、現代日本で生起するもろもろの憲法現象を主体的かつ批判的に判断できる能力の取得を目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法概念と立憲主義	憲法とは何か、憲法の意味、立憲主義の構造と展開
2~3	日本国憲法の成立	明治憲法の特徴、日本国憲法の成立過程
4	国民主権の原理	国民主権、象徴天皇制
5~7	平和主義の原理	憲法9条の成立と展開、憲法9条裁判、日米安保体制
8~10	基本的人権の妥当範囲	人権の私人間効力、特別権力関係論、人権と公共の福祉
11~12	包括的基本権と法の下での平等	生命・自由・幸福追求権、法の下での平等
13	精神的自由(1)	思想・良心の自由、学問の自由
14~15	精神的自由(2)	信教の自由、政教分離の原則
16~18	精神的自由(3)	表現の自由、知る権利、集会・結社の自由
19~20	経済的自由	職業選択の自由、営業の自由、財産権
21~22	適正手続の保障	刑事手続、行政手続
23~24	国務請求権と参政権	国務請求権、参政権
25~26	社会権(1)	生存権
27~28	社会権(2)	教育を受ける権利
29~30	社会権(3)	労働基本権

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

下記のテキストを用いるほか、レジュメを配布する。適宜受講者を指名して応答を求めるほか、小テストを実施する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述問題 学説・判例が理解され、それらの検討がなされているかを重視。
平常点評価	20 %	択一式小テスト 基礎知識の有無を問う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks



書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

憲法(第5版)

芦部信喜(高橋和之補訂) / 岩波書店 / /

レジュメを適宜配布するので、その他の概説書でも差し支えない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

憲法判例百選〔第5版〕I・II

/ 有斐閣 / /

その他、講義の際に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 憲法 I (JB) § 憲法 I (GB)

17523

担当者名 / Instructor 小松 浩

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、憲法の総論と人権の部分を対象とする。時間の許す限り、現代日本に現実には生起している憲法問題を具体的に取り上げ、憲法を単に知識として捉えるのではなく、自らの問題として捉えなおす機会となるような講義を心がけたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

憲法学説、判例を単に頭で理解し、習得するだけでなく、日本国憲法の理念、精神を文字通り体得し、現代日本で生起する憲法問題に対して主体的な判断ができるようになることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 憲法の概念	憲法とは何か、憲法の意味、分類、立憲主義
	2 日本憲法史(1)	明治憲法の基本原理
	3 日本憲法史(2)	日本国憲法の制定
	4 国民主権原理	国民主権、象徴天皇制
	5 平和主義(1)	平和主義の原理、憲法9条の解釈
	6 平和主義(2)	平和主義に関する判例
	7 人権総論(1)	人権の歴史的展開
	8 人権総論(2)	人権の分類、享有主体
	9 人権総論(3)	人権の限界、特別権力関係、私人間効力
	10 包括的基本権	幸福追求権、自己決定権
	11 法の下での平等	平等の意味、憲法14条の解釈
	12 精神的自由権(1)	思想・良心の自由、信教の自由
	13 精神的自由権(2)	表現の自由、集会・結社の自由
	14 経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障
	15 社会権	生存権、教育を受ける権利、労働基本権

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

下記の教科書を中心にして講義を進めるが、教科書に掲載されていない内容にも当然触れるので、講義に出席することが必須である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述問題 学説、判例が理解され、それらの検討が行えているかを評価する。
平常点評価	20 %	択一式小テスト 法学部生としての最低の基礎知識の有無を問う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

**書名 / Title** **出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

憲法(第5版)	芦部信喜(高橋和之補訂) / 岩波書店 / /
---------	-------------------------

-----

一応上記教科書を指定するが、他の体系書、基本書でもかまわない。

**参考書 / Reference Books****書名 / Title** **出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

憲法判例特選	笹川紀勝ほか / 敬文堂 / /
--------	------------------

憲法1人権(第4版)	渋谷秀樹・赤坂正浩 / 有斐閣 / /
------------	---------------------

憲法判例百選 I・II(第5版)	高橋和之ほか / 有斐閣 / /
------------------	------------------

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp/>

憲法会議 <http://www.kenpoukaigi.gr.jp/>

**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

hkomatsu@fc.ritsumei.ac.jp

**その他 / Others****拡張項目**

## 憲法 I (JC) § 憲法 I (GC)

17521

担当者名 / Instructor 植松 健一

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

憲法の総論・歴史と、基本的人権に関する部分を扱います。スタイルとしては、憲法学の代表的テキストと定評のある芦部信喜の教科書を記述内容を理解したうえで、「批判的に」読み解くかたちをとります。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・諸外国の制度や大日本帝国憲法との比較という視点も踏まえながら、日本国憲法の基本的人権に関する基本的な枠組みを理解します。その際には、政治的動態との関係を常に意識できる思考能力を修得します。
- ・基本的人権に関する主要な概念(公共の福祉、私人間適用などの基礎理論から、個人人権条項における違憲審査基準など)を自ら使いこなせるまでに理解します。
- ・該当部分に関する重要判例の事実経緯と判旨を内在的に理解すると同時に、当該判例を批判的に解説する能力を身につけます。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法学入門などの導入的な科目

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	憲法学事始め	憲法学習の魅力とコツ、芦部信喜、そもそも「憲法」とは何か
2	近代憲法の展開	中世型立憲主義、近代憲法から現代憲法へ
3、4	明治憲法史①②	大日本帝国憲法の構造と運用、天皇機関説論争
5、6	日本国憲法成立の経緯と法理③④	8月革命説、押しつけ憲法批判
7	国民主権	主権の意義と構造、ナシオンとプーブル、主権論争
8	天皇制	象徴の意味、国事行為の助言と承認、公的行為?
9,10	基本的人権の歴史と「人権像」①②	自由権から社会権へ、人権の国際化、「強い個人」か「弱い個人」か
11	人権の分類	人権の分類の意義と相対性、制度的保障論
12,13	人権の享有主体	法人の人権、外国人の人権
14	人権の制約根拠	「公共の福祉」の解釈
15、16	人権の私人間適用の法理	私人間効力論
17,18	包括的基本権	幸福追求権、新しい人権
19,20	法の下での平等	形式的平等と実質的平等、平等に関する諸判例
21	思想の自由	思想の自由の意義と保障範囲
22	信教の自由	信教の自由の沿革、政教分離原則
23~25	表現の自由・結社の自由①~③	表現の自由の優越性、表現の自由規制の法理、結社の自由
26	職業選択の自由	「営業の自由」、経済的自由制限の二分論
27	財産権	財産権の意味、公用収用と損失補償
28	適正手続の保障	デュー・プロセスという発想、告知・聴聞
29~30	社会権①②	社会権の法的性格、生存権、教育を受ける権利、労働基本権

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

上記授業概要の趣旨からして、教科書の該当部分を事前に一読しておくことは必須です。詳細な資料も配布する予定ですが、より自分にとってわかりやすいノートを作成するスキルと習慣を身につけましょう。

学習の際は、教科書の記述、最高裁の判例、授業での私の説明(!)を「受け売り」するのではなく、「ホンマかいな?」という「批判的視点」を常に失わないことが法律の学習にとっては大切だと思います。

授業内容がわからなくなったら、図書館に行って指定教科書以外の教科書をあれこれ「浮気」すると、案外とあなたの思考とフィーリングの会う「お相手」に出会えるかもしれません。

「法学セミナー」と「法学教室」は、図書館に行って(自分の興味のあるところをコピーするだけでもよいので)毎号目を通そう。もちろん新聞やニュースで政治問題へのアンテナを張っておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容に関する理解とその応用力の修得状況を問います。
平常点評価	20 %	確認的な小テスト・小レポートを課し、授業評価に反映させます。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出欠はとりませんが、試験の設問は授業内容を反映したものになります。

私語など他の受講生の学習権を侵害する行為は、当然ながら厳禁です。

これも当然のことですが、私が「ここは大切」といった点は本当に大切なので、とくに集中して聴きましょう。

ある統計によれば、大教室の場合、真ん中より前と後ろでは、前席によく座る受講生の方が成績はよいそうです(根拠には諸説あり)。早めに教室に入り、良い席(ここでいう「良い」とは決して居眠りしやすい席を意味しない)を確保することで、貴重な90分を費やして授業に出る費用対効果が倍増します。

判例に関する部分では、自分が当事者(原告、代理人・弁護士、および裁判官)だったらどういう主張を展開するかといった意識で聴講すると興味がわくでしょう。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法〔第5版〕	芦部信喜〔高橋和之補訂〕／岩波書店／9784000227810／
憲法判例集〔第10版〕	野中俊彦・江橋崇／有斐閣／9784641091580／

概要でも述べたように、この教科書を適宜参照しますので、必携です。

あわせて、どの出版社でもよいので、コンパクトな六法を携帯すること。

憲法 I では、判例がたくさん出てきますので、指定した憲法判例集も必携してください。2冊本の「百選」より値段的にはお得(1000円+税)でコンパクト。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法学教室〔全訂 第2版〕	浦部法穂／日本評論社／4535515190／もし、芦部教科書でつまづいたら、図書館でこの本を手にとってみよう。

他にも憲法の入門書・基本書はたくさんあります。お気に入りの服を選ぶときの試着のように、とにかく図書館であれこれ読み比べてみることに。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

## 憲法Ⅱ (JA) § 憲法Ⅱ (GA)

14794

担当者名 / Instructor 中島 茂樹

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、憲法Ⅰで扱われた人権保障理論を前提として、国民主権と政治制度というテーマのもとに統治機構にかんする諸問題を扱う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

現代社会における国家の諸活動はかつて見られなかったほどに肥大化し、国民の社会・経済生活とのかかわり、したがってまた、国民の権利・自由とのかかわりも著しく複雑・多様な様相を示している。この憲法Ⅱでは、国民主権原理を基軸とし、人権保障の手段としての統治機構という観点から、歴史的な視点と比較憲法的な視点をふまえて、現実政治を洞察できる能力を獲得することを目標としたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国民主権と国民代表制度	国民主権と代表の概念、国民代表制
2	選挙制度と政党	国民主権と選挙制度、政党の憲法上の位置、政治資金の規制と政党への公的助成
3	権力分立の原理	近代憲法の権力分立制、権力分立制の現代的変容
4-6	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会と議院の権能
7-9	内閣	行政権と内閣、内閣の組織と権能、議院内閣制
10-12	裁判所	司法権の意味と範囲、裁判所の組織と権能、司法権の独立
13	違憲審査制	意義と類型、違憲審査権の対象、違憲審査の方法と基準、違憲判決の効力
14	財政	財政民主主義と租税法主義、予算制度
15	地方自治	地方自治の本旨、地方公共団体の機関、条例

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な知識の確認や簡単な事例問題の解決を通じて、論点がしっかり理解できているかを評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記のテキストを用いるほか、レジュメを適宜配布する。受講者を指名して応答を求めるほか、小テストを実施することもある。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法 第5版	芦部 信喜 / 岩波書店 / /

レジュメを適宜配布するので、その他の概説書・基本書でも差し支えない。

## 参考書 / Reference Books

講義に則して適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

法学館憲法研究所 <http://www.jicl.jp>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目



## 授業の概要 / Course Outline

中学校や高等学校や中等教育学校の社会科の諸科目などを通じて当然おなじみになっているはずの日本国憲法は、何よりも「基本的人権」(第11条、第97条)を保障している「国の最高法規であつて、その条規に反する法律、命令、詔勅及び国務に関するその他の行為の全部又は一部は、その効力を有しない」(第98条第1項)ことになっており、とくに権力を行使する「公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」(第99条)とされています。そして、誰もが「法の下に平等」(第14条第1項)な「個人として尊重される」(第13条)ために、「人類普遍の原理」(前文)に基づいて、さまざまな権利の保障が規定され、それぞれの権力の限界が設定されています。

この授業科目【憲法Ⅱ】では、これに直結する授業科目【憲法Ⅰ】において、中学校や高等学校や中等教育学校の社会科に属する諸科目とは違った法学に特有の観点から、日本国憲法存在理由と全体構造(前文、第9章「改正」、第10章「最高法規」)、その基本原理である国民主権と平和主義と人権保障の分野(第1章「天皇」、第2章「戦争の放棄」、第3章「国民の権利および義務」)が履修されていることをふまえ、日本国憲法に基づく権力の構成と抑制の両面に焦点を絞り込み、統治の分野(第4章「国会」、第5章「内閣」、第6章「司法」、第7章「財政」、第8章「地方自治」)の基本的なルールやシステムを解説します。個別の論点について統治の基本原理の双壁をなしている権力分立と国民主権の関係を考察してもらい、全体を通じて日本国憲法に基づく権利と権力の関係を【憲法Ⅰ】とは別の視角から再検討してもらいます。抽象的な理論の展開に終始して無味乾燥だという感想しか得られないようでは困りますから、ときには諸外国との比較を盛り込み、とくには重要な憲法判例の紹介を織り交ぜながら、講義の形式で授業を進めます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本国憲法に基づく統治の基本的なルールやシステムについて、基礎的な学識を着実に修得してもらうこと。もう少し具体的には、講義のなかで解説する学説や判例について批判的に検討してもらい、それを通じて獲得された学識を論理的な文章で説明できる程度に、日本国憲法を使いこなせるようになってもらうこと。

そもそも「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」(学校教育法第52条)とされていますが、この授業科目を通じては、統治をめぐる現実のおよび理論的な諸問題については是非とも「深く専門の学芸」に親しんでもらいたいと思います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

【法学入門】と【憲法Ⅰ】については、実質的にも履修済であることが望まれますが、形式的にも履修である場合などは、参考文献を積極的に活用するなどして、意欲的に補うようにしてください。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	立憲主義	法の支配 法治主義 主権 人権
2	権力分立	抑制と均衡
3	国民主権	正当性の契機 権力性の契機
4	国民主権	憲法制定権力
5	代表	法的代表 社会学的代表 半代表
6	選挙	選挙権 選挙原則
7	選挙	選挙区 代表法
8	政党	政党
9	国会(日本国憲法第4章)	国権の最高機関
10	国会(日本国憲法第4章)	唯一の立法機関
11	国会(日本国憲法第4章)	両院制 会期 会議
12	国会(日本国憲法第4章)	国政調査権
13	国会(日本国憲法第4章)	議員の身分
14	国会(日本国憲法第4章)	議員の特権



15 内閣(日本国憲法第5章)	内閣総理大臣 国務大臣
16 内閣(日本国憲法第5章)	行政権
17 内閣(日本国憲法第5章)	議院内閣制
18 内閣(日本国憲法第5章)	衆議院の解散
19 司法(日本国憲法第6章)	司法権
20 司法(日本国憲法第6章)	法律上の争訟
21 司法(日本国憲法第6章)	裁判所の組織
22 司法(日本国憲法第6章)	裁判所の権限
23 司法(日本国憲法第6章)	裁判官の独立
24 司法(日本国憲法第6章)	裁判官の身分
25 財政(日本国憲法第7章)	財政民主主義
26 財政(日本国憲法第7章)	財政立憲主義
27 地方自治(日本国憲法第8章)	地方自治の本旨
28 地方自治(日本国憲法第8章)	地方公共団体 条例
29 改正(日本国憲法第9章) 最高法規(日本国憲法第10章)	憲法保障 憲法変動
30 改正(日本国憲法第9章) 最高法規(日本国憲法第10章)	憲法適合性審査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で扱う内容に関連した報道などには、日常的に留意しておいてください。授業を欠席した場合は、コースツール(WebCT)を利用して配付済の講義資料を入手し、任意の参考書を活用して補うようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	応用力をともなった学識の定着を確認するため、定期試験期間中に筆記試験を実施します。定期試験の出題には、日本国憲法に基づく論述を求める設問を用い、その完成度を重点的に評価します。
平常点評価	20 %	重要な事項に関する知識と理解を確認するため、授業時間中に短時間の小テストを実施します。小テストの出題には、多肢選択式(択一式)や空所補充式(穴埋式)などの短答式の設問を用います。

この授業科目の成績評価は、定期試験の得点に小テストの得点を加算した合計点に基づき、厳正におこないます。なお、通常の授業時間中に実施する小テストについては、原則として何を参照してもかまわないこととしますが、定期試験については、法学部において2012年度前期の定期試験への持ち込みが許可される種類および状態の六法1冊のみを持ち込み許可物件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

総じて予習よりも復習こそが大切な授業科目なのだと思ってください。そして、効果的かつ効率的な学習のために、継続的かつ系統的な復習を心掛けてください。なお、日本国憲法に基づいて保障される「学問の自由」(第23条)や「教育を受ける権利」(第26条第1項)を、自分の権利としても、他人の権利としても、どうか大切にしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。担当者が独自に作成して配付する資料をもとに講義をおこないます。聴講による学習を効果的かつ効率的に補完するには、概説書(基本書や体系書などとも呼ばれる教科書)などの精読が必要ですが、これについては、講義のなかで紹介する参考書などを各自で用意して、任意の予習や復習に役立ててください。なお、受講に際しては、適当な六法を携行してください。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法〔第5版〕	芦部信喜(著)高橋和之(補訂)／岩波書店／9784000227810／定評あるオーソドクスな概説書です。
18歳からはじめる憲法	水島朝穂(著)／法律文化社／9784589032782／読みやすいコンパクトな入門書です。
演習ノート憲法〔第4版〕	浦田賢治・愛敬浩二(編)／法学書院／4587310134978／使いやすいコンパクトな演習書です。
憲法判例百選Ⅲ〔第5版〕	高橋和之・長谷部恭男・石川健治(編)／有斐閣／9784641114876／統治分野の判例が解説されています。
憲法学読本	安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿(著)／有斐閣／9784641130975／日本国憲法の最新の取扱説明書です。
憲法I統治	毛利透ほか(著)／有斐閣／9784641179134／充実度の高い統治分野の概説書です。
比較憲法〔新版〕	辻村みよ子(著)／岩波書店／9784000289061／理解の幅を広げるのに適しています。

初回の講義の際に以上の7点を含めた参考書の紹介をおこないます。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- (1) [www.asaho.com](http://www.asaho.com)  
水島朝穂氏による  
「平和憲法のメッセージ」
- (2) [www.jicl.jp](http://www.jicl.jp)  
法学館憲法研究所
- (3) [www.ndl.go.jp/constitution/](http://www.ndl.go.jp/constitution/)  
国立国会図書館による  
「日本国憲法の誕生」

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

## その他 / Others

## 拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

憲法Ⅰの履修を前提に、憲法の統治機構に関する部分を扱います。スタイルとしては、憲法学の代表的テキストと定評のある芦部信喜の教科書を記述内容を理解したうえで、「批判的に」読み解くかたちをとります。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・諸外国の制度や大日本帝国憲法との比較という視点も踏まえながら、日本国憲法の統治構造の基本的な枠組みを理解します。その際には、人権論(憲法Ⅰ)との連関や、政治的動態との関係を常に意識できる思考能力を修得します。
- ・統治機構に関する主要な概念を自ら使いこなせるまでに理解します。
- ・憲法学の統治機構に関する論点の所在と学説・判例動向を理解する能力を身につけます。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法Ⅰ

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	統治機構と人権論の関係	近代立憲主義
2,3	権力分立の構造(1)(2)	各国の類型
4,5	国民代表制(1)(2)	純粋代表・政治的代表から半代表・社会学的代表へ
6,7	政党法制(1)(2)	政党の位置づけ、政党の法的枠組み、政治資金規正法制
8,9	選挙制度	選挙に関する憲法上の原則
10,11	国会の地位と権限(1)(2)	最高機関としての国会、国会の唯一の立法機関としての国会
12	国会の地位と権限(3)	二院制の意義と構造
13,14	国会の地位と権限(4)(5)	議員の特権、国会の権限、議院の自律権、国政調査権
15	議院内閣制	政府と議会の関係、解散権論争
16,17	内閣と行政各部	行政の概念、内閣及び内閣総理大臣の地位と権限、内閣の対議会責任、行政各部
18, 19	裁判所(1)	司法権の概念、司法権の範囲
20, 21	裁判所(2)	裁判所の組織と権限、裁判の原則、裁判官の独立
22,23	違憲審査制(1)(2)	違憲審査制の意義、違憲審査制の手法、違憲審査制と民主過程
24	財政	租税法律主義、予算の法的性格、公金支出の制限
25,26	地方自治(1)(2)	地方自治の本旨、地方公共団体の組織と権限、条例、二層制、二元的代表制、住民投票
27	憲法保障	抵抗権、たたかう民主制
28, 29	憲法の変動と改正	憲法変遷の概念、改正手続、現代改憲論の現状と背景
30	まとめと落ち穂拾い	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

上記授業概要の趣旨からして、教科書の該当部分を事前の一読しておくことは必須です。詳細な資料も配布する予定ですが、より自分にとってわかりやすいノートを作成するスキルと習慣を身につけましょう。

学習の際は、教科書の記述、最高裁の判例、授業での私の説明(!)を「受け売り」するのではなく、「ホンマかいな?」という「批判的視点」を常に失わないことが法律の学習にとっては大切だと思います。

授業内容がわからなくなったら、図書館に行って指定教科書以外の教科書をあれこれ「浮気」すると、案外とあなたの思考とフィーリングの会う「お相手」に出会えるかもしれません。

「法学セミナー」と「法学教室」は、図書館に行って(自分の興味のあるところをコピーするだけでもよいので)毎号目を通そう。もちろん新聞やニュースで政治問題へのアンテナを張っておくこと。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	法学部生としての読解力、ライティング力、応用力を前提に、上記授業目標がクリアできているかを問います。
平常点評価	20 %	重要事項に関する基本的概念や学説の内容について理解ができているかを確認するための小テスト(授業内)もしくは小レポート(宿題)を実施します。

詳細は初回開講時に説明します。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語など他の受講生の学習権を侵害する行為は、当然ながら厳禁です。

これも当たり前ですが、私が「ここは大切」といった点は本当に大切なので、とくに集中して聴きましょう。

ある統計によれば、大教室の場合、真ん中より前と後ろでは、前席によく座る受講生の方が成績はよいそうです(根拠には諸説あり)。早めに教室に入り、良い席(ここでいう「良い」とは決して居眠りしやすい席を意味しない)を確保することで、貴重な90分を費やして授業に出る費用対効果が倍増します。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法〔第5版〕	芦部信喜(高橋和之補訂)／岩波書店／9784000227810／現代憲法学の一つの到達点

概要でも述べたように、この教科書を適宜参照しますので、必携です。

あわせて、どの出版社でもよいので、コンパクトな六法を携帯すること。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
憲法入門	市川正人・倉田原志編／法律文化社／立命憲法スタッフ総結集のテキスト
芦部憲法学を読む	高見勝利／有斐閣／4641129592／書名通り、芦部の高弟による芦部憲法学の解説書

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

#### その他 / Others

#### 拡張項目

担当者名 / Instructor 内山 昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代財政の全体像、基本的機能を説明したうえで、税制、個別租税、公債を中心に講義する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

現代財政、日本財政の全体像、輪郭を知る。  
租税の理論、主要3税、公債の制度・理論と公債問題について理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法、財政法、行政法

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 現代財政へのアプローチ	国民主権 2段階説明法 財政民主主義
	第2回 2012年度予算を考える	大震災の復興財政、デフレ不況対策、社会保障と税の 一体改革、
	第3回 現代財政の5大機能	安価な政府、大きな政府、、福祉国家、マスメディア3機 能論
	第4回 現代財政の3つの構成部分	一般会計、4大経費、社会保険、財政投融资、
	第5回 租税と公債の一般理論	租税の定義、租税原則、租税体系、公債の定義、公債 の2つの性格
	第6回 消費課税(1)―一般売上税の理論と諸形態	付加価値税、消費税、多段階課税、単段階課税
	第7回 消費課税(2)―日本の消費税と個別消費税	付加価値税の理論、消費税の構造、特例措置
	第8回 所得税(1)―所得税の制度と理論	所得の定義、5つの所得類型、総合所得税、分離課税、 2元的所得税
	第9回 所得税(2)―日本の所得税	課税ベース、累進税率、税率フラット化、金融所得一体 化課税、クロヨン問題
	第10回 法人税(1)―制度と理論	法人企業、法人所得、固有の法人税、法人実在説、法 人擬制説
	第11回 法人税(2)―日本の法人税	大法人と中小法人、零細法人、法人税の負担配分、法 人税改革
	第12回 シャープ勧告と日本税制	税制の近代化、所得税中心主義、資本蓄積税制、2つ の評価
	第13回 近年の税制改革	新自由主義、税率フラット化、消費税シフト、欧米税制と の比較
	第14回 公債の制度と理論	建設公債、赤字公債、公債管理政策、公債の問題点、 中立命題
	第15回 日本の公債問題	赤字公債の累積、平成不況、2008年世界同時不況、景 気政策

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

経済、政治に関する一般的知識の獲得のため、一般紙、できることなら日本経済新聞を購読することが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	各回で取り上げた諸論点について理解し、自らの言葉で適切に論じることができるかを評価する
平常点評価	20 %	小テスト(計算問題を含む)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。講義の中で配布するレジュメと資料に基づいて講義を行う。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の財政	内山昭 / 税務経理協会 / 4419047216 / 日本財政の表象と財政学の全体像をつかむための書
図説 日本の財政(平成23年度版)	福田 淳一 / 東洋経済新報社 / 978-4492031865 / 現代の日本経済、財政に関する基礎資料
Basic現代財政学(第3版)	重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編 / 有斐閣 / 978-4-641-18377-3 / 日本財政を対象としたオーソドックスなテキスト

その他、講義の中で適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp>

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

## その他 / Others

## 拡張項目

## 財政学Ⅱ (G)

15931

担当者名 / Instructor 内山 昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代財政のマクロ的位置、機能論、財源論など財政の全体像を解説する。  
そのうえで、国防、ODA、インフラ整備、社会保障、地方財政の基本問題について展開する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

今日の経済政策の基本トレンドの中に財政の問題を位置づけて理解する。  
現代財政の重層的構造を各論において、理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

財政学Ⅰを履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 イントロダクション		財政とは、2段階説明法、財政民主主義、予算原則
第2回 現代財政のマクロ的位置		安価な政府、アダムスミス、大きな政府、福祉国家、集権化理論
第3回 現代財政の5大機能		資源配分、再分配、経済安定、環境保全、権力機構の維持、生産の3要素、
第4回 日本の財政システム		一般会計、社会保険、財政投融资、特別会計
第5回 税体系と主要租税		消費税、所得税、法人税
第6回 国防の財政学(1)－制度と理論		防衛費の仕組み、歳出化経費、不生産的経費、市場の創出、憲法第9条
第7回 国防の財政学(2)－日本の軍事大国化		冷戦期、安保体制、ポスト冷戦、日米安保宣言、制約付き軍事大国
第8回 ODA(政府開発援助)の財政学		ODAの定義、ODAの理念、ODA予算、ODAの課題
第9回 インフラ整備の財政学		公共事業、公共投資、社会資本、インフラ整備の動向
第10回 社会保障の財政学(1)－制度と理論		社会保障費、社会保険、医療保険、介護保険、公的年金
第11回 社会保障の財政学(2)－高齢化社会と社会保障		医療費、介護保障、年金問題、税方式、社会保険方式、
第12回 社会保障の財政学(3)－少子化対策の財政問題		子ども手当、保育所、保育料、女性の就労
第13回 地方分権と地方財政－政府間財政関係		団体自治と住民自治、地方交付税、補助金、三位一体改革、
第14回 税源移譲と地方税の拡充		税源配分、都市、農村、不交付団体、準地方税
第15回 講義のまとめ		練習問題

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日常の経済、政治に関する一般的知識の獲得のため、一般紙を購読することが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	財政学の諸論点について理解し、自らの言葉で適切に論じることができるかを評価する
平常点評価	20 %	小テスト

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

**書名 / Title**

日本財政を考える

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

内山昭編著 / 法律文化社 / 2012年10月刊行予定

講義の中でレジュメと資料を配布する。

**参考書 / Reference Books****書名 / Title**

Basic現代財政学[第3版]

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編 / 有斐閣 / 978-4-641-18377-3 / 日本を対象とした財政学のオーソドックスなテキスト

現代の財政

内山昭編著 / 税務経理協会 /

そのほか、適宜講義の中で指示する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**財務省ホームページ <http://www.mof.go.jp>

そのほか、適宜講義の中で指示する。

**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>**その他 / Others****拡張項目**



## 授業の概要 / Course Outline

1999年に地方分権一括法が成立して、今次の地方分権改革が始まったが、2006年に地方分権改革推進法ができ、2007年から第2次地方分権改革がスタートしたが、その後新政権になって、地方政府基本法の制定の動きや地方自治法の抜本的改正の動きがある。また、近時においては道州制や議会と長の関係など地方制度の今後の動向が注目されている。さらに、最近では、名古屋市の議会解散などを契機に、住民と自治体の関係も根本的に改革される機運が生まれようとしている。本講義では、こうした流動的状況を踏まえながらも、現行の地方自治制度の法的仕組みをできるだけわかりやすく説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

地方自治の法制度の全体像を把握できるようになる。  
地方自治に関わる法的紛争について理解ができるようになる。  
自治体実務について関心をもつことができるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地方自治法は行政組織法の一部であるので、行政法の履修が望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の進め方、地方自治の仕組みの概要、自治体の種類など	団体自治と住民自治
第2回	自治体の事務の問題について、概説する。特に、自治事務と法定受託事務について解説する。	自治事務、法定受託事務、関与
第3回	国と地方の関係 団体自治のテーマである「国と地方の関係」について説明する。	自治権、国の関与
第4回	特別地方公共団体 民間委託や指定管理者制度など、地方自治の担い手の変容について説明する。	特別区、組合 外郭団体、公の施設
第5回	地方分権改革の動向について説明する。特に、議会と長の関係といった制度改革の議論にも関心を寄せたい。	道州制、「議会」内閣制とは
第6回	自治体の組織構造(1) 自治体組織の基本構造原理である首長制について詳しく説明する。自治体の議事機関たる議会について説明する。	二元代表制、 議会の権限
第7回	自治体の組織構造(2) 議会に引きつづき、長を中心とする執行機関について説明をしたのち、議会と長の関係について法的視点から考察する。また、地方公務員法制についても簡単に触れる。	執行機関の多元主義、長の総合調整権 議会と長の関係(長の不信任と議会解散、再議権、専決処分)
第8回	自治体法論(1) 自治体の法形式、条例、特に条例制定権(自治立法権)について説明する。	条例、規則
第9回	自治体法論(2) 地方自治法の重要なテーマのひとつである法令と条例の関係について、判例を紹介しつつ説明する。	自主条例、徳島市公安条例事件最高裁判決、法律先占論
第10回	自治体法論(3) 規則や要綱など条例以外の自治体法について説明する。	
第11回	住民の権利総論 自治体の情報公開制度	

第12回  
直接民主主義的制度(1)  
直接請求制度の解説し、住民参加制度の1つであるパブリックコメント手続について紹介する。

投票結果の法的拘束力

第13回  
直接民主主義的制度(2)  
住民投票制度の動向についてその問題点も含め紹介する。

第14回  
住民訴訟(1)  
住民監査請求制度の概要、住民訴訟制度の概要を説明する。

監査委員、財務会計行為

第15回  
住民訴訟(2)  
住民訴訟に関する判例を分析する。

住民訴訟の拡大傾向

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

現実の地方自治の動きに関心を持って欲しい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	地方自治法の基本的問題に関して出題する。地方自治法の基本的知識を理解しているかが評価の基準である。

場合によっては、定期試験の評価に加えて小レポートを課すことがあることを留意しておいてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストを中心に講義をすすめるが、地方自治法の改正などテキストでは不十分な場合は随時レジュメで補うことにする。また受講生は最新法改正にも関心を持ってほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ホーンブック地方自治法	人見剛・須藤陽子編著 / 北樹出版 / /スタンダードな内容である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地方自治判例百選	/有斐閣//
地方自治法概説第4版	宇賀克也 / 有斐閣 / /概説書としては詳しい内容である

判例百選を授業で使うことはあまりないが、参照してもらうときは指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

その他 / Others

拡張項目

## 物権法 (JA) § 物権法 (GA)

15993

担当者名 / Instructor 木村 和成

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基本民法(412条～422条、521条～724条)および民法総則(1条～174条の2)で取り扱われた内容を理解していることを前提に、民法第二編物権のうち担保物権を除く部分(175条～294条)について講義します。平たく言えば、所有権に代表される、「物」についての権利関係を取り扱います。

講義は、いずれの部分においても、基本的に、「各制度・条文(規定)の趣旨」および「判例による条文の解釈とその論理」の説明で構成されます。学説については、それらの延長上において、必要な範囲で言及するにとどめます。まずは制度・条文(規定)の趣旨、判例の考え方をしっかり押さえることが重要です。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 各制度・条文(規定)の趣旨を理解すること。
- (2) 判例による条文の解釈とその論理を理解すること(判例の考え方に問題がある場合は、その問題点を理解した上で、判例と異なる考え方についても理解を深めること)
- (3) 具体的な紛争に接した場合に、以上の理解を踏まえ、適切な法規を適用し、論理的で説得力のある結論を導き出すこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- (1) 基本民法・民法総則  
単位が取得できているかどうかは別として、これらの講義で取り扱われた内容を理解していることを前提として講義を進めます。
- (2) 債権総論  
同時期に開講されているのでこの講義と並行して必ず履修してください。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1-2 物権法入門	物権の基本的性質、物権法定主義、物権的請求権
	3-9 物権の変動	公示・公信の原則、対抗要件、登記、引渡し、占有、即時取得、明認方法
	10 物権の消滅	放棄、混同
	11 占有権	占有訴権
	12-13 所有権	添付、共有、区分所有
	14-15 用益物権	地上権、永小作権、地役権、入会権

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

開講前に、基本民法で使用したテキストである池田真朗『スタートライン民法総論』(第2版が出ているが初版でもよい)の「物権法の概観」(第2版では55～68頁)に目を通しておいてください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述式の試験で上記の目標への到達度を検証します。
平常点評価	0 %	※講義中の私語等により退室を求められるような著しい受講態度不良があった場合には、定期試験の結果にかかわらず不合格(F評価)とします。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

六法必携。  
教科書は特に指定しませんが、自学自習用に下記の参考書3冊のうちいずれか1冊を購入するとよいでしょう。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法の基礎 2 物権	佐久間毅 / 有斐閣 / /
LEGAL QUEST 民法 2 物権	石田剛ほか / 有斐閣 / /
NOMIKA 2 物権・担保物権法	松尾弘ほか / 弘文堂 / /
判例ブラクティス 民法 総則・物権	松本恒雄ほか / 信山社 / / 判例集

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

授業後の質問時間は限られているので、「チェックシート」を配布し、基本的にはこれにより質問等を受け付けます。  
質問等への回答は、講義終了後できるだけ速やかにコースツールに掲載しますので、各自チェックしておいてください。

その他 / Others

最後に注意事項を2つ。

- (1) レジюме・板書に基づいて講義を進めますが、この講義で使用するすべてのレジюмеは冊子化して初回授業で配布します。残部は法学部事務室に置いておきますので、取り忘れた方はそちらから受け取ってください。
- (2) 私語には相当厳しい対応をしますのであらかじめご了解下さい(実際に注意を受ける人は稀ですが)。

拡張項目

## 物権法 (JB) § 物権法 (GB)

15994

担当者名 / Instructor 小田 美佐子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

民法典第二編「物権」のうち担保物権を除く部分を中心に扱う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

物権はどのような権利であるのか、どのような性質を備えているのか、物権にはどのような種類のものがあるのか、どのような効力があるのか、不動産物権と動産物権の変動をめぐる問題は何かについて、その基本的理解を得る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義の概観	物権、不動産物権、動産物権
2	物権法序論	物権の意義と性質、客体、種類
3	物権の一般的効力	優先的効力、物権的請求権
4	物権変動論序説	物権変動の意義と原因、公示の原則、公信の原則
5	物権変動を生じる法律行為	物権変動における2つの立法主義、日本民法の解釈
6	不動産物権変動(1)	対抗要件、二重譲渡の法的構成
7	不動産物権変動(2)	登記を必要とする第三者の範囲
8	不動産物権変動(3)	取消と登記、解除と登記
9	不動産物権変動(4)	取得時効と登記、解除と登記
10	動産物権変動(1)	引渡しの意味・種類
11	動産物権変動(2)	即時取得
12	占有権	占有訴権等
13	所有権と共同所有	共有等
14	用益物権(1)	地上権、「借地権」、土地賃借権、永小作権
15	用益物権(2)	地役権、入会権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	物権に関する基本的な概念、考え方の理解

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 民法総則 (JA) § 民法総則 (GA)

14803

担当者名 / Instructor 本山 敦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

民法第1編総則(1条~174条の2)および関連する諸制度について講義する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

民法第1編総則および関連する諸制度を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生後期配当の「基本民法」

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	教科書(永田)第1章 民法とは何か	民法の守備範囲、民法のシステム、裁判に際して基準となる「法」(法源)、民法の解釈とその方法
2	教科書(永田)第1章 民法とは何か、第2章 私権	民法の基本原則、民法の適用範囲、社会関係・法律関係と権利・義務、私権の分類、私権行使についての原則
3	教科書(永田)第3章 人	権利者や義務者としての「人」—権利能力、取引行為者としての「人」—意思能力と行為能力
4	教科書(永田)第3章 人	行為能力の制限(その1)
5	教科書(永田)第3章 人	行為能力の制限(その2)
6	教科書(永田)第4章 法人	法人制度の位置づけ、法人の設立
7	教科書(永田)第4章 法人	権利能力なき社団
8	教科書(永田)第4章 法人	法人の機関、法人の取引行為、法人の不法行為、法人の消滅
9	教科書(永田)第5章 物	私権の客体、物の分類
10	まとめ1	復習
11	教科書(永田)第6章 法律行為と意思表示	法律行為と意思表示の関係、意思表示の到達と受領、法律行為と意思表示の解釈
12	教科書(永田)第6章 法律行為と意思表示	不完全な意思表示(その1)
13	教科書(永田)第6章 法律行為と意思表示	不完全の意思表示(その2)
14	教科書(永田)第6章 法律行為と意思表示	不完全の意思表示(その3)
15	教科書(永田)第6章 法律行為と意思表示	不完全の意思表示(その4)
16	教科書(永田)第7章 法律行為の自由と制約	実現可能性、適法性、社会的妥当性(その2)
17	教科書(永田)第7章 法律行為の自由と制約	消費者契約(その1)
18	教科書(永田)第7章 法律行為の自由と制約	消費者契約(その2)
19	教科書(永田)第8章 無効と取消し	無効
20	教科書(永田)第8章 無効と取消し	取消し
21	まとめ2	復習





担当者名 / Instructor 谷本 圭子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

法学入門および基本民法において扱われた内容を理解していることを前提に、民法第一編総則(1条～174条の2)について講義します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 各制度の制度趣旨を理解する。
- (2) 基本的な条文の要件と効果を正確に把握する。
- (3) 具体的な紛争に適切な法規範を適用する能力を習得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

法学入門、基本民法。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 はじめに～基本民法の復習～	
	第2回 民法総則入門～通則～	パンデクテン方式、公共の福祉、信義則、権利濫用の禁止、一般条項
	第3回 自然人(1)	権利能力、意思能力、行為能力、同時死亡の推定、失踪宣告
	第4回 自然人(2)	意思能力、行為能力、未成年者、後見
	第5回 自然人(3)	保佐、補助、催告、詐術
	第6回 法人(1)	社団法人、財団法人、公益法人、営利法人、非営利法人
	第7回 法人(2)	法人の権利能力・行為能力、権利能力なき社団・財団
	第8回 物	有体物、不動産と動産、主物と従物、元物と果実
	第9回 問題演習(1) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
	第10回 法律行為総論	法律行為、意思主義、表示主義、慣習、任意規定、強行規定、条理、公序良俗
	第11回 意思表示総論、心裡留保、虚偽表示(1)	意思の不存在、瑕疵ある意思表示
	第12回 虚偽表示(2)	94条2項の類推適用、善意の第三者
	第13回 錯誤	要素の錯誤、表示錯誤、動機錯誤
	第14回 詐欺、強迫	取消しと第三者
	第15回 消費者契約法における特則、意思表示にかかわるその他の問題	誤認の惹起、困惑の惹起、不当条項規制、到達主義
	第16回 問題演習(2) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
	第17回 代理(1)	法定代理、任意代理、自己契約、双方代理、代理権の濫用
	第18回 代理(2)	代理行為、代理行為の瑕疵、無権代理
	第19回 代理(3)	無権代理
	第20回 代理(4)	表見代理

第21回 代理(5)	表見代理
第22回 問題演習(3) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
第23回 無効、取消し	無効行為の転換、追認
第24回 条件、期限、期間の計算	停止条件、解除条件、期限の利益、初日不算入の原則
第25回 時効(1)	消滅時効、起算点、援用
第26回 時効(2)	中断、停止
第27回 時効(3)	除斥期間、権利失効の原則
第28回 時効(4)	取得時効、占有
第29回 問題演習(4) ※講義の進度調整にあてる可能性あり	
第30回 講義のまとめ、民法改正の動き	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義での理解をスムーズなものとするために、予習・復習をする(教科書の該当部分をあらかじめ通読しておく、授業後に読んでみる)ことを望みます。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述式の試験で、上記の到達目標に到達しているかどうかを見ます。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必ず予習・復習をするようにしてください。  
予習をしなければ、講義についていけなくなる可能性があります。  
復習を怠らなければ、試験前にあわてることもなくなると思います。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法の基礎1(第三版)	佐久間毅 / 有斐閣 / /
民法 I	内田貴 / 東大出版会 / /

講義自体はレジュメと板書により行いますが、予習・復習用に必ず一冊は教科書を手元に置いてください。上記以外でも、自分に合うかどうかを書店で手に取ってみて、自分で選んでみてください。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法講義 I (第二版)	山本敬三 / 有斐閣 / /
民法判例百選 I (第六版)	中田裕康ほか編 / 有斐閣 / /
判例プラクティス I	松本恒雄ほか編 / 信山社 / /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、1回生後期の基本民法・債権各論で学習した内容を前提として、民法第1編「総則」の概説を行うものである。条文の範囲は、民法1条～37条、および85条～174条である。民法総則は、民法特に財産法の範囲に関する共通のルールを民法典の先頭に括りだして規定しており、民法の中でも最も中々でよドの高い領域である。しかし、既に1回生後期の基本民法で、典形契約に関する具体的イメージを形成していれば、民法総則の抽象的な条文を理解することは、比較的容易なはずである。この「民法総則」の授業では、異常に挙げた範囲の抽象的な条文が、基本民法・債権各論の規定等とどのような関連を持つかを意識しながら、わかりやすく解説していく。

民法は、私法(市民と市民間の法律関係を規律する法)の一般法(原則となる法)であるといわれる。それだけに本講義で習得する内容は、他の科目の理解にも必要であることが多い。90分の授業が修2コマ開講されるため、1回の授業で進む量は、かなり多いものと覚悟してほしい。したがって、担当教員の指示に従い、予習や復習をしっかりと行うことが求められる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ① 民法の基本的な思考方法を身につける。
- ② 民法典に用意された制度の全体像を、大まかに理解する。
- ③ 各条文の要件・効果を正確に覚える。
- ④ 教科書や判例など、長文の法律文献を読む習慣を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生後期の基本民法・債権各論。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 民法総則・序論	民法の意義、歴史、法源、民法の基本原則 民法典の概観、民法典の成立と沿革、法体系の中の民法の位置づけ、民法典の構造(パンデクテン方式)
	第2回 権利行使の基本原則	信義誠実の原則、権利濫用の禁止、公共の福祉
	第3回 契約の成立——契約成立のプロセス(基本民法の復習を兼ねて)	契約の種類(双務契約・片務契約、有償契約・無償契約等)、「契約の拘束力」、申込みと承諾、申込みの誘引、契約の成立時期(到達主義・発信主義)
	第4回 契約の拘束力と有効性——法律行為総論	「契約の拘束力」、法律行為、意思主義・表示主義、慣習、任意規定・強行規定、一般条項、条理、公序良俗
	第5回 権利の主体・自然人(1)—権利能力・意思能力	権利能力、意思能力、行為能力、同時死亡の推定、失踪宣告
	第6回 権利の主体・自然人(2)—制限行為能力者制度①	未成年者、成年被後見人、被保佐人、被補助人
	第7回 意思能力・行為能力(3)—制限行為能力者制度②	取引の相手方の保護、催告、制限行為能力者の詐術
	第8回 真に納得のない意思表示(1)—心裡留保・虚偽表示(1)	意思の不存在、瑕疵ある意思表示
	第9回 真に納得のない意思表示(2)—虚偽表示(2)	民法94条2項類推適用法理、「善意の第三者」
	第10回 真に納得のない意思表示(3)—錯誤	「要素の錯誤」、表示の錯誤・動機の錯誤、重過失
	第11回 真に納得のない意思表示(4)—詐欺・強迫	「取消し前の第三者」、「取消し後の第三者」、善意・悪意
	第12回 真に納得のない意思表示(5)—第三者の保護要件ほか	無効と取消し、消費者契約法、誤認の惹起、困惑の惹起、不当条項規制
	第13回 法律行為の自由と制約——契約の解釈・修正と補充	強行法規と公序良俗、契約の解釈と補充
	第14回 問題演習(1) ※講義の進度調整に充てる可能性あり	
	第15回 代理(1)	法定代理(特に、制限行為能力者の保護との関係)、任意代理、自己契約、双方代理、代理権の濫用
	第16回 代理(2)	代理行為、代理行為の瑕疵、無権代理

第17回 代理(3)	無権代理、本人の追認、相手方の催告権と取消権、無権代理人の責任
第18回 代理(4)	表見代理、代理権授与表示による表見代理、権限以外の行為の表見代理
第19回 代理(5)	表見代理、代理権消滅後の表見代理、「無権代理と相続」
第20回 代理(6)	表見代理の効果、無権代理と表見代理の関係
第21回 問題演習(2) ※講義の進度調整に充てる可能性あり	
第22回 無効と取消し(2)、付・条件と期限	無効行為の転換、追認、停止条件・解除条件、期限の利益、初日不算入の原則
第23回 時効(1)	消滅時効、時効の起算点、時効の援用
第24回 時効(2)	時効の中断と停止
第25回 時効(3)	除斥期間、権利失効の原則
第26回 時効(4)	取得時効、占有、時効制度の存在理由
第27回 法人(1)	法人制度の位置づけ、社団法人と財団法人
第28回 法人(2)——法人の設立	法人の目的と法人の設立、一般社団法人・一般財団法人、公益法人の認定、権利能力なき社団
第29回 法人(3)——法人の機関、法人の取引行為	法人を動かす「機関」、一般社団法人の機関、一般財団法人の機関。法人が権利者となる範囲、法人の不法行為
第30回 全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自、毎回の儒教に必ず六法を持参すること。また、授業の理解を容易にするために、受講生には事前の学習(予習)が求められる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	民法第1編「総則」の諸制度・規定、関連する法概念を一通り理解でき、各条文が適用される典型的な事例を想起することができ、その事例について、条文の解釈と事例への当てはめができること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法総則	中谷寛樹 / 日本評論社 / 978-4-535-51782-0 / メインのテキストとして使用する。ただし、下記の「備考」「備考」を参照。
スタートライン民法総論[第2版]	池田真朗 / 日本評論社 / 978-4-535-51829-2 / I 回生後期の基本民法・債権各論で、既に初版を購入していれば、その初版をそのまま使用すれば足りる。改めて第2版を購入する必要はない。

上記の指定テキスト、中谷寛樹『民法総則』をメインのテキストとして使用するが、I 回生後期の基本民法・債権各論で購入・使用した、池田真朗『スタートライン民法総論』も併用する。到達目標としては、池田・スタートラインの理解が最低限のレベルであって、中谷『総則』はそれに上積みをするための教材である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民法判例百選 I 総則・物権[第6版]	／有斐閣／／
民法総則講義	河上正二 / 日本評論社 / 978-4-535-51596-3 /
民法の基礎1 総則	佐久間毅 / 有斐閣 / 978-4-641-13518-5 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 日本語教育学 I (LA)

14221

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本語の知識, 教育観, 国際感覚, 外国語学習, 外国語教育について理解を深める. 特に言語学, 日本語の文法・音声・語彙・語用などを学び, 日本語教育に必要とされる基礎的な知識の習得を目指す.

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに, 日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション, 言語学	比較言語学, 日本語の起源
2	言語学	ソシユールの言語学
3	言語学	形態論, 語彙論
4	言語学	形態論, 語彙論
5	言語学	音声学, 音声器官
6	言語学	音声学, 日本語の音声
7	言語学	意味論, 古典的意味論, 認知言語学
8	言語学	意味論, 認知言語学, カテゴリー
9	言語学	意味論, 認知言語学, 比喩, イメージスキーマ
10	日本語の文法	品詞, 動詞の「活用」, 日本語学史
11	日本語の文法	動詞
12	日本語の文法	受身, 使役, ヴォイス, テンス
13	日本語の文法	アスペクト
14	日本語の文法	モダリティ, 格
15	日本語の文法	提題, 指示詞

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習は特に必要としないが, 復習により学んだ知識を少しでも定着させること. 理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う, 文献に当たる, 教師に質問する等のことを行うこと. 特に教師に対する質問においては遠慮は不要なので, 話の途中で遮ってでも質問すること.

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	・授業内容の理解度 ・レポートの構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる.

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

fleetwood@mac.com / il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Others

拡張項目

## 日本語教育学 I (LB)

14223

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本語の知識, 教育観, 国際感覚, 外国語学習, 外国語教育について理解を深める. 特に言語学, 日本語の文法・音声・語彙・語用などを学び, 日本語教育に必要とされる基礎的な知識の習得を目指す.

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに, 日本語を含む言語一般の持つ様々な問題を自分自身で分析できるようになるための方法論を身につけることが目標とされる.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション, 言語学	比較言語学, 日本語の起源
2	言語学	ソシユールの言語学
3	言語学	形態論, 語彙論
4	言語学	形態論, 語彙論
5	言語学	音声学, 音声器官
6	言語学	音声学, 日本語の音声
7	言語学	意味論, 古典的意味論, 認知言語学
8	言語学	意味論, 認知言語学, カテゴリー
9	言語学	意味論, 認知言語学, 比喩, イメージスキーマ
10	日本語の文法	品詞, 動詞の「活用」, 日本語学史
11	日本語の文法	動詞
12	日本語の文法	受身, 使役, ヴォイス, テンス
13	日本語の文法	アスペクト
14	日本語の文法	モダリティ, 格
15	日本語の文法	提題, 指示詞

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習は特に必要としないが, 復習により学んだ知識を少しでも定着させること. 理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う, 文献に当たる, 教師に質問する等のことを行うこと. 特に教師に対する質問においては遠慮は不要なので, 話の途中で遮ってでも質問すること.

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	・授業内容の理解度 ・レポートの構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる.



教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

fleetwood@mac.com / il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Others

拡張項目

## 日本語教育学Ⅱ (LA)

17125

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「日本語教育学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、日本語教育や国際交流に関わっていく際に必要な日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習、外国語教育について、日本語教育に求められる発展的な力を養成する。語用論、言語習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなどの観点から学ぶ。同時に、バイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化間コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育への導入を行う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育の現状及び多様な文化的背景を持つ学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰで学習した内容を土台としたトピックが多いので、先に履修しておくことが強く望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	オリエンテーション, 言葉の位相
2	語用論	発話行為, 間接発話行為, 協調の原理
3	語用論	ポライトネス・ストラテジー
4	語用論	非言語コミュニケーション, アコモデーション理論, コミュニケーション・スキル, アサーティブ・コミュニケーション
5	社会言語学	言語接触, ピジン・クレオール, 言語連合, 外来語
6	第二言語習得	対照分析研究, 誤用分析研究, 中間言語研究
7	第二言語習得	バイリンガリズム, イメージョン・プログラム
8	第二言語習得	年少者に対する日本語教育, 学習者のストラテジー
9	方言と共通語	方言, 共通語, ネオ方言, 新方言
10	方言と共通語	ウチナーヤマトウグチ, コード・スイッチング
11	異文化コミュニケーション	異文化適応, リエントリー・クライシス
12	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング, 気づきのエクササイズ
13	異文化コミュニケーション	異文化トレーニングの形式・目的・内容
14	音声教育	音声教育の教材・教授法
15	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ, 自己研修型教師

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に質問する等のことを行うこと。特に教師に対する質問においては遠慮は不要なので、話の途中で遮ってでも質問すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	・授業内容の理解度 ・文章の構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる。

教科書 / Textbooks

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

fleetwood@mac.com / il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Others

拡張項目

## 日本語教育学Ⅱ (LB)

17138

担当者名 / Instructor 出口 雅也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「日本語教育学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、日本語教育や国際交流に関わっていく際に必要な日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習、外国語教育について、日本語教育に求められる発展的な力を養成する。語用論、言語習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなどの観点から学ぶ。同時に、バイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化間コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育への導入を行う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育の現状及び多様な文化的背景を持つ学習者の実態への理解を深め、言語・日本語・日本語教育等に関する個々の知識を検定や教育の現場で役に立つ能力へとつなげていくことが目標とされる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰで学習した内容を土台としたトピックが多いので、先に履修しておくことが強く望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	オリエンテーション, 言葉の位相
2	語用論	発話行為, 間接発話行為, 協調の原理
3	語用論	ポライトネス・ストラテジー
4	語用論	非言語コミュニケーション, アコモデーション理論, コミュニケーション・スキル, アサーティブ・コミュニケーション
5	社会言語学	言語接触, ピジン・クレオール, 言語連合, 外来語
6	第二言語習得	対照分析研究, 誤用分析研究, 中間言語研究
7	第二言語習得	バイリンガリズム, イメージョン・プログラム
8	第二言語習得	年少者に対する日本語教育, 学習者のストラテジー
9	方言と共通語	方言, 共通語, ネオ方言, 新方言
10	方言と共通語	ウチナーヤマトウグチ, コード・スイッチング
11	異文化コミュニケーション	異文化適応, リエントリー・クライシス
12	異文化コミュニケーション	異文化トレーニング, 気づきのエクササイズ
13	異文化コミュニケーション	異文化トレーニングの形式・目的・内容
14	音声教育	音声教育の教材・教授法
15	アクション・リサーチ	アクション・リサーチ, 自己研修型教師

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

予習は特に必要としないが、復習により学んだ知識を少しでも定着させること。理解が不完全だと感じた部分については友人と話し合う、文献に当たる、教師に質問する等のことを行うこと。特に教師に対する質問においては遠慮は不要なので、話の途中で遮ってでも質問すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	・授業内容の理解度 ・文章の構成力
平常点評価	50 %	・出席 ・タスク・ディスカッションなどへの能動的な参加

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に行われるタスクやディスカッションへの積極的な参加が大いに望まれる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

ハンドアウト配布(ハンドアウトがかなり多いので、ハンドアウトを整理できるようクリアファイルなどを準備すること)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

fleetwood@mac.com / il.nome.della.rosa@softbank.ne.jp

その他 / Others

拡張項目

## 日本語教授法演習 (LA)

15333

担当者名 / Instructor 丸山 敬介

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

互いが模擬教師・模擬学習者になって、初級段階の日本語指導の実際を経験してみる。

授業は、まず教師が指導の手順や留意点を示し、次にそれにしたがって各学生が模擬教師・模擬学習者になって指導してみる、というのを基本形とする。前半は個々の項目の指導、後半は実際の日本語教科書に沿った指導を行う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本語教育初級段階の指導の基礎的技術を習得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教授法基礎演習

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	履修上の留意点 ひらがな指導演習 1	ひらがな表記の規則 1
2	ひらがな指導演習 2	ひらがな表記の規則 2
3	ひらがな指導演習 3	アクセントの指導
4	ひらがな指導演習 4	ひらがな指導の実際 1
5	ひらがな指導演習 5	ひらがな指導の実際 2
6	動詞の活用指導演習 1	動詞の基本的知識
7	動詞の活用指導演習 2	スティック・フィギアの書き方 1
8	動詞の活用指導演習 3	スティック・フィギアの書き方 2
9	動詞の活用指導演習 4	形容詞指導の実際
10	動詞の活用指導演習 5	動詞の活用指導の実際
11	「これ/それ/あれ」の指導演習 1	「こ/そ/あ」の基本知識
12	「これ/それ/あれ」の指導演習 2	「これ/それ/あれ」の指導の実際 1
13	「これ/それ/あれ」の指導演習 3	「これ/それ/あれ」の指導の実際 2
14	「あげる/もらう/くれる」の指導演習 1	「あげる/もらう/くれる」の基礎知識
15	「あげる/もらう/くれる」の指導演習 2	「あげる/もらう/くれる」の指導の実際
16	日本語教育初級段階の指導の基礎 1	初級段階の指導における授業構造 1
17	日本語教育初級段階の指導の基礎 2	初級段階の指導における授業構造 2
18	日本語教育初級段階の指導の基礎 3	初級段階の指導における授業準備 1
19	日本語教育初級段階の指導の基礎 4	初級段階の指導における授業準備 2
20	日本語教育初級段階の指導の基礎 5	初級段階の指導における授業準備 3

21 実習 1	『みんなの日本語』(スリーエーネットワーク) 第2課
22 実習 2	同上 第3課
23 実習 3	同上 第4課
24 実習 4	同上 第5課
25 実習 5	同上 第6課
26 実習 6	同上 第7課
27 実習 7	同上 第8課
28 実習 8	同上 第9課
29 実習 9	同上 第10課
30 実習 10	同上 第11課

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じ、都度の指示を行う。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	一人ひとりが教壇に立つため、一度欠席するとその事柄についてはキャッチ・アップが難しくなる。したがって、全時数を通して出席を見る。 加えて、前半は、各自、各回、いかに積極的に授業に参加したかを評価する。後半は、グループに分け、そのグループごとに実習を行うが、その実習の様をもって評価の対象とする。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実践を重視する授業なので、各自の積極的な参加を期待する。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教え方の基本 改訂版	丸山敬介 / 京都日本語教育センター / 4-89358-531-2 C3081 /

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教えるためのことばの整理 1	丸山敬介 / 京都日本語教育センター / 4-89358-591-2 C3081 /
授業の組み立て	丸山敬介 / 京都日本語教育センター / 4-89358-557-6 C3081 /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

#### その他 / Others

#### 拡張項目

## 日本語教授法演習 (LB)

15331

担当者名 / Instructor 下條 正純

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

授業計画と実施のための知識を身につけ、日本語教育現場で必要となる実践的な力を養う。前期は、コースデザインの方法と主な外国語教授法を確認した上で、初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や対象学習者別の指導法を検討する。後期は、前期の学習内容をもとに、具体的にどのように授業を組み立て、どのような練習を行えばよいかを学ぶ。その後、初級学習者を対象とした設定で教案を作成し、模擬授業と授業分析を行う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

前期:

- 1) 実際に日本語を教える前に必要な準備項目と準備方法について知る。
- 2) 初級の教材分析を通して日本語教育の教材と教材選択について理解する。
- 3) 日本語教育における教授法の基礎知識を学び、授業への取り入れ方について理解する。

後期:

- 1) 初級レベルの学習者の日本語能力や適切な学習活動について知る。
- 2) 一回の授業の組み立て方について理解する。
- 3) 教師と学習者、双方の視点から日本語教育について考える姿勢を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語教育学Ⅰ、日本語教育学Ⅱ、日本語教授法基礎演習

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日本語教師の役割	
2	コースデザイン①(レディネス、ビリーフ、ニーズ)	
3	コースデザイン②(シラバス)	
4	コースデザイン③(授業の目標、教材、教具)	
5	コースデザイン④(副教材の利用)	
6	教材分析	
7	教授法①(文法翻訳法、直接法、オーディオリンガル法)	
8	教授法②(TPR、CLL、今日の教授法について)	
9	教授法③(コミュニケーション・アプローチ)	
10	教材分析発表	
11	教材分析発表	
12	教材分析発表	
13	教材分析発表	
14	個別指導	
15	個別指導	
16	初級で身につけさせたい能力	
17	コミュニケーション能力を育てる授業①	
18	コミュニケーション能力を育てる授業②	



19  
コミュニケーション能力を育てる授業③

20  
授業設計

21  
教え方の基礎

22  
個別指導

23  
個別指導

24  
模擬授業

25  
模擬授業

26  
模擬授業

27  
模擬授業

28  
模擬授業

29  
模擬授業

30  
まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	・後期末レポート20%
平常点評価	80 %	・前期末レポート20% ・教材分析発表20% ・模擬授業20% ・出席・参加度20%

受講者数等により授業スケジュールを変更する場合がある。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本語教師の役割／コースデザイン	国際交流基金／ひつじ書房／978-4-89476-301-2／前期使用
初級を教える	国際交流基金／ひつじ書房／978-4-89476-309-8／後期使用

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
クラスルーム運営	横溝紳一郎／くろしお出版／978-4-87424-535-4／魅力的な授業のためのヒントが満載
実践にほんご指導 見なおし本一語彙と文法指導編	K.A.I.T.／アスク／授業計画を立てる際、活動を考えるヒントになる
日本語の教え方ABC	寺田和子、他／アルク／授業計画を立てる際、活動を考えるヒントになる
日本語教授法ワークショップ	鎌田修、他／凡人社／多様な教授法が紹介されている
すぐに役立つ日本語の教え方	小島 聡子／アルク／初心者向けに授業計画を説明している
初級日本語文法と教え方のポイント	市川保子／スリーエーネットワーク／授業計画を立てる際、活動を考えるヒントになる

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

初回の授業で説明する。

その他 / Others

拡張項目

## 日本語教授法基礎演習 (LA)

15334

担当者名 / Instructor 北出 慶子、前口 織江

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

外国人に日本語を指導するには以下の2つが課題である。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるのかという方法である。前期はそのうち内容について学ぶ。

音声・音韻、文字、語彙、文法など日本語の体系を十分に理解していなければならない。まず音声・音韻では日本語の音声・発音の特徴を概説する。また文字・語彙では中国漢字など外国語との比較を行い、そこから日本語の特徴を概観する。文法に関しては、日本語学習者の苦手とするテンス・アスペクト・ムードなどの述部の特徴を中心に取り上げる。

後期ではもうひとつの課題である方法について学習する。まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観し、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの問いかけ等の働きかけに焦点をあて、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。最後に評価法について学び、信頼性・妥当性ある評価の方策を考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 日常生活でも留学生や異文化に対する理解を深める姿勢をもつこと。また日本語教育能力検定試験に挑戦すること。
- 2 日本語教授法には無数の方法があり、絶対的なものがあるわけではない。学習者ひとりひとりで目的等が異なるからである。それを理解した上で、学習者に適した方法はどれかなど、自分なりに試行錯誤する姿勢をもつこと。そのためには、日常生活において自分の使用する日本語に強く意識・観察・調べる態度を身につけること。
- 3 講義の内容を正確に理解し、自分のことばで文章化できること。またタスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- 日本語学・日本語教育に関わる科目。
- 日本事情・異文化間コミュニケーション周辺の科目。
- 自らも外国語教育を通して外国語学習者の気持ちが理解できるべく、外国語科目。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期ガイダンス、コース・デザインのためのニーズ分析、レディネス調査、学習者背景調査の実施	成績評価法および受講ルールの説明、前期15回に亘るコースデザインの概観
2	ニーズ分析と抽出、コース・デザイン(シラバス・カリキュラム)の修正	音声・音韻論1 [IPA]と50音図の比較
3	音声・音韻論2	拍とシラブル
4	音声・音韻論3 アクセントとイントネーション、プロミネンス	客観テスト1「音声・音韻論」
5	タスク1「音声・音韻論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する。	相互評価
6	文字・語彙論1	日本語の文字、仮名と漢字と外来語
7	文字・語彙論2	語の構成
8	文字・語彙論3 語の意味	客観テスト2「文字・語彙論」
9	タスク2「文字・語彙論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する。	相互評価
10	文法一構文論1	日本語構文の特徴
11	文法一構文論2	テンスとアスペクト
12	文法一構文論3 モダリティとボイス(自動詞・他動詞)	客観テスト3「文法一構文論」
13	タスク3「文法一構文論」についての課題。課題内容については該当授業時に提示する。	相互評価

14 前期試験その1 客観テスト60分 + 解説30分=90分	信頼性と妥当性に留意したテストを作成し、実施したい。多肢選択、再生法、組み合わせ法、空所補充法等、複合的形式の試験を行う。
15 前期試験その2 主観テスト60分 + 解説30分=90分	前期試験1を返却し、今後の研究上の課題・問題点を話し合う。
16 後期ガイダンス、コース・デザインのためのニーズ分析・レディネス調査、学習者背景調査の実施	受講にあたってのルール、成績評価についての説明、後期15回に亘るコースデザインの概観
17 ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスカリキュラム)の修正	日本語教授法の概観(ナチュラルメソッド、オーラルメソッド、アーミーメソッド、ナチュラルアプローチ等)
18 教授法に関する過去問題の実施と解説1	17回目で学んだ知識が日本語教育検定試験でどのように問われるのかを確認・解説
19 タスク1 日本語教授法の概観 課題内容については該当授業時に提示する	
20 コース・デザイン1 教室環境、学習活動の形態、学習者と教師、学習者と用具	
21 コース・デザイン2 シラバスとカリキュラム	
22 コース・デザイン3 教育の実施—接続助詞をタスクとして	
23 タスク2 コースデザイン 課題内容については該当授業時に提示する	
24 日本語テキストの実例1 練習の種類:ディベート法、ロールプレイ法、プロジェクト・ワーク法、その他	
25 日本語テキストの実例2 ゲームを使った教授法1	
26 日本語テキストの実例3 ゲームを使った教授法2	
27 タスク3 日本語テキスト 課題内容については該当授業時に提示する	
28 評価法:教師の働きかけ、発問・応答の行動、誤用の扱いとフィードバック、テストの種類と評価法:評価の誤差	
29 後期試験1(客観テスト) 60分+解説30分=90分	
30 後期試験2 後期試験を返却し、今後の研究上での課題・問題点を話し合う、主観テスト:文章表現・口頭試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 前期最終講義日に到達度試験 2 後期最終講義日に到達度試験 1+2=25% 3 月例タスク 25% 4 月例の試験 25% 5 遅刻回数・授業への積極的な態度 25%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 日本語教授法基礎演習 (LB)

15335

担当者名 / Instructor 彦坂 萬智子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

- 1 日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。
- 2-1まず、音声学について[IPA]と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。2-2次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。2-3そして、文法―構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・ムードなど、述部の特徴を中心に学習する。
- 3 後期では方法について学ぶ。4-1まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。4-2次に、教室でのインターアクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。4-3最後に、評価法について学び信頼性と妥当性ある評価の方策を考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 日常生活でも留学生や異文化に対して交流・理解を深める姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語教育能力検定試験合格を意識すること。
- 2 日本語教授法には絶対的なものがあるわけではないことを理解し、日本語学習者と意味を分かち合おうとする姿勢をもつこと。また履修の成果として、日本語への学究的な関心を寄せ、それを日常生活全般に活かす努力を重ねること。
- 3 講義の内容を正確に受信し、また自ら発信する力を養う。タスクの相互評価会を通して、他者の評価を受け入れ、客観的な自己評価能力の伸長を図る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- 1 まず、日本語学、日本語教育学および言語系周辺の科目を履修する
- 2 次に、日本事情及び異文化間コミュニケーション周辺の科目を履修することが望ましい
- 3 また、日本と国際関係論についての科目を履修することが望ましい
- 4 自らも外国語科目習得に努力し、日本語学習者の気持ちが理解できるようにしたい

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	前期ガイダンスコース・デザインのために事前に 1 ニーズ調査 2レディネス調査 3 学習者背景調査の実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 2 評価基準の説明(試験の種類と割合)3 前期15週間に亘るコースデザインの概観
2	ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュラム)の修正 音声・音韻論 1	[IPA]と50音図
3	音声・音韻論 2	拍とシラブル
4	音声・音韻論 3	アクセントとイントネーションとプロミネンス 客観テスト1「音声・音韻論」
5	音声・音韻論 4	主観テスト1「音声・音韻論」 相互評価
6	文字・語彙論 1	日本語の文字、仮名と漢字と外来語
7	文字・語彙論 2	語の校正
8	文字・語彙論 3	語の意味 客観テスト2「文字・語彙論」
9	文字・語彙論 4	主観テスト2「文字・語彙論」 相互評価
10	文法―構文論 1	日本語構文の特徴
11	文法―構文論 2	テンスとアスペクト
12	文法―構文論 3	モダリティとヴォイス 客観テスト3「文法―構文論」
13	文法―構文論 4	主観テスト「文法―構文論」 相互評価

14 前期試験その1 客観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間	信頼性と妥当性に留意したテストを作成し実施したい。 多肢選択、再生法、組み合わせ法、空所補充法など、 複合的形式の試験をする。
15 前期試験その2 主観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間文章産出テスト+インタビュー	前期試験その1(客観テスト)を返却し、今後の研究上での 課題・問題点を話し合う
16 後期ガイダンス コース・デザインのために事前に 1 ニーズ調査 2 レイネン調査 3 学習者背景調査の 実施	受講に当たっての留意点 1 欠席時と遅刻時の留意点 (5&6交換可能)2 評価基準の説明(試験の種類と割 合)後期15週間に亘るコースデザインの概観
17 ニーズ分析と抽出 コース・デザイン(シラバスとカリキュ ラム)の修正 日本語教授法の概観	日本語教授法の概観:Natural Method、Direct M ethod、Oral Method、Army Method、Phonetic Method、Natural Approach、Audio-Lingual A pproach、Total Physical Response Approach
18 教授法に関する過去問題の実施と解説その1 教授法に関する過去問題の実施と解説その2	日本語教育能力検定試験のレベルを知ること。 その1は、2010年までの過去問題。その2は、改定新 シリーズの2011年以降の過去問題。
19 タスク1 「日本語教授法概観」	課題内容については該当授業時に提示する。最新の 「教授法」を紹介したい。
20 コース・デザインの第一段階	教室の環境 学習活動の形態 学習者と教師 学 習者と用具
21 コース・デザインの第二段階	シラバスとカリキュラム
22 コース・デザインの 第三段階	教育の実施—接続助詞をタスクとして
23 タスク2 「コースデザイン」	課題内容については該当授業時に提示する。最新の 「コース・デザイン」を紹介したい。
24 日本語テキストの実例 1	教授法の種類その1 口頭表現 1 デイバート法 2 ロールプレイ法 3 プロジェクト・ ワーク法 4 その他
25 日本語テキストの実例 2	教授法の種類その2 文章表現
26 日本語テキストの実例 3	教授法の種類その3 ゲームの使用
27 タスク3 「日本語テキスト」	課題内容については該当授業時に提示する。最新の 「日本語テキスト」を紹介したい。
28 評価法その1 教師の働きかけ 発問・応答の行動 誤用 の扱いとフィードバック テストの種類 評価法その2 評価の誤差	クラスでの自己評価と相互評価の実践
29 後期試験その1 客観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間	信頼性と妥当性に留意したテストを作成し実施したい。 多肢選択、再生法、組み合わせ法、空所補充法など、 複合的形式の試験をする。
30 後期試験その2 主観テスト60分 + 試験解答解説30分 = 90分間文章産出テスト + インタビュー	後期試験その1(客観テスト)を返却し、今後の研究上での 課題・問題点を話し合う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1 前期最終講義日に到達度試験 2 後期最終講義日に到達度試験 1+2=25% 3 月例のタスク 25% 4 月例の試験 25% 5 出席遅刻数+授業への積極的な参加度 25%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

- 1 コースツールは、毎週授業後にUPするので、閲覧すること
- 2 学生との直接対話は、オフィスアワーを設定するので多めに利用すること
- 3 その他は、メールアドレスを提示するので質問等をPCメールで連絡すること

その他 / Others

拡張項目



日本語史 (LA)	14206
-----------	-------

担当者名 / Instructor 彦坂 佳直

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を概説する。  
具体的な事項は、授業スケジュールを参照のこと。

## 到達目標 / Attainment Objectives

日本語教師として知っておくべき「日本語の歴史的な諸相」を理解し、  
今日的な日本語への道筋を考えることができること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語学概論、また日本語教育学に関わる基礎的な科目の幾つか。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代日本語の源流としての日本語の歴史を学ぶにあたって ソシユール、共時態と通時態、今日の日本語につながる遺産としての過去の日本語と現代語との関連	言語研究の方法 共時態と通時態
2-3	音韻史の概説1	音声と音韻、音韻の種類と変化-上代特殊仮名遣い、50音図など
4-5	音韻史の概説2	アクセントの体系、型の対応 現代日本語のアクセント
6	語彙史の概説1	語彙の量的側面、語種、語構成
7-8	語彙史の概説2	語彙の体系、意味、意味変化
9-10	文法史概説1	活用の仕組み、活用体型の変化
11-12	文法史概説2	助動詞の変化-分析的傾向へ-助詞の機能
13	文法史概説3	係り結びの変化、呼応の関係の変化 格助詞ノとガの歴史
14	文法史概説4	主語と主題、各種助詞の働きと変化
10	標準語と方言概説	標準語と方言、位相
15	日本語史の概説まとめ	現代日本語を理解するための日本語史の役割再説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常の出席と学習活動 20パーセント 前期3回程度のレポート 80パーセント

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

単なる知識の記憶ではなく、古代語と近代語への変化にかかわる各種の要因を考えていくこと。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケーススタディ日本語の歴史	半沢幹一・他 / おうふう / 4-273-03267-8 / 常用する

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立国語研究所 <http://www.ninjal.ac.jp/database/>

日本語教育学会 <http://www.nkg.or.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

彦坂佳宣 [yht02860@lt.ritsumei.ac.jp](mailto:yht02860@lt.ritsumei.ac.jp)による。

その他 / Others

初年度から日本語教育能力検定試験に挑戦すること。  
ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。

拡張項目

## 日本語史 (LB)

14207

担当者名 / Instructor 小椋 秀樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代日本語は、長い日本語の歴史の上に成り立っている。したがって、現代日本語の背後にある日本語の歴史的变化の様相を知り、さらにその原理や規則性等について理解することは、現代日本語をより良く理解することにもつながる。

このような立場から、本授業では、音韻・文字・語彙・文法・方言の各分野を取り上げ、日本語教師として知っておくべき、日本語の歴史的な諸相を概説する。随時、授業時間内で授業内容の簡単なまとめを課すことがある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

音韻・文字・語彙・文法・方言の各分野について、日本語の歴史的变化に関する基礎的事項を理解し、自分の言葉で簡単な説明ができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本語学, 日本語教育学に関わる科目。  
イノベーションプログラム「日本語教育」の初年度の諸科目。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 総説	共時態 通時態 日本語史の時代区分
	2 音韻史(1)	音声 音韻 五十音図 上代特殊仮名遣い
	3 音韻史(2)	音便 ハ行子音 ハ行転呼音
	4 音韻史(3)	アクセントの型 アクセントの変化
	5 文字史(1)	万葉仮名 平仮名 片仮名 仮名遣い
	6 文字史(2)	漢字 ローマ字
	7 語彙史(1)	語彙の量的構造 語種
	8 語彙史(2)	語彙の体系 意味 意味の変化
	9 文法史(1)	動詞の活用 活用の変化 活用型の変化
	10 文法史(2)	係り結びの変化
	11 文法史(3)	主語 助詞
	12 文法史(4)	助動詞 分析的傾向
	13 方言	方言 方言分布
	14 標準語・位相	標準語 共通語 位相
	15 理解検証テスト, 解説・まとめ	理解検証テスト(60分) 解説・まとめ(30分)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1. 出席状況15%(授業への積極的な取組も加味する。) 2. 授業内の小テスト・小レポート等15% 3. 理解検証テスト70%(日本語の歴史的变化に関する基礎的事項について自分の言葉で簡単な説明ができているか。)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title

ケーススタディ日本語の歴史

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

半沢幹一ほか / おうふう / 978-4273032678 / 毎時間使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

日本語の歴史

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

山口仲美 / 岩波新書 / 978-4004310181 /

以上のほか、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本語教育学会: <http://www.nkg.or.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

初年度から日本語教育能力検定試験に挑戦すること。  
ただし、このプログラムはその受験対策のためのものではない。

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(初級)』...(SNクラスと同内容):2011年度までの(入門)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。

入門クラスは、『Officeソフト総合(入門)』(SMクラス)

上級クラスは、『Officeソフト総合(中級)』(SJクラス)。

Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。情報リテラシーIやIIの続きとしては、最も連続性が高いもの。

## 到達目標 / Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実用的な使用方法。

パソコンの総合的な利用方法。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を一部、含んでいる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック/ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト/書式/プリント・スクリーンの利用)
3	実習(1)	パソコン・マニュアル
4	Excel復習-1	(位置関係/表と計算/絶対参照)
5	Excel復習-2	(表示形式/関数(sum,average,count,if)/グラフ)
6	Excel復習-3	(復習と応用)
7	実習(2)	Excelによる分析
8	Excel発展-1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展-2	(エラー処理(isna)/検索応用)
10	Excel発展-3	(復習と応用)
11	実習(3)	検索実習
12	OLE発展-1	(Web上のデータ利用/ペイント)
13	OLE発展-2	(リンク貼り付け)
14	実習(4)-1	課題
15	実習(4)-2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題を含めた課題など。

## 実習状況など。

-----  
進度等により調整を行う。

最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

## 参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

## その他 / Others

## 拡張項目

## 情報リテラシーⅢ (SB) § 情報処理 (SB)

13520

担当者名 / Instructor 破田野 智己

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

web上で見かける様々なアニメーションは、単にページを装飾する手段にとどまらず、アート、広告、あるいはWBT(web-based-training)など、様々な目的に活用されています。つまりweb上で動くアニメーション作成のスキルを身につけることは、インターネットが日常に深く入り込んだ現代では、非常に強力な表現の手段を身につけることと同義といえます。そこでこの授業では、Flashというソフトウェアを用いて、なるべく直感的かつ簡単に、そのようなアニメーションを作成する方法を紹介します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

Flashによるアニメーション作成スキルの修得、アニメーションを用いた「作品」が作成できること、効果的にアニメーションを用いる能力を身につけること、以上3点を到達目標とします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII、もしくはこれらの科目終了と同等のスキル・レベルを必要とします。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	とにかく描いて動かしてみよう	Flashのお絵描きの特徴。とにかく動かしてみる
2	基本のお絵描き	様々な描画ツールと、その特徴
3	基本的なアニメーション	モーショントウイーン、シンボル、インスタンスなど
4	基本的なアニメーション2	シェイプトウイーン、レイヤーなど
5	ちょっと凝ったアニメーション	アルファチャンネル、マスク、パスなど
6	シンボルを使いこなす	シンボル内アニメ、グラフィック、ムービークリップなど
7	インタラクティブに動かす	ボタンイベント、アニメボタン、リンクなど
8	外部ファイルの取り込み	効果音や写真、手書きのイラストを活用する
9	課題作成1	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
10	課題作成2	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
11	課題作成3	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
12	課題作成4	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
13	パブリッシング	パブリッシュと設定、アクセシビリティ、ftplによる転送
14	プレゼンテーションと採点1	作品の発表と説明を行なう
15	プレゼンテーションと採点2	作品の発表と説明を行なう

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Flashに関する書籍は、参考に挙げたもの以外にもたくさんあります。また、web上にはFlashに関するチュートリアルやTipsが多数存在しており、これらの多くは無料で利用できます。これらは授業内容を深く理解するために役立つだけでなく、課題の作成を行う際にも有用です。もちろん、これらを用いなければ授業が十分に消化できないわけではありませんが、積極的に自学自習すれば、それだけ良い結果が得られるでしょう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第14・15回で行うプレゼンテーションの内容と、出席や各回の授業で出す課題などを総合して成績を評価します。 なお、授業内の課題に関して学生同士が教え合うことは制限しませんが、最終課題で盗用が認められた場合、定期試験でカンニングした場合と同様の厳しい処分を行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これまでの受講生(先輩)からは、「自分の思い通りのものを作ろうとすると、思いのほか時間がかかる。また、毎回の授業で出されるチャレンジ問題を解こうとすると、さらに時間を要する」とのコメントが寄せられています。つまり、他の授業に比べて、自習に費やす時間が多くなりがちということです。時間的な余裕が無い受講生は、この授業をあまり楽しめないかもしれません。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。その代わりに、毎回の授業では資料をweb(教材配布フォルダ)にupします。受講生は必要に応じてこれを保存、あるいは印刷して用いてください。

なお、課題の提出は、コースツールを使って行います。コースツールの使い方は、授業内で説明します。

## 参考書 / Reference Books

## 書名 / Title

## 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Flashレッスンブック

佐藤 好彦 / ソシム / 4883377180 / Flashの体験版やサンプルプログラムなどが入ったDVDが付属していますので、自宅で作品作りを行うことができます。

入門書には、ソフトの体験版が同梱されていることが多くあります。ここで挙げた書籍にもFlashの30日間トライアル版が付いていますので、折を見てインストール & 自習してみるのも良いでしょう。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Flash Beginner's School(日本語です)

<http://m-school.biz/dev/flash-beginners/index.htm>

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

必要があれば、教員のメールアドレスを通知します。

## その他 / Others

## 拡張項目



担当者名 / Instructor 柴田 悠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業では、社会調査データの統計分析(主に多変量解析)の技術を、パソコン用統計分析ソフトSPSSの実習を通して、身につける。大量のデータを集計するだけでなく、データ同士の関連性や差異などの計算も行い、データに隠された社会的意味を見いだす。

具体的には、社会調査と統計分析の基礎知識を確認した上で、基本的な多変量解析の理論を解説する。さらに、実際の社会調査データと統計分析ソフトSPSSを用いて、基本的な多変量解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか?」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態(既婚/非婚)や居住地域(都市/郊外/農村)で比べたらどうだろうか。また、そういった状況(たとえば職業)と「幸せです」との間の連関は、他の状況(たとえば所得)によってどのくらい説明できてしまうのだろうか。さらに、その連関は、偶然ではめったに起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも、偶然でも生じる程度の誤差にすぎないのだろうか。

たとえばこういったことを、社会調査データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。ただし、受講生の事前知識と理解度に応じて、内容を易しめの部分に絞り、進度を遅くする場合がある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

パソコン用統計分析ソフトSPSSを使って、基本的な多変量解析ができるようになる。  
目標としては「パス解析」(観測変数のみを用いた構造方程式モデリング)まで。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- 学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
- 「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
- USBフラッシュメモリ(容量1GB以上)を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。

1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること(ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更)。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」を履修済みであることが望ましい。

もし履修済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

また、下記の授業スケジュールは、「社会統計学」を履修済みであることを前提としている。そのため、履修済みでない学生が一定以上いる場合には、本授業の内容を易しめの部分に絞り、進度を遅くする場合がある。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 統計分析の基礎知識(1)	記述統計学と推測統計学、全数調査と標本調査、母集団と標本、標本の偏り、標本抽出法、質問紙調査法、統計分析手法の分類
	2 統計分析の基礎知識(2)	要約統計量、推定(点推定、区間推定)、検定(帰無仮説、対立仮説、有意水準、検定統計量、自由度、棄却域、有意確率)
	3 統計分析の基礎知識(3)	確率密度関数、確率分布、中心極限定理、2つの誤り
	4 記述統計(1)	クロス集計、エラボレーション、棒グラフ、箱ひげ図
	5 記述統計(2)	2変数の関連指標(相関係数、相関比、連関係数、オッズ比、順位相関係数など)
	6 記述統計(3)	相関係数の注意点(相関と因果の区別、見かけ上の相関、偏相関係数、分割相関など)
	7 検定(1)	検定の復習、相関係数の検定、順位相関係数の検定、相関比の検定(分散分析C/F検定)、連関係数の検定(独立性の検定Cカイ2乗検定)、2つの母平均の差の検定(Ct検定)
	8 検定(2)	実習

9 重回帰分析(1)	従属変数(被説明変数)と独立変数(説明変数)、回帰式、偏回帰係数、残差、最小2乗法、標準化偏回帰係数、自由度調整済み決定係数、多重共線性、ダミー変数、交互作用
10 重回帰分析(2)	実習
11 ロジスティック回帰分析(1)	ロジット変換、最尤法、Wald検定、尤度比検定、AIC(赤池情報量基準)、BIC(ベイズ情報量基準)
12 ロジスティック回帰分析(2)	実習
13 パス解析(1)	パス図、最尤法、誤差相関(偏相関)、自由度、適合度指標
14 パス解析(2)	実習
15 発展的手法の簡単な紹介(実習なし)	順序ロジット回帰分析、多項ロジット回帰分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析、潜在変数を用いた共分散構造分析、潜在クラス分析、イベントヒストリー分析、傾向スコアマッチング(PSM)、マルチレベル分析、パネル分析

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回出席していることを前提として、授業を進める。

よって、万一次席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント(産社事務室向かいの棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること)を読み、また下記の参考書を参照して、プリントの内容と、上記授業スケジュールの「キーワード」に挙げた用語を、十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席率(50%)と、実習課題の出来(50%)から、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中の私語は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと(出席点の減点対象とする)。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言すること。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるので、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信 / オーム社 / 4274065707 / どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし理論的理解は他書で補うこと。
マンガでわかる統計学 [回帰分析編]	高橋信 / オーム社 / 4274066142 / 上の続編。「単回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし理論的理解は他書で補うこと。
マンガでわかる統計学 [因子分析編]	高橋信 / オーム社 / 4274066622 / 上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
入門 はじめての統計解析	石村貞夫 / 東京図書 / 4489007469 / 2つ以下の変数を用いた基礎的な統計分析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
入門 はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎 / 東京図書 / 4489020007 / 3つ以上の変数を用いた基礎的な多変量解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
すぐわかる統計用語	石村貞夫 / デズモンド・アレン / 東京図書 / 4489005229 / 統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室 / 東京大学出版会 / 4130420658 / 統計分析に必要な統計学の基礎知識を、ほぼ十分に学べる。
心理学のためのデータ解析テクニカルブック	森敏昭・吉田寿夫 / 北大路書房 / 4762801313 / 統計分析に必要な統計学の基礎知識を、十分に学べる。
SPSSによる多変量データ解析の手順(第3版)	石村貞夫 / 東京図書 / 4489007175 / 数量データを用いたやや高度な多変量解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。
SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順(第2版)	石村貞夫 / 東京図書 / 4489007051 / カテゴリカルデータを用いたやや高度な多変量解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

本授業ではいずれも購入する必要はない。必要に応じて授業中に参照箇所を示す。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオフライン・データアーカイブを使用することがある(使用法は授業で説明する)。

●WVS(世界価値観調査World Values Survey) [データは即時ダウンロード可能(無料登録が必要)]:  
<http://www.wvsevsdb.com/wvs/WVSDData.jsp>

●ISSP(国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme) [データは即時ダウンロード可能(無料登録が必要)]:  
<http://zocat.gesis.org>

●ICPSR(政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research) [立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能(無料登録とメール認証が必要)]:  
<https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct>  
→ (JGSSのデータ)<http://www.icpsr.umich.edu/icpsrweb/ICPSR/series/209/studies?archive=ICPSR&q=JGSS&paging.startRow=1>

●SSJDA(東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive) [データは無料申請後にダウンロード可能]:  
<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>  
→ <http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/access/flow/>

また、授業中にも適宜紹介する。

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

## 情報リテラシーⅢ (SD) § 情報処理 (SD)

13548

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『Illustratorによるイラスト入門』...(SKクラスと同内容)

ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。  
Illustratorの基本操作。  
画像ファイルの基礎。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb/ブラシツール/オプション・バー)
4	Illustrator 入門 + 実習(1)ポスター	(カラー/Web用保存)
5	実習(1)内覧 + Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線/塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー/その他)
8	実習(2)-1	携帯デザイン
9	実習(2)-2	携帯デザイン
10	実習(2)-3	提出、印刷、組み立て=>展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
13	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
14	最終課題	ぱらぱらアニメ作成
15	最終課題内覧・まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題及び講義中の課題、 実習状況など。

進捗等により調整を行う。

最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。  
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 宮浦 崇

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、情報化社会の中で、個人のレベルにおいても対応することが不可欠となっている「情報セキュリティ」に関する「入門講義」として位置づけられている。講義は情報教室で受講者がPCを使用しながら、実習を伴う形で行われる。「私は大丈夫」「私には関係がない」と思いがちな日常の情報コミュニケーション技術利用の落とし穴について、具体事例を取り上げながら、受講者が授業時間内に実際にセキュリティについて確認する機会を設ける。情報セキュリティ意識を高め「自分の身を守る」ための知識習得の場としてほしい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1.情報化社会における「安全性」について考える端緒を得る。
- 2.インターネット利用に伴う「危険性」(脆弱性)について説明できるようになる。
- 3.「被害者」「加害者」にならないための基本的な知識・スキルを身につける。
- 4.セキュリティに関係する「情報」を必要時に収集することができるようになる。
- 5.デジタルデータの著作権について理解し、情報発信を行うことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI等の情報技術関係入門講義は履修済みであることが望ましい。  
立命館大学の情報環境利用方法、コンピュータの基本操作、レポート作成レベルの文書作成技術(Word,Excel等)については一定習得済みのものとして講義はすすめられる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(情報リテラシーⅢ共通)	
2	情報社会における「セキュリティ」とは(概説)	「情報セキュリティ」とは何か。今、何が問題になっているのかを理解する。
3	インターネットおよびWebサービスの仕組み、課題作成のための準備	インターネットとはどのような技術によって成立しているのか、歴史的経緯を踏まえ理解する。最終課題作成のためのWikiシステムの利用説明と実習。
4	被害者・加害者にならないために1(コンピュータ犯罪の今昔1)	コンピュータ犯罪の事例を紹介し、そこに見える問題と、自らできる対策についての知識を得る。脅威となるWebサイト、サービスへの模擬接続と情報流出の状況確認。(実習)
5	インターネット上での「匿名性」「非匿名性」	「匿名」「非匿名」の実態について、アクセスログを用いて考える。アクセスログ解析、IPアドレス・ドメイン名によるトレース(実習)
6	コンピュータウィルスの脅威から身を守るために	コンピュータウィルスやネット上での危険要因についてその性格を理解し、対処の知識を得る。コンピュータウィルスの模擬作動実験(実習)
7	不正アクセス監視の仕組み(IDS)とファイアウォール	実際のIDSシステムを見ながら、その有効性について考える。簡易IDSの構築(実習)
8	データの暗号化技術	情報の保護という観点から、暗号化の方式、諸技術について理解する。暗号化と解読(実習)
9	中間総括および、プレゼンテーション資料の作成	「被害者」にならないための啓発資料の作成、ならびに中間総括(到達度確認)
10	情報セキュリティのための法律・諸制度・体制について	セキュリティ対策に係る、昨今の取組についての知識を得る。
11	情報化社会における「著作権」(1)	現行著作権法に基づいた、デジタルデータの取り扱いについて学習する。各自の所持している「コンテンツ」(授業成果物・レポート・Webサイト等)の検証(実習)
12	情報化社会における「著作権」(2)	現行著作権法に基づいた、データの取り扱いについて学習。ルールに則ったコンテンツ作成(実習)
13	情報セキュリティビジネス	情報セキュリティをビジネスとする事例を見ることを通して、セキュリティのあり方を考える。
14	管理者およびユーザに求められる「情報倫理」	技術者としての倫理・ユーザとしての情報倫理について考える。
15	総括「情報セキュリティ」	情報セキュリティについて、各回学んだ知識を総括する。Wikiシステム上にレポート課題を完成させる。

講義外学習をすすめたい者は個人的に質問に来るとよい。テーマに沿った文献・資料等を紹介する。

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内確認小テスト・小レポート、授業時間外課題、到達度確認テスト等をおこなう。 なお、最終課題としてWeb上にWikiを使用したコンテンツを完成させる必要がある。 また実習を伴う授業であるため、日々の参加姿勢をも含めた平常点評価とする。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報セキュリティ読本：IT時代の危機管理入門 (三訂版)	情報処理推進機構／実教出版／4407318007／

講義時間中に必要な資料、文献等を随時紹介していく。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義時間中に随時紹介する。

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

#### その他 / Others

この講義はリテラシー科目(入門講義)としての位置づけであり、情報技術初級者の受講を前提に構成される。そのため、既に知識・技術を一定有する者、セキュリティ関連資格試験を目指す者等はより専門性の高い科目を履修しより実践的な知識・技術の修得を目指すことを強く推奨する。

#### 拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『パソコン実践教育(スキル編)』:2011年度の『パソコン実践教育(入門)』

教員をはじめ、パソコンを教える立場になることを想定し、様々な素材を用い、グループ学習やプレゼンテーションなどの実践を通じて、パソコン教育の技術や方法を探っていく。

実際には、同僚や友達、家族などにパソコンを教える機会は多く、このような場合にも役立つ。教えることで、自らも分からないことがはっきりし、自らのスキルアップにつながっていく。

なお、今年度からセキュリティ教育を考えていく、『パソコン実践教育(セキュリティ編)』(SL)が新設され、教育の中でセキュリティをどう教えていくかを考えていく。また、関連科目として『セキュリティー(入門)』があり、セキュリティ全般を技術的な側面から学んでいく。目的に応じ、選択し、組み合わせて受講すること。

## 到達目標 / Attainment Objectives

パソコンを教える技術の習得。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。  
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	パソコンの基礎知識	ハード/ソフト/OS/アプリ/NET
3	教材作成の基礎	マニュアルとプリント・スクリーン
4	実習(1)－1	Windows基本教室づくり
5	実習(1)－2	Windows基本教室プレゼンディスカッション
6	実習(2)－2	Word基本教室づくり
7	実習(2)－2	Word基本教室プレゼンディスカッション
8	Word/Excel/OLE/NET復習	
9	実習(3)－1	Excel基本教室づくり
10	実習(3)－2	Excel基本教室プレゼンディスカッション
11	実習(4)－1	NET/OLE基本教室づくり
12	実習(4)－2	NET/OLE基本教室プレゼンディスカッション
13	コメント	
14	実習(5)－1	最終課題
15	実習(5)－2	最終課題

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題、発表、そのほかの実習課題、実習状況など。
進捗等により調整を行う。		



最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。  
また、グループ学習(発表)への不参加は、大きな減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。  
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。  
グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『PhotoShopによるフォトレタッチとWebページ作成入門』

Adobe PhotoShopによる写真などの画像処理と、ソフトウェアによるWebページを作成、公開するまでを学ぶ。デジタルカメラなどによる写真の撮影、PhotoShopによる写真の調整・加工、ソフトによるWebページ作成、完成したWebページの公開を行い、プレゼンテーションを行う。

なお、Webページ作成には、Dreamweaverを用いる予定である。

Webページを作成する講義としては、「入門」クラス。発展としては、『Webページ中級:HTML～JavaScript』(SHクラス)がある。Webページ作成を中心に学ぶには、『Webページ中級:HTML～JavaScript』(SHクラス)を選択すること。

## 到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。

画像処理の基本。

ソフトによるWebページ作成の基本。

Webページ公開の基礎。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基礎習得されていることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	写真の撮り方	画素数画像保存形式画像の取り込み
3	PhotoShop入門	(解像度、全体での明るさ、カラーバランス)
4	PhotoShop入門	(範囲指定 / 自動・マグネット中心、縁取り)
5	PhotoShop入門	(画像修正 / 赤目・パッチ・コピー・ぼかし・スポンジ・指)
6	PhotoShop入門	(フィルター / ギャラリー・シャープネス・描画(逆光))
7	PhotoShop入門	(画像合成・レイヤー / 文字 / 切り抜き)
8	実習(1)	ポスター作成
9	実習(1)内覧	Webページの基礎 (ネチケット・ブラウザ・HTML)
10	Dreamweaverの操作法	(作成から保存)
11	実習(2)-1	Webページ作成
12	実習(2)-2	Webページ作成
13	実習(2)-3	リンク貼り、アップロード(公開)、更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション	(ページ紹介) まとめ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Webページ(作品)とプレゼンテーション、採点など及び、実習状況など。
進度等により調整を行う。		

最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。  
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。  
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。  
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。  
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義中に紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて講義中に紹介する

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『Webページ中級:HTML~JavaScript』

Webページを作成するために必要な基本知識と技術を総合的に身につける。

もともと基本となるHTMLから、CSS(スタイル)、JavaScriptまで。

Webページ関連科目としては、『PhotoShopによるフォトタッチとWebページ作成入門』(SG)があるが、『PhotoShopによるフォトタッチとWebページ作成入門』(SG)は、フォトタッチが中心で、Webページ作成を学ぶには、本講座を選択すること。

## 到達目標 / Attainment Objectives

NETの基礎知識。

Webページの基礎知識。

HTML、CSS、JavaScriptの基礎知識。

Webページ公開。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	Webページの基礎	(ネチケット・ブラウザ・HTMLとCSSとJavaScriptの関係)
3	HTML入門	(html,head,body,h,p,br,div / 保存・閲覧・更新)
4	HTML追加	(table)
5	CSS入門	(box,座標 / box系,font系,img系)
6	CSS入門	(box,座標 / box系,font系,img系)
7	実習(1)	基本的なWebデザイン・サンプル作成
8	JavaScript入門	(script,onClick,onMouseOverなどイベント)
9	JavaScript入門	(for / if)
10	JavaScript入門	(その他)
11	実習(2)-1	Webページ作成
12	実習(2)-2	Webページ作成
13	リンク貼り・アップロード・実習(2)-3	リンク貼りアップロード更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション・まとめ	(ページ紹介)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	Webページ(作品)とプレゼンテーション、採点など及び、実習状況など。
進度等により調整を行う。		

最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。  
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。  
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。  
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。  
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

## 情報リテラシーⅢ (SI) § 情報処理 (SI)

16254

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

## 『Visual Basicによるプログラミング入門』

パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されている。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを素材に学んでいく。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていく。最終的には、オリジナルの簡単なゲームを作成する。

なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定。

## 到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。

プログラミングの基礎の理解。

プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	プログラミング初歩	Hello World!! 操作の基礎クリックとその反応
3	アニメーション(1)	移動による表現
4	アニメーション(2)	切り替えによる表現
5	計算と落とし穴	四則演算とその落とし穴
6	タイマーの作成	
7	実習(1)	クリックゲーム(VB風モグラたたき)の作成
8	プログラミングの思考(1)	素数を求める
9	プログラミングの思考(2)	計算の効率化
10	プログラミングの思考(3)	何が大切か
11	ゲーム・プログラミングのヒント	
12	実習(4)ー1	オリジナル・ゲーム作り(1)
13	実習(4)ー2	オリジナル・ゲーム作り(2)
14	実習(4)ー3	オリジナル・ゲーム作り(3)
15	実習(4)ー4	オリジナル・ゲーム作り(4)検証と課題提出

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.  
 平常点評価 100 % 実習状況及び最終課題。

進度等により調整を行う。

最後の課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。  
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(中級)』:(Excel中心)

情報リテラシーI、IIIに続く上級編。

入門クラスは、『Officeソフト総合(入門)』(SMクラス)

中級クラスは、『Officeソフト総合(初級)』(SA、SNクラス):2011年度までの(入門)

Officeソフトの総合的な利用を目指すとともに、もっともよく使われるExcelのスキル・アップを図っていく。Officeソフトを扱うクラスでは、もっとも実践的で、仕上げのクラスである。

## 到達目標 / Attainment Objectives

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実践な使用方法。

Excelの関数

Excelのデータベース機能。

Excelのマクロ機能の基礎。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。

もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	Word・Excel・OLE復習	
3	Word発展(1)	スタイルとアウトライン／脚注／目次／ページ区切り
4	実習(1)	アウトライン
5	Excel発展(1)	Database オートフィルタ／並び替え／集計／フォーム
6	Excel発展(2)	Database 項目作成／vlookup
7	実習(2)	Database 仮想店舗売り上げ
8	Excel発展(3)	文字列操作(len,mid,find)
9	Excel発展(4)	Webデータの利用
10	実習(3)	検索実習
11	Excel発展(5)	マクロの基礎(1)記録と保存
12	Excel発展(6)	マクロの基礎(2)変数、繰り返し、if
13	実習(4)－1	課題
14	実習(4)－2	課題
15	実習(4)－3	課題提出

## (学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題及び実習状況など。



進度等により調整を行う。  
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。  
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。  
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

## 情報リテラシーⅢ (SK) § 情報処理 (SK)

16278

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『Illustratorによるイラスト入門』...(SDクラスと同内容)

ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。

Illustratorの基本操作。

画像ファイルの基礎。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
	2 ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
	3 Illustrator 入門	(cmykとrgb/ブラシツール/オプション・バー)
	4 Illustrator 入門 + 実習(1)ポスター	(カラー/Web用保存)
	5 実習(1)内覧 + Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線)
	6 Illustrator 入門	(ペン・ツール/ベジエ曲線/塗りと線)
	7 Illustrator 入門	(レイヤー/その他)
	8 実習(2)-1	携帯デザイン
	9 実習(2)-2	携帯デザイン
	10 実習(2)-3	提出、印刷、組み立て=>展示
	11 写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
	12 最終課題	ばらばらアニメ作成
	13 最終課題	ばらばらアニメ作成
	14 最終課題	ばらばらアニメ作成
	15 最終課題内覧・まとめ	

## (学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題及び中間課題、実習状況など。
進度等により調整を行う。		
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。

課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『パソコン実践教育(セキュリティ編)』(2012年度新設)

パソコンだけでなく、携帯やテレビなどがネットワークで結ばれ、ユビキタス社会が形成されていく中で、セキュリティをどのように教えていけばよいかを考えていく。教えることを考えることは、自分の経験や知識を見直し、問題点を浮き彫りにし、セキュリティを確実なものにしていく過程でもあり、教える場面だけでなく、自らのステップアップに大いに役立つと思われる。

同様に、パソコン操作について教えることを考えていく『パソコン実践教育(スキル編)』(SF):2011年度の『パソコン実践教育(入門)』がある。また、セキュリティ関連では、実習を通して技術的な側面を学ぶ『セキュリティー(入門)』がある。目的に合わせ選択し、組み合わせて受講すること。

## 到達目標 / Attainment Objectives

情報リテラシーの確認。  
情報セキュリティの基礎。  
教示方法の基礎。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。  
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック
2	「ユビキタス」の基礎知識	情報、コンピュータ
3	実習(1)ー1 「ユビキタス」	プレゼン作成
4	実習(1)ー2 「ユビキタス」	プレゼン/ディスカッション
5	何を気づかせるべきか? どうやって?	講義・ディスカッション
6	パソコン使用上のセキュリティー問題	講義・ディスカッション
7	実習(2)ー1 「パソコン使用上のセキュリティー問題」	プレゼン作成
8	実習(2)ー2 「パソコン使用上のセキュリティー問題」	プレゼン/ディスカッション
9	実習(2)ー3 「パソコン使用上のセキュリティー問題」	プレゼン/ディスカッション
10	携帯などとの違い	講義・ディスカッション
11	実習(3)ー1 「総合セキュリティー教育」	プレゼン作成
12	コメント	
13	実習(3)ー2 「総合セキュリティー教育」	プレゼン/ディスカッション
14	実習(3)ー3 「総合セキュリティー教育」	プレゼン/ディスカッション
15	実習(3)ー4 「総合セキュリティー教育」	プレゼン/ディスカッション まとめ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。  
プレゼンテーション作成のために、ある程度の授業外学習が必要である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題、発表、そのほかの実習課題、実習状況など。

進度等により調整を行う。  
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。  
また、グループ学習(発表)への不参加は、大きな減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。  
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。  
グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。  
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

## 情報リテラシーⅢ (SM) § 情報処理 (SM)

20418

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(入門)』新設クラス

「情報リテラシーⅠ」や「情報リテラシーⅡ」に続く初級編。

やや上級のクラスは、『Officeソフト総合(初級)』(SA、SNクラス):2011年度までの(入門)

上級クラスは、『Officeソフト総合(中級)』(SJクラス)。

このクラスは、情報リテラシーⅠ・Ⅱを総括した上で、パソコンのより発展的な利用のために確実な基礎を築き、実践へとつなげていくクラスである。上の二つのクラスより、基礎的な部分に重きを置く。そのため、ある程度のスキルのある場合は向かない。ある程度のスキルがある場合、最も連続性の高い(初級)を、WordやExcelの基礎をおおよそマスターしている場合は、(中級)を選択すること。情報リテラシーⅠ・Ⅱの復習を一部含むが、方法も内容も異なるので注意し、適切な達成度を確保するため、安易に(入門)を選ばないこと。

## 到達目標 / Attainment Objectives

情報リテラシーの再確認。

パソコンの基本操作の再確認。

オフィスソフトの基本操作とその発展的利用。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーⅠあるいはそれと同程度の経験。

講義は、情報リテラシーⅠ及び情報リテラシーⅡの復習を一部、含んでいる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック
2	コンピュータの基礎知識の復習	ファイル、フォルダ、キー、画面など
3	Wordの復習(1)	文字と段落
4	Wordの復習(2)	オブジェクト
5	Wordの復習(3)	プリント・スクリーンなど
6	実習(1)	パソコン・マニュアル
7	Excelの復習(1)	文字と数値、四則演算、簡単な関数
8	Excelの復習(2)	グラフの作成
9	Excelの復習(3)	関数、オブジェクト、レイアウト、印刷
10	実習(2)	Excelの表とグラフ
11	OLE(1)	リンク貼り付けまで
12	Excelの応用(1)	関数発展(averagea,counta,if)
13	Excelの応用(2)	関数発展(vlookup)
14	実習(3)	課題
15	実習(3)	課題提出

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題及び実習状況など。

進度等により調整を行う。  
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。  
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。  
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)  
その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『Officeソフト総合(初級)』...(SAクラスと同内容):2011年度までの(入門)

「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。

入門クラスは、『Officeソフト総合(入門)』(SMクラス)

上級クラスは、『Officeソフト総合(中級)』(SJクラス)。

Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。情報リテラシーIやIIの続きとしては、最も連続性が高いもの。

## 到達目標 / Attainment Objectives

Windows/パソコンの基礎。

Officeソフトの基礎と応用。

特にExcelの実用的な使用方法。

パソコンの総合的な利用方法。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を一部、含んでいる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェックファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト/書式/プリント・スクリーンの利用)
3	実習(1)	パソコン・マニュアル
4	Excel復習-1	(位置関係/表と計算/絶対参照)
5	Excel復習-2	(表示形式/関数(sum,average,count,if)/グラフ)
6	Excel復習-3	(復習と応用)
7	実習(2)	Excelによる分析
8	Excel発展-1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展-2	(エラー処理(isna)/検索応用)
10	Excel発展-3	(復習と応用)
11	実習(3)	検索実習
12	OLE発展-1	(Web上のデータ利用/ペイント)
13	OLE発展-2	(リンク貼り付け)
14	実習(4)-1	課題
15	実習(4)-2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終課題を含めた課題など。



## 実習状況など。

-----  
進度等により調整を行う。

最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

## 参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

## その他 / Others

## 拡張項目

担当者名 / Instructor 三浦 ふたば

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本科目は主に社会福祉士を目指す学生のための専門科目である。社会福祉士が相談援助職として専門的な役割を果たすためには、医療関係職種との連携を強め、多職種協働に基づくソーシャルワーク能力が必要である。このため、医学・医療、介護に関する基本的な知識を身につけることが望まれる。

本科目では、医学・医療、介護に関する最低限必要な知識の習得と、具体的な事例を通じた医学的な側面からの理解の視点を理解することを目標とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ① 相談援助職に必要な医学・医療、介護に関する一般的基礎知識を習得する。
- ② 具体的な事例を通して、医学的側面からの援助の視点を学ぶ。
- ③ 社会福祉士に求められる、人体の構造と機能及び疾病の基礎知識を習得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1. 健康のとらえ方と国民健康づくり対策	健康の概念、プライマリーヘルスケア、人口の高齢化、疾病構造の変化
2	2. 人の成長・発達、老化	身体の成長・発達、精神の発達・成長、老化、老化徴候
3	3. 身体構造と心身の機能 ①	身体部位の名称、脱水、血液成分、心臓の構造と循環
4	4. 身体構造と心身の機能 ②	泌尿器の構造と疾患、呼吸器の構造と疾患、消化と吸収、神経の構造と機能
5	5. 疾病の概要と医療・介護 ①	生活習慣病、メタボリックシンドローム、悪性腫瘍、緩和ケア
6	6. 疾病の概要と医療・介護 ②	脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血、硬膜下血腫、脳血管性疾患後遺症、高次脳機能障害
7	7. 疾病の概要と医療・介護 ③	虚血性心疾患、心不全、高血圧、糖尿病、内分泌疾患
8	8. 疾病の構造と医療・介護 ④	呼吸器疾患、消化器疾患、消化と吸収、肝胆臓
9	9. 疾病の構造と医療・介護 ⑤	血液疾患、膠原病、腎不全、人工透析、腎炎、泌尿器、排尿障害、神経因性膀胱、前立腺肥大
10	10. 疾病の構造と医療・介護 ⑥	骨折、骨粗鬆症、変形性骨関節疾患、関節リュウマチ、転倒
11	11. 疾病の構造と医療・介護 ⑦	神経難病、介護保険の特定疾患
12	12. 疾病の構造と医療・介護 ⑧	認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病、他
13	13. 精神障害と医療・介護	統合失調症、躁鬱病、気分障害、強迫性障害、摂食障害、PTSD、措置入院、医療保護入院
14	14. リハビリテーションの概要	リハビリテーション、ICF、廃用症候群、作業療法、理学療法、言語療法
15	15. 医療をはじめとする多職種連携と相談援助職	多職種連携、ケアマネジメント、地域ケア、在宅ターミナルケア、地域包括ケア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	記述問題、択一問題(社会福祉士国家試験形式)
平常点評価	20 %	出席状況と授業に対する取り組み状況

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

かなり広範囲の専門分野をピンポイントで講義することになるため、自己学習は欠かせない。テキストだけでなく、関係図書を読むことが必要。社会福祉士という専門職が多職種連携、相談援助にあたる上で必要な最低限の医療知識を習得することを意識して臨むこと。援助対象者当事

者の著作も読んでほしい。

#### 教科書 / Textbooks

##### 書名 / Title

新・社会福祉士養成講座1「人体の構造と機能  
及び疾病」

##### 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会福祉士養成講座編集委員会編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3416-9／

#### 参考書 / Reference Books

##### 書名 / Title

「社会福祉士精神福祉士受験ワークブック」

##### 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会福祉士・精神福祉士受験ワークブック編集委員会編／中央法規／

他、適宜授業の中で紹介する

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省ホームページ：<http://www.mhlw.go.jp/>

財団法人 厚生統計協会：<http://www.hws-kyokai.or.jp/>

認知症介護予防介護研究センターいっどこネット：<http://itsu-doko.net/>

国立感染症研究所感染症情報センター：<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Other

授業の中で伝達する

#### その他 / Others

#### 拡張項目

応用精神保健学 (S)

20442

担当者名 / Instructor 石橋 典子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神保健学で学んだ内容をふまえて、精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえてそれぞれの場面における精神保健活動のあり方を学習する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

精神保健活動に関する諸理論をふまえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健学の履修を終えていることを前提とする。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1,2 人間にとっての精神とは	
	3,4 精神保健とは	
	5,6 精神を病むということ	
	7,8 偏見のなかでつくられた病像	
	9,10 精神障害者の充実した生活とは	
	11,12 当事者と家族の社会参加	
	13,14 障害と共に生きるということ	
	15 まとめ 確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

精神保健福祉士養成セミナー編集会編「精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学」(東京:へるす出版)  
石橋典子『呆けを「仕舞」として』中央法規

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

## その他 / Others

## 拡張項目

担当者名 / Instructor 沖野 良枝

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本概論では、社会福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として自律・自立、健康、生活の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

授業形式は、講義を中心とするが、テーマによって映像鑑賞やグループ・ディスカッションを行い多様な視点で学習を深める方法も取り入れる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に関わる専門職の種類と役割、連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての自律、健康、生活の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考で学習される事を希望する。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワークなど主要な専門基礎科目を履修している2年次以降の受講が望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	1. 介護の概要理解 1)今日の介護事情と介護の概念 2)新しい介護の誕生	介護保険制度、介護の概念、介護の歴史、社会福祉士・介護福祉士法
第2回目	1. 介護の概要理解 3)今日の介護の現状と問題、その背景	少子高齢社会、疾病構造の変化、平均寿命の伸び、介護問題、日本型福祉
第3回目	2. 介護対象者の理解 1)人・対象者にとっての生活	人の生活、クオリティ・オブ・ライフ、生活の構造、家族、地域
第4回目	2. 介護対象者の理解 2)人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康観の変遷、健康の意味
第5回目	2. 介護対象者の理解 3)人・対象者にとっての自立・自律	自立、自律、自立支援
第6回目	3. 介護のしくみ 1)介護に関する政策・制度 2)介護の場(在宅、施設)	保健・医療・福祉政策、介護の場、施設、居宅
第7回目	3. 介護のしくみ 3)介護を担う人と役割 4)地域ケアと保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携
第8回目	3. 介護のしくみ 5)介護保険制度の概要	介護保険法、要介護認定、要介護度、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
第9回目	4. 介護のスキル 1)介護(問題解決)過程 2)ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン、個別援助計画
第10回目	4. 介護のスキル 3)日常生活(ADL、IADL)援助	ADL、IADL、援助の原則
第11回目	4. 介護のスキル 4)介護技術の原則	科学的根拠、援助技術、状態観察、コミュニケーション
第12回目	4. 介護のスキル 5)主な領域と介護 ①寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、日常生活自立度、寝たきりの要因、寝たきり予防、介護の方法

第13回目 4. 介護のスキル 5) 主な領域と介護者 と介護 ②認知症高齢者	アルツハイマー病、軽度認知障害、脳血管性認知症、記憶障害、中核症状、周辺症状
第14回目 4. 介護のスキル 5) 主な領域と介護 医療 ③終末期と延命	終末期、尊厳死、安楽死、延命治療、延命治療の中 断、延命治療の手控え、人の死
第15回目 5. 介護における倫理 1) 対象者・家族の人権擁護 2) 介護専門職の責務	人権擁護、守秘義務、インフォームド・コンセント、専門 職の責務、倫理綱領

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書、講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習が必要です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論の基本的理解、知識の修得状況の評価・判定します。
平常点評価	10 %	平常授業のテーマの中から課題レポートを課し、内容により評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座13 高齢者福祉論	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3113-7／授業は、独自に作成したレジュメに沿って出来るだけ広範な内容で進める予定ですが、時間の関係で、授業では触れられないこともあります。そのため、国家試験に備えて、標準的な知識として教科書で補足していただきたいです。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
介護の質に挑む人々	加藤仁／中央法規／授業で学習する内容については、最新の考え方や研究結果、社会状況、政策などの知識や情報を取り入れ、根拠に基づいた理解を得て頂く事に努めます。そのために、適宜、適切な文献を資料として活用しますが、その出典となった文献には出来るだけ全体に目を通して頂きたいです。
死は誰のものか	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
アルツハイマー病にならない	井原康夫／朝日新聞社／／上記に同じ
アメリカ 置き去りにされる高齢者福祉	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
知っておきたい認知症の基本	川畑信也／集英社／／上記に同じ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

- インタラクティブシート / Interactive Sheet
- manaba+R / Learning Management System (manaba+R)
- 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

拡張項目

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講ではコミュニティケアに関する基礎的な理解を以下の3点から求める。①コミュニティケアの系譜および概念の整理・検討を、イギリスなどにおける国際動向および日本における実態と課題に照らして検討する。②社会福祉の構造的把握からコミュニティケアを考察する。特に、障害者福祉における地域福祉実践の構造的な理解を基礎にして、コミュニティケアを福祉援助の技術論的アプローチとともに、地域社会での生活を支える福祉、構成員すべての人間的発達を保障する視点から考察する。③ノーマライゼーションの視点からコミュニティレベルのケアの体系化(計画化)を提起する。福祉・医療・教育の各領域及びその協同、さらにはすべての構成員の社会参加と自己実現を基礎にして、総合的かつ横断的な施策と計画の必要性をノーマライゼーションの視点から提起する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. コミュニティケアに関する基礎知識の習得と系統的な理解
2. コミュニティにおける福祉課題に対する問題意識の形成
3. コミュニティケアの関連領域を踏まえての総合的理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域福祉論、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、国際福祉社会論(それぞれ、少なくとも同時履修が望ましい)。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに — 講義を始めるにあたって— 1. コミュニティケアとは (1) 概念の検討と整理	コミュニティ、アソシエーション、ケア、施設ケアと在宅ケア
第2回	1. コミュニティケアとは (2) イギリスの政策動向と系譜 ①	シーボーム報告、グリフィス報告、コミュニティケア法
第3回	1. コミュニティケアとは (2) イギリスの政策動向と系譜 ②	ケアマネジメント、新自由主義政策
第4回	1. コミュニティケアとは (2) イギリスの政策動向と系譜 ③	福祉ミックス、ニューレイバー、シュアスタート
第5回	1. コミュニティケアとは (3) 国際社会における展開	ノーマライゼーション、社会的排除、インクルージョン、CBR
第6回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1) 政策展開と実際①	高度経済成長期、コミュニティ政策、住民主体の原則、地域社会の構造変動
第7回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1) 政策展開と実際②	ゴールドプラン、地方分権、福祉のまちづくり
第8回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1) 政策展開と実際③	社会福祉基礎構造改革、介護保険制度
第9回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (1) 政策展開と実際④	ケアマネジメント、支援費制度、障害者自立支援法
第10回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (2) 構造的把握の意味	三元構造論、生活の社会化論
第11回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (3) 地域福祉計画	社会福祉法、地域福祉計画、社会福祉協議会
第12回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (4) 高齢者福祉と計画	高齢者の孤独死と自殺、老老介護、ケアプラン
第13回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (5) 障害者福祉と計画	ノーマライゼーション、バリアフリー、コンフリクト
第14回	2. 日本におけるコミュニティケアと福祉課題 (6) 児童福祉と計画	児童虐待、少子化対策、子どもの権利

## 第15回

住民参加、共同と連帯、発達保障

## 3. コミュニティケアの展望と課題 —あらためてコミュニティケアを考える、まとめにかえて—

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

受講生が居住する地域社会の福祉問題について、日常的な関心を持って講義に望んでもらいたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義内容に関する基礎知識の習得と論理的思考。
平常点評価	40 %	講義内容に対する問題意識の形成と積極的受講。3分の2以上の授業に出席し、レポート(コミュニケーションペーパー)を提出した者のみ成績評価の対象とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉に関する専門的な内容を多く含むため、社会福祉関連の科目を同時履修または既修であることが望ましい。講義への出席を通じて自分の頭で考え問題意識を高め、基礎的な事項への理解を深めてほしい。

## 教科書 / Textbooks

特に指定しない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害のある子ども・家族とコミュニティケア	黒田学、渡邊武編 / クリエイツかもがわ / 978-4863420366 /
イギリスのコミュニティケアと介護者—介護者支援の国際的展開	三富紀敬 / ミネルヴァ書房 / 978-4623052196 /

その他、講義中に適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各自治体(地域福祉計画等の資料)および厚生労働省のホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/>)。その他、講義中に適宜指示する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目



## 社会福祉援助技術論 (S) § 社会福祉援助技術論 (SG)

12647

担当者名 / Instructor 田中 智子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会福祉専門職の役割(総合的かつ包括的な相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む)と意義について理解することを目的とする。具体的には、現代社会における生活問題を捉える視点と、それに関わる社会福祉専門職に求められる価値や、倫理などを理解することを目的とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉専門職の役割や相談援助の形成過程、価値・理念、定義・構成要素などの基本的知識と現実の社会福祉援助においてどのように対応しているのかを考察する。現代社会に生じる様々な生活問題を事例として取りあげながら、生活問題を生じさせる社会的背景とは何か、相談援助とはどうあるべきか、そこに関わる専門職に求められる専門性とは何かということについての考察を深めることを目的とする。そのことを通じて、理論と現実をきり結ぶ視点と方法を身につけることを狙いとする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(本講義の目的、授業の進め方)	
2	現代社会における社会福祉の仕事の意義	生活問題、社会福祉
3	相談援助の形成過程	ソーシャルワーク、理論
4	相談援助の価値・理念・倫理	価値、理念、倫理
5	相談援助の共通基盤とその体系化・統合化(1)	共通基盤、体系化、統合化
6	相談援助の共通基盤とその体系化・統合化(2)	共通基盤、体系化、統合化
7	地域を基盤にした総合的・包括的な相談援助の展開(1)	相談援助、基本的視座、機能
8	地域を基盤にした総合的・包括的な相談援助の展開(2)	相談援助、基本的視座、機能
9	相談援助の理論と実践(1)	対人援助の原則、権利擁護
10	相談援助の理論と実践(2)	対人援助の原則、権利擁護
11	外部講師の招聘「相談援助の実際」	
12	社会福祉援助実践と福祉労働(1)	技術、特徴と専門性
13	社会福祉援助実践と福祉労働(2)	技術、特徴と専門性
14	学習到達度を最終的に確認するテスト	
15	総括講義	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・学習到達度を最終的に確認するテスト(60%) ・单元ごとの小レポート(20%) ・レポート(20%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会福祉援助実践の展開－相談援助の基盤と  
専門職－ 植田章／高菅出版／978-4-901793-53-7／

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

## 社会福祉概論 (S)

11466

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会福祉は今私たちの生活にとって必要不可欠な社会資源となっています。福祉の仕事に就く人にとってだけでなく、生活する一般市民にとっての社会福祉の役割や、そこで成立する人と人との関係の特質について歴史的把握します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会の中での社会福祉の位置と役割について過去・現在・未来の複眼的な視点から捉える視点の獲得をめざします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入: 本講義でのねらいや受講の心得、社会福祉の世界で現実をとらえる鳥の眼(鳥瞰的・客観的視点)と蟻の眼(対面的・主観的視点)意味を概説する	
2	共同社会のなかでの福祉の営みの必須性を考える	ボノボ、共同社会
3	資本主義的生産の浸透による家族と地域社会における自生的な共同関係の衰退	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族、地域社会
4	共同関係の衰退と貧困化から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体、民間非営利組織
5	義務教育で権利としての社会保障・社会福祉について何を学びましたか？	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの中学生がまなぶ「公民科」教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年の発達環境は今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミー、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
10	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見
11	貧困・格差拡大と社会福祉	格差社会、非正規雇用、子どもの貧困、障害者の貧困、移民労働者
12	社会福祉の三元構造と市場化	対象、運動、政策主体
13	社会福祉従事者と社会福祉法人、社会福祉協議会、地方自治体、国の役割と責任	社会福祉従事者、資格制度、社会福祉法人
14	当事者組織と社会福祉運動と社会福祉研究運動	社会運動、当事者運動
15	まとめと講義内容についての総括的な質問を受け付け必要な補足説明を行う	

## (学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ビデオを多用しながら、社会福祉の多様な現場とその奥の深さを考えます。また講義では考える小テーマを出して自分の頭を使って思考し、その結果を短時間にまとめる訓練も行います。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義の理解度を問う期末試験によって評価します。

平常点評価

30 % 講義に出席して教室で出すテーマをどれくらい考えてくれたかを、コミュニケーションペーパーで判定します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

続けて出席することで理解が深まるように、授業を組み立てています。欠席がないことを要請します。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現場がつくる新しい社会福祉

総合社会福祉研究所 / かもがわ出版 / 石倉も執筆しています

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

講義の場やメールで連絡をとってください。

## その他 / Others

## 拡張項目

## 社会福祉法制 (S)

13535

担当者名 / Instructor 密田 逸郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現在、私たちにとって「社会保障・社会福祉制度」は、必要不可欠な生活の条件となっています。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学ぶとともに、21世紀における福祉国家再生のための社会保障・社会福祉のあり方について学びます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

今日、社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえると、難しいと敬遠されているのが現状です。そこで講義では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただこうと思っています。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	今日における社会保障・社会福祉法制度の課題	
2	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義①	所得保障、対人社会サービス、社会保障法の成立意義
3	社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義②	ILO、ベヴァリッジ報告、憲法第25条、社会保障制度審議会
4	社会保障のあゆみとダイナミクス—イギリス及びドイツにおける歴史	救貧法、本源の蓄積、ブース、ラウンタリー、「飴と鞭」の政策、ビスマルク
5	消費税の本質と福祉目的税化	売上税、輸出戻し税、税との一体改革
6	社会福祉法の成立、福祉の市場化と公的責任	社会福祉基礎構造改革、市場原理
7	生活保護	貧困問題、格差社会、セーフティネット
8	第1回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。
9	公的年金①	国民年金、厚生年金保険、共済年金、国民皆年金、公的年金制度の成立
10	公的年金②	年金記録管理問題、社会保険方式、消費税
11	公的年金③	新自由主義的構造改革、負担と給付、持続可能性
12	介護保険法と障害者自立支援法	福祉の市場化、福祉サービスの「商品化」
13	保健・医療制度	国民皆保険、医療の質と水準、医療の市場化、混合診療、後期高齢者医療制度
14	第2回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。
15	新しい社会保障・社会福祉の姿	新しい福祉国家構想、社会保障基金、社会保障事務所、社会保障税

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容の理解度を評価します。
平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行います。配点は1回を15点とします。また、毎回コミュニケーションペーパーの提出を求めます。
検証テストは、授業の進度によって実施時期を変更する場合があります。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世の中の動きに関心を持ってください。新聞を読むことをお勧めします。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

国民を切り捨てる「社会保障と税の一体改革」の本音 芝田英昭著 / 自治体研究社 / / 2012年1月末刊行予定

-----  
新しい社会保障の設計 芝田英昭著 / 文理閣 / 4-89259-521-7 /

-----  
授業において適宜提示します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

公的年金制度における年金記録管理問題の歴史的経緯 密田逸郎 / 『立命館産業社会論集』第44巻第2号、2008年9月 / /

-----  
社会保障の基本原理と将来像 芝田英昭編著 / 法律文化社 / 4-589-02724-0 /

-----  
授業において適宜提示します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp>

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

[itsuro@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:itsuro@mbox.kyoto-inet.or.jp)

#### その他 / Others

講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。受講生としての最低限のマナーを守ってください。

#### 拡張項目

## 精神医学 (S)

10305

担当者名 / Instructor 辻 正之

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやストレス、精神疾患、精神保健、精神医療など『精神医学』の基礎論を学習します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「精神医学の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	①4/9 授業の概要と導入(科目のガイダンス)	シラバス、「こころ」の働き、ストレス、精神疾患、診断分類、チーム医療
	②4/16 精神科診断(1) 最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診、聴くこと
	③4/23 精神科診断(2) 精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
	④4/30(昭和の日/振替休日) 統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話/行動、感情の平板化、4A症状
	⑤5/7 気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
	⑥5/14 神経症 ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
	⑦5/21 パーソナリティ障害 思春期の精神障害	同一性、思春期心性、不登校、対人恐怖、摂食障害
	⑧5/28 老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
	⑨6/4 特別講師「講義」: 崔秀賢 岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
	⑩6/11 精神保健スタッフに求められる技能 ご意見の交換/ご質問へのお答え	精神症状、効果的なコミュニケーション、BPRS
	⑪6/18 特別講師「講義」: 大谷和世 岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
	⑫6/25 精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療メカニズム、治療的变化、治療構造
	⑬7/2 精神科薬物療法 「腕試しテスト」(7/16)の事前説明	向精神薬、プラセボ、作用要因、「転移」と「逆転移」
	⑭7/9 「ストレスケア病棟」と職場のメンタルヘルス	ストレスケア病棟、うつ病、チーム医療
	⑮7/16(海の日) 45分間の腕試しテスト+45分間の講義(事後説明・解説、科目のまとめ)	シラバスのレビュー、「到達目標」と「自己評価」

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ①テレビや新聞の精神医療・精神保健など『精神医学』に関する報道などにも、ご関心が持てれば更に良いと思います。
- ②授業内では症例もご提示します。秘密の保持には十分、ご配慮ください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①授業時間内に書いて頂く簡単なレポートに対する評価に加えて、受講状況による加点を行ないます→全評価中の65%に充当します。 ②第15回授業(7/16 海の日)で45分間の「腕試しテスト」を行ないます→全評価中の35%に充当します。

★授業時間内に書いてご提出して頂く「レポート」「出席カード」などには全て、①お名前②学生証番号③学部④学科・専攻・コース⑤回生、をご記入の上で必ず⑥QRコードを貼付して下さい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態を受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習を致しましょう。

## 教科書 / Textbooks

教科書(テキスト)は用いません。必要時に、レジュメなどを配布します。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎 / 西日本新聞社 / 第5,8,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎 / 日総研出版 / 第3,4,10回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。
禪的森田療法	宇佐晋一 / 三聖病院 / 森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「エッセイ」と「日記指導実例」です。

上記の3冊は気軽に読める書籍です。  
授業のご理解にだけでなく、ご自身の健康維持にも役立つかもしれません。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

岩倉病院 <http://www.toumonkai.net/>  
 日本精神神経学会 <http://www.jspn.or.jp/>  
 日本うつ病学会 <http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/>  
 日本統合失調症学会 <http://jsr.kenyuukai.jp/special/index.asp?id=4746>  
 日本不安障害学会 <http://www.jpsad.jp/>  
 日本精神分析的な精神医学会 <http://www.jaapp.jp>  
 日本森田療法学会 <http://www.jps-morita.jp/index.html>  
 日本語臨床フォーラム <http://pfk.saloon.jp/>  
 京都市こころの健康増進センター <http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/kokenzou/>

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

コミュニケーションペーパー / Communication Paper  
 インタラクティブシート / Interactive Sheet  
 manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目



## 精神科リハビリテーション学 (S)

11080

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神障害という病気になった人が、自身の病気と向き合いながら社会生活において人間らしく生活していくことを援助するかが精神科リハビリテーションです。

精神科リハビリテーション学は精神保健医療福祉全般にかかわる領域であることから、病気の経過、機能回復の訓練、さらに、精神科リハビリテーションの経緯、多職種連携のなかで精神保健福祉士としてどう取り組むのかという視点を得ることを目的とします。

## 到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として障害者の視点に立って、精神科リハビリテーションにどう取り組むかの視座を育てる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	障害者リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念、歴史
2	障害者リハビリテーションの理念と意義	WHOの理念、身体的リハビリテーションと精神的リハビリテーション
3	障害者リハビリテーションの基本原則	ADLからQOLへ、ノーマライゼーション、国際機能分類
4	障害者リハビリテーションの理念と意義	WHOの理念、基本原則と技法
5	精神科リハビリテーションの構成①	精神科リハビリテーションの対象、専門職種との連携、
6	精神科リハビリテーションの構成②	精神保健福祉士の役割、精神科リハビリテーションの施設、関連領域
7	精神科リハビリテーションのプロセス	リハビリテーション計画、アプローチの方法
8	医療機関におけるリハビリテーション①	作業療法、レクルエーション療法、集団精神療法、行動療法、
9	医療機関におけるリハビリテーション②	認知行動療法と社会生活技能訓練、家族教育プログラム、
10	医療機関におけるリハビリテーション③	デイケア、ナイトケア、精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
11	医療機関におけるリハビリテーション④	退院・地域移行支援
12	精神保健福祉士が行うリハビリテーション	医学的リハビリテーションと社会的リハビリテーション
13	精神科リハビリテーションの総合化	地域リハビリテーション、職業リハビリテーション
14	精神保健福祉施策の展開	わが国の現状と課題、諸外国の現状と課題
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。

☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新・精神保健福祉養成講座第4巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」 日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／／2,835円(税込)

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

拡張項目

## 精神障害者の人権とくらし (S)

13542

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な知識といえる精神障害者の視点に立って人権とは何かとそれを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点がどう必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神保健福祉法にみる人権保障の歴史	任意入院、医療保護入院、措置入院、応急入院
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件などを通して
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、成年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神保健福祉援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神保健福祉援助活動②	地域(保健所等)での相談援助 ACT(包括的地域生活支援)について
13	精神保健福祉援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティティ
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
- ☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新・精神保健福祉養成講座第5巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」

日本精神保健福祉士養成校協会 / 中央法規 / 定価2,835円(税込み)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

拡張項目

## 精神障害リハビリテーション論 (S)

13524

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神障害の障害とはなにか。精神障害者がなぜリハビリテーションの対象であるのか。精神障害者を対象とするリハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割はどこにあるのかをにつき授業を進める。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ①精神障害の基礎的な理解が可能となること
- ②リハビリテーションが占める位置を明確に理解すること
- ③精神保健福祉の実践意義の理解に努めること

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに なぜ精神科リハビリテーションなのか	隔離, 差別, 偏見, 社会的自立
2	精神障害リハビリテーションと生活共同体	生活共同体, 協同組織, 地域アイデンティティ, 麦の郷
3	精神科リハビリテーションの思想や理念①	IL運動, 当事者参加, 当事者自立
4	精神科リハビリテーションの思想と理念②	リカバリ, エンパワメントアプローチ, 反スティグマ
5	精神科リハビリテーションの思想と理念③	アディクションモデル, 嗜癖する社会
6	1990年代以降の精神科リハビリテーション政策①	1987年法, 1988年二施設設置運営要綱, 在宅福祉法定化, 障害者基本法
7	1990年代以降の精神科リハビリテーション政策②	障害者地域生活支援事業, 大和川暴行事件, 精神保健福祉法
8	障害者自立支援法の限界	地域生活制限, 障害特性の軽視, ケアマネジメント
9	精神科病院は必要か①	精神科病院, 危機(救急)対応, 長期入院
10	精神科病院は必要か②	トリエステモデル
11	精神科リハビリテーションと家族	FPE・家族心理教育, 障害受容,
12	障害リハビリテーションと就労	共同作業所, 新たな働き方, 援助付き雇用
13	精神科リハビリテーションとセルフコントロール	IMR・疾病管理とリカバリー
14	精神科リハビリテーションと支援者	燃え尽き, 発達,
15	精神科リハビリテーションと協働, multi-disciplinary team	協働, 共通言語, 職種役割

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点評価	30 %	出席1回に対して1点を加点し, コミュニケーションペーパーの内容で1点を加点(合計, 毎回出席の場合15点~30点)加点とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考文献について学習することを求める。この授業では、私語、途中入室及び退室を認めない。私語等が顕著な場合は、平常点に影響することを十分理解すること。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神保健福祉白書(2010年版)流動化する障害福祉施策	精神保健福祉白書編集委員会 / 中央法規出版 / 978-4805832349 /
精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本	大熊一夫 / 岩波書店 / 978-4000236850 /
トリエステ精神保健サービスガイド—精神病院のない社会へ向かって	トリエステ精神保健局 / 現代企画室 / 978-4773806021 /
自由こそ治療だ—イタリア精神病院解体のレポート	ジル シュミット / 社会評論社 / 978-4784501816 /
精神障害をもつ人が地域でくらししていくために—介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平 / かもがわ書店 / 978-4876998401 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

## 精神保健学 (S)

10882

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「こころの時代」といわれて久しいが、現代社会は複雑な社会背景から、いじめ・虐待・自殺などさまざまな問題が発生している。特に自殺者は1998年以後14年連続で3万人を越えている中、自殺者の多くがうつ病などの精神疾患が原因と言われている。

多くの現代人は常に様々なストレスを感じており、こころの健康を害しやすくなっている。

現代社会での生活とストレスは常に近くに接しており、ストレス社会と言われる所以でもある。

精神保健には、幼少期から老年期までの人生のライフサイクルにおいて、家庭、学校、地域、職場などの生活・環境の視点からの理解が必要不可欠であり、ただ単に病気の予防、再発防止、自立的生活の維持だけでなく、広く国民全体の精神保健の保持、増進の必要性について知識が必要となってくる。

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルにおける精神保健の問題や課題についての取り組みについて学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルを通じての精神保健の問題や課題についての取り組みを学び、精神保健福祉士としての概要を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神保健の概要	WHO憲章の定義、保健学の範囲
2	精神保健の意義と課題	わが国の現状と課題、保健・医療体制の特徴と課題
3	ライフサイクルにおける精神保健①	胎児期・乳幼児期における精神保健
4	ライフサイクルにおける精神保健②	学童期・思春期における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健③	青年期・成人期における精神保健
6	ライフサイクルにおける精神保健④	老年期における精神保健
7	精神障害者対策	歴史と障害者自立支援法・課題
8	アルコール関連問題対策	アルコール関連問題とは・健康日本21
9	薬物乱用防止対策	薬物乱用の現状・特徴・対策
10	地域精神保健対策	危機介入・アウトリーチ
11	家庭における精神保健	少子高齢化・児童虐待・DV
12	学校における精神保健	不登校・いじめ・学校精神保健の課題
13	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルス・4つのケア
14	諸外国における精神保健	イギリス・イタリア・オーストラリア・アメリカの精神保健施策
15	「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。  
☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新・精神保健福祉養成講座第2巻「精神保健の  
課題と支援」 日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／／定価2,835円(税込み)

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

拡張項目



## 精神保健福祉援助技術各論 (S)

12806

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神障害者を対象とした直接援助技術(ケースワーク、グループワーク)について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・ 習得した知識を実践に応用できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	オリエンテーション	ケースワークとグループワークについて
	ソーシャルワークの周辺理論①	交流分析
	ソーシャルワークの周辺理論②	防衛機制
	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤
	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	グループワークへの取り組み姿勢と各回終了時に提出してもらった小テストで評価します。
最終講義日試験、試験に代わるレポート等はありません。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

e-mail: jct23071@ss.ritsumeio.ac.jp

## その他 / Others

## 拡張項目

## 精神保健福祉コミュニティワーク (S)

16268

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
- ・ 習得した知識を実践に応用できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	オリエンテーション	コミュニティとは
	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
	精神障害者を対象とした地域援助技術	地域の身近な資源
	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
	関連専門援助技術について1	心理療法・面接技法
	関連専門援助技術について2	家族療法・家族支援
	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネープリング、セツルメントとパターンリズム、ラジカル・ワーカー
	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランティアリズム、当事者参加促進策
	まとめ	今後のコミュニティワークの展開

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中のワークへの取り組み姿勢、及び各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって確認する。

最終講義日試験やテストに代わるレポート等はありません。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

e-mail: jct23071@ss.ritsumeiji.ac.jp

## その他 / Others

## 拡張項目



## 精神保健福祉の現状と課題 (S)

16218

担当者名 / Instructor 森井 俊次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本教科では、精神保健福祉士に求められる精神障害者観について講義する。精神障害者の人権を保障する担い手となる精神保健福祉士に求められる障害者観、実践観、さらに我が国の現状と課題について取り上げる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として精神障害者の人権をどう保障するのか。その為に必要な障害者観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 精神障害者観	スティグマ・バタナリズム
	2 精神障害者の治療の流れ	隔離収容施策
	3 PSWと精神障害者の地域生活支援①	危機・連携
	4 PSWと精神障害者の地域生活支援②	ACT(包括的地域生活支援)の実際と課題
	5 パートナーとしてのPSW	パートナー・フレンドシップライン
	6 精神障害者と精神科医療①	精神科救急の現状と課題
	7 精神障害者と精神科医療②	受診アクセス・法34条
	8 精神障害者と精神科医療③	社会的入院・当事者ニーズ
	9 精神障害者と暮らしの場①	家族・グループホーム・ケアホーム
	10 精神障害者と暮らしの場①	当事者研究
	11 精神障害者と暮らしの場②	リカバリーとWRAP
	12 精神障害者といこいの場	なかま・自治・自律
	13 精神障害者と就労	就労支援・ジョブコーチ・適応から参加
	14 触法精神障害者と回復支援	心神喪失者等医療観察法
	15 「検証テスト(確認テスト)」と「解説」	精神保健福祉の政策的課題

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度(発言内容を含)および確認テスト・授業中に実施する数回のレポート問題などを総合。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
- ☆精神障害者に関する論議すべき事例が生じた時は講義計画を変更することがある。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

精神障害をもつ人が地域でくらししていくためにー 山本耕平／かもがわ出版／4-87699-840-x／  
介護保険統合論と、求められる社会的支援

---

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

拡張項目

## 精神保健福祉論 (S)

12867

担当者名 / Instructor 塩満 卓

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉論は、精神保健福祉の原論として位置づけられる科目である。したがって、精神障害者のおかれてきた状況を社会的歴史的に正しく理解し、その過程で練り上げられてきた援助専門職の思想、価値実践を学ぶことを目的とする。さらに、現状の精神保健福祉の課題について考える視座を獲得するために、制度政策と現場実践と運動の関係性の理解を深めることを目的とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ①精神障害者福祉の政策背景を歴史的に探る力を獲得する
- ②精神科ソーシャルワークの原則を理解する力を獲得する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

障害者福祉論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神障害者福祉の歩み1 精神病患者監護法の概要	相馬事件 精神病患者監護法 自宅監置
2	精神障害者福祉の歩み2 精神病院法の概要	呉秀三 精神病患者一斉調査 精神病院法
3	精神障害者福祉の歩み3 15年戦争と精神病患者の生活実態	社会防衛思想 優性思想 ロボトミー 入院患者餓死
4	戦前の精神保健福祉政策に関するまとめの講義と到達度テスト	
5	精神障害者福祉の歩み4 精神衛生法の概要と精神病院ブーム	医療金融公庫 精神科特例 経済的措置入院
6	精神障害者福祉の歩み5 精神衛生法一部改正の概要	ライシャワー事件 保健所精神衛生業務 通報制度の拡大
7	精神障害者福祉の歩み6 入院中心主義から地域中心主義への萌芽	全家連設立 PSW協会発足 クラーク勧告 共同作業
8	精神障害者福祉の歩み7 「Y問題」の概要と背景の考察	精神障害者とソーシャルワーク 札幌宣言 人権思想 福祉見直し論
9	精神障害者福祉の歩み8 精神病院不祥事件の概要と背景の考察	栗岡病院事件 安田病院事件 日本精神神経学会声明文
10	精神障害者福祉の歩み9 精神保健法の概要	宇都宮病院事件 ICJとICHPの調査 入院患者の人権
11	戦後精神保健法までの精神保健福祉政策に関するまとめの講義と到達度テスト	
12	精神障害者福祉の歩み10 精神保健福祉法及び精神保健福祉士法の概要	精神保健法一部改正 手帳制度 福祉の専門職化 福祉の計画化
13	精神障害者福祉の歩み11 障害者自立支援法の内包する問題と運動	政策形成過程 応益負担 違憲訴訟
14	ゲストスピーカーによる講義 PSWの地域精神保健福祉活動の実際	精神障害当事者との協働 権利擁護 市民との共同
15	精神保健法から現在までの精神保健福祉政策に関するまとめの講義と到達度テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況 25% リアクション・ペーパー 25% 到達度テスト 50%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心病める人たち	石川信義 / 岩波新書 / 400430122X /
ルポ・精神病棟	大熊一夫 / 朝日文庫 / 4022602449 /
わが国に生まれた不幸を重ねないために	藤井克徳・田中秀樹 / 萌文社 / 4894910667 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

拡張項目

## ソーシャルワーク論 (S) § ソーシャルワーク論 (SG)

11643

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉実践(ソーシャルワーク)に必要な専門性の基礎を築くことである。講義では、ソーシャルワークの基本的な考え方や視点、実践に必要な理論や専門技術などについてとりあげる。ソーシャルワークは、個人から地域、組織、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
- ・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べるができる。
- ・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べるができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義(目的、目標、方法)、分野、対象
第2回	ソーシャルワークの基本的な考え方	価値、視点、専門性
第3回	ソーシャルワーク実践の基本	原則、役割、機能
第4回	ソーシャルワーク実践のプロセス	インテーク、アセスメント、計画、計画の実施、モニタリング、評価
第5回	インテーク	インテーク面接の目的と方法、アウトリーチの目的と方法
第6回	アセスメント	アセスメントの目的、方法、項目
第7回	計画	計画の意義、目標・課題の設定方法と留意点、契約
第8回	計画の実施とモニタリング	実施時の留意点、モニタリングの目的と方法、記録の意義・種類・方法
第9回	終結と評価、開発・発展	終結についての留意点、評価の目的と方法、マイクロからメゾ・マクロへ
第10回	コミュニケーション	コミュニケーションの種類、留意点、コミュニケーションスキル
第11回	介入への理論・モデルの応用①	パーソン・センタード・アプローチ、行動理論、認知理論、認知行動理論
第12回	介入への理論・モデルの応用②	家族システム理論、グループワーク
第13回	スーパービジョン、コンサルテーション	スーパービジョンの目的・機能、方法
第14回	日本におけるソーシャルワーク	法制度のなかでの位置づけ、一般社会での認識、職能団体、今後の方向性
第15回	確認テスト(60分)と解説(30分)	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業は、教科書を読んだことを前提に進めるので、毎回、教科書の指定箇所を読んでくること。また、ミニ課題を数回、課すので、それも行うこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの知識を応用することができるか、小レポートおよびテストによって評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

## 教科書 / Textbooks



書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』 社会福祉士養成講座編集委員会編 / 中央法規 / 978-4-8058-3107-6 / 方法』

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

メール : [m-okada@ss.ritsumeai.ac.jp](mailto:m-okada@ss.ritsumeai.ac.jp)

個人研究室 : 修学館307&356号室(直通電話466-3371)

その他 / Others

拡張項目

## 福祉発達史 (S)

16200

担当者名 / Instructor 密田 逸郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

従来の正規雇用を前提とした社会福祉・社会保障は、1990年代以降の正規雇用から非正規雇用への転換によって綻びを呈してきています。本講義では、貧困救済から始まったイギリスの社会福祉を出発点として、世界と日本の社会福祉の発達を概観します。その過程において、歴史を動かす原動力となったものは何か、人々の状況はどうであったかなどを考え、社会福祉の変遷が現在及び未来に伝えていくことは何なのかを学びます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

今日、私たちにとって社会保障・社会福祉制度は、必要不可欠な生活の条件となっています。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史的展開をたどるなかで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学びます。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会福祉発達史を学ぶ意義	
2	ヨーロッパにおける前近代(古代～中世)の貧困救済	古代奴隷制、中世農奴制
3	イギリス絶対王政下での貧困救済	エリザベス救貧法、博愛事業
4	市民革命期の貧困救済	ワークハウス法、居住地法
5	産業革命期の貧困救済	新救貧法、スピーナムランド、慈善事業
6	第1回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。
7	社会事業の組織的展開	社会事業、社会改良、COS
8	ドイツにおける社会保障・社会福祉の歴史的特質	「鉛と鞭」、ビスマルク
9	第二次世界大戦後における社会福祉の展開過程	ベヴァリッジ報告、所得保障
10	社会保障・社会福祉の理念の確立、世界的広がり	社会保障憲章、ILO
11	日本における社会保障・社会福祉の発展	恤救規則、救護法
12	日本における障害年金の成立過程①	公的年金のはじまり、船員保険法、相互扶助
13	日本における障害年金の成立過程②	日中戦争、恩給制度
14	日本における障害年金の成立過程③	労働者年金保険法、戦費調達
15	第2回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性があります。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容の理解度を評価します。
平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行います。配点は1回を15点とします。また、毎回コミュニケーションペーパーの提出を求めます。

- ・DVDなどによってできるだけ興味がもてるよう努めます。
- ・検証テストは、授業の進度によって実施時期を変更する場合があります。
- ・受講者数によっては、可能な限り個別のプレゼンテーションやグループ討論等も取り入れ、その積極的姿勢もあわせて評価します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世の中の動きに関心を持ってください。新聞を読むことをお勧めします。

#### 教科書 / Textbooks

- ・テキストは使用せず、随時、レジュメ・資料等を配布します。
- ・授業において適宜提示します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉の歴史	高島進 / ミネルヴァ書房 / 9784623025794 /

- ・授業において適宜提示します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省 : <http://www.mhlw.go.jp>

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

[itsuro@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:itsuro@mbox.kyoto-inet.or.jp)

#### その他 / Others

講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁です。受講生としての最低限のマナーを守ってください。

#### 拡張項目

## 臨床精神医学 (S)

16259

担当者名 / Instructor 国本 昌善

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神医療は、患者(当事者・利用者)、治療者(援助者)および前二者を取り巻く環境を要素とする対人援助の営みである。患者の理解に努めつつ介入を試みるこの営みの理論的背景である臨床精神医学は、複数の理論体系を包摂しながら、常に臨床実践の検証にさらされている。本講義では、精神障害や臨床実践の概要が理解できるよう臨床的視点から精神医学の基礎知識を概説するとともに、いくつかの現在の問題についても取り扱う予定である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 臨床精神医学におけるいくつかの重要概念を理解し、これを説明することが出来る。
- (2) 主要な精神障害の概略を理解する。
- (3) 精神医学的援助の概略を理解する。
- (4) 臨床精神医学におけるいくつかの現在の問題について理解し、一定の見解を述べる事が出来る。
- (5) 臨床精神医学の基本的な考え方を習得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入／総論(1):精神医学の概念と歴史	
第2回	ミニテスト(1)／総論(2):精神症候学および記述精神医学の基礎, 操作的診断システム	
第3回	ミニテスト(2)／総論(3):精神分析的な精神医学の基礎	
第4回	ミニテスト(3)／総論(4):神経系の解剖と生理, 精神薬理の基礎	
第5回	ミニテスト(4)／総論(5):治療, 支援, リハビリテーション	
第6回	ミニテスト(5)／各論(1):統合失調症	
第7回	ミニテスト(6)／各論(2):感情障害	
第8回	ミニテスト(7)／各論(3):神経症性障害	
第9回	ミニテスト(8)／各論(4):抑うつとうつ病をめぐるトピックス	
第10回	ミニテスト(9)／各論(5):精神遅滞, 自閉症スペクトラム, 注意欠陥・多動性障害など	
第11回	ミニテスト(10)／各論(6):パーソナリティ障害, 性関連障害	
第12回	ミニテスト(11)／各論(7):摂食障害	
第13回	ミニテスト(12)／各論(8):物質関連障害	
第14回	ミニテスト(13)／各論(9):精神医学と社会(1) 精神保健福祉行政	
第15回	ミニテスト(14)／各論(10):精神医学と社会(2) 社会病理現象, 司法精神医学, 精神保健	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	(1) ミニテスト=70% 第2回以降最終第15回までの計14回の講義中に、講義内容の理解度を確保するためのミニテストを実施します。 (2) レポート=30% レポート(課題図書に対する書評)を提出してもらいます。詳細については講義中に示します。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神医学エッセンス 第2版	濱田 秀伯 / 弘文堂 / 978-4335651519 / 初学者向け入門書
現代臨床精神医学 改訂第11版	大熊 輝雄 / 金原出版 / 978-4307150613 / 医学生・研修医向け教科書(コメディカル・スタッフにも有用)
カプラン臨床精神医学テキスト DSM-IV-TR診断基準の臨床への展開 第2版	Sadock, VA, Sadock, BJ(編集) / 井上令一, 四宮滋子(監訳) / メディカル・サイエンス・インターナショナル / 978-4895923842 / 参考書
パーソナリティ障害の診断と治療	McWilliams, N / 成田善弘(監訳), 北村婦美, 神谷栄治(訳) / 創元社 / 978-4422113302 / 精神分析的臨床精神医学の良き入門書
ケースの見方・考え方—精神分析的ケースフォーミュレーション	McWilliams, N / 成田善弘(監訳), 湯野貴子, 井上直子, 山田恵美子(訳) / 創元社 / 978-4422113838 / 精神分析的臨床精神医学の良き入門書

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

KUNIMOTO.Masayoshi@gmail.com

#### その他 / Others

#### 拡張項目

イタリアの言語とコミュニケーション応用 I (LA) § 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・  
応用 I) (GA)

15336

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students' ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Attainment Objectives

Level B1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Waystage-Threshold (i.e. Mid-Intermediate).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

A specific preparatory study is required. The students must have attended Italian language courses (Beginners and Lower intermediate) at Ritsumeikan for at least one year before joining this one.

If any prospective students should feel prepared to attend the course without having studied Italian at Ritsumeikan (i.e. having attended language courses elsewhere, or having studied the language independently), they are kindly requested to contact the teacher Mr Franco Corona for an interview. Please email as specified below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Descrivere l'aspetto fisico di una persona; parlare dei cambiamenti della vita.	
	2 Descrivere il carattere e gli interessi di una persona. Conversazione alla cassa del teatro.	
	3 Proporre di fare qualcosa insieme; darsi un appuntamento. Descrivere: la disposizione delle stanze, i lavori di ristrutturazione e il quartiere.	
	4 Parlare delle proprie capacità. Parlare dell'arredamento di una casa.	
	5 Parlare della vita in o fuori città; esporre un punto di vista.	
	6 Parlare della qualità della vita in diverse città.	
	7 Fare una graduatoria; conversazione sull'affitto di una casa.	
	8 Parlare di prodotti della cucina italiana e della loro produzione.	
	9 Dire che cosa si sta facendo.	
	10 Spiegare come si prepara un piatto; scrivere una ricetta.	
	11 Parlare di vari sport.	
	12 Parlare di preferenze personali e del proprio benessere.	

13

Esprimere la propria opinione e contrapporla ai punti di vista degli altri.

14

Descrivere una città com'era una volta: parlare di come si viveva una volta.

15

Chiedere qualcosa cortesemente; indicare oggetti.

16

Chiedere il permesso e dare dei consigli.

17

Parlare di esperienze professionali; descrivere scopi e settori di un'istituzione.

18

Conversazione sulla carriera; fare una telefonata formale; esigere qualcosa.

19

Stabilire delle regole; dare consigli.

20

Raccontare e descrivere al passato; informarsi su un film, raccontarne la trama ed esprimere la propria opinione.

21

Conversazione tra due donne su un'esperienza personale.

22

Viaggiare in treno: chiedere informazioni, fare una prenotazione, comprare un biglietto.

23

Parlare di un contrattempo (spiacevole); mantenere viva una conversazione.

24

Esprimere insicurezza, dubbi o paure; incoraggiare qualcuno.

25

Fare una telefonata informale; parlare di progetti futuri.

26

Parlare dei propri sogni, dei propri desideri e rifletterci sopra.

27

Esprimere malessere e chiedere un consiglio in farmacia.

28

In giro con la macchina: chiedere aiuto, consiglio e indicazioni.

29

In giro con la macchina: chiedere aiuto, consiglio e indicazioni.

30

Parlare delle decisioni prese nella propria vita.

vocabulary and communicative structures.

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	75%: Active participation in classroom activity. 25%: Regular attendance.

Regular attendance and active participation in classroom activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always reviewing and memorizing the contents of the latest class.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Allegro 2, corso multimediale di italiano	L. Toffolo, M.G. Tommasini, R.Merklinghaus / Edilingua / /

Given the high cost of the textbook, students are kindly required not to purchase it. Photocopies will be regularly provided by the teacher.

#### 参考書 / Reference Books

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: www.Rai.it for practice in listening comprehension; and www.LASTAMPA.it for practice in reading comprehension.

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

#### その他 / Others

#### 拡張項目



イタリアの言語とコミュニケーション応用Ⅱ (LA) § 特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用Ⅱ) (GA)

15338

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語会話上級を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目では、イタリア語中級を学んだ学生が、より高度な読解、聴解、書き取り、会話などの練習を通じて上級文法を身につける。また、日常生活の複雑な状況で必要とされる表現を学び、様々なテーマについて論理的に述べられるようにする。同時に、イタリア文化の知識を更に深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目には、イタリア語会話基礎と中級を学んだ学生だけが参加出来る。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	この授業のスケジュールや内容や教材などは教室で相談の上で決める。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席率、授業での態度、期末口頭テストの結果による評価。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

anmajeru@hotmail.co.jp

拡張項目

担当者名 / Instructor 竹山 博英

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業はイタリア文化の諸分野をより深く研究したい学生を対象にしている。対象となる分野は、具体的には文学、民俗学、歴史学、美術、映像学などが考えられるが、それ以外の分野も許容される。授業は演習形式で行い、イタリアの諸文化に関する専門書の講読や学生諸君の研究発表を中心に進める。この授業はイタリアに関する専門的研究の基盤を作り、今後の研究に生かすことを目的とした、イタリア文化に特化した授業で、今後本学におけるイタリア研究の拠点的地位を占めることをめざしているため、イタリアの文化に興味のある学生の積極的な参加が大いに期待される。

## 到達目標 / Attainment Objectives

イタリア文化の諸分野に関する知見を広め、自らの研究を深化させる。  
この授業で得た成果を卒業論文に生かす。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	研究主題に関する討論	
2	文献講読、あるいは研究発表と討論	
3	文献講読、あるいは研究発表と討論	
4	文献講読、あるいは研究発表と討論	
5	文献講読、あるいは研究発表と討論	
6	文献講読、あるいは研究発表と討論	
7	文献講読、あるいは研究発表と討論	
8	文献講読、あるいは研究発表と討論	
9	文献講読、あるいは研究発表と討論	
10	文献講読、あるいは研究発表と討論	
11	文献講読、あるいは研究発表と討論	
12	文献講読、あるいは研究発表と討論	
13	文献講読、あるいは研究発表と討論	
14	文献講読、あるいは研究発表と討論	
15	文献講読、あるいは研究発表と討論	
16	研究発表と討論	
17	研究発表と討論	
18	研究発表と討論	
19	研究発表と討論	
20	研究発表と討論	

21  
研究発表と討論

22  
研究発表と討論

23  
研究発表と討論

24  
研究発表と討論

25  
研究発表と討論

26  
研究発表と討論

27  
研究発表と討論

28  
研究発表と討論

29  
研究発表と討論

30  
研究発表と討論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	出席を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

## イタリア文化講義 I (L) § 特殊講義(イタリア文化講義 I) (GA)

13305

担当者名 / Instructor 中山 明子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

古代から中・近世にかけての「イタリア」の歴史を概説的に講義し、イタリア語とイタリア文化を学ぶために必要な基礎的知識を身につけることを目標とする。

中世末期から近世初期にかけての北・中部イタリアの政治形態については、やや詳しく論じる予定である。

適宜、食文化等の身近なテーマに関するトピックも取り上げる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 「千のイタリア」と形容されるイタリアの地域的多様性、また「二つのイタリア」と形容される南北格差の問題について、その歴史的背景を理解する。
2. いわゆる「イタリア」の歴史(storia)を、自分なりのストーリー(storia)のして理解し、語るができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「イタリア語」関係の諸科目(必須ではない)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1. 導入	授業方針の説明、各回テーマの確認、時代区分について
	2. 古代1	王制、及び共和制のローマ
	3. 古代2	帝政下のローマとローマ帝国の崩壊
	4. 中世1	東ゴート族、ロンゴバルド族支配の時代、フランク族支配からイタリア王国の成立へ
	5. 中世2	ドイツ人皇帝の支配と都市の発展、南イタリアにおけるノルマン人の支配
	6. 中世3	中世の都市、コムーネの起源と都市コムーネ体制、皇帝と教皇
	7. 中世4	都市と領域支配、中世末期の都市=農村関係
	8. 領域国家とは	中～近世移行期(いわゆるルネサンス期)の北・中部イタリアに特有の政治形態とは
	9. 近代1	イタリアにおけるスペイン支配
	10. 近代2	オーストリア支配下のイタリア、フランス革命とナポレオンによる支配
	11. 近代3	リソルジメント期のイタリア
	12. 近代4	統一後の幻滅
	13. 近代5	20世紀前半のイタリア(ファシズムその他)
	14. 現代のイタリア	現在～過去のイタリア、社会問題に反映される歴史
	15. 統一イタリアとイタリア語	「イタリア語」とは？

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

狭い意味の歴史書に限らず、さまざまなイタリア文化に関する文献を読んで理解を深めてほしい。

レポートに関しては各自でテーマを設定してもらうため、問題意識をもって読書することが大切である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1. レポート 各自がイタリア史に関して自由にテーマを設定し、関連する文献を読んだ上で論述する形式のレポートを課す。提出は、指定された授業内(最終授業日を予定) …100%

## 2. 日常的な取り組み

直接点数に結びつくわけではないが、毎回出欠をとる。積極的な発言等で授業に貢献した場合、成績に反映されることもある。(数%)

### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義形式ではあるが、受講生の積極的な発言を期待する。

場合によってはグループ討論等の活動を行い、主体的な参加を促すことがある。

レポートに関しては、授業中に適宜、経過報告や文献・テーマ設定・論述方法等についての質問・相談の機会を設ける。また、こうした発表の際に積極的に発言したかどうかも考慮する。

### 教科書 / Textbooks

使用しない。適宜、プリントを配布する。

### 参考書 / Reference Books

適宜、授業中に指示する。

### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

### その他 / Others

### 拡張項目

担当者名 / Instructor 中山 明子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

古代から中・近世にかけての「イタリア」の歴史を概説的に講義し、イタリア語とイタリア文化を学ぶために必要な基礎的知識を身につけることを目標とする。

中世末期から近世初期にかけての北・中部イタリアの政治形態については、やや詳しく論じる予定である。

適宜、食文化等の身近なテーマに関するトピックも取り上げる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 「千のイタリア」と形容されるイタリアの地域的多様性、また「二つのイタリア」と形容される南北格差の問題について、その歴史的背景を理解する。
2. いわゆる「イタリア」の歴史(storia)を、自分なりのストーリー(storia)のして理解し、語るができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「イタリア語」関係の諸科目(必須ではない)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	導入	授業方針の説明、各回テーマの確認、時代区分について
2.	古代1	王制、及び共和制のローマ
3.	古代2	帝政下のローマとローマ帝国の崩壊
4.	中世1	東ゴート族、ロンゴバルド族支配の時代、フランク族支配からイタリア王国の成立へ
5.	中世2	ドイツ人皇帝の支配と都市の発展、南イタリアにおけるノルマン人の支配
6.	中世3	中世の都市、コムーネの起源と都市コムーネ体制、皇帝と教皇
7.	中世4	都市と領域支配、中世末期の都市=農村関係
8.	領域国家とは	中～近世移行期(いわゆるルネサンス期)の北・中部イタリアに特有の政治形態とは
9.	近代1	イタリアにおけるスペイン支配
10.	近代2	オーストリア支配下のイタリア、フランス革命とナポレオンによる支配
11.	近代3	リソルジメント期のイタリア
12.	近代4	統一後の幻滅
13.	近代5	20世紀前半のイタリア(ファシズムその他)
14.	現代のイタリア	現在～過去のイタリア、社会問題に反映される歴史
15.	統一イタリアとイタリア語	「イタリア語」とは？

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

狭い意味の歴史書に限らず、さまざまなイタリア文化に関する文献を読んで理解を深めてほしい。

レポートに関しては各自でテーマを設定してもらうため、問題意識をもって読書することが大切である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	1. レポート 各自がイタリア史に関して自由にテーマを設定し、関連する文献を読んだ上で論述する形式のレポートを課す。提出は、指定された授業内(最終授業日を予定) …100%

## 2. 日常的な取り組み

直接点数に結びつわけではないが、毎回出欠をとる。積極的な発言等で授業に貢献した場合、成績に反映されることもある。(数%)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義形式ではあるが、受講生の積極的な発言を期待する。

場合によってはグループ討論等の活動を行い、主体的な参加を促すことがある。

レポートに関しては、授業中に適宜、経過報告や文献・テーマ設定・論述方法等についての質問・相談の機会を設ける。また、こうした発表の際に積極的に発言したかどうかも考慮する。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。適宜、プリントを配布する。

## 参考書 / Reference Books

適宜、授業中に指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

## その他 / Others

## 拡張項目

担当者名 / Instructor 鯖江 秀樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

イタリア美術といえば、すぐさまルネサンスやバロック時代の名画が思い出されるだろうが、この国の近現代美術もまた、他の西洋諸国とは異なる独自の展開を示した。この講義では、二十世紀前半のイタリア美術、とりわけ絵画、建築、芸術論を取り上げ、現代の生や文化の原型ともいえる「近代性(モダニズム)」のあり方を検討する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

イタリアの具体例を入口にして、近代の文化や芸術に対する理解を深め、今日の文化形式を捉え直す方法・思考を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくに指定はないが、多角的な観点からマイナーな文化現象を取り上げていくため、美術や美学についての講義を受講した経験がある方がよい。イタリア語の知識や語学力は必要ない。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 オリエンテーション	本講義のテーマの確認、および授業の進め方の説明
	2 本講義の全体像について	各回テーマの確認およびイタリア二十世紀史概説
	3 秩序回帰の時代の絵画(1)	形而上絵画
	4 秩序回帰の時代の絵画(2)	ノヴェチェント
	5 秩序回帰の時代の絵画(3)	フェリーチェ・カゾーラティ
	6 いにしへの画家をめぐって(1)	ジョット再考
	7 いにしへの画家をめぐって(2)	カラヴァッジョ再発見
	8 いにしへの画家をめぐって(1)	ファットーリの美術史的位置づけ
	9 ファシズムの文化政策(1)	政治と芸術のむすびつき
	10 ファシズムの文化政策(2)	「ファシスト革命展」(1932)について
	11 ファシズムの文化政策(3)	ジュゼッペ・ボッタイ
	12 イタリア近代建築の逆説(1)	建築と言葉の関係
	13 イタリア近代建築の逆説(2)	政治権力との駆け引き
	14 イタリア近代建築の逆説(3)	エドアルド・ペルシコ
	15 論文形式の小テスト	講義内容の理解度確認

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

パワーポイントを用いて、講義形式で授業を進める。授業で紹介した作品を、ウェブ等で検索・確認するのが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席確認のための小テストと最終講義日の理解度テストを課す。
私語		には厳しく対処する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、講義中紹介した図版や板書は、きちんとノートに書き留めておくこと。



参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『イタリア・ファシズムの芸術政治』

鯖江秀樹 / 水声社 / 2011年刊行

-----  
本講義は、参考書に挙げたテキストの内容に基づいている。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

拡張項目

イタリアの言語とエクスペッション応用 I (LA) § 特殊講義(イタリアの言語とエクスペッション応用 I) (GA)

15332

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students' ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Attainment Objectives

Level A2-B1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Waystage-Threshold (i.e. Lower-mid Intermediate).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

A specific preparatory study is required. The students must have attended a first year Italian language course (Beginners) at Ritsumeikan. If any prospective students should feel prepared to attend the course without having studied Italian at Ritsumeikan (i.e. having attended language courses elsewhere, or having studied the language independently), they are kindly requested to contact the teacher Mr Franco Corona for an interview. Please email as specified below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Descrivere l'aspetto fisico di una persona; parlare dei cambiamenti della vita.	
	2 Descrivere il carattere e gli interessi di una persona. Conversazione alla cassa del teatro.	
	3 Proporre di fare qualcosa insieme; darsi un appuntamento. Descrivere: la disposizione delle stanze, i lavori di ristrutturazione e il quartiere.	
	4 Parlare delle proprie capacità. Parlare dell'arredamento di una casa.	
	5 Parlare della vita in o fuori città; esporre un punto di vista.	
	6 Parlare della qualità della vita in diverse città.	
	7 Fare una graduatoria; conversazione sull'affitto di una casa.	
	8 Parlare di prodotti della cucina italiana e della loro produzione.	
	9 Dire che cosa si sta facendo.	
	10 Spiegare come si prepara un piatto; scrivere una ricetta.	
	11 Parlare di vari sport.	
	12 Parlare di preferenze personali e del proprio benessere.	
	13 Esprimere la propria opinione e contrapporla ai punti di vista degli altri.	
	14 Descrivere una città com'era una volta: parlare di come si viveva una volta.	

15  
Chiedere qualcosa cortesemente; indicare oggetti.

16  
Chiedere il permesso e dare dei consigli.

17  
Parlare di esperienze professionali; descrivere scopi e settori di un'istituzione.

18  
Conversazione sulla carriera; fare una telefonata formale; esigere qualcosa.

19  
Stabilire delle regole; dare consigli.

20  
Raccontare e descrivere al passato; informarsi su un film, raccontarne la trama ed esprimere la propria opinione.

21  
Conversazione tra due donne su un'esperienza personale.

22  
Viaggiare in treno: chiedere informazioni, fare una prenotazione, comprare un biglietto.

23  
Parlare di un contrattempo (spiacevole); mantenere viva una conversazione.

24  
Esprimere insicurezza, dubbi o paure; incoraggiare qualcuno.

25  
Fare una telefonata informale; parlare di progetti futuri.

26  
Parlare dei propri sogni, dei propri desideri e rifletterci sopra.

27  
Esprimere malessere e chiedere un consiglio in farmacia.

28  
In giro con la macchina: chiedere aiuto, consiglio e indicazioni.

29  
Parlare della vita in un paese straniero.

30  
Parlare delle decisioni prese nella propria vita.

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

Students are supposed to spend a certain amount of weekly time for self learning, i.e. reviewing and memorizing the course contents: vocabulary and communicative structures.

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	75%: Active participation in classroom activity  25%: Regular attendance.

Regular attendance and active participation in classroom activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always reviewing and memorizing the contents of the latest class.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

Allegro 2, corso multimediale di italiano

L. Toffolo, M.G. Tommasini, R.Merklinghaus / Edilingua / /

-----  
Given the high cost of the textbook, students are kindly required not to purchase it. Photocopies will be regularly provided by the teacher.

**参考書 / Reference Books**

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

Students should spend some time on a daily base checking the following websites: [www.Rai.it](http://www.Rai.it) for practice in listening comprehension; and [www.LASTAMPA.it](http://www.LASTAMPA.it) for practice in reading comprehension.

**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

**その他 / Others**

**拡張項目**

イタリアの言語とエクスペッション応用Ⅱ (LA) § 特殊講義(イタリアの言語とエクスペッション応用Ⅱ) (GA)

15330

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course is to develop the students' ability in understanding, speaking, reading and writing in the Italian language and thus to acquire some knowledge of the Italian culture and way of life. The course is mainly aimed at developing and improving the students' ability to express concepts in the Italian language by way of presenting a speech or writing an essay, both on topics previously tackled with the active help of the teacher. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspects of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Attainment Objectives

Level B1 of the Common European Framework of Reference for Languages: Waystage-Threshold (i.e. Mid-Intermediate).

The students must reach a good level of expression in written and spoken Italian.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

A specific preparatory study is required. The students must have attended Italian language courses (Beginners and Lower intermediate) at Ritsumeikan for two years before joining this one.

If any prospective students should feel prepared to attend the course without having studied Italian at Ritsumeikan (i.e. having attended language courses elsewhere, or having studied the language independently), they are kindly requested to contact the teacher Mr Franco Corona for an interview. Please email as specified below.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 Descrivere l'aspetto fisico di una persona; parlare dei cambiamenti della vita.	
	2 Descrivere il carattere e gli interessi di una persona. Conversazione alla cassa del teatro.	
	3 Proporre di fare qualcosa insieme; darsi un appuntamento. Descrivere: la disposizione delle stanze, i lavori di ristrutturazione e il quartiere.	
	4 Parlare delle proprie capacità. Parlare dell'arredamento di una casa.	
	5 Parlare della vita in o fuori città; esporre un punto di vista.	
	6 Parlare della qualità della vita in diverse città.	
	7 Fare una graduatoria; conversazione sull'affitto di una casa.	
	8 Parlare di prodotti della cucina italiana e della loro produzione.	
	9 Dire che cosa si sta facendo.	
	10 Spiegare come si prepara un piatto; scrivere una ricetta.	
	11 Parlare di vari sport.	
	12 Parlare di preferenze personali e del proprio benessere.	
	13 Esprimere la propria opinione e contrapporla ai punti di vista degli altri.	

14  
Descrivere una città com'era una volta: parlare di come si viveva una volta.

15  
Chiedere qualcosa cortesemente; indicare oggetti.

16  
Chiedere il permesso e dare dei consigli.

17  
Parlare di esperienze professionali; descrivere scopi e settori di un'istituzione.

18  
Conversazione sulla carriera; fare una telefonata formale; esigere qualcosa.

19  
Stabilire delle regole; dare consigli.

20  
Raccontare e descrivere al passato; informarsi su un film, raccontarne la trama ed esprimere la propria opinione.

21  
Conversazione tra due donne su un'esperienza personale.

22  
Viaggiare in treno: chiedere informazioni, fare una prenotazione, comprare un biglietto.

23  
Parlare di un contrattempo (spiacevole); mantenere viva una conversazione.

24  
Esprimere insicurezza, dubbi o paure; incoraggiare qualcuno.

25  
Fare una telefonata informale; parlare di progetti futuri.

26  
Parlare dei propri sogni, dei propri desideri e rifletterci sopra.

27  
Esprimere malessere e chiedere un consiglio in farmacia.

28  
In giro con la macchina: chiedere aiuto, consiglio e indicazioni.

29  
Parlare della vita in un paese straniero.

30  
Parlare delle decisioni prese nella propria vita.

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

Students are supposed to spend a certain amount of weekly time for self learning, i.e. reviewing and memorizing the course contents: vocabulary and communicative structures.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	75%: Active participation in classroom activity. 25%: Regular attendance.

Regular attendance and active participation in classroom activities will be most valued. A number of short written tests will be performed during both terms to check the students' level of attainment. Students will be regularly informed of their progress.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

It is most important for the students to understand that constant study and active practice of the Italian language is essential for succeeding, which implies always reviewing and memorizing the contents of the latest class.

The teacher will inform the students about a free conversation class, usually held at Meigakukan. All students are kindly invited to attend.

**教科書 / Textbooks****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

Allegro 2, corso multimediale di italiano

L. Toffolo, M.G. Tommasini, R.Merklinghaus / Edilingua / /

Given the high cost of the textbook, students are kindly required not to purchase it. Photocopies will be regularly provided by the teacher.

**参考書 / Reference Books**

Any Japanese-Italian dictionary and Italian grammar textbook can be used for reference and self learning.

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

Students should spend some time on a daily basis checking the following websites: [www.Rai.it](http://www.Rai.it) for practice in listening comprehension; and [www.LASTAMPA.it](http://www.LASTAMPA.it) for practice in reading comprehension.

**授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)**

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>**その他 / Others****拡張項目**

シチズンシップ・スタディーズ I (GA) § 専門特殊講義 (SR) § 地域活性化ボランティア (GA) § 地域活性化ボランティア (JA) § 地域活性化ボランティア (PA) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化VT) (TA) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V1) § 特殊講義 (自由選択) (V1) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CA) § 特殊講義 (地域活性化ボランティア) (WA)

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

他者に貢献する活動を行い、経験したことを振り返りながら自己の成長を図る「サービスマーケティング」の手法を用いた演習型科目である。地域社会の事業(講演会をはじめ各種イベント等)への参加と運営の補助などを通じて、問題発見と課題探索の実践に取り組む。具体的には、事業の着手から終了までの一連の過程を知り、そこに携わる人々の役割や責務を体験的に学ぶ。この科目受講を通して、市民としての倫理観・正義感・責任感(シチズンシップ)への関心を育ててほしい。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

1. 「場」の運営に携わることを通じて、社会問題の認識が深まる。
2. 地域参加を通してシチズンシップ向上の自覚を得る。
3. 「問いを探す」「深く考える」習慣がつく。
4. 社会で学ぶ自己形成に関する継続学習への意欲を持つ。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域参加活動入門、現代社会のフィールドワーク

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1~2回 事前学習 I (授業2回分)		①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
第3回 オリエンテーション		①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
第4回 事前学習 II (授業1回分)		①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
第5~7回 ボランティア活動(前半)		①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
第8回 中間振り返り(授業1回分)		①目今の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。



第9～11回  
活動(後半)

- ①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。  
 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。  
 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。  
 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

第12～13回  
事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。  
 ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える問題解決の一助となり得たか等)  
 ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。  
 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

第14～15回  
活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。  
 ①ボランティア活動は、地域の問題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)  
 ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか  
 ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか  
 ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義運営においては、受入先との調整の上で、facebookの非公開グループを設置し運用するので、それぞれにアカウントを作成すること。

上記の「15回」分の講義は、サービスラーニングセンターのマネジメントのもとで、受講生と活動先との相互調整の上で設計・構築・展開される。ただし、各プロジェクトの担当教員が毎週固定した時間に報告・連絡・相談を受ける時間(コアタイム)を設置する。いわゆるオフィスアワーのようなものであるが、本科目の受講生にのみ開かれた時間である。有効に活用し、各種の調整が積極的に図られることを望んでいる。

●コアタイム: 火曜3限 存811

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	この科目はP/F評価です。評価は下記の要件で行います。

- ①事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席していること  
 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること  
 ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の受講には本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録では、「志望理由」に基づき選考を行います。また、学部によって受講条件・単位認定が異なります。

予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」や、サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)HPを参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
関係性の学び方	サラ・コナリー、マージット・ミサンギワッツ(著)、山田一隆・井上泰夫(訳) / 晃洋書房 / 978-4771021082 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

google <http://www.google.co.jp>

立命館大学サービスラーニングセンター [http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

facebookの非公開グループを設定する。

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)の加入が必要です。

拡張項目

シチズンシップ・スタディーズ I (GB) § 専門特殊講義 (SX) § 地域活性化ボランティア (GB) § 地域活性化ボランティア (JB) § 地域活性化ボランティア (PB) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化VT) (TB) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V2) § 特殊講義 (自由選択) (V2) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CB) § 特殊講義 (地域活性化ボランティア) (WB)

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

他者に貢献する活動を行い、経験したことを振り返りながら自己の成長を図る「サービスマーケティング」の手法を用いた演習型科目である。地域社会の事業(講演会をはじめ各種イベント等)への参加と運営の補助などを通じて、問題発見と課題探索の実践に取り組む。具体的には、事業の着手から終了までの一連の過程を知り、そこに携わる人々の役割や責務を体験的に学ぶ。この科目受講を通して、市民としての倫理観・正義感・責任感(シチズンシップ)への関心を育ててほしい。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

1. 「場」の運営に携わることを通じて、社会問題の認識が深まる。
2. 地域参加を通してシチズンシップ向上の自覚を得る。
3. 「問いを探す」「深く考える」習慣がつく。
4. 社会で学ぶ自己形成に関する継続学習への意欲を持つ。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域参加活動入門、現代社会のフィールドワーク

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1~2回 事前学習 I (授業2回分)		①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
第3回 オリエンテーション		①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
第4回 事前学習 II (授業1回分)		①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
第5~7回 ボランティア活動(前半)		①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
第8回 中間振り返り(授業1回分)		①目今の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。

第9回～11回  
ボランティア活動(後半)

- ①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。
- ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。
- ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。
- ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

第12～13回  
事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える問題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

第14～15回  
活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の問題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義運営においては、受入先との調整の上で、facebookの非公開グループを設置し運用するので、それぞれにアカウントを作成すること。

上記の「15回」分の講義は、サービスラーニングセンターのマネジメントのもとで、受講生と活動先との相互調整の上で設計・構築・展開される。ただし、各プロジェクトの担当教員が毎週固定した時間に報告・連絡・相談を受ける時間(コアタイム)を設置する。いわゆるオフィスアワーのようなものであるが、本科目の受講生にのみ開かれた時間である。有効に活用し、各種の調整が積極的に図られることを望んでいる。

- コアタイム: 火曜3限 存811

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	この科目はP/F評価です。評価は下記の要件で行います。

- ①事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席していること
- ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること
- ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の受講には本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録では、「志望理由」に基づき選考を行います。また、学部によって受講条件・単位認定が異なります。

予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」や、サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)HPを参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
関係性の学び方	サラ・コナリー、マージット・ミサンギワッツ(著)、山田一隆・井上泰夫(訳) / 晃洋書房 / 978-4771021082 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

google <http://www.google.co.jp>

立命館大学サービスラーニングセンター [http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

facebookの非公開グループを設定する

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)の加入が必要です。

拡張項目

シチズンシップ・スタディーズ I (GC) § 専門特殊講義 (SY) § 地域活性化ボランティア (GC) § 地域活性化ボランティア (JC) § 地域活性化ボランティア (PC) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化VT) (TC) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V3) § 特殊講義 (自由選択) (V3) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CC) § 特殊講義 (地域活性化ボランティア) (WC)

担当者名 / Instructor 川中 大輔

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

他者に貢献する活動を行い、経験したことを振り返りながら自己の成長を図る「サービスマーケティング」の手法を用いた演習型科目である。地域社会の事業(講演会をはじめ各種イベント等)への参加と運営の補助などを通じて、問題発見と課題探索の実践に取り組む。具体的には、事業の着手から終了までの一連の過程を知り、そこに携わる人々の役割や責務を体験的に学ぶ。この科目受講を通して、市民としての倫理観・正義感・責任感(シチズンシップ)への関心を育ててほしい。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

1. 「場」の運営に携わることを通じて、社会問題の認識が深まる。
2. 地域参加を通してシチズンシップ向上の自覚を得る。
3. 「問いを探す」「深く考える」習慣がつく。
4. 社会で学ぶ自己形成に関する継続学習への意欲を持つ。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域参加活動入門、現代社会のフィールドワーク

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1～2回 事前学習 I (授業2回分)		①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
第3回 オリエンテーション		①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
第4回 事前学習 II (授業1回分)		①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
第5～7回 ボランティア活動(前半)		①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
第8回 中間振り返り(授業1回分)		①目今の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。

第9回～11回  
ボランティア活動(後半)

- ①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。
- ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。
- ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。
- ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

第12～13回  
事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える問題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

第14～15回  
活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。
- ①ボランティア活動は、地域の問題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義運営においては、受入先との調整の上で、facebookの非公開グループを設置し運用するので、それぞれにアカウントを作成すること。

上記の「15回」分の講義は、サービスラーニングセンターのマネジメントのもとで、受講生と活動先との相互調整の上で設計・構築・展開される。ただし、各プロジェクトの担当教員が毎週固定した時間に報告・連絡・相談を受ける時間(コアタイム)を設置する。いわゆるオフィスアワーのようなものであるが、本科目の受講生にのみ開かれた時間である。有効に活用し、各種の調整が積極的に図られることを望んでいる。

●コアタイム:水曜5限 P106

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	この科目はP/F評価です。評価は下記の要件で行います。

- ①事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席していること
- ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行っていること
- ③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の受講には本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録では、「志望理由」に基づき選考を行います。また、学部によって受講条件・単位認定が異なります。

予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」や、サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)HPを参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
関係性の学び方	サラ・コナリー、マージット・ミサンギワッツ(著)、山田一隆・井上泰夫(訳) / 晃洋書房 / 978-4771021082 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

google <http://www.google.co.jp>

立命館大学サービスラーニングセンター [http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

facebookの非公開グループを設定する

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)の加入が必要です。

拡張項目



シチズンシップ・スタディーズ I (GD) § 専門特殊講義 (S1) § 地域活性化ボランティア (GD) § 地域活性化ボランティア (JD) § 地域活性化ボランティア (PD) § 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化VT) (TD) § 特殊講義 (自由選択) 1 (V4) § 特殊講義 (自由選択) (V4) § 特殊講義 (基礎) 1 (地域活性化ボランティア) (CD) § 特殊講義 (地域活性化ボランティア) (WD)

担当者名 / Instructor 川中 大輔

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

他者に貢献する活動を行い、経験したことを振り返りながら自己の成長を図る「サービスマーケティング」の手法を用いた演習型科目である。地域社会の事業(講演会をはじめ各種イベント等)への参加と運営の補助などを通じて、問題発見と課題探索の実践に取り組む。具体的には、事業の着手から終了までの一連の過程を知り、そこに携わる人々の役割や責務を体験的に学ぶ。この科目受講を通して、市民としての倫理観・正義感・責任感(シチズンシップ)への関心を育ててほしい。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

1. 「場」の運営に携わることを通じて、社会問題の認識が深まる。
2. 地域参加を通してシチズンシップ向上の自覚を得る。
3. 「問いを探す」「深く考える」習慣がつく。
4. 社会で学ぶ自己形成に関する継続学習への意欲を持つ。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域参加活動入門、現代社会のフィールドワーク

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1～2回 事前学習 I (授業2回分)		①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育(地域活性化ボランティア)における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
第3回 オリエンテーション		①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題:オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習 II に持参してもらう。
第4回 事前学習 II (授業1回分)		①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動の準備を整える ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
第5～7回 ボランティア活動(前半)		①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。 ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
第8回 中間振り返り(授業1回分)		①目今の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。

第9～11回  
ボランティア活動(後半)

- ①(地域への貢献)地域において問題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する。  
②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。  
※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。  
※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

第12～13回  
事後学習(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。  
②自らの活動を評価する(事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える問題解決の一助となり得たか等)  
③プログラムを通じて学んだことを今後はどうつなげていくのかを検討する。  
④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。

第14～15回  
活動報告会(授業2回分)

- プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。  
①ボランティア活動は、地域の問題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)  
②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標(プロジェクト毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか  
③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか  
④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義運営においては、受入先との調整の上で、facebookの非公開グループを設置し運用するので、それぞれにアカウントを作成すること。

上記の「15回」分の講義は、サービスラーニングセンターのマネジメントのもとで、受講生と活動先との相互調整の上で設計・構築・展開される。ただし、各プロジェクトの担当教員が毎週固定した時間に報告・連絡・相談を受ける時間(コアタイム)を設置する。いわゆるオフィスアワーのようなものであるが、本科目の受講生にのみ開かれた時間である。有効に活用し、各種の調整が積極的に図られることを望んでいる。

●コアタイム:水曜5限 P106

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	この科目はP/F評価です。評価は下記の要件で行います。

- ①事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに出席していること  
②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計42時間以上行なっていること  
③定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の受講には本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録では、「志望理由」に基づき選考を行います。また、学部によって受講条件・単位認定が異なります。

予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」や、サービスラーニングセンター(ボランティアセンター)HPを参照してください。

[http://www.ritsumeijp/vc/index\\_j.html](http://www.ritsumeijp/vc/index_j.html)

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
関係性の学び方	サラ・コナリー、マージット・ミサンギワッツ(著)、山田一隆・井上泰夫(訳) / 晃洋書房 / 978-4771021082 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

google <http://www.google.co.jp>

立命館大学サービスラーニングセンター <http://www.ritsumeijp/vc/index.j.html>

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Other

facebookの非公開グループを設定する

その他 / Others

ボランティア保険(300円/実費)の加入が必要です。

拡張項目